

# 奈良県女性活躍推進に関する意識調査

## 報告書

令和2年3月

奈良県



# 目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施方法等	1
第2章 調査結果	4
1 回答者属性	4
(1) 性別	4
(2) 年齢	4
(3) 世帯構成	5
(4) 結婚	6
(5) 子どもの人数	7
(6) 末子年齢	8
(7) 居住地域	9
2 就労状況について	10
(1) 就労の有無	10
(2) 就労経験	14
(3) 就労形態	15
(4) 年間収入	18
(5) 通勤時間	21
(6) 勤務地	24
3 進路選択について	26
(1) 進学時に影響を受けたもの	26
(2) 就職時に影響を受けたもの	29
(3) 自分の最終学歴への評価	32
(4) 進路選択に満足できなかった理由	35
4 仕事と生活のバランスについて	38
(1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	38
(2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の満足度	42
5 女性の生き方について	48
6 「仕事」に関する考えについて（有業者）	50
(1) 自分の働き方	50
(2) 自分の職場の様子	67
(3) 就労形態・働き方を変えたいか	75
7 「仕事」に関する考えについて（女性の無業者）	77
(1) 今後の就労希望	77
(2) 希望する雇用形態	80
(3) 希望する職種	80
(4) 希望する通勤手段	81
(5) 希望する通勤時間	81
(6) 就労する上での不安	82
(7) 就労にあたって重視すること	83
(8) 収入を得た場合の使い道	84

(9) 就労を希望しない理由.....	85
8 固定的性別役割分担意識について.....	86
9 男女の地域や家庭における役割等について.....	89
10 男女の地位の平等感について .....	107
11 自分が18歳になるまでの母親の就労状況について.....	126
12 社会活動について .....	128
(1) 社会活動への参加・関心.....	128
(2) これまでに行ったことのある社会活動.....	130
(3) 今後行いたい社会活動.....	132
13 今後必要な施策等について .....	134
(1) 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと.....	134
(2) 女性が職場で活躍するために必要なこと.....	136
(3) 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れるべきこと.....	138
14 自由記述意見 .....	139
調査票 .....	141

## 第1章 調査の概要

### 1 調査の目的

就労をはじめとする女性の社会参画に関する意識や実態を把握し、奈良県の女性が能力を十分発揮して活躍できる社会づくりを進めるための施策の検討を行うことを目的に調査を実施した。

### 2 調査の実施方法等

#### (1) 調査対象

- ・ 県内に居住する、令和元年9月1日時点で満20歳以上の男女3,500人  
(男性1,750人、女性1,750人)

#### (2) 調査項目 (38項目)

調査項目	質問項目
① 就労状況について	・ 就労状況 就労の有無・就労経験・就労形態・年間収入・通勤時間・勤務地 ・ 配偶者の就労状況 就労の有無・就労経験・就労形態・年間収入・通勤時間・勤務地
② 進路選択について	・ 進学時に影響を受けたもの ・ 就職時に影響を受けたもの ・ 自分の最終学歴への評価 ・ 進路選択に満足できなかった理由
③ 仕事と生活のバランスについて	・ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 ・ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の満足度
④ 女性の生き方について	・ 女性の生き方の理想と現実
⑤ 「仕事」に関する考えについて	有業者 ・ 自分の働き方 ・ 自分の職場の様子 ・ 就労形態・働き方を変えたいか 女性の無業者 ・ 今後の就労希望 ・ 希望する雇用形態 ・ 希望する職種 ・ 希望する通勤手段 ・ 希望する通勤時間 ・ 就労に上での不安 ・ 就労にあたっての重視すること ・ 収入を得た場合の使い道 ・ 就労を希望しない理由
⑥ 固定的性別役割分担意識について	・ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方
⑦ 男女の地域や家庭における役割等について	・ 各分野における性別役割の考え
⑧ 男女の地位の平等感について	・ 各分野における男女の地位の平等感

⑨ 自分が18歳になるまでの母親の就労状況について	・自分が18歳になるまでの母親の就労状況
⑩ 社会活動について	・地域活動への参加・関心 ・これまでに行ったことのある社会活動 ・今後行いたい社会活動
⑪ 今後必要な施策等について	・男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと ・女性が職場で活躍するために必要なこと ・男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れるべきこと
⑫ 回答者の属性	・性別・年齢・世帯構成・結婚・子どもの人数・末子年齢・居住地域
⑬ 自由記述意見	・女性活躍および男女共同参画などに関する自由意見

(3) 調査方法

郵送法

(4) 抽出方法

県内市町村から選挙人名簿に基づき無作為抽出（県内市町村から350地点を系統抽出し、当該地点内から各調査地区の選挙人名簿に基づき調査対象に該当する方を等間隔抽出法により選定）

(5) 調査期間

令和元年9月12日（木）～令和元年9月27日（金）

	配布数	送達不能数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
件数	3,500	39	1,444	5	1,439 （男性：517 女性：903 無回答：19）	41.1%

(7) 調査結果の表示方法

- ① 設問ごとの集計母数は、グラフ中に「N=\*\*\*」と表記し、クロス集計のグラフ・数表では、集計区分ごとの集計母数を「N=\*\*\*」と表記している。
- ② 集計結果の百分率（%）はすべて、小数点以下第2位を四捨五入した値を表記している。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- ③ 複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはならない。
- ④ 図表中の表記における「全体」「今回」「R元県調査」は本調査の結果を表している。調査の年度等の記載の無い図表は今回の調査結果である。  
また、本調査は、質問項目により次の調査結果と比較を行っている。

○ 県調査

- ・平成26年度女性の社会参加に関する意識調査・・・「前回調査」「H26県調査」と表記  
奈良県が県内に居住する満20歳以上の3,000人を対象に平成26年5月～6月に実施した調査  
(有効回収数1,410人、郵送調査)

○ 全国調査

- ・令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査・・・「R元全国調査」と表記

国(内閣府)が全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人を対象に令和元年 9 月に実施した調査

(有効回収数 2,645 人、調査員による個別面接聴取)

- ・企業等における仕事と生活の調和に関する調査(平成 30 年度)・・・「H30 全国調査(企)」と表記

国(内閣府)が正社員、非正社員、雇用者以外の就労者、非就労者に属する全国 20 代～ 60 代の男女・計 6,000 人を対象に平成 30 年 8 月に実施した調査

(インターネットによるモニター調査)

- ・多様な選択を可能にする学びに関する調査(平成 30 年度)・・・「H30 全国調査(多)」と表記

株式会社創建が、国(内閣府)の委託により全国 22～59 歳の男女 6,000 人を対象に平成 30 年 12 月～平成 31 年 1 月に実施した調査

(インターネットによるモニター調査)

- ⑤ 全国調査や前回調査との比較をする図表については、対象を同一にして比較する必要があるため、原則、今回調査の対象を絞って集計している。

- ⑥ 今回結果の調査方法は郵送法であり、調査員による個別面接聴取を実施した令和元年度の全国調査結果及びインターネットによるモニター調査を実施した平成 30 年度の全国調査結果とは方法や調査対象が異なるため、結果の単純比較はできないが、本調査目的を達成するための参考データとして比較結果を有効活用する。なお、質問の項目については比較対象の調査と合わせている。

- ⑦ 就労形態別のクロス集計等における、「非正規職員」「その他」の定義は以下のとおり。

・「非正規職員」・・・就労形態が「パート・アルバイト」「派遣・嘱託・契約社員」の人

・「その他」・・・就労形態が「自営業主・家族従業者(起業も含む)」「内職」「その他」の人

また、本調査と H30 全国調査(企)との参考比較においては、以下のとおり対照した。

[本調査] ⇔ [H30 全国調査(企)]

正規職員 ⇔ 正社員

非正規職員 ⇔ 非正社員

その他 ⇔ 雇用者以外の就労者

- ⑧ 今回の調査結果をまとめるにあたり、下記有識者の協力を得た。

梅田直美(奈良県立大学地域創造学部 准教授)

小崎恭弘(大阪教育大学教育学部 准教授)

多賀太(関西大学文学部 教授)

筒井淳也(立命館大学産業社会学部 教授)

(五十音順、敬称略)

## 第2章 調査結果

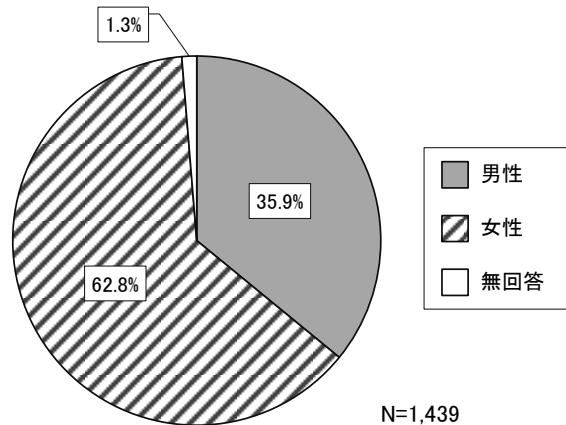
### 1 回答者属性

#### (1) 性別

問 12-1 あなたの性別は ※あなたが認識しているご自分の性別を選んでください

性別構成は、「女性」が62.8%、「男性」が35.9%である。

図表 性別

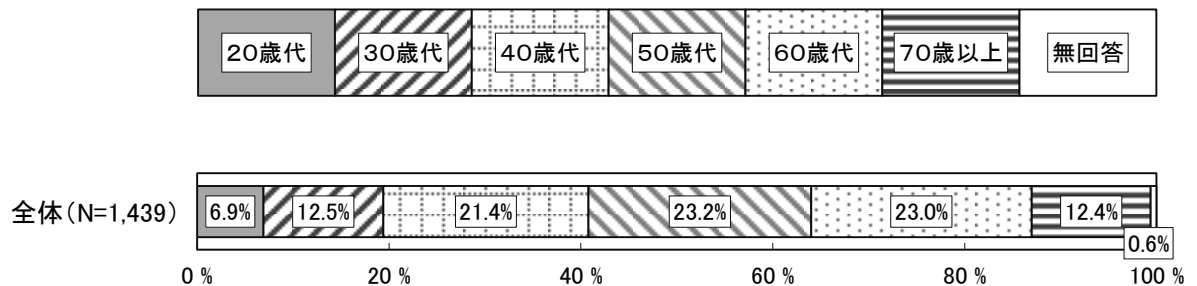


#### (2) 年齢

問 12-2 あなたの年齢はおいくつですか

年齢構成は、「50歳代」の割合が最も高く23.2%で、次いで「60歳代」(23.0%)、「40歳代」(21.4%)となっている。

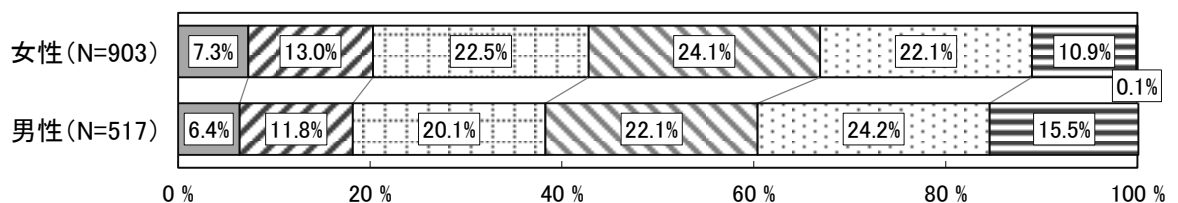
図表 年齢



#### 【男女別】

男女別にみると、女性の50歳代以下の割合が66.9%で、男性(60.4%)より6.5ポイント高くなっている。

図表 年齢(男女別)



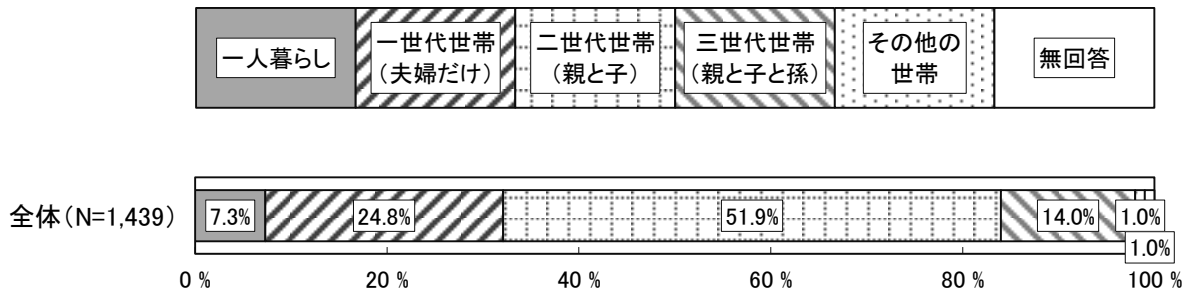


### (3) 世帯構成

問 12-3 あなたのご家庭の世帯構成は次のうちどれですか

世帯構成は、「二世帯世帯（親と子）」の割合が最も高く 51.9%で、次いで「一世帯世帯（夫婦だけ）」(24.8%)、「三世帯世帯（親と子と孫）」(14.0%) となっている。

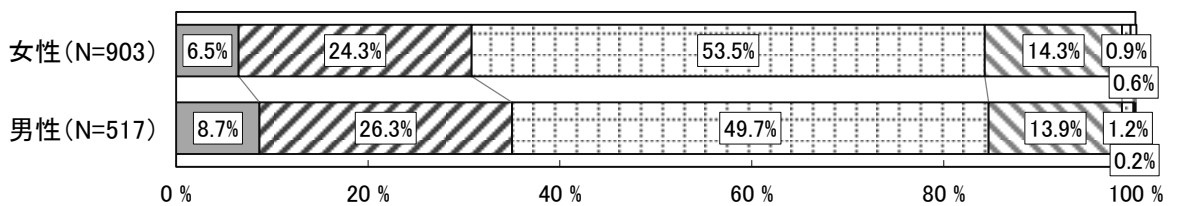
図表 世帯構成



#### 【男女別】

男女別には大きな差はみられない。

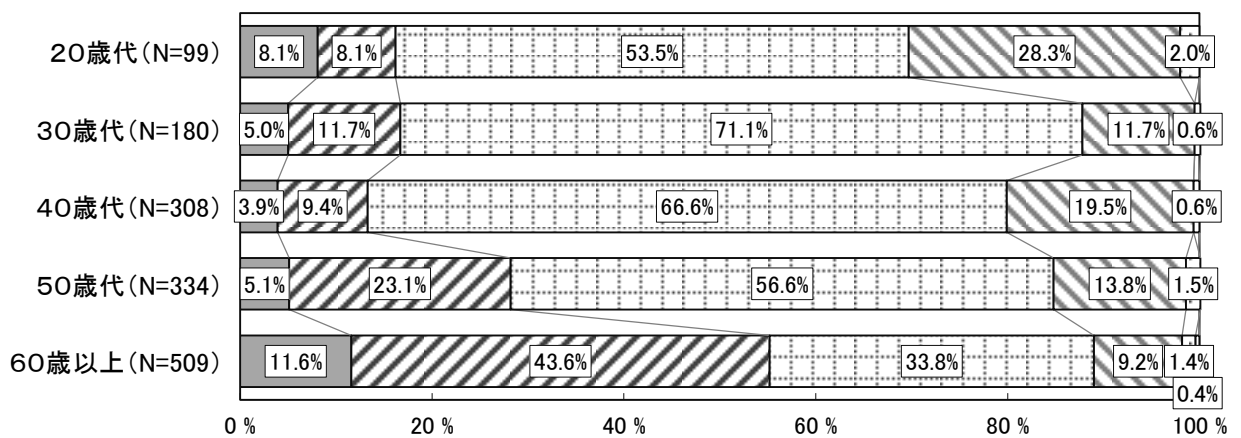
図表 世帯構成（男女別）



#### 【年代別】

年代別に世帯構成をみると、20歳代から50歳代にかけて「二世帯世帯（親と子）」が過半数を占める。50歳代以降「一世帯世帯（夫婦だけ）」「一人暮らし」の割合が高くなっている。

図表 世帯構成（年代別）

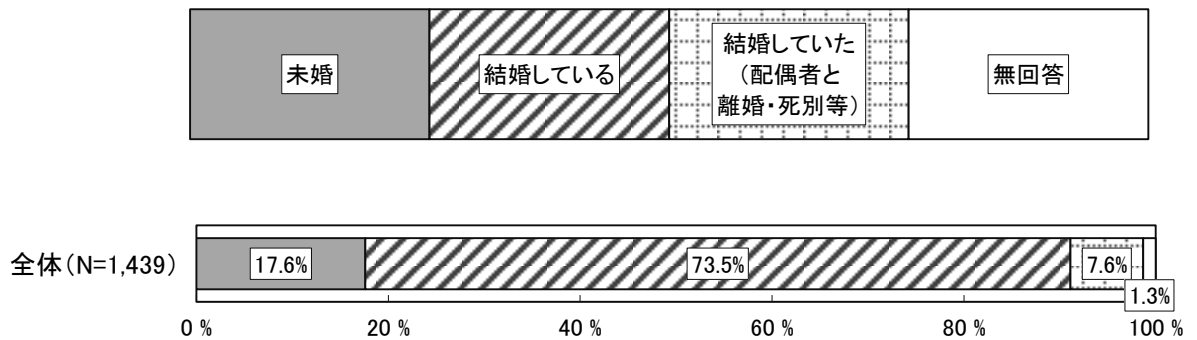


#### (4) 結婚

問 12-4 あなたは、結婚（婚姻の届出のない事実婚を含む）されていますか

結婚の状況は、「結婚している」割合が73.5%、「結婚していた（配偶者と離婚・死別等）」割合が7.6%で、「未婚」の割合は17.6%となっている。

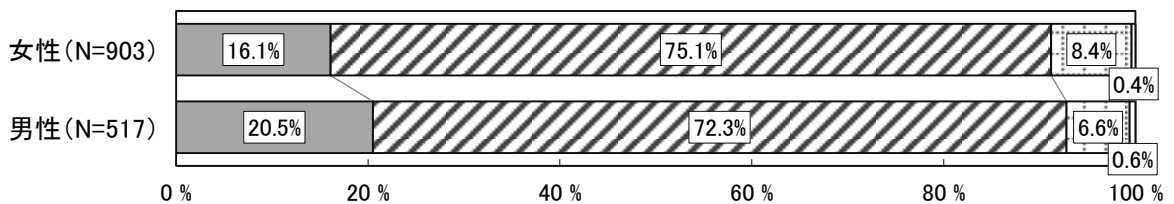
図表 結婚



#### 【男女別】

男女別に結婚の状況を見ると、結婚経験のある人の割合（「結婚している」と「結婚していた（配偶者と離婚・死別等）」の計）は女性で83.5%、男性で78.9%となっている。

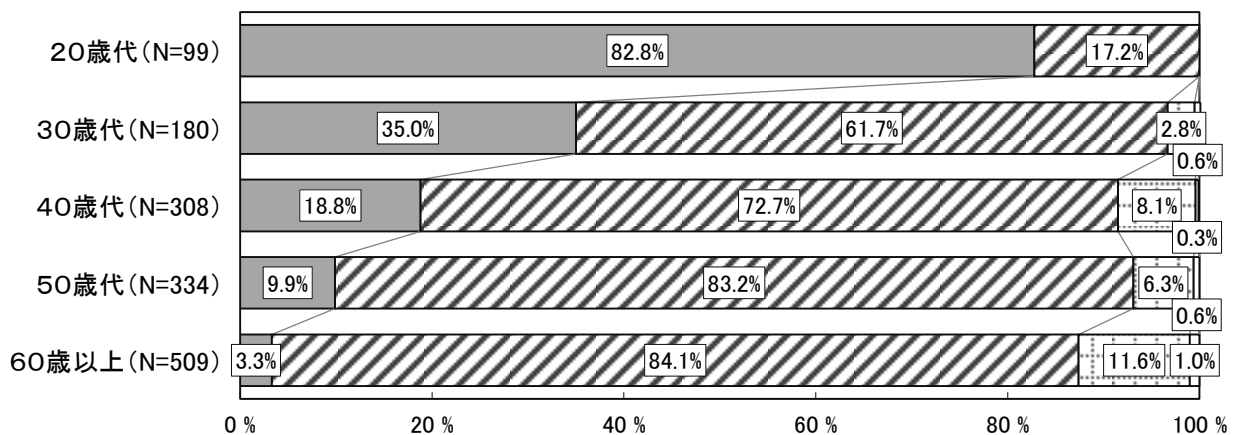
図表 結婚（男女別）



#### 【年代別】

年代別に結婚の状況を見ると、結婚経験のある人の割合は年代が上がるると増加している。

図表 結婚（年代別）

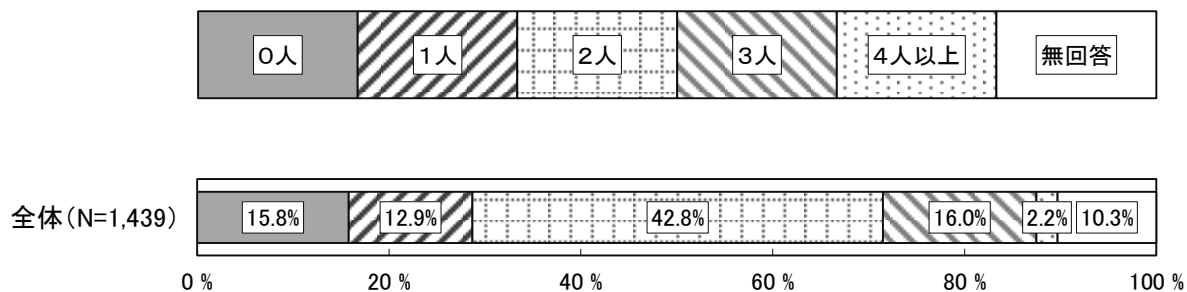


## (5) 子どもの人数

問 12-5 ①あなたは、お子さんが何人おられますか（別居を含む）

子どもの人数は、「2人」の割合が最も高く 42.8%で、次いで「3人」（16.0%）「1人」（12.9%）となっている。「0人」（子どもがいない）は 15.8%となっている。

図表 子どもの人数

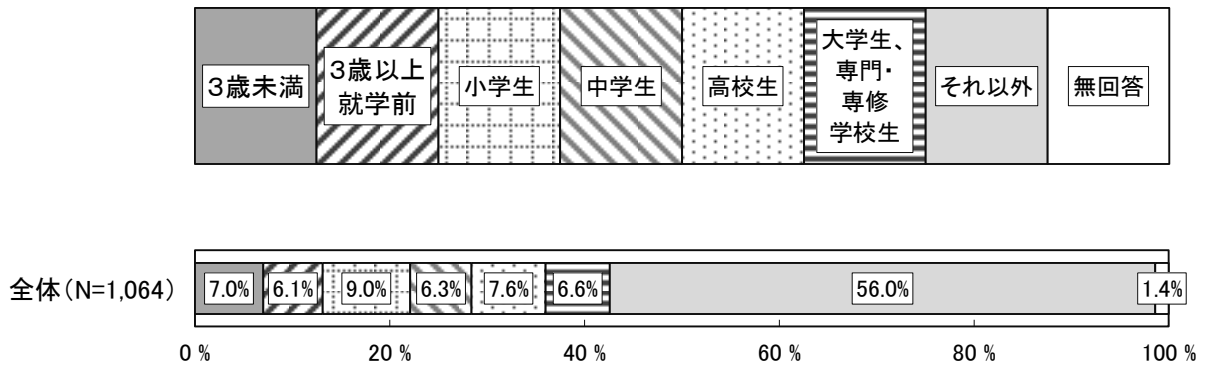


(6) 末子年齢

問 12-5 ② お子さんがおられる場合、一番下のお子さんは、次のうちどれにあてはまりますか

末子年齢は、「それ以外」の割合が最も高く 56.0%で、次いで「小学生」(9.0%)、「高校生」(7.6%)となっている。

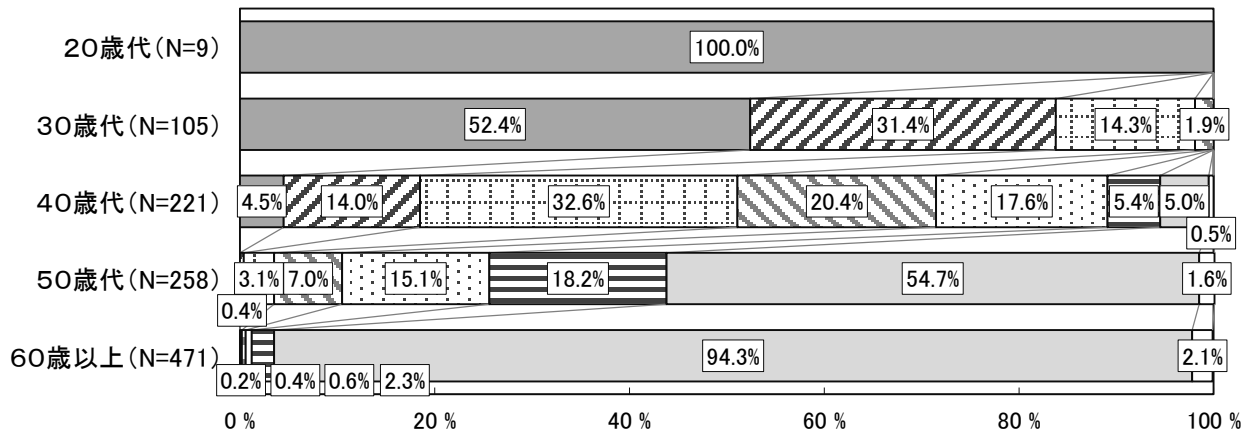
図表 末子年齢



【年代別】

年代別に末子年齢をみると、30歳代では「3歳未満」の割合が最も高く 52.4%で、次いで「3歳以上就学前」(31.4%)、40歳代では「小学生」の割合が最も高く 32.6%で、次いで「中学生」(20.4%)、「高校生」(17.6%)、「3歳以上就学前」(14.0%)、50歳代では「それ以外」の割合が最も高く 54.7%、次いで「大学生、専門・専修学校生」(18.2%)、「高校生」(15.1%)となっており、60歳以上では「それ以外」の割合が高くなっている (94.3%)。

図表 末子年齢 (年代別)

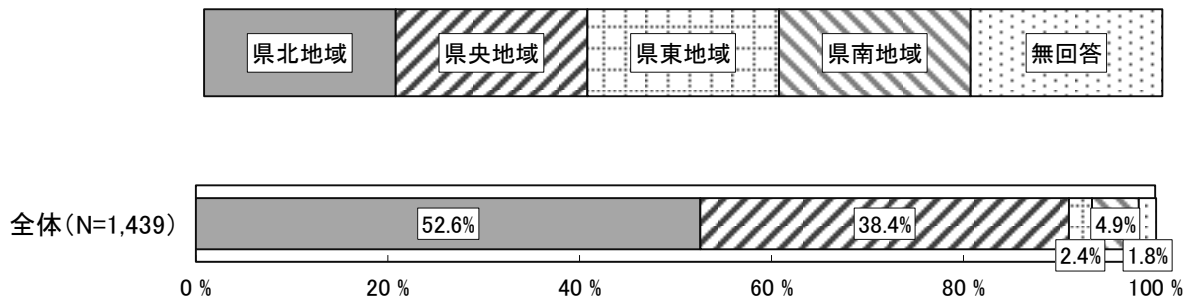


(7) 居住地

問 12-6 あなたのお住まいは、どちらですか

居住地構成は、「県北地域」の割合が最も高く 52.6%で、次いで「県央地域」(38.4%)、「県南地域」(4.9%)、「県東地域」(2.4%) となっている。

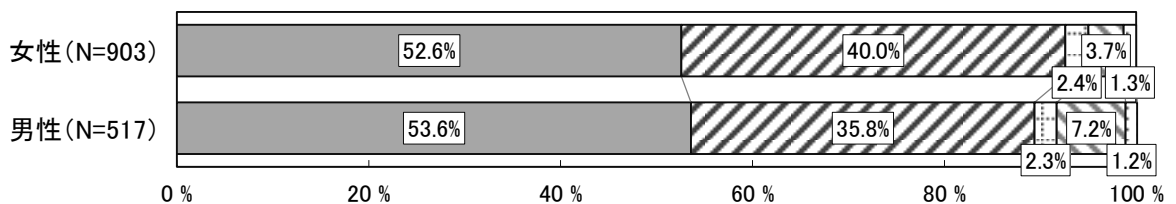
図表 居住地



【男女別】

男女別には大きな差はみられない。

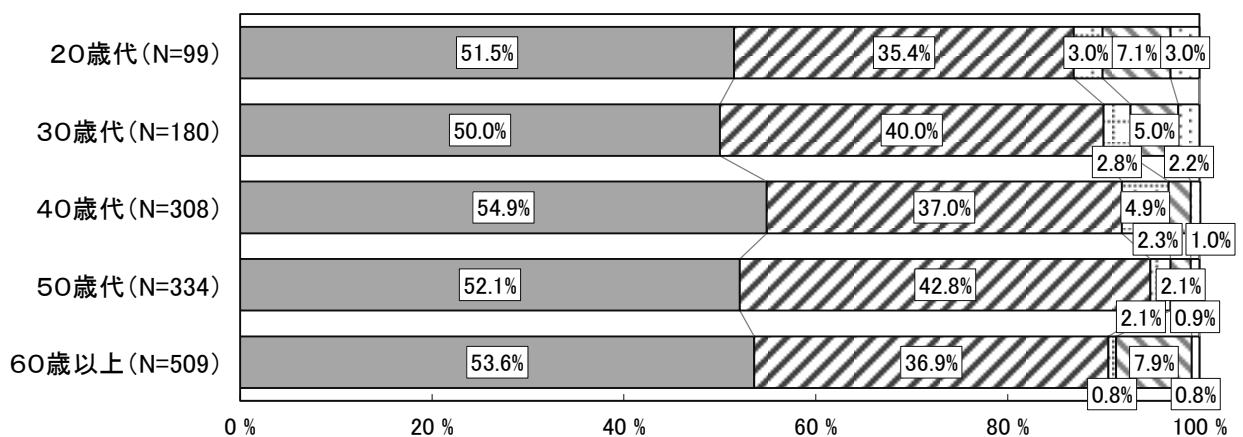
図表 居住地 (男女別)



【年代別】

年代別には大きな差はみられない。

図表 居住地 (年代別)



県北地域	奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市、平郡町、三郷町、斑鳩町、安堵町
県央地域	大和高田市、橿原市、桜井市、御所市、香芝市、葛城市、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
県東地域	宇陀市、山添村、普爾村、御杖村
県南地域	五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村

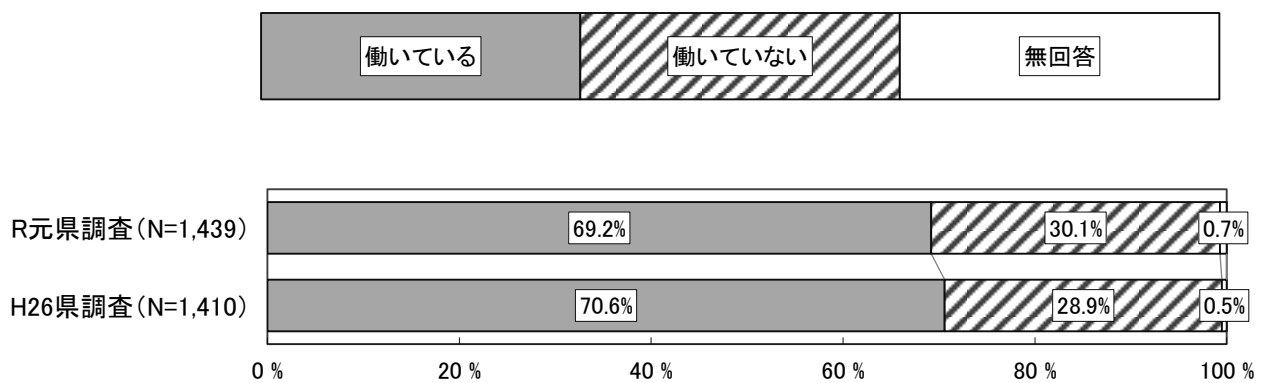
## 2 就労状況について

### (1) 就労の有無

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。  
 配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲でああなたの配偶者についてもお答えください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)  
 ① あなたは  
 ② 配偶者は

現在、働いている人の割合は69.2%となっている。  
 前回調査と比較して大きな変化はみられない。

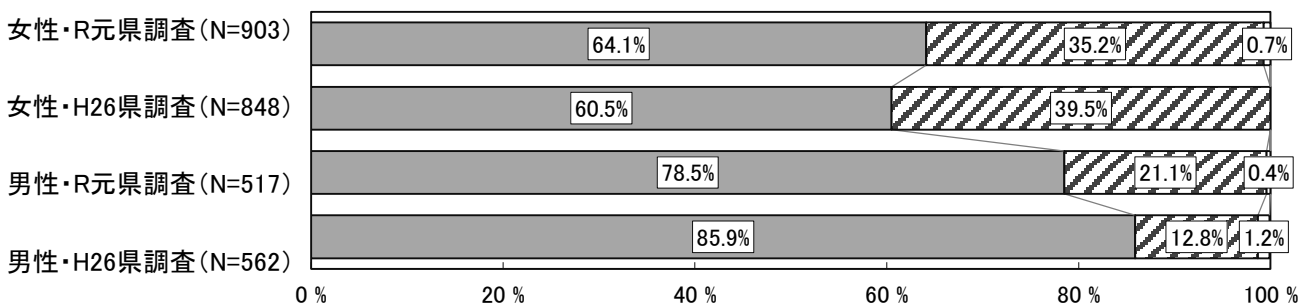
図表 就労の有無



#### 【男女別】

男女別に働いている人の割合をみると、女性はその割合が64.1%で男性に比べて14.4ポイント低くなっており、前回調査に比べ3.6ポイント増加した。

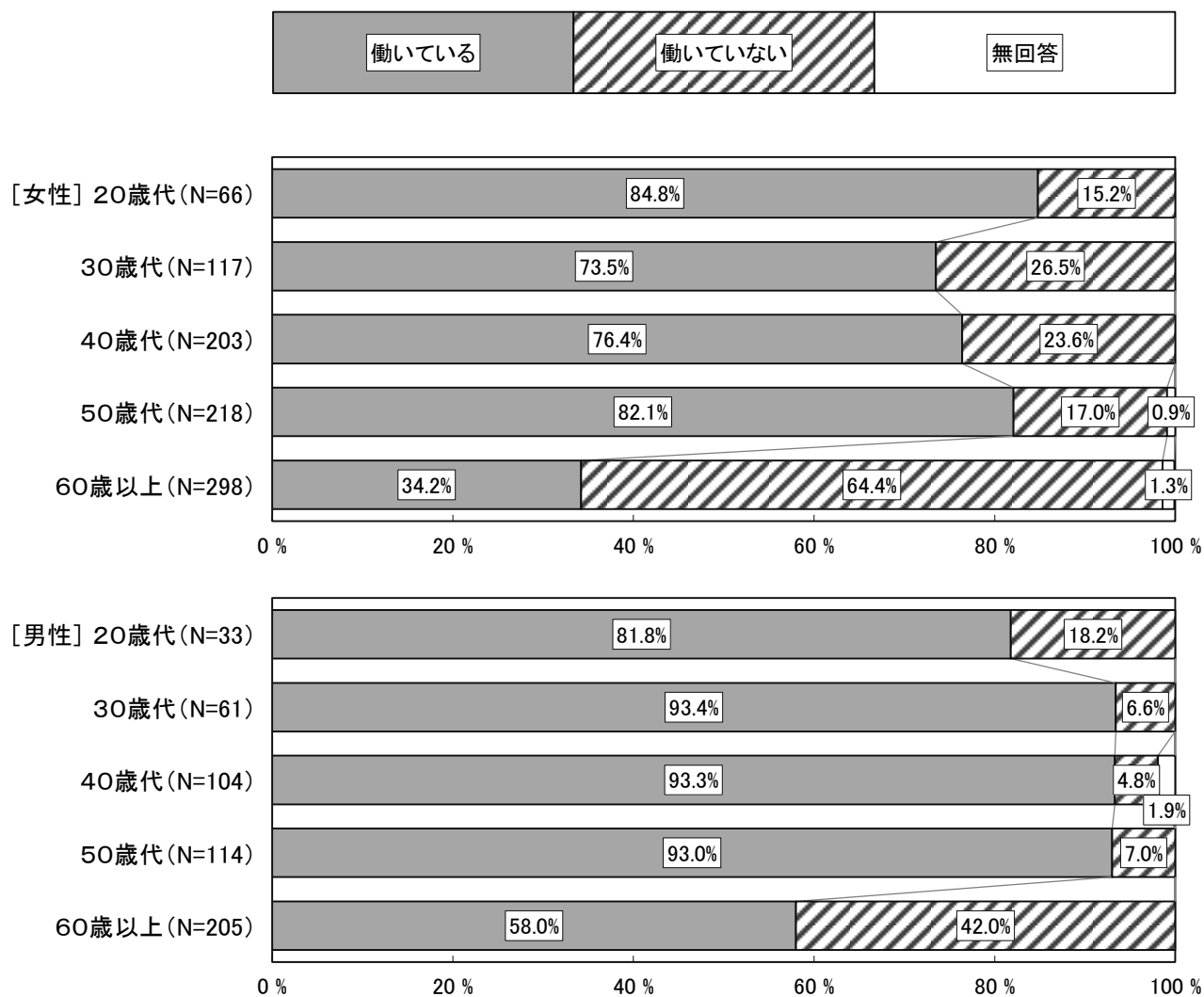
図表 就労の有無 (男女別)



【男女別・年代別】

男女別・年代別に働いている人の割合をみると、20歳代では男女間に大きな差はみられないが、30歳代では女性（73.5%）は男性に比べて19.9ポイント低く、40歳代以降も10ポイント以上の差が開いている。

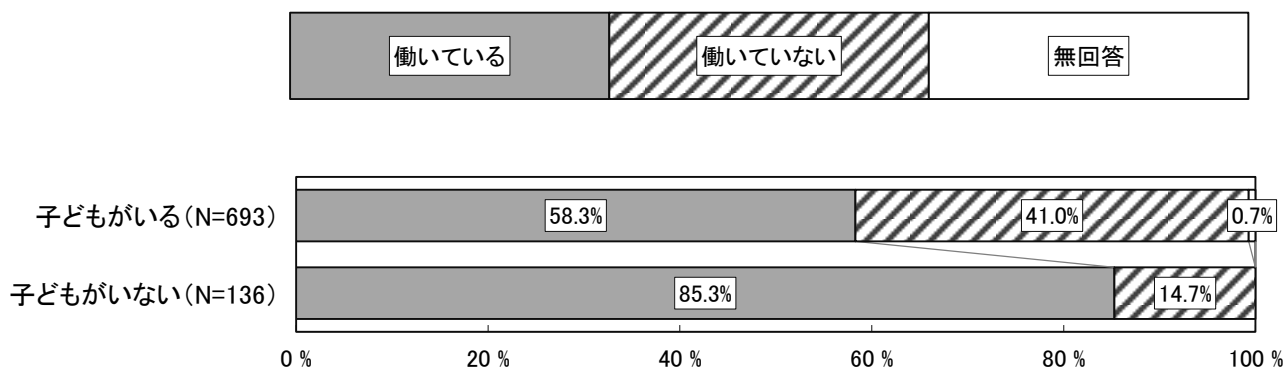
図表 就労の有無（男女別・年代別）



【女性・子どもの有無別】

女性において、子どもの有無別に働いている人の割合をみると、子どもがいる人は 58.3%で子どもがいない人に比べて 27.0 ポイント低くなっている。

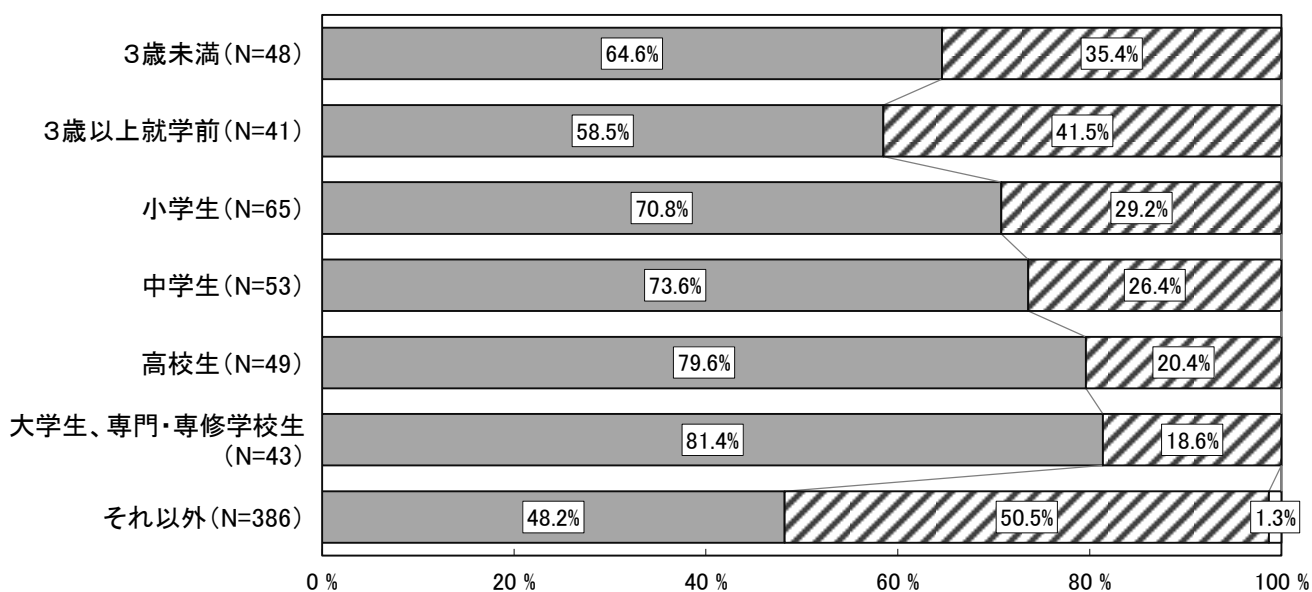
図表 就労の有無（女性・子どもの有無別）



【女性・末子年齢別】

女性において、末子年齢別に働いている人の割合をみると、「3歳以上就学前」(58.5%)では割合が減少するものの、「小学生」(70.8%)以降割合は増加し、「大学生、専門・専修学校生」で81.4%となっている。

図表 就労の有無（女性・末子年齢別）

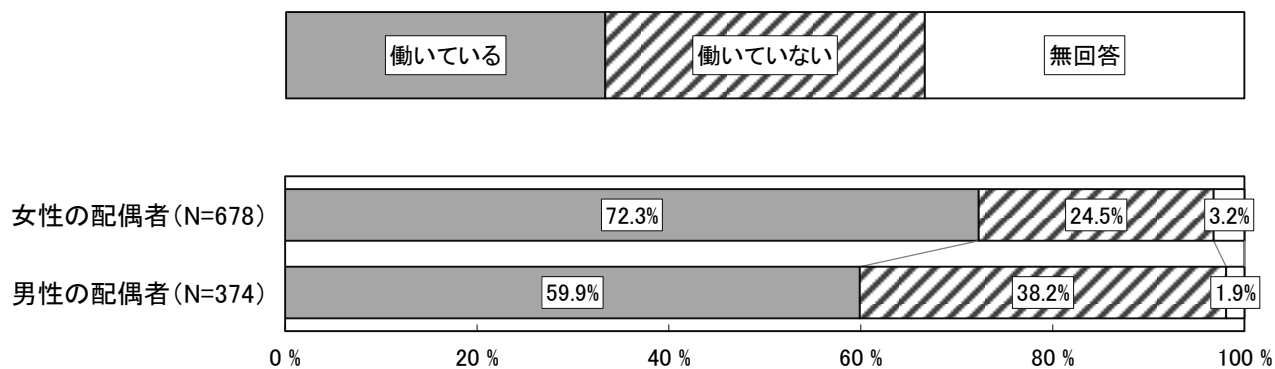




## ■配偶者

男女別に配偶者が働いている人の割合をみると、男性の配偶者は59.9%で、女性の配偶者に比べると12.4ポイント低くなっている。

図表 配偶者の就労の有無（男女別）



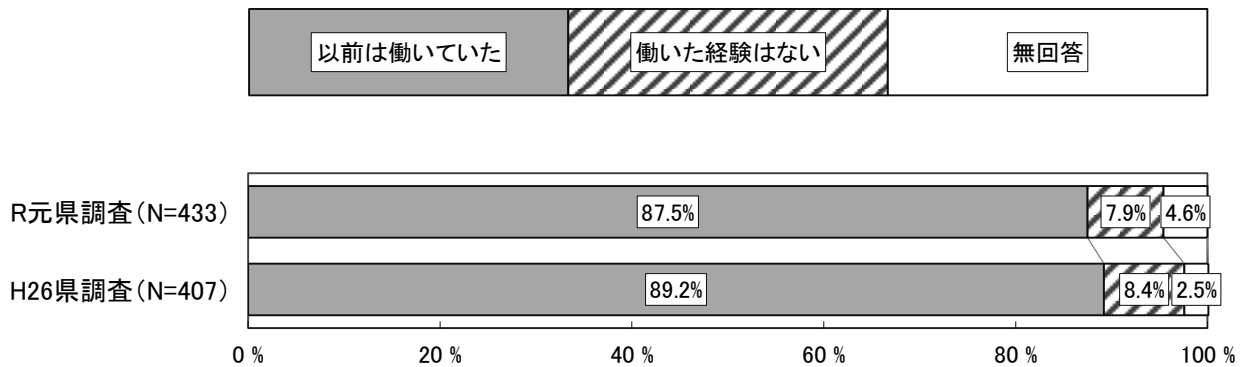
## (2) 就労経験

問1 ①または②で「働いていない」と回答された方のみお答えください

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。  
 配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲であなたの配偶者についてもお答えください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)  
 ①-1 以前はいかがでしたか(あなた)  
 ②-1 以前はいかがでしたか(配偶者)

現在働いていない人が「以前は働いていた」割合は87.5%となっている。  
 前回調査に比べて大きな変化はみられない。

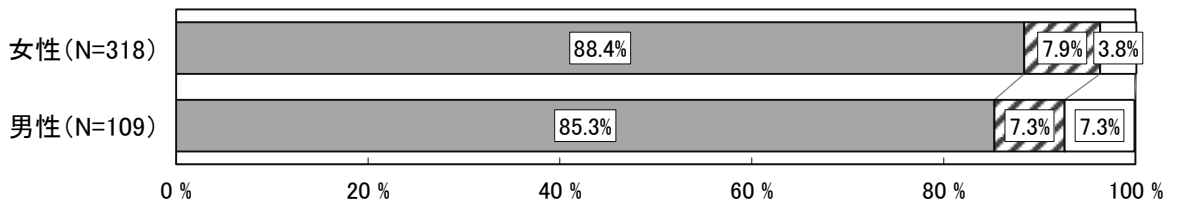
図表 就労経験



### 【男女別】

男女別に現在働いていない人が「以前は働いていた」割合をみると、女性は88.4%で男性に比べて3.1ポイント高くなっている。

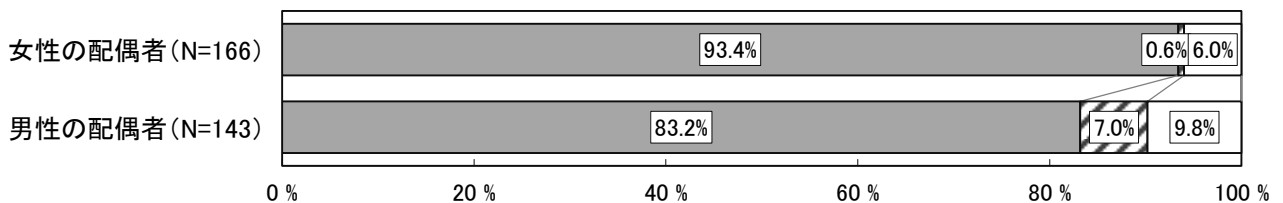
図表 就労経験 (男女別)



### ■配偶者

男女別に現在働いていない配偶者の以前の就労経験の割合をみると、男性の配偶者は83.2%で、女性の配偶者に比べると10.2ポイント低い。

図表 配偶者の就労経験 (男女別)



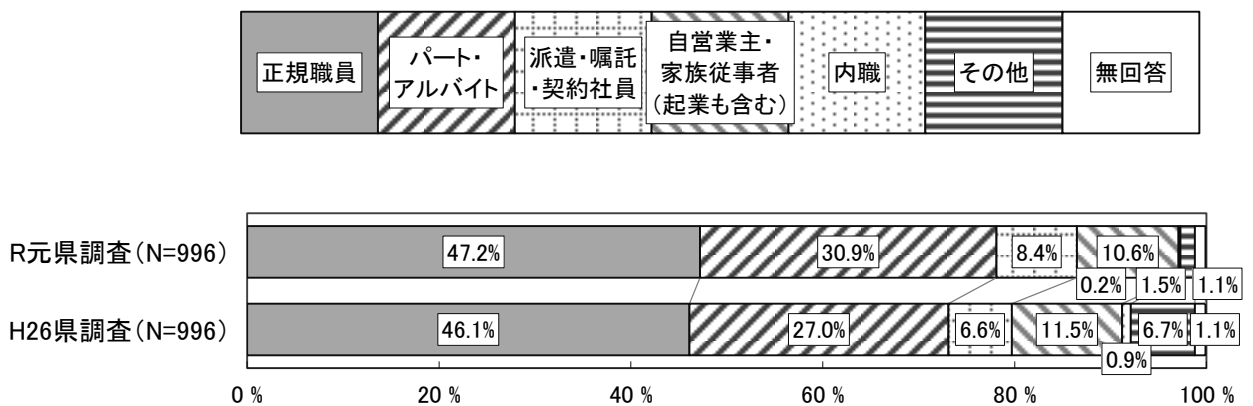
### (3) 就労形態

問1 ①または②で「働いている」と回答された方のみお答えください

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。  
 配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲でああなたの配偶者についてもお答えください。  
 (〇はそれぞれ1つずつ)  
 ③-1 あなたの就業形態は  
 ④-1 配偶者の就業形態は

働いている人の就労形態は、「正規職員」の割合が最も高く 47.2%で、次いで「パート・アルバイト」(30.9%)、「自営業主・家族従事者(起業も含む)」(10.6%) となっている。  
 前回調査と比較して大きな差はみられない。

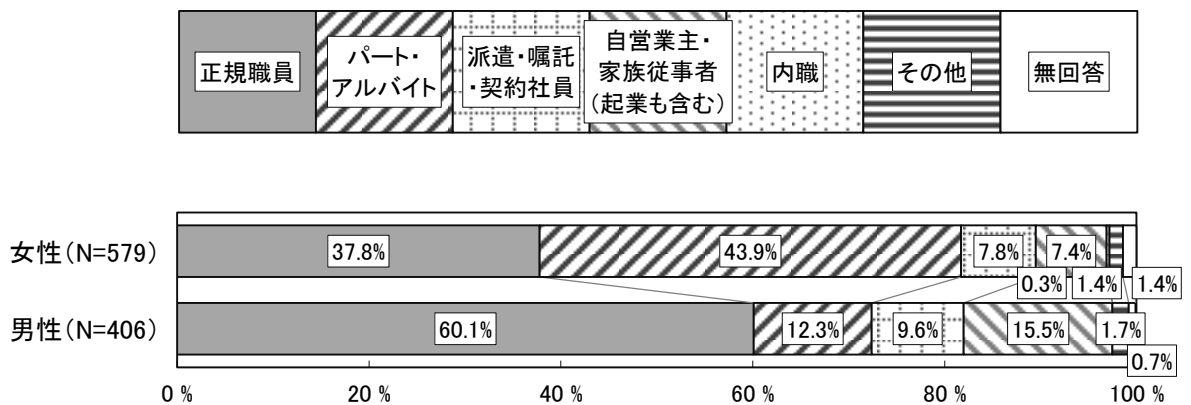
図表 就労形態



#### 【男女別】

男女別に就労形態をみると、女性では「正規職員」の割合(37.8%)が男性に比べて22.3ポイント低く、「パート・アルバイト」の割合(43.9%)が男性に比べて31.6ポイント高くなっている。

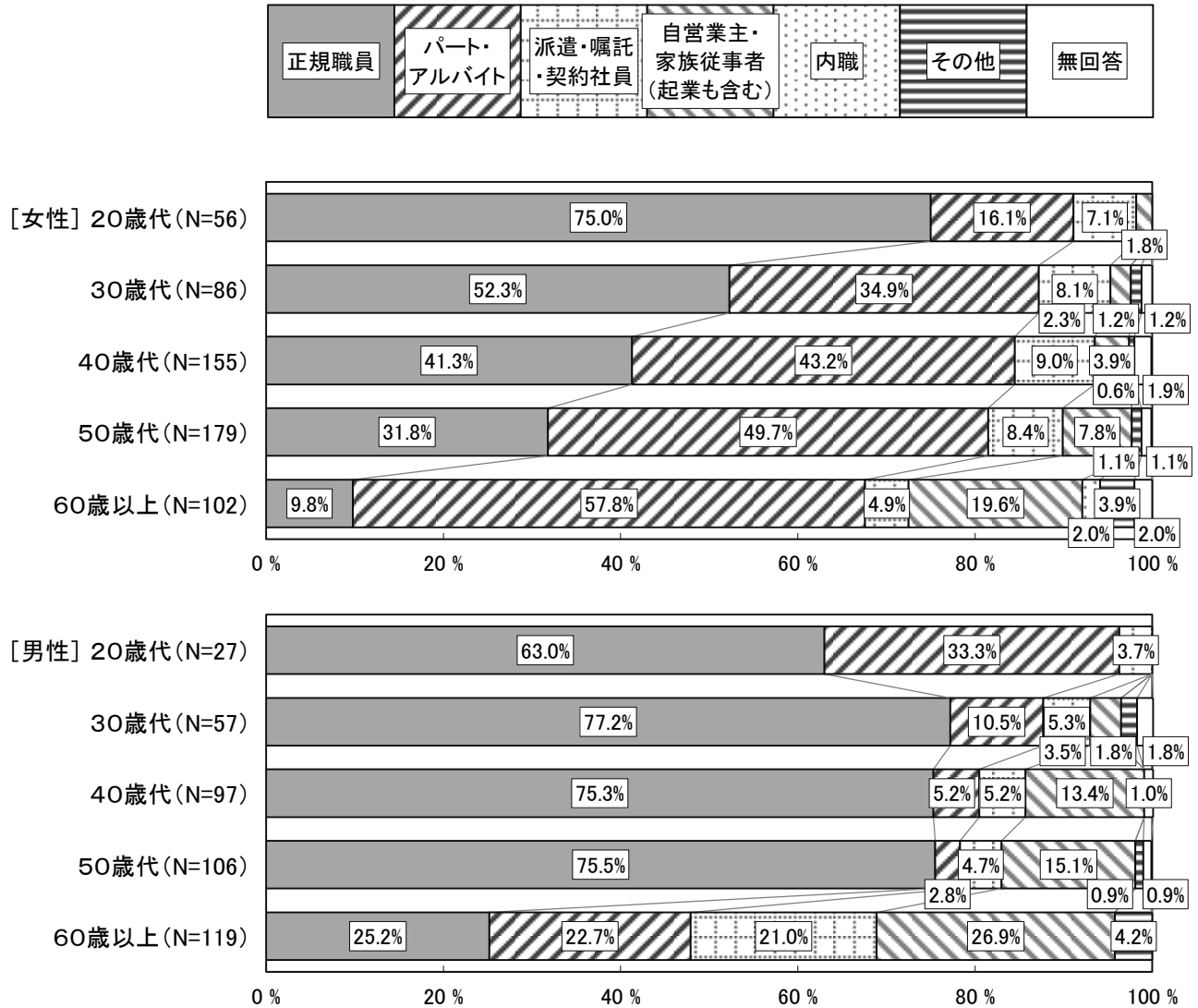
図表 就労形態(男女別)



【男女別・年代別】

男女別・年代別に就労形態をみると、女性は年代が高くなるほど「パート・アルバイト」の割合が高く、「正規職員」の割合が低くなるのに対して、男性は20歳代から50歳代にかけて「正規職員」の割合が安定している。

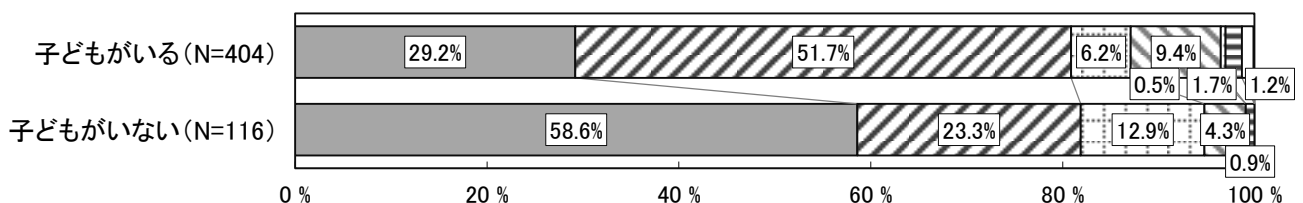
図表 就労形態（男女別・年代別）



【女性・子どもの有無別】

女性において、子どもの有無別に就労形態をみると、子どもがいる人は、子どもがいない人に比べて「正規職員」の割合（29.2%）が29.4ポイント低くなっており、「パート・アルバイト」の割合（51.7%）が28.4ポイント高くなっている。

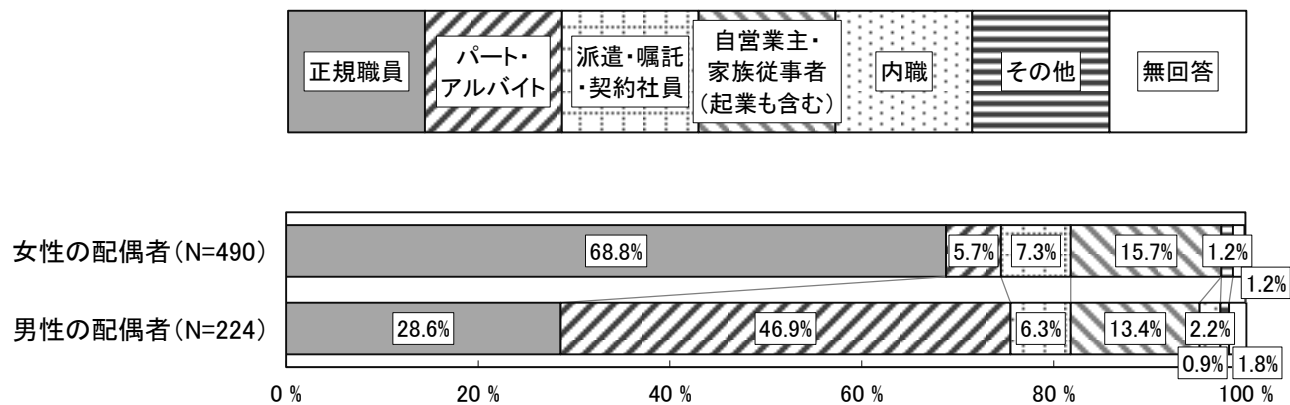
図表 就労形態（女性・子どもの有無別）



## ■配偶者

男女別に配偶者の就労形態をみると、男性の配偶者は、女性の配偶者に比べて「正規職員」の割合（28.6%）が40.2ポイント低く、「パート・アルバイト」の割合（46.9%）が41.2ポイント高くなっている。

図表 配偶者の就労形態（男女別）



#### (4) 年間収入

問1 ①または②で「働いている」と回答された方のみお答えください

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。  
配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲であなたの配偶者についてもお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

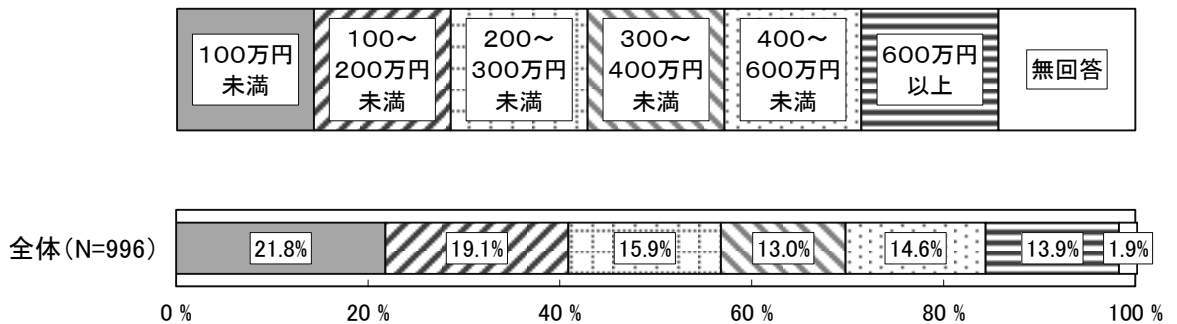
※収入は、自営業の場合には売上金額、会社員や公的年金収入の方の場合には源泉徴収額（所得税等）や社会保険料等を差し引く前の額で、源泉徴収票の支払金額欄に記載されている額です。

③-2 あなたの年間の収入※は

④-2 配偶者の年間の収入※は

働いている人の年間収入は、「100万円未満」の割合が最も高く21.8%で、次いで「100～200万円未満」(19.1%)、「200～300万円未満」(15.9%)となっている。200万円未満計が40.9%となっている。

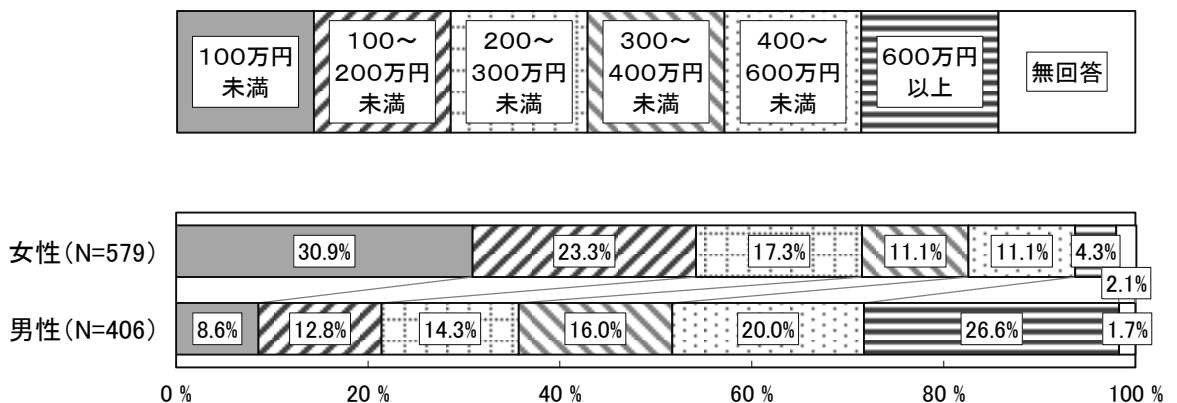
図表 年間収入



#### 【男女別】

男女別に年間収入をみると、女性は男性に比べて、200万円未満計の割合（54.2%）が32.8ポイント高く、「600万円以上」の割合（4.3%）が22.3ポイント低くなっている。

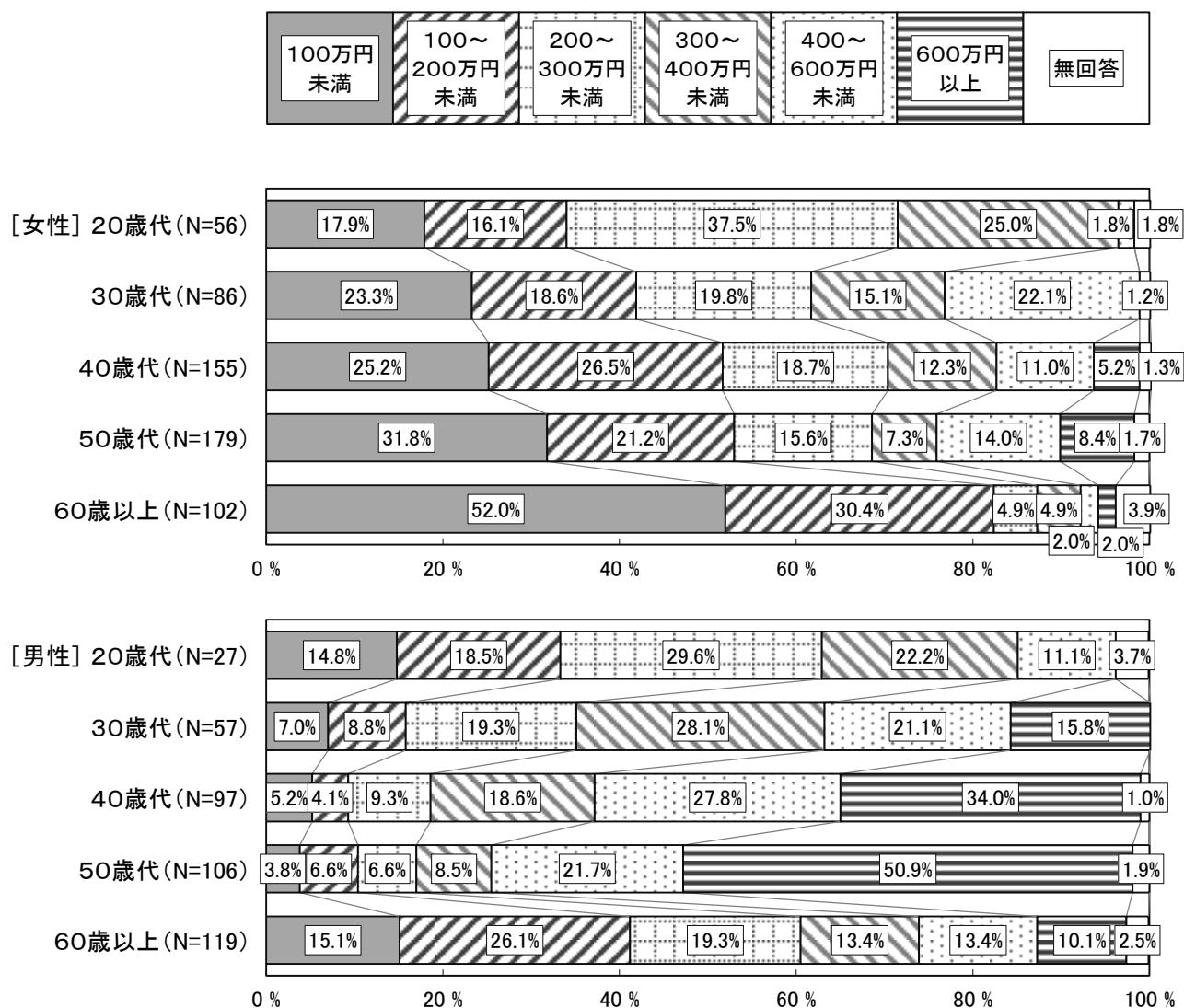
図表 年間収入（男女別）



【男女別・年代別】

男女別・年代別に年間収入をみると、20歳代から50歳代にかけて女性では200万円未満計の割合が高くなるのに対して、男性は「600万円以上」の割合が高くなっている。

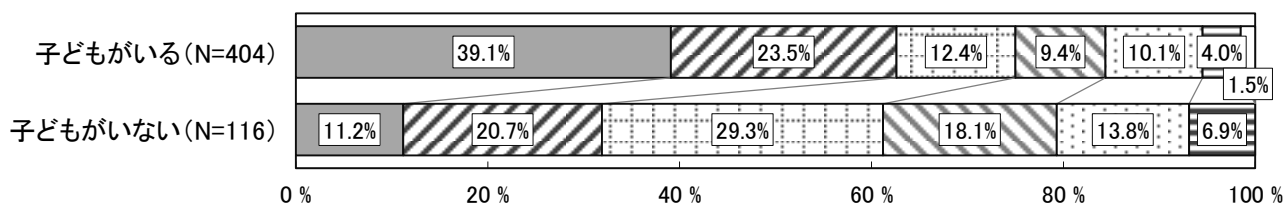
図表 年間収入（男女別・年代別）



【女性・子どもの有無別】

女性において、子どもの有無別に年間収入をみると、子どもがいる人は、子どもがいない人に比べて200万円未満計の割合（62.6%）が30.7ポイント高くなっている。

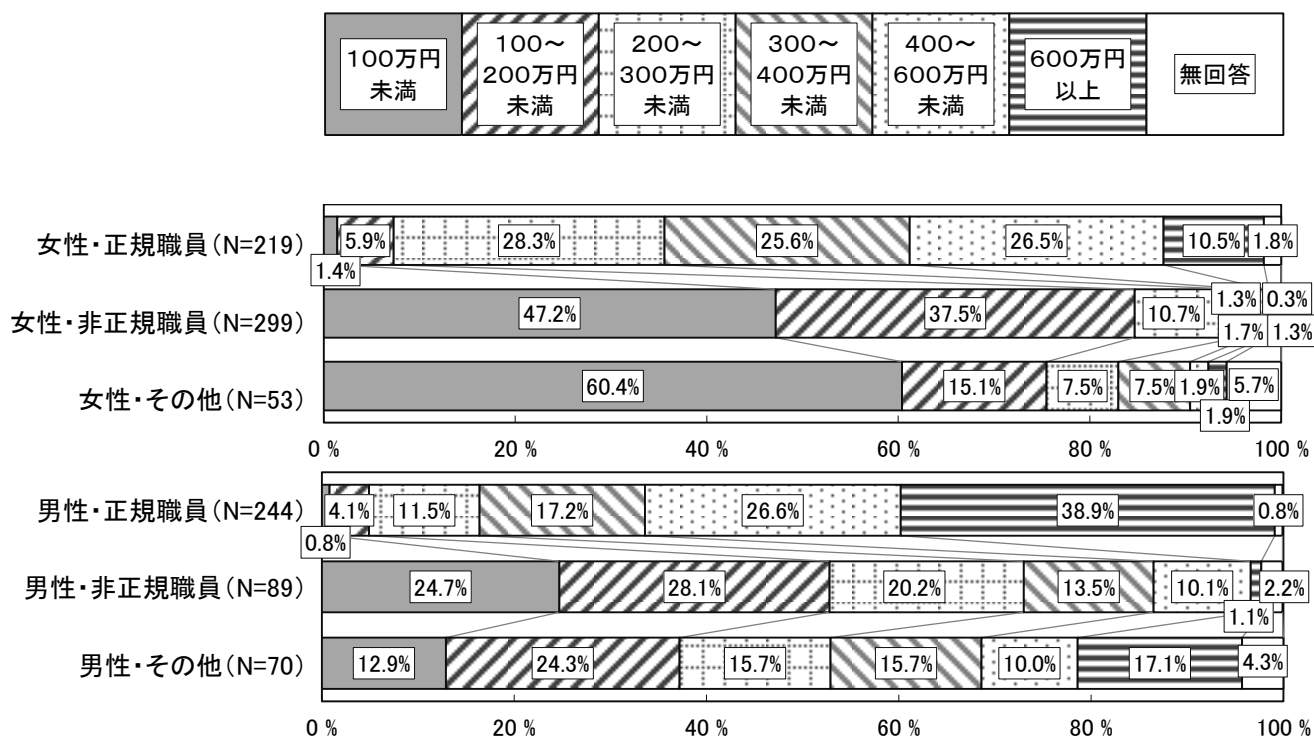
図表 年間収入（女性・子どもの有無別）



【男女別・就労形態別】

男女別・就労形態別に年間収入をみると、女性の正規職員では「600万円以上」の割合（10.5%）が男性・正規職員に比べて28.4ポイント低くなっているなど、同じ就労形態でも性別間の差がみられる。

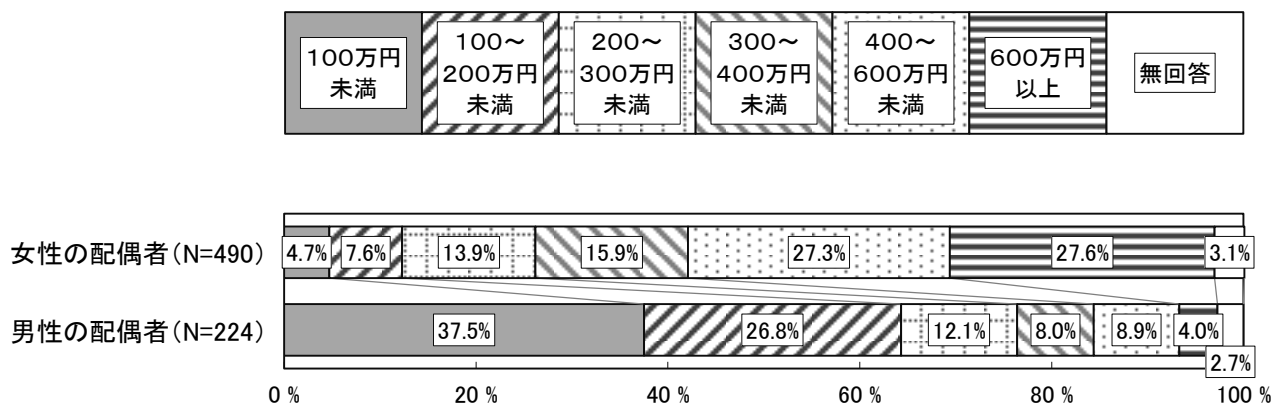
図表 年間収入（男女別・就労形態別）



■配偶者

男女別に配偶者の年間収入をみると、男性の配偶者は、女性の配偶者に比べて200万円未満計の割合（64.3%）が52.0ポイント高くなっている。

図表 配偶者の年間収入（男女別）





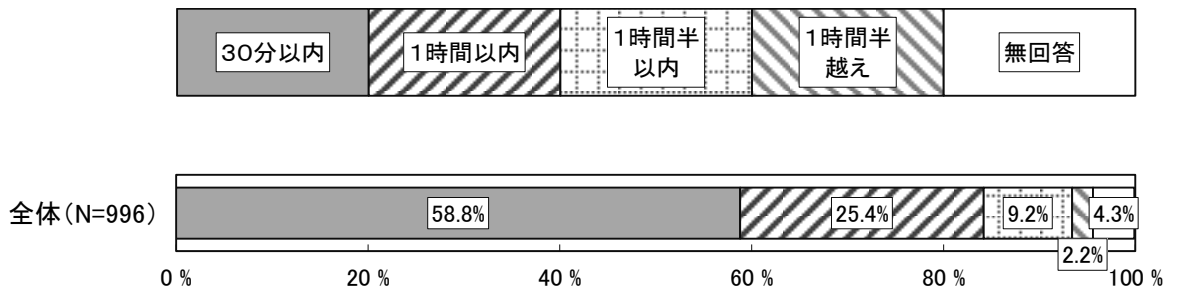
## (5) 通勤時間

問1 ①または②で「働いている」と回答された方のみお答えください

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。  
 配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲であなたの配偶者についてもお答えください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)  
 ③-3 あなたの通勤時間 (片道)  
 ④-3 配偶者の通勤時間 (片道)

働いている人の通勤時間は、「30分以内」の割合が最も高く 58.8%で、次いで「1時間以内」(25.4%)、「1時間半以内」(9.2%)となっている。

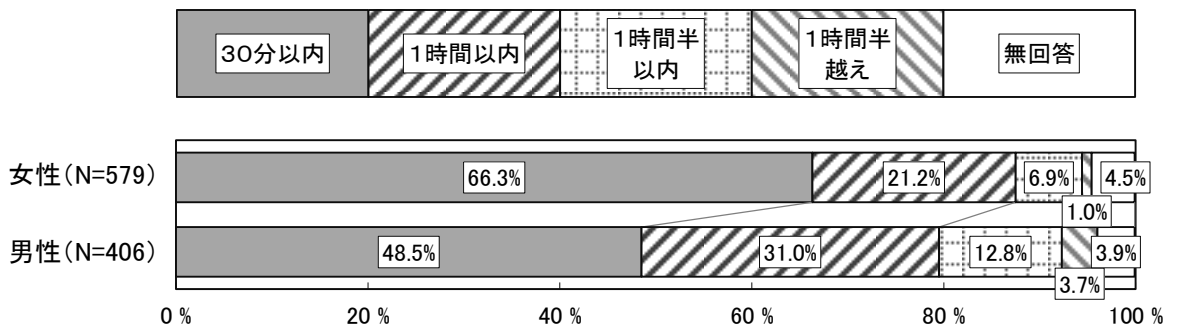
図表 通勤時間



### 【男女別】

男女別に通勤時間をみると、女性では「30分以内」の割合(66.3%)が男性に比べて17.8ポイント高くなっている。

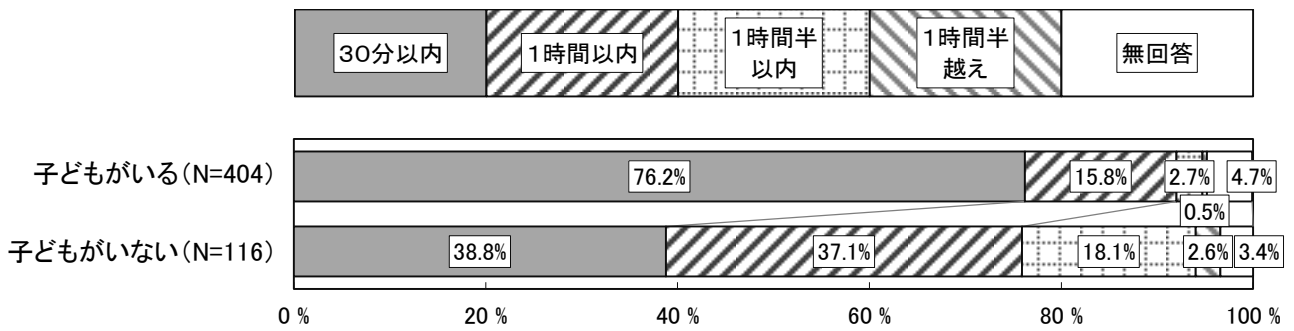
図表 通勤時間 (男女別)



【女性・子どもの有無別】

女性において、子どもの有無別に通勤時間をみると、子どもがいる人は、子どものいない人に比べて「30分以内」の割合（76.2%）が37.4ポイント高くなっている。

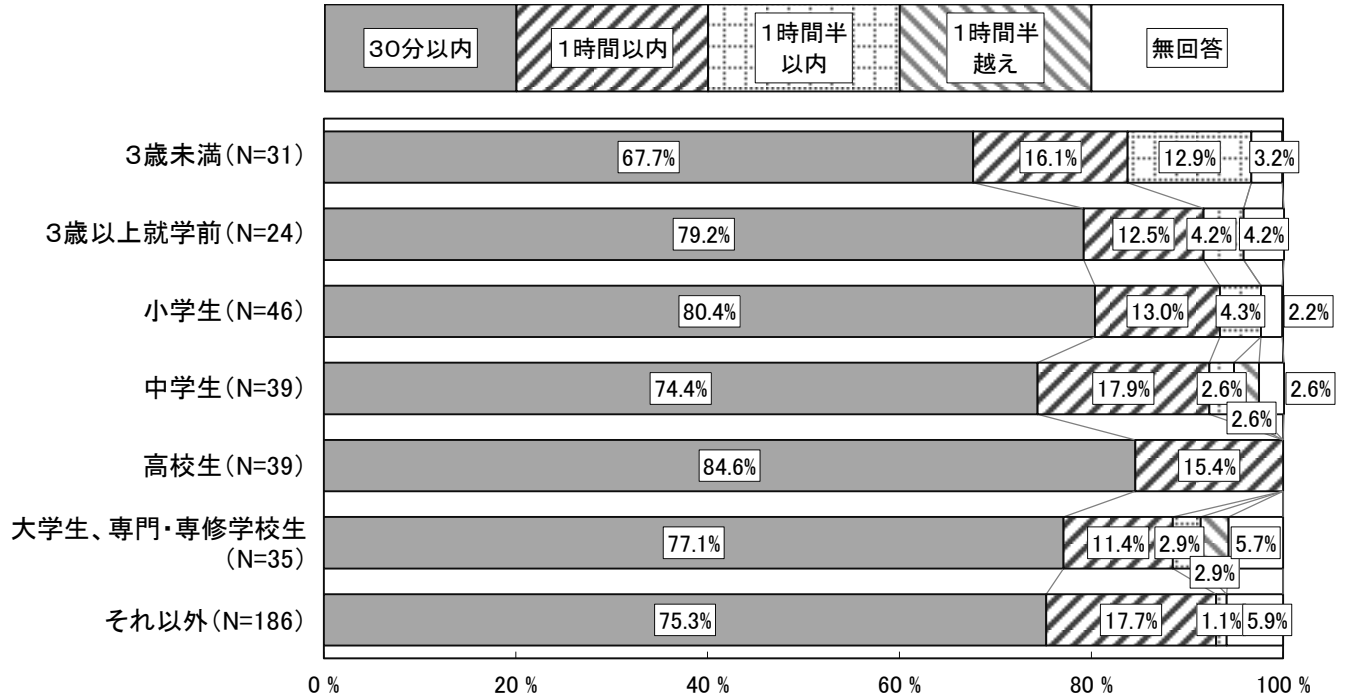
図表 通勤時間（女性・子どもの有無別）



【女性・末子年齢別】

女性において、末子年齢別に通勤時間をみると、末子年齢を問わず「30分以内」の割合が多数を占めている。

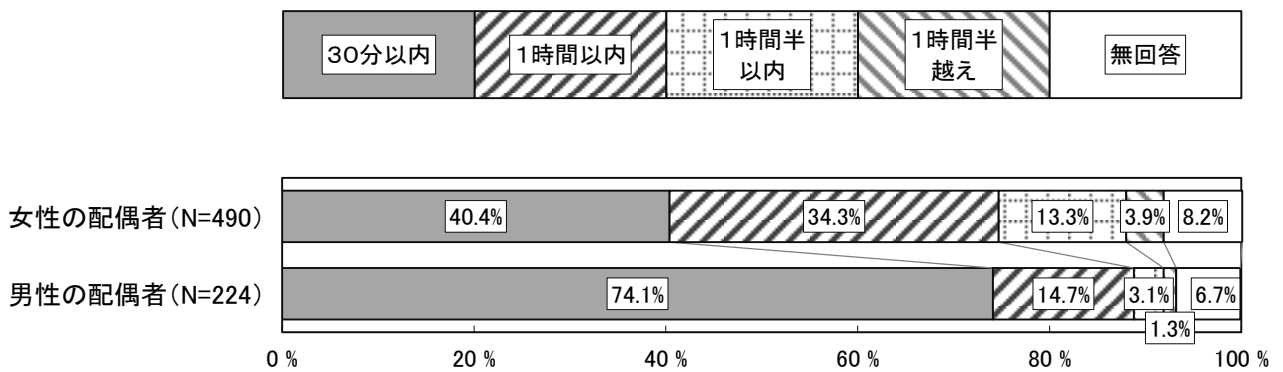
図表 通勤時間（女性・末子年齢別）



■配偶者

男女別に配偶者の通勤時間をみると、男性の配偶者は、女性の配偶者に比べ「30分以内」の割合（74.1%）が33.7ポイント高くなっている。

図表 配偶者の通勤時間（男女別）



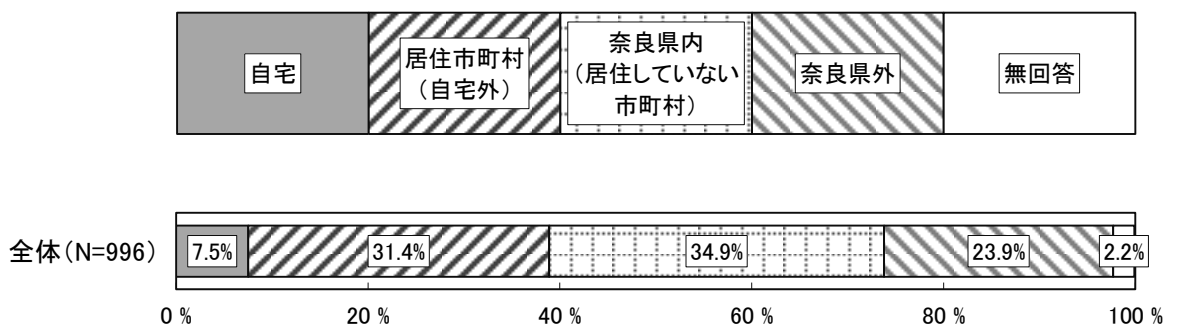
## (6) 勤務地

問1 ①または②で「働いている」と回答された方のみお答えください

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。  
 配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲であなたの配偶者についてもお答えください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)  
 ③-4 あなたの勤務地はどちらですか  
 ④-4 配偶者の勤務地はどちらですか

働いている人の勤務地は、「奈良県内（居住していない市町村）」の割合が最も高く 34.9%で、次いで「居住市町村（自宅外）」(31.4%)、「奈良県外」(23.9%) となっている。

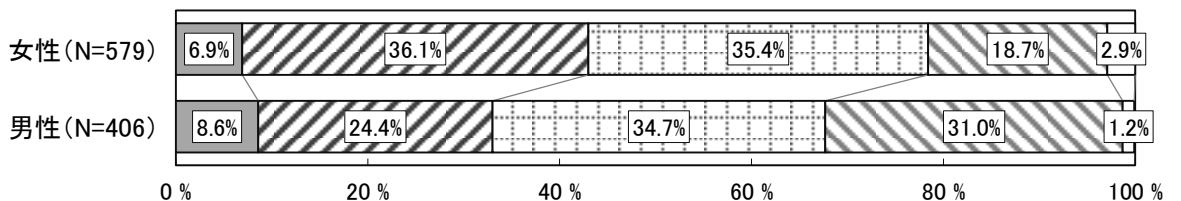
図表 勤務地



### 【男女別】

男女別に勤務地をみると、女性は男性に比べて「居住市町村（自宅外）」の割合（36.1%）が 11.7 ポイント高く、「奈良県外」の割合（31.0%）が女性に比べて 12.3 ポイント低くなっている。

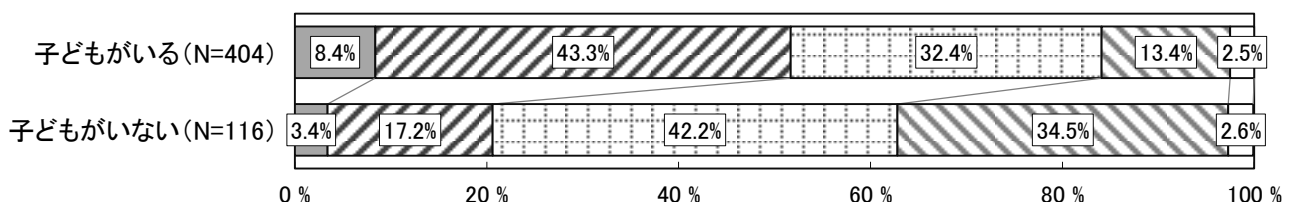
図表 勤務地（男女別）



### 【女性・子どもの有無別】

女性において、子どもの有無別に勤務地をみると、子どもがいる人は、子どもがいない人に比べて「居住市町村（自宅外）」の割合（43.3%）が 26.1 ポイント高く、「奈良県外」の割合（34.5%）が 21.1 ポイント低くなっている。

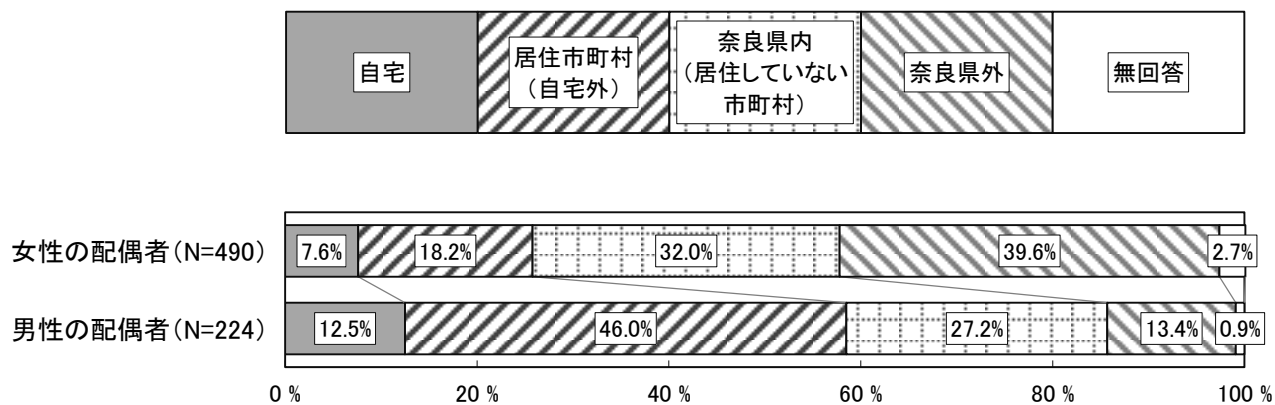
図表 勤務地（女性・子どもの有無別）



## ■配偶者

男女別に配偶者の通勤地をみると、男性の配偶者は、女性の配偶者に比べて「居住市町村（自宅外）」の割合（46.0%）が27.8ポイント高く、「奈良県外」の割合（39.6%）が26.2ポイント高くなっている。

図表 配偶者の勤務地（男女別）



### 3 進路選択について

#### (1) 進学時に影響を受けたもの

問 2-1 あなたは、職業・進路について何から影響を受けましたか。それぞれの時期において影響を受けた人や物を3つまで教えてください。(各時期につき○は3つまで)

##### (1) 大学・短大・専門学校への進学時

大学・短大・専門学校への進学時に影響を与えたものは、「その他、自分で調べた情報」の割合が最も高く21.9%で、次いで「学校の先生」(20.2%)、「母親」(19.5%)となっている。

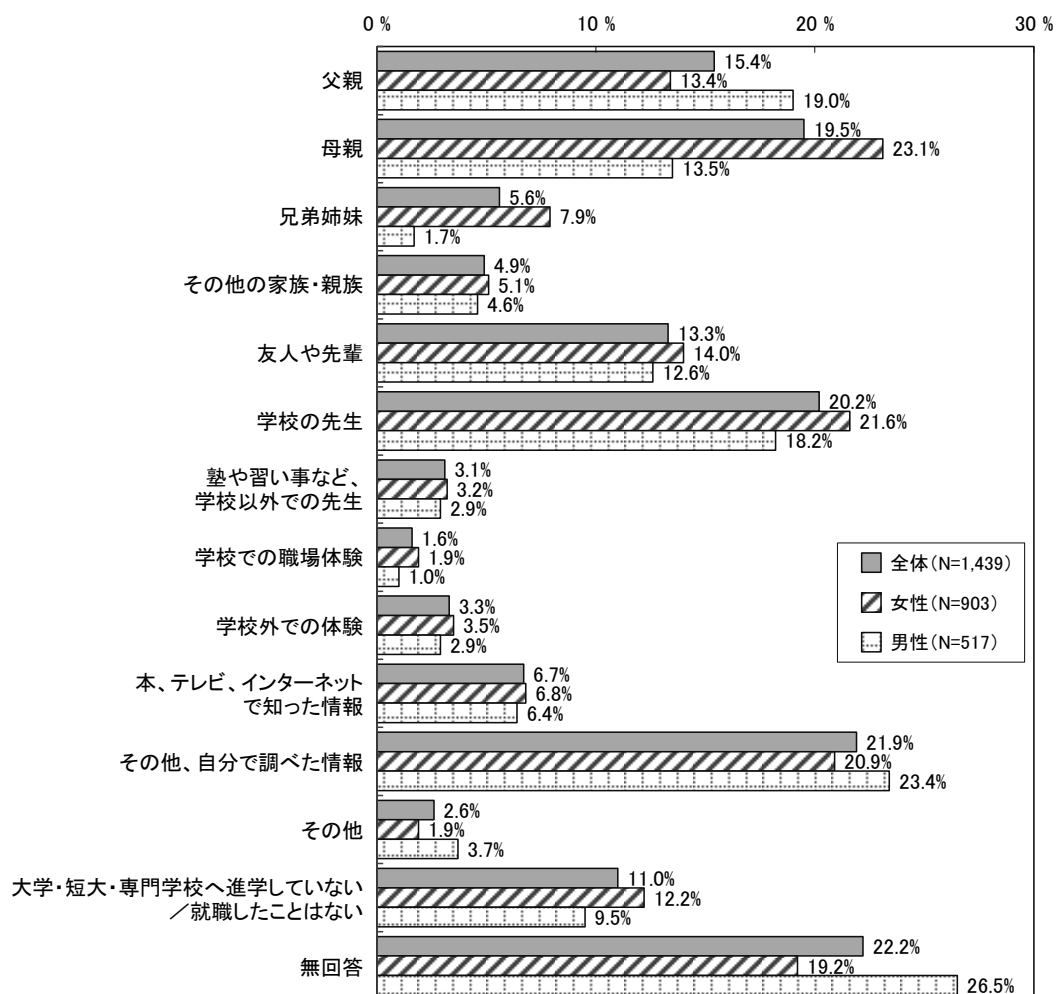
##### 【男女別】

男女別に大学・短大・専門学校への進学時に影響を与えたものをみると、女性では「母親」(23.1%)の割合が男性に比べて9.6ポイント高く、男性では「父親」(19.0%)の割合が女性に比べて5.6ポイント高くなっている。

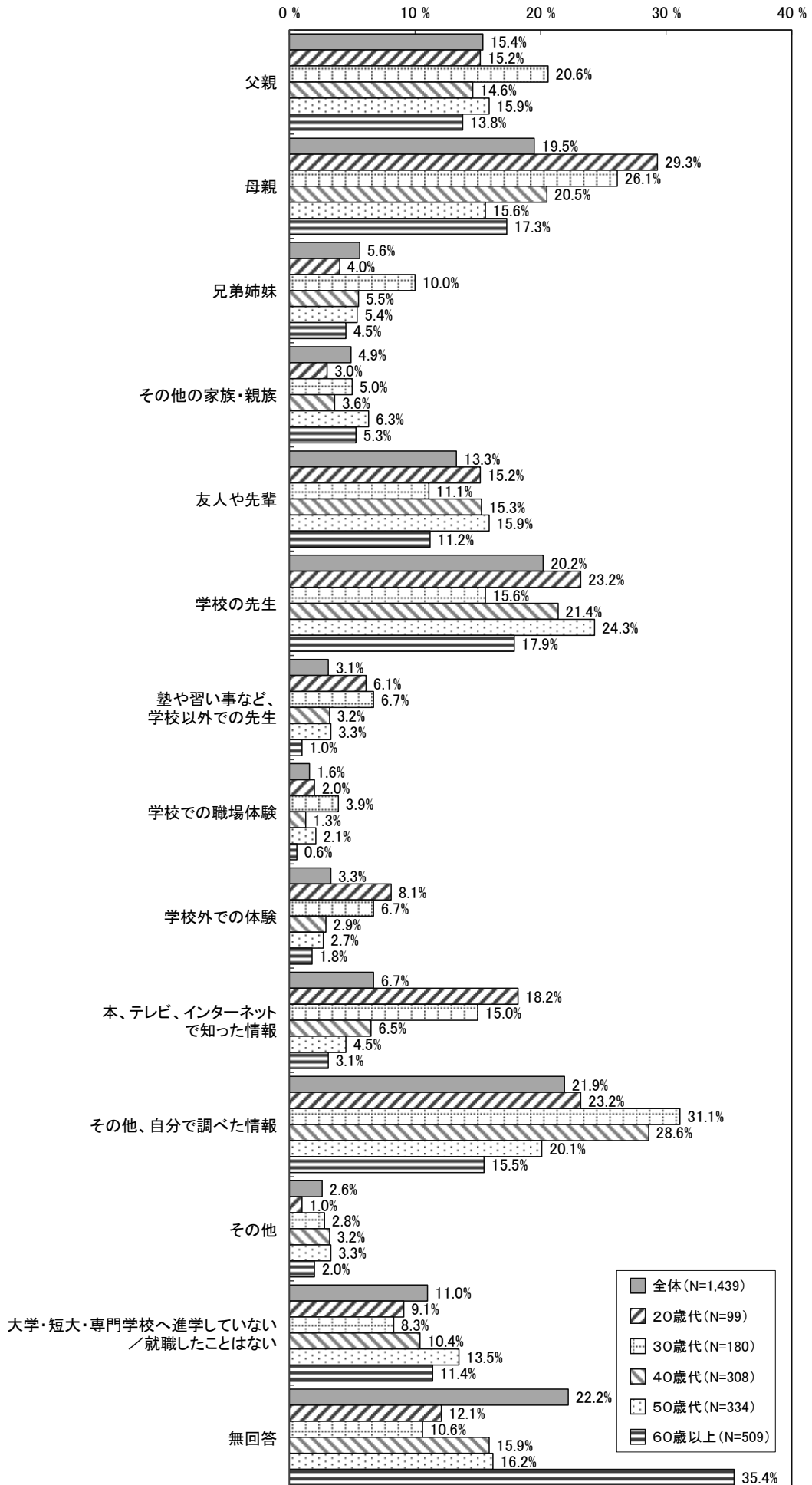
##### 【年代別】

年代別に大学・短大・専門学校への進学時に影響を与えたものをみると、概ね年代が若いほど「母親」「本、テレビ、インターネットで知った情報」の割合が高くなっている。

図表 進学時に影響を受けたもの（男女別）



図表 進学時に影響を受けたもの（年代別）

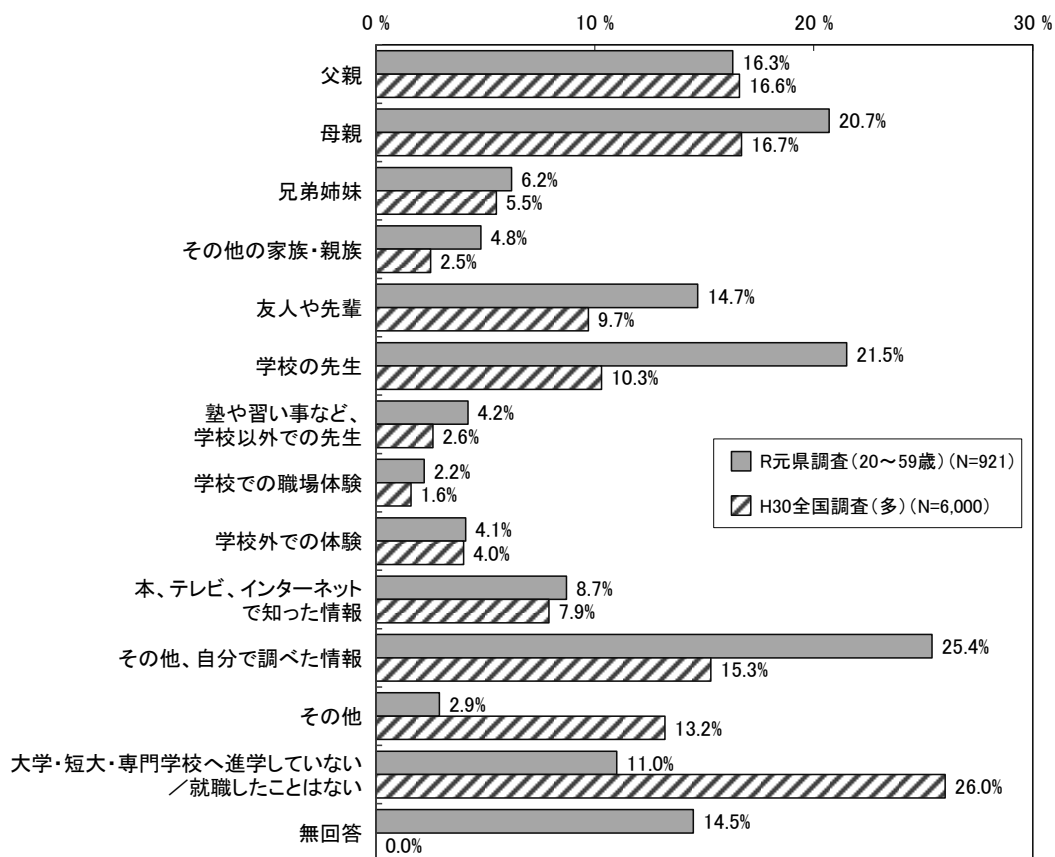


【全国比較】

全国調査と比較すると、奈良県では「学校の先生」(+11.2ポイント)や「その他、自分で調べた情報」(+10.1ポイント)の割合が高く、「大学・短大・専門学校へ進学していない／就職したことはない」(-15.0ポイント)の割合が低くなっている。

両親からの影響については、「父親」の割合は全国と同程度で、「母親」の割合は全国に比べ4.0ポイント高くなっている。

図表 進学時に影響を受けたもの（全国比較）





## (2) 就職時に影響を受けたもの

問 2-1 あなたは、職業・進路について何から影響を受けましたか。それぞれの時期において影響を受けた人や物を3つまで教えてください。(各時期につき○は3つまで)  
(2) 就職時

就職時に影響を受けたものは、「その他、自分で調べた情報」の割合が最も高く 31.1%で、次いで「学校の先生」(21.9%)、「父親」(19.9%)となっている。

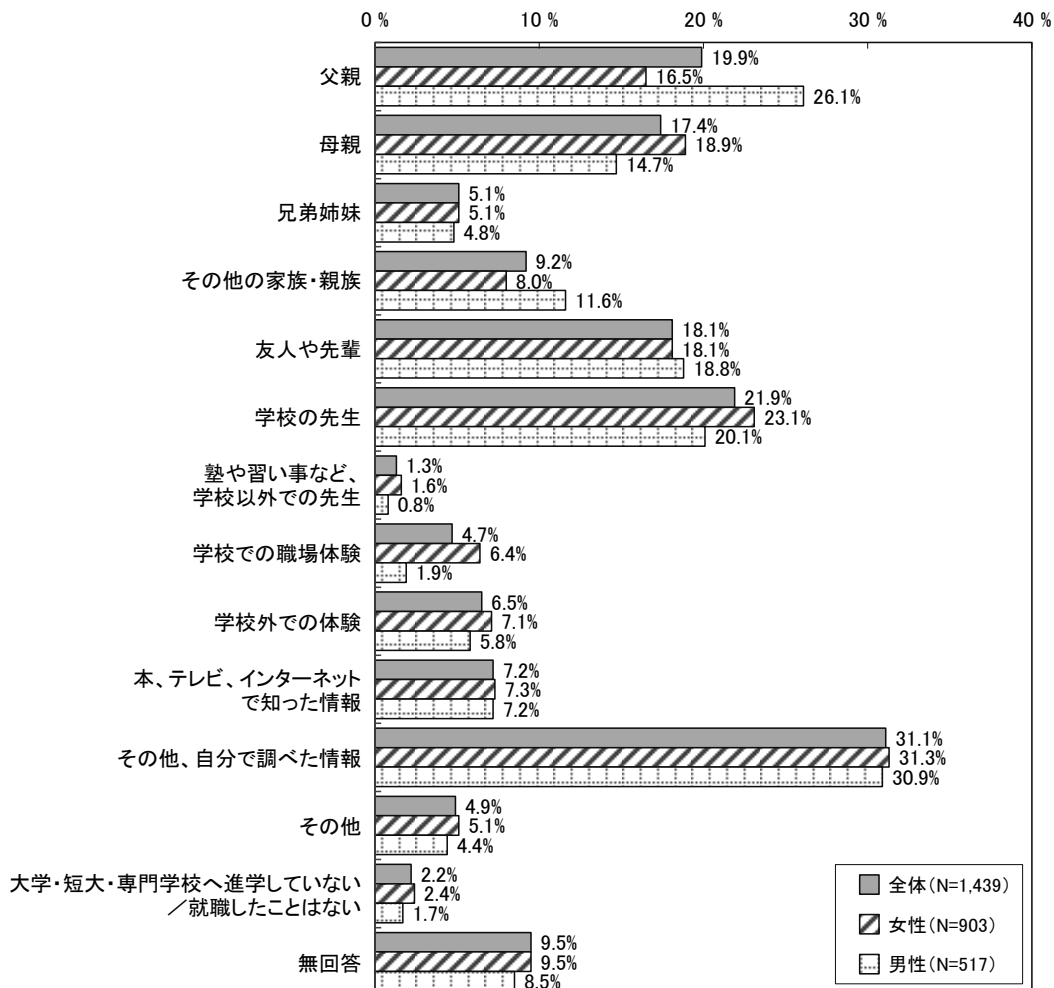
### 【男女別】

男女別に就職時に影響を受けたものをみると、割合としてはわずかであるものの、女性では「学校での職場体験」(6.4%)の割合が男性に比べて4.5ポイント高くなっている。

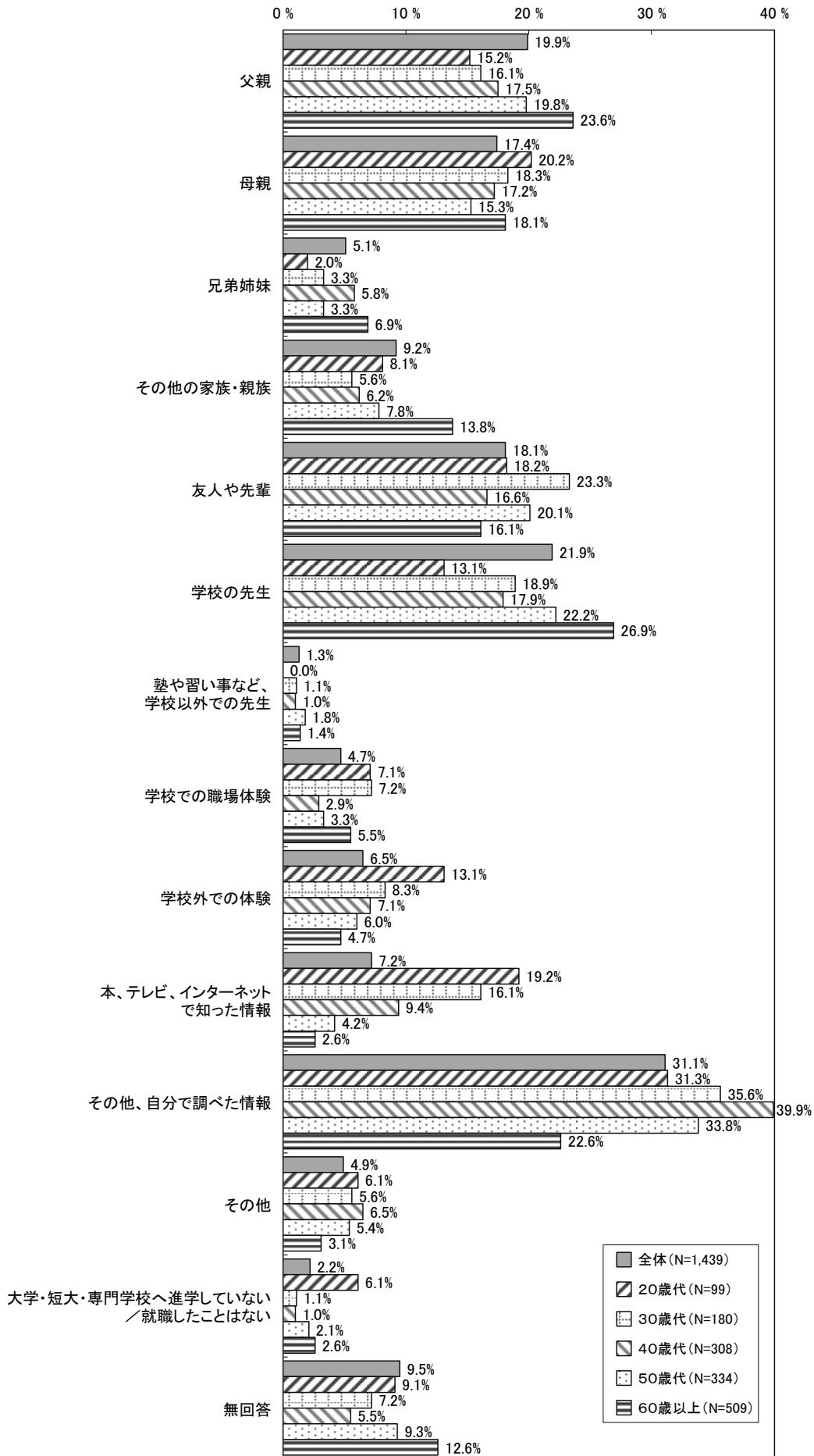
### 【年代別】

年代別に就職時に影響を受けたものをみると、年代が若くなるほど概ね「本、テレビ、インターネットで知った情報」「母親」の割合が高く、「学校の先生」「父親」の割合が低くなっている。

図表 就職時に影響を受けたもの（男女別）



図表 就職時に影響を受けたもの（年代別）

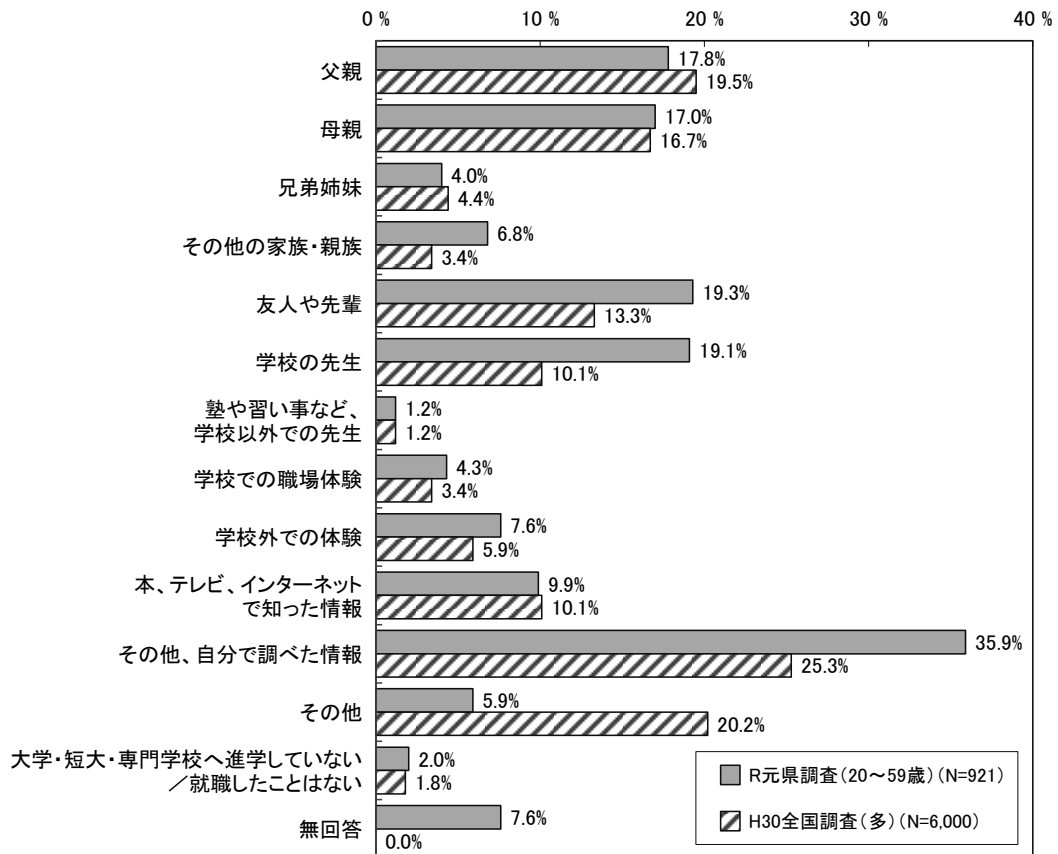


【全国比較】

全国調査と比較すると、奈良県では「その他、自分で調べた情報」(+10.6ポイント)、「学校の先生」(+9.0ポイント)、「友人や先輩」(+6.0ポイント)の割合が高くなっている。

両親からの影響については、「父親」・「母親」とも、その割合は全国と同程度となっている。

図表 就職時に影響を受けたもの(全国比較)



### (3) 自分の最終学歴への評価

問 2-2 あなたは、自分の最終学歴となる学校の選択について満足していますか。(〇は3つまで)

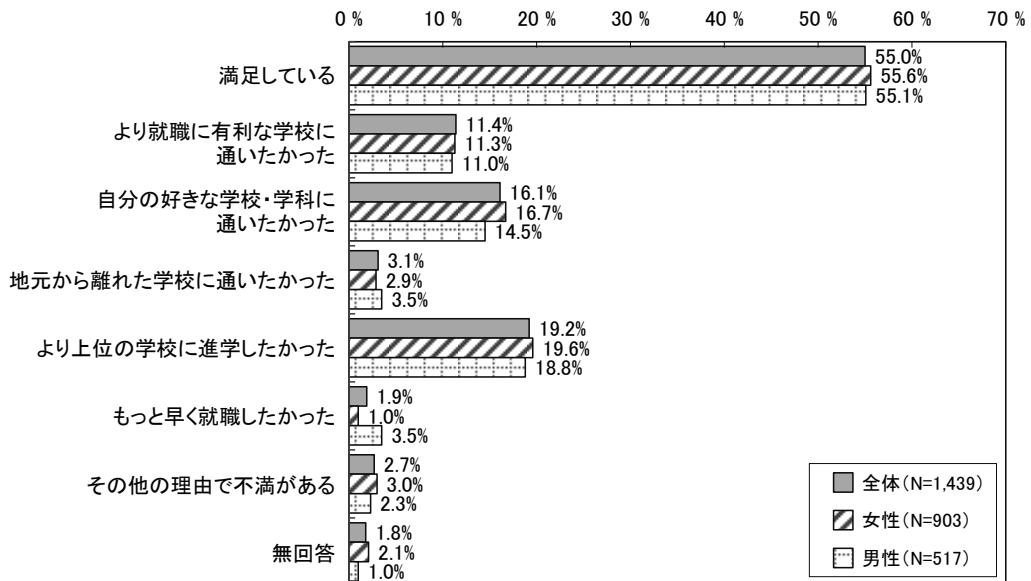
自分の最終学歴については、「満足している」人の割合が 55.0%となっている。

不満点は、「より上位の学校に進学したかった」の割合が最も高く 19.2%で、次いで「自分の好きな学校・学科に通いたかった」(16.1%)、「より就職に有利な学校に通いたかった」(11.4%)となっている。

#### 【男女別】

男女別には大きな差はみられない。

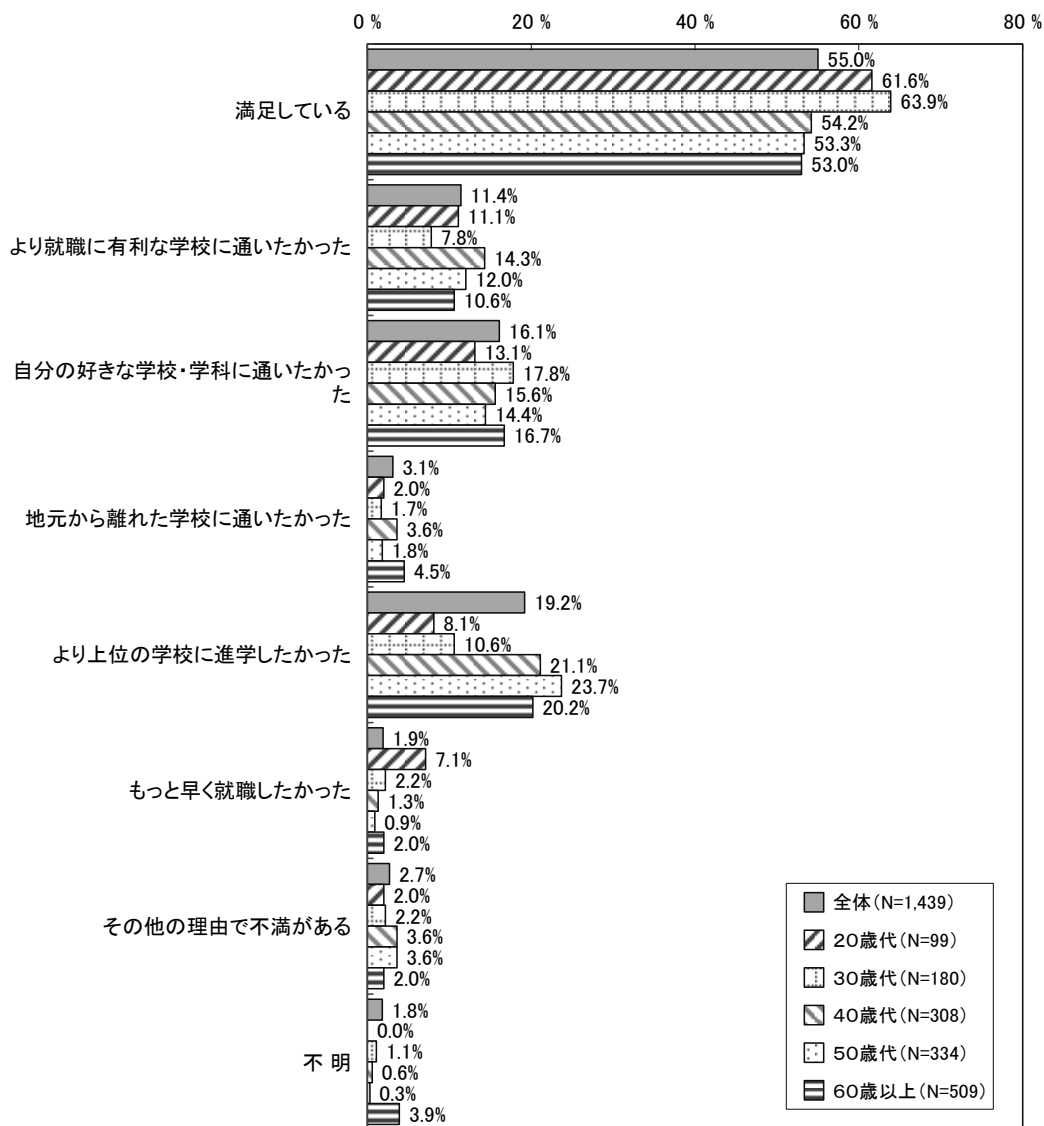
図表 自分の最終学歴への評価 (男女別)



【年代別】

年代別に自分の最終学歴への評価をみると、30歳代以下は「満足している」が60%を超えており、40歳代～60歳以上が50～55%であるのに対して、10ポイント程度高くなっている。また、30歳代以下は「より上位の学校に進学したかった」割合が10%前後で、40歳代～60歳以上が20%以上であるのに対して10ポイント程度低くなっている。

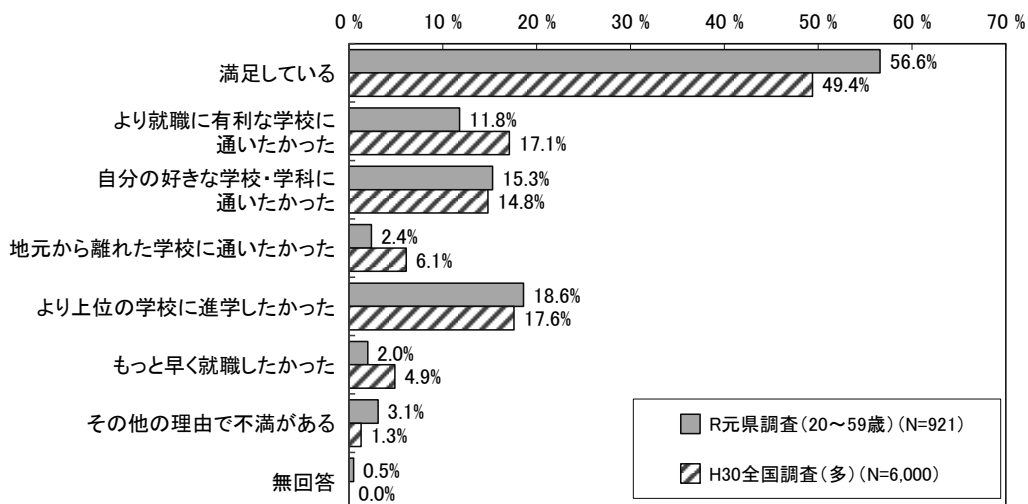
図表 自分の最終学歴への評価（年代別）



【全国比較】

全国調査と比較すると、奈良県では「満足している」人の割合が7.2ポイント高くなっている。

図表 自分の最終学歴への評価（全国比較）



#### (4) 進路選択に満足できなかった理由

問 2-2 で 2～5 を選んだ方にかがいます。

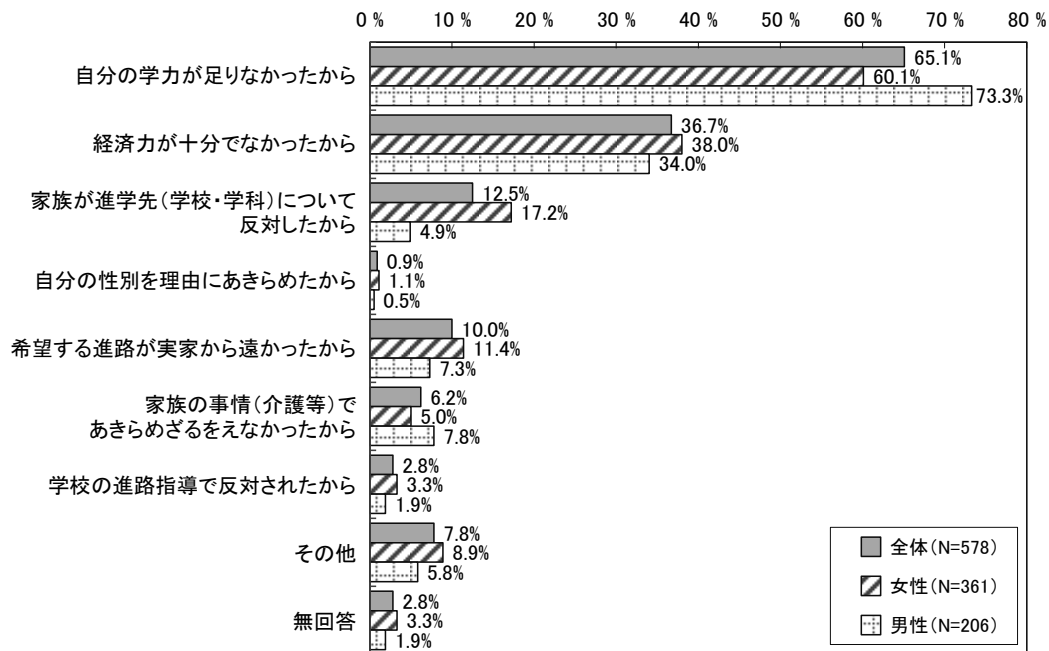
問 2-3 あなたが満足できる進路選択ができなかった理由は何ですか。主な理由を3つまで選択してください。(〇は3つまで)

進路選択に満足できなかった理由は、「自分の学力が足りなかったから」の割合が最も高く 65.1%で、次いで「経済力が十分でなかったから」(36.7%)「家族が進学先(学校・学科)について反対したから」(12.5%)となっている。

#### 【男女別】

男女別に進路選択に満足できなかった理由をみると、女性では「家族が進学先(学校・学科)について反対したから」(17.2%)の割合が男性に比べて 12.3 ポイント高く、「自分の学力が足りなかったから」(60.1%)の割合が男性に比べて 13.2 ポイント低くなっている。

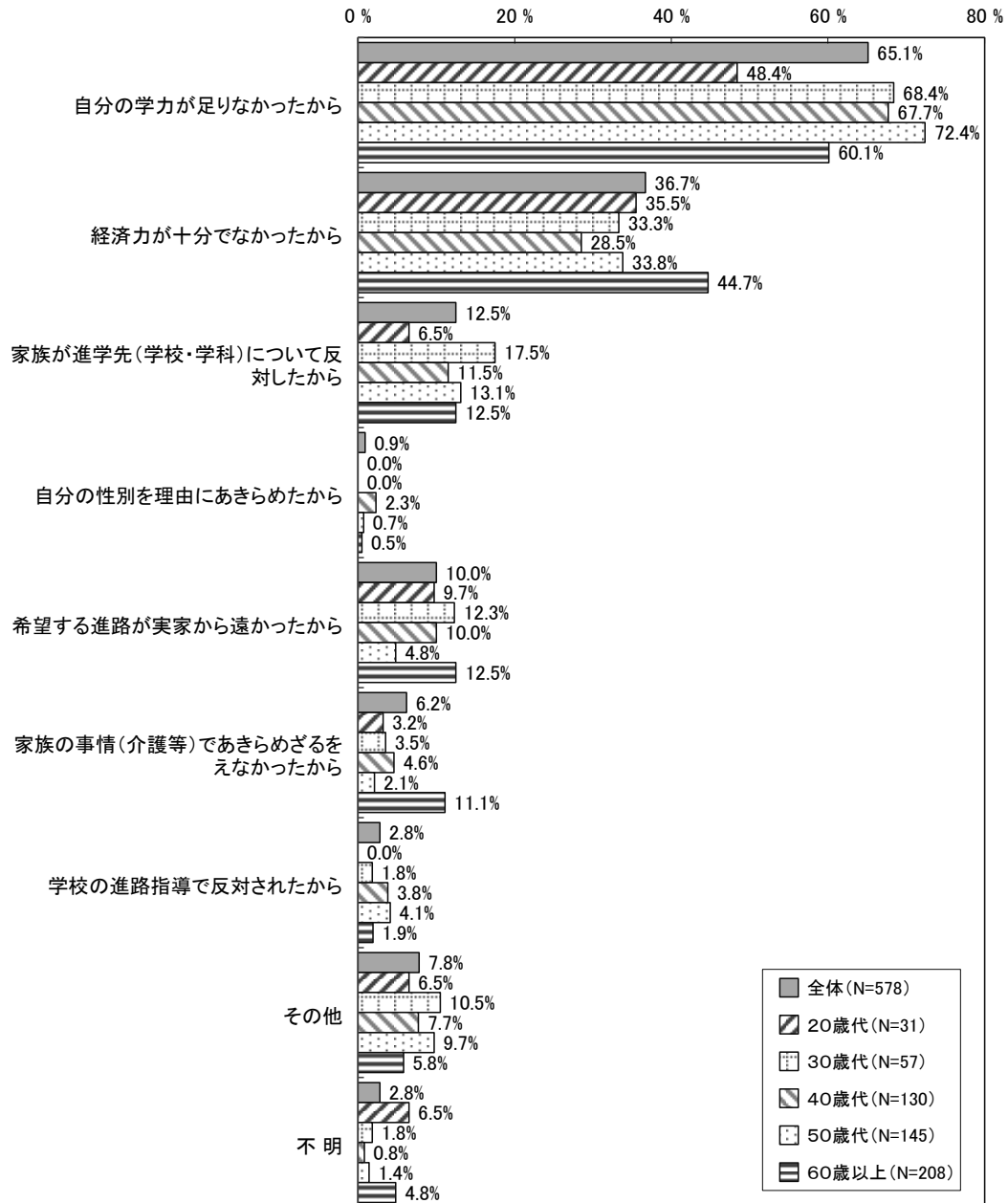
図表 進路選択に満足できなかった理由(男女別)



【年代別】

年代別に進路選択に満足できなかった理由をみると、20歳代では「自分の学力が足りなかったから」の割合が低く、30歳代では「家族が進学先（学校・学科）について反対したから」の割合が高くなっている。

図表 進路選択に満足できなかった理由（年代別）

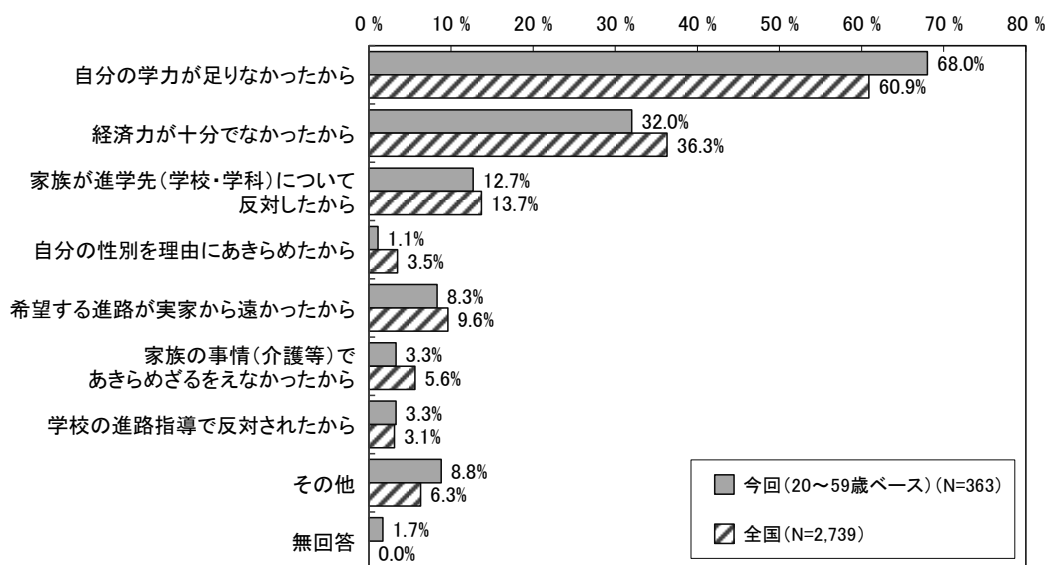




【全国比較】

全国調査と比較すると、「自分の学力が足りなかったから」が7.1ポイント高くなっている。

図表 進路選択に満足できなかった理由（全国比較）



## 4 仕事と生活のバランスについて

### (1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問 3-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

問 3-2 あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

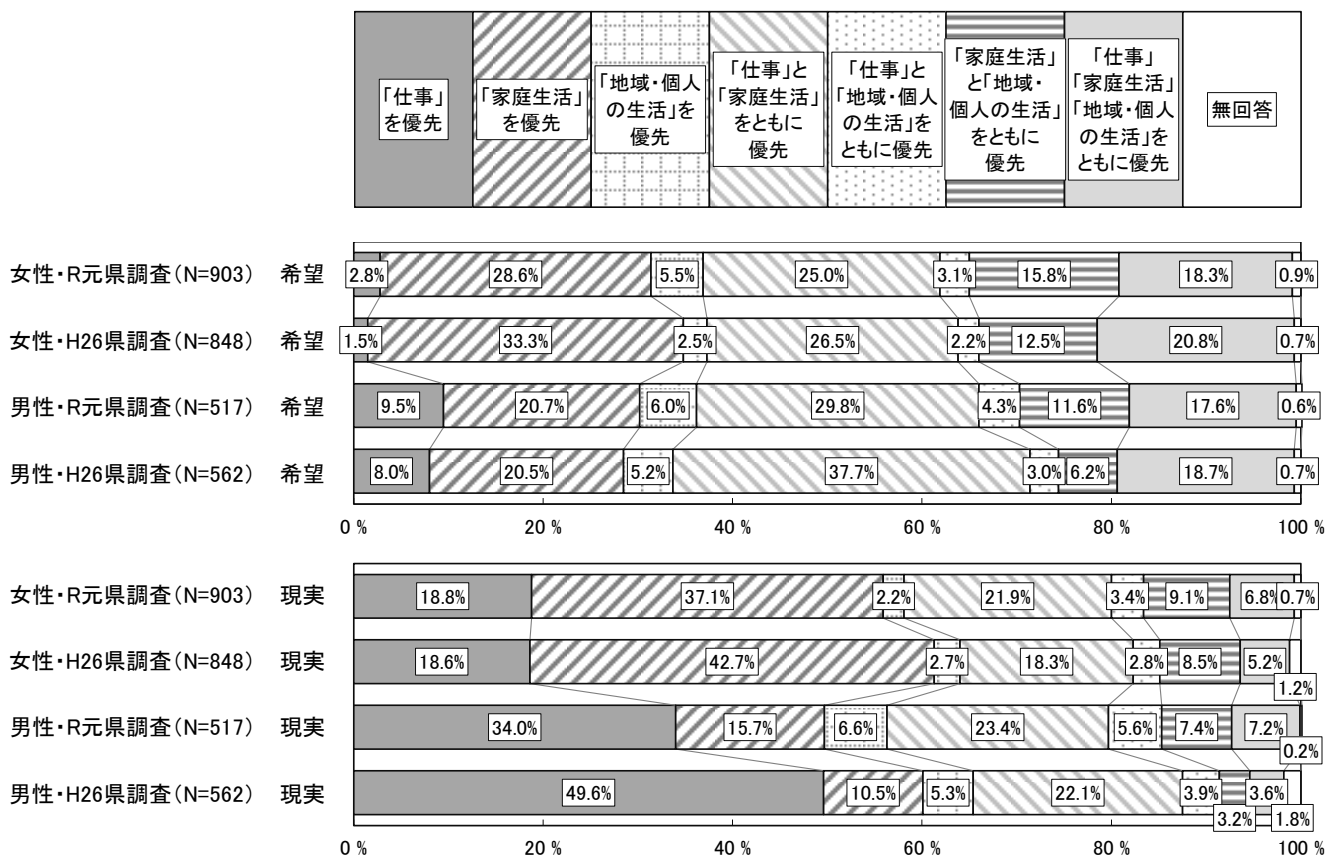
※「家庭生活」… 家族と過ごすこと、家事(食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物等)、子育て、介護・看護など

※「地域・個人の生活」… 地域活動(ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど)・学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど

生活の中における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望を男女別にみると、女性は「家庭生活」を優先(28.6%)、「仕事」と「家庭生活」をともに優先(25.0%)、男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先(29.8%)「家庭生活」を優先(20.7%)となり、順位は異なるものの男女が希望する上位項目は共通している。

現実を男女別にみると、男性は、「仕事」を優先している人の割合が最も高く(34.0%)、女性は「家庭生活」を優先している人の割合が最も高い(37.1%)。ただし、前回調査と比べると、「仕事」を優先している男性の割合は15.6ポイント減少(前回:49.6%)し、「家庭生活」を優先している女性の割合も5.6ポイント減少(前回:42.7%)した。

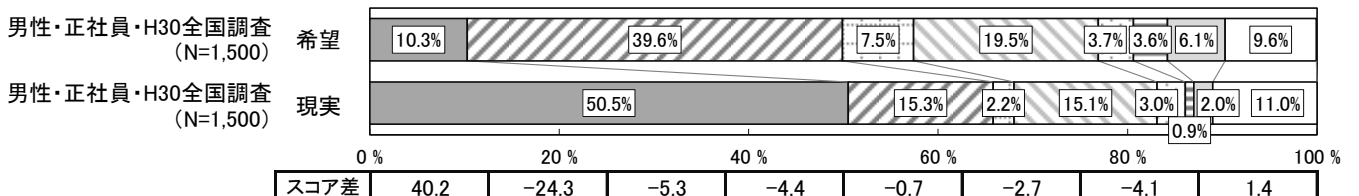
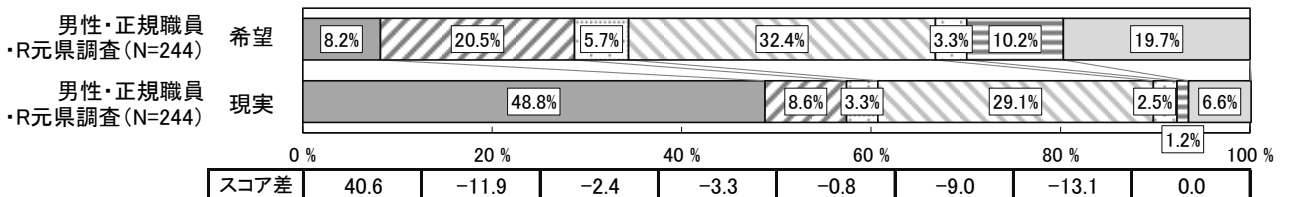
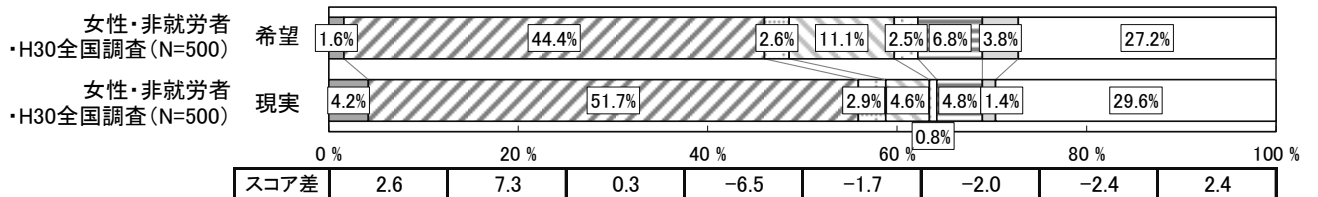
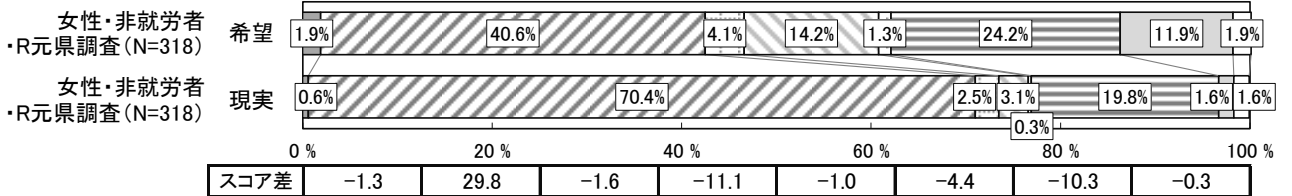
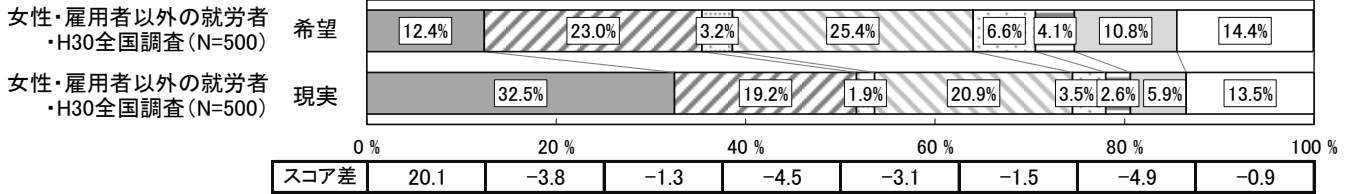
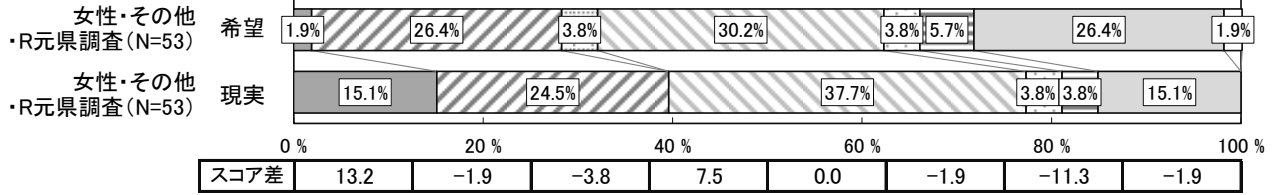
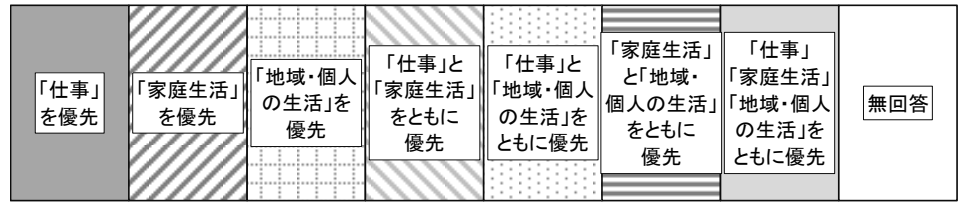
図表 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

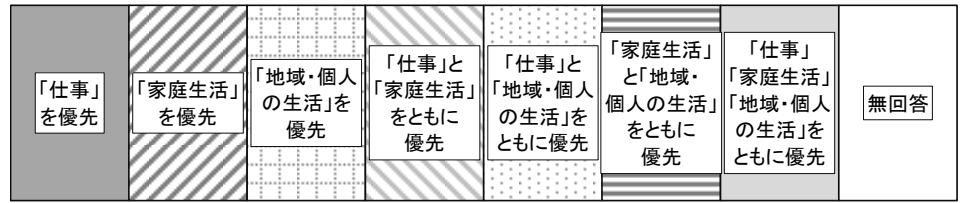


男女別・就労形態別に「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先、を希望する人の割合をみると、女性の正規職員が最も高く（27.9%）、全国と比べて21.4ポイント高い（全国6.5%）。しかし、現実でこの3つをともに優先できている人の割合は9.1%となっている。

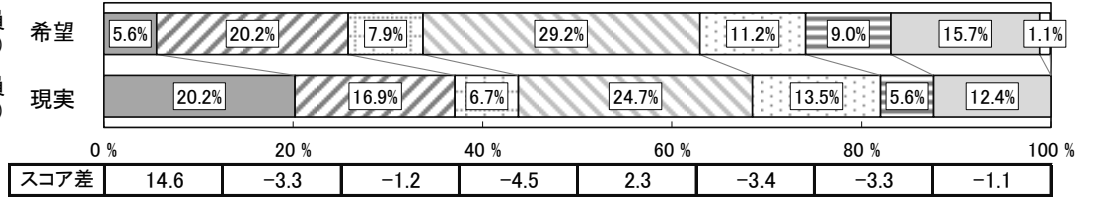
図表 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（スコア差：現実－希望）



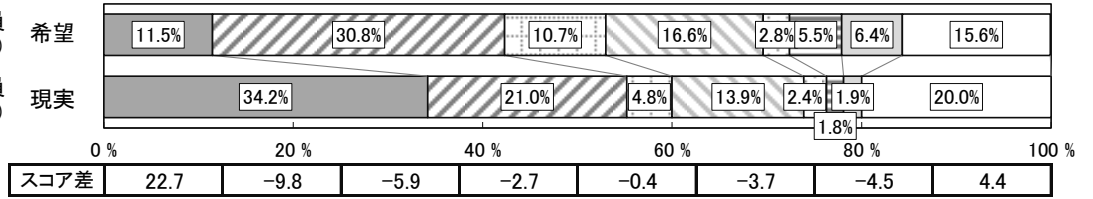




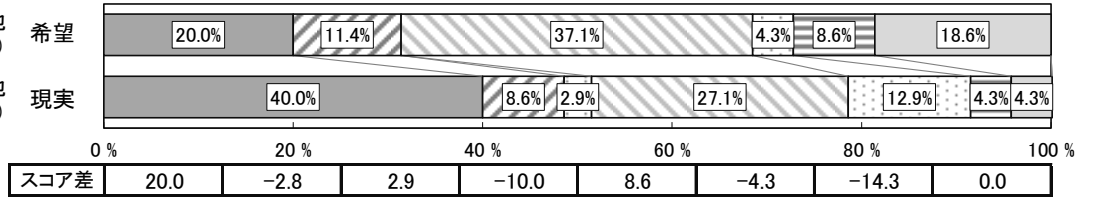
男性・非正規職員  
・R元県調査 (N=89)



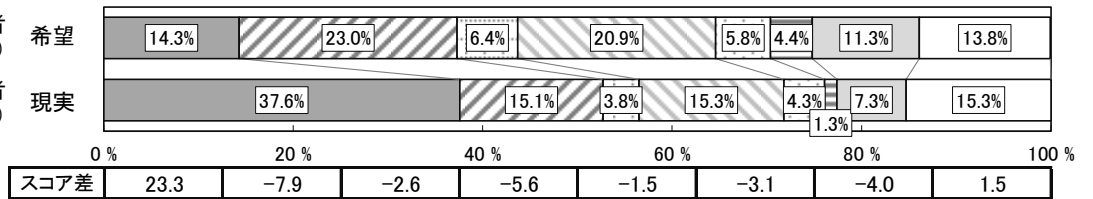
男性・非正社員  
・H30全国調査 (N=500)



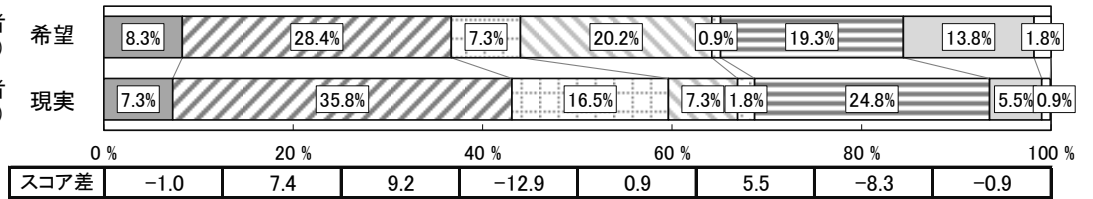
男性・その他  
・R元県調査 (N=70)



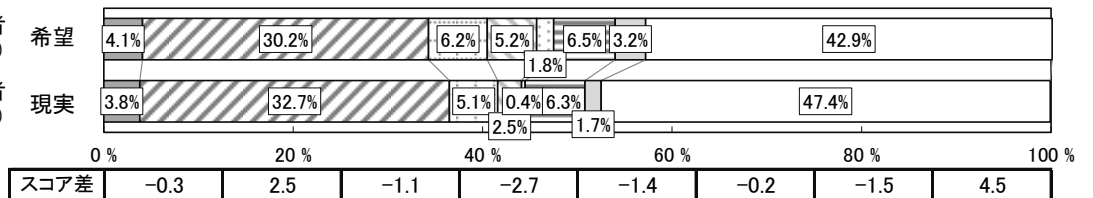
男性・雇用者以外の就労者  
・H30全国調査 (N=500)



男性・非就労者  
・R元県調査 (N=109)



男性・非就労者  
・H30全国調査 (N=500)



(2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の満足度

① 「仕事」の満足度

問 3-3 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のそれぞれの満足度を教えてください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)

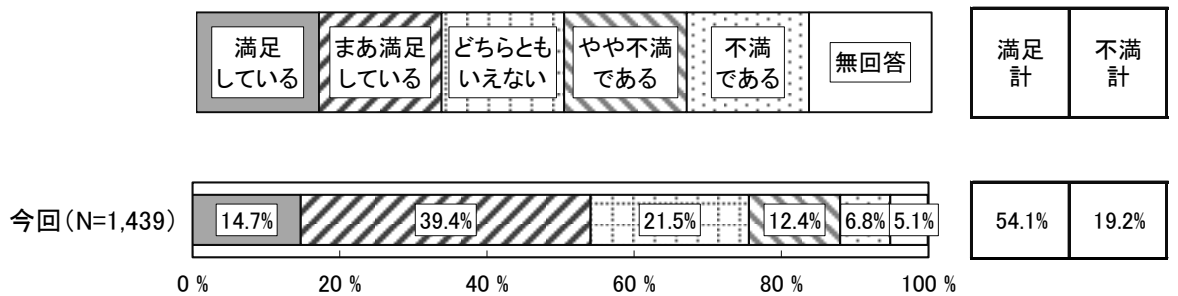
※ 「仕事」については、現在仕事をしていない場合は、その状況についての満足度をお答え下さい。

(1) 仕事

男女別・就労形態別に満足度をみると、女性の正規職員の仕事に満足している人の割合（「満足している」と「まあ満足している」の計）は54.3%で、男性の正規職員（62.3%）に比べて8.0ポイント、女性の非正規職員（62.6%）に比べて8.3ポイント低くなっている。

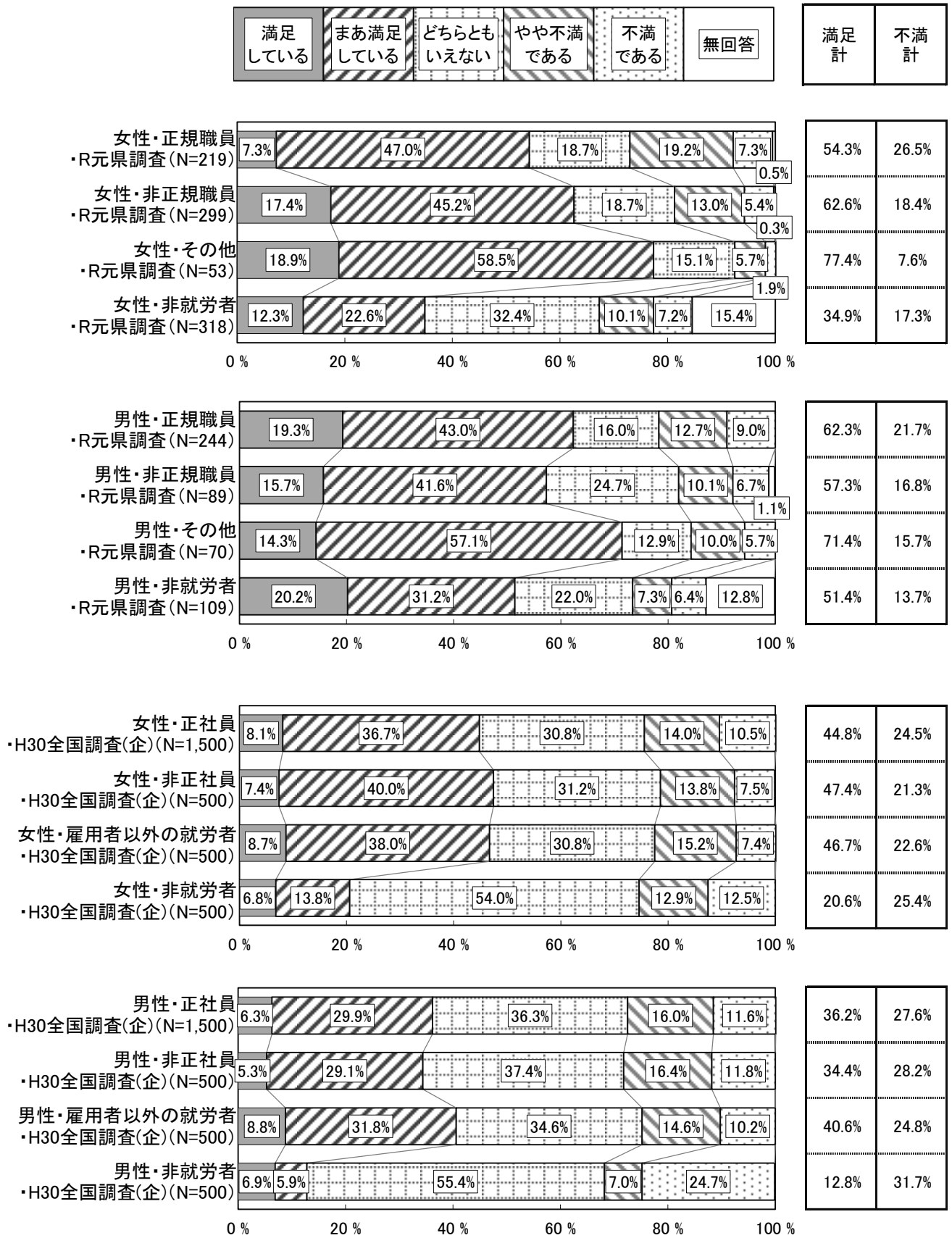
また、男女・就労形態を問わず、「仕事」に満足している人の割合は全国と比べて高くなっている。

図表 「仕事」の満足度



※ 満足計：「満足している」と「まあ満足している」の合計  
 不満計：「不満である」と「やや不満である」の合計

図表 「仕事」の満足度（男女別・就労形態別）



※ 満足計：「満足している」と「まあ満足している」の合計  
 不満計：「不満である」と「やや不満である」の合計

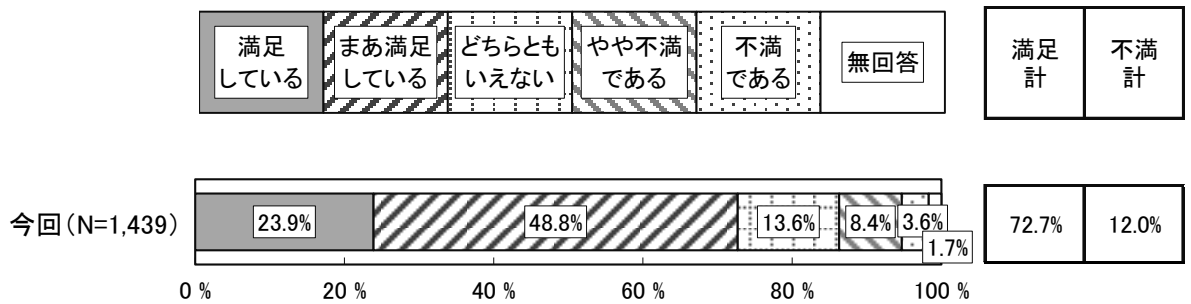
## ②「家庭生活」の満足度

問 3-3 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のそれぞれの満足度を教えてください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)  
 ※「家庭生活」については、一人で生活しておられる方は、その状況も含めてお考え下さい。  
 (2) 家庭生活

男女別・就労形態別に満足度をみると、女性の正規職員の「家庭生活」に満足している人の割合（「満足している」と「まあ満足している」の計）は67.6%で、男性の正規職員（77.9%）に比べて10.3ポイント低くなっている。

また、男女・就労形態を問わず、「家庭生活」に満足している人の割合は全国と比べて高くなっている。

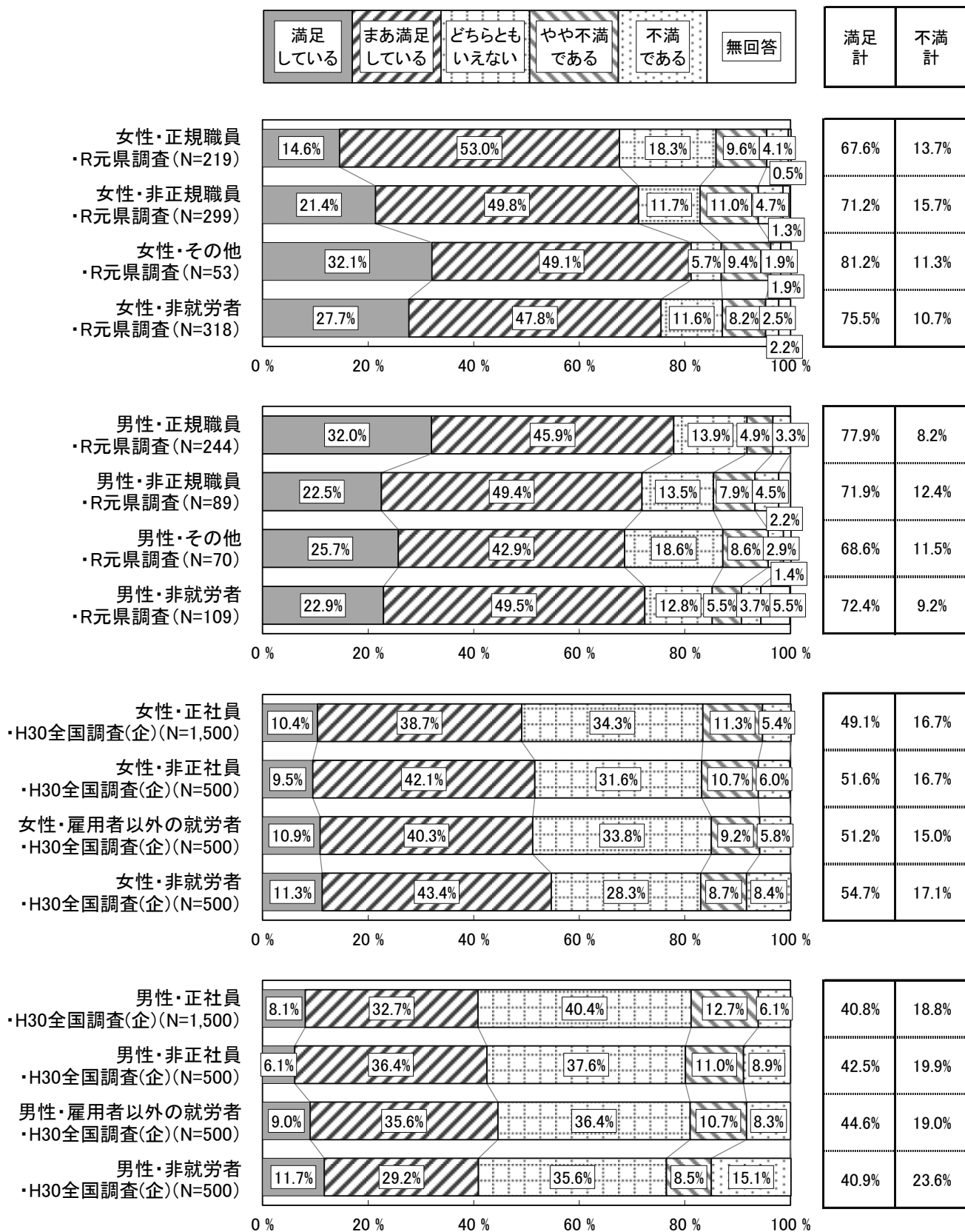
図表 「家庭生活」の満足度



※ 満足計：「満足している」と「まあ満足している」の合計  
 不満計：「不満である」と「やや不満である」の合計



図表 「家庭生活」の満足度（男女別・就労形態別）



※ 満足計：「満足している」と「まあ満足している」の合計  
 不満計：「不満である」と「やや不満である」の合計

### ③「地域・個人の生活」の満足度

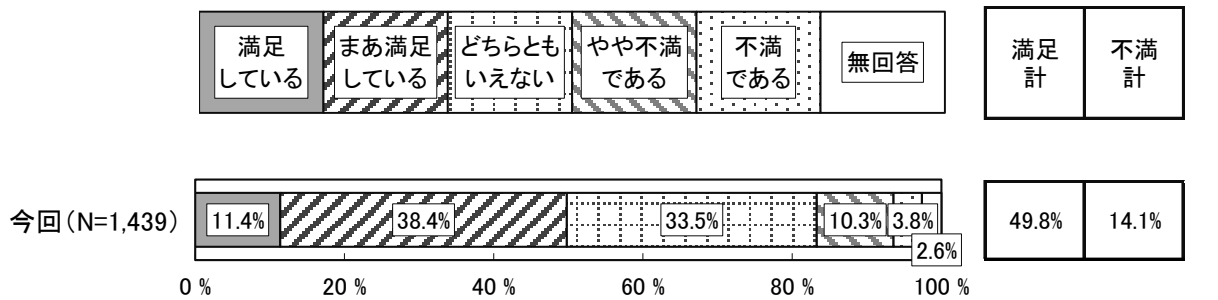
問 3-3 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のそれぞれの満足度を教えてください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)

※「地域」には、地域での近所づきあいやスポーツ・趣味の活動、社会貢献活動等を含めてお考え下さい。

#### (3) 地域・個人の生活

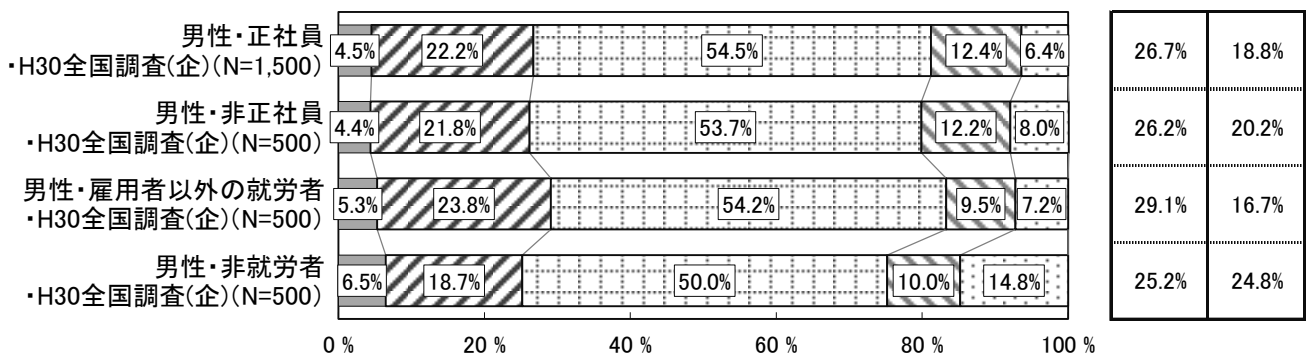
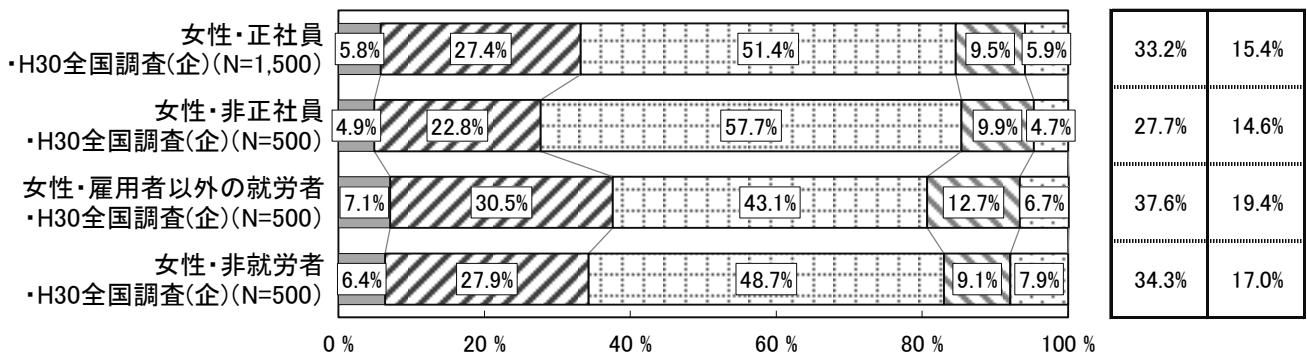
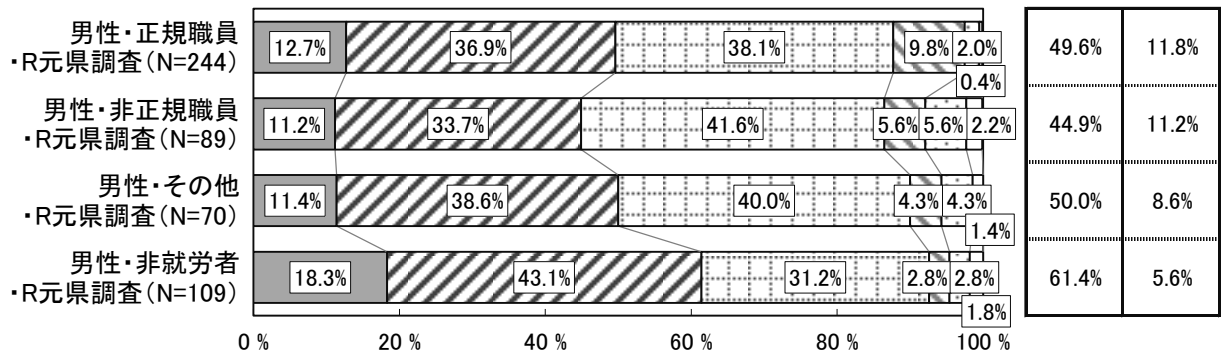
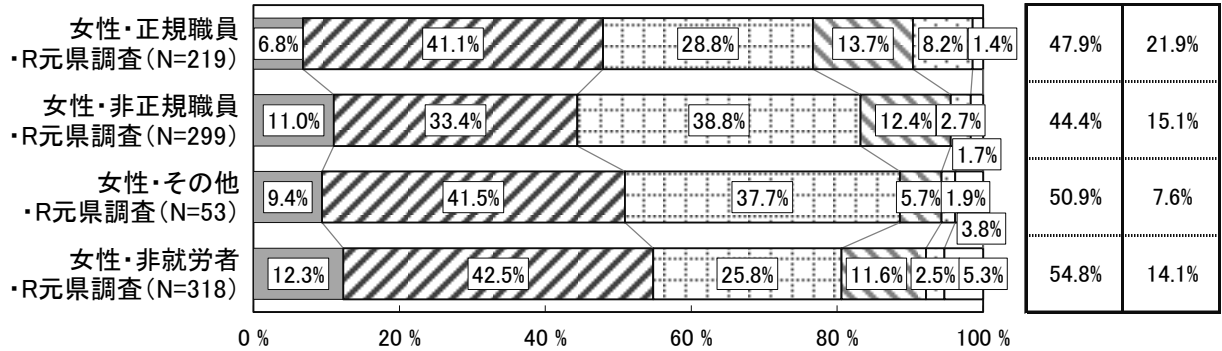
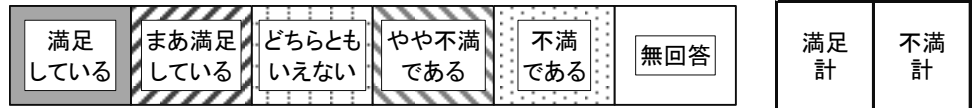
男女別・就労形態別に満足度をみると、女性の非就労者の地域・個人の生活に満足している人の割合（「満足している」と「まあ満足している」の計）は54.8%で、男性の非就労者に比べて6.6ポイント低くなっている。男女ともに正規職員、非正規職員は地域・個人の生活に満足している人の割合に大きな差はみられない。また、男女・就労形態を問わず、地域・個人の生活に満足している人の割合は全国と比べて高くなっている。

図表 「地域・個人の生活」の満足度



※ 満足計：「満足している」と「まあ満足している」の合計  
 不満計：「不満である」と「やや不満である」の合計

図表 「地域・個人の生活」の満足度（男女別・就労形態別）



※ 満足計：「満足している」と「まあ満足している」の合計  
 不満計：「不満である」と「やや不満である」の合計

## 5 女性の生き方について

問 4-1 あなたの考える、最も望ましいと思われる女性の生き方は、どれに近いですか。(○は1つ)

上記問 4-1 の項目について、女性の方、または配偶者のおられる男性の方に改めてうかがいます。

問 4-2 現在及び今後見込まれると思われるあなた(あなたが男性の場合は配偶者)の生き方は、どれに近いですか。上記問 4-1 の 1~9 の番号から 1つ選び、括弧内に選んだ番号を記入してください。

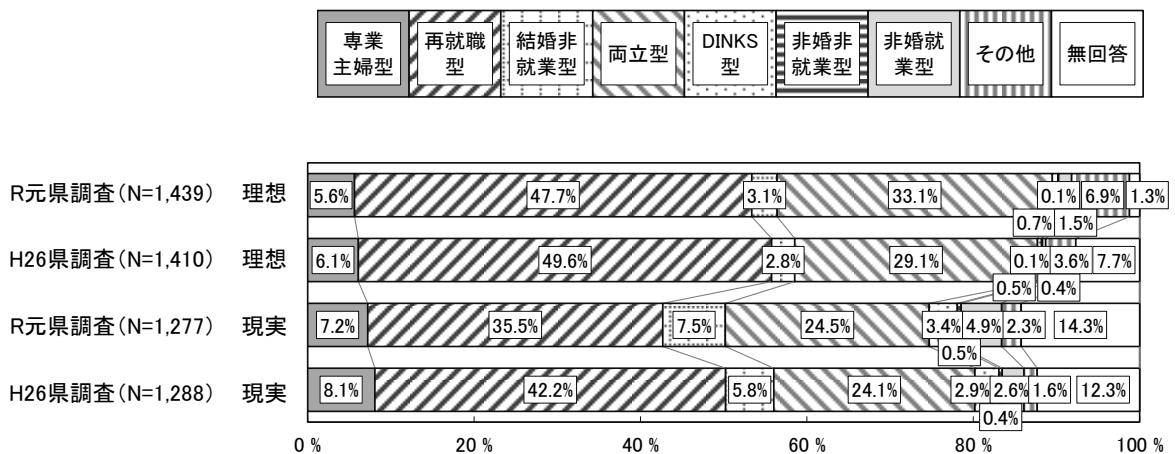
女性の生き方の理想(最も望ましいと思われる女性の生き方)についての考え方は、男女とも「再就職型」(結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ)の割合が最も高く(全体 47.7%、女性 48.9%、男性 45.5%)、次いで「両立型」(結婚し子どもを持つが、仕事を続ける)(全体 33.1%、女性 32.8%、男性 34.0%)となっている。

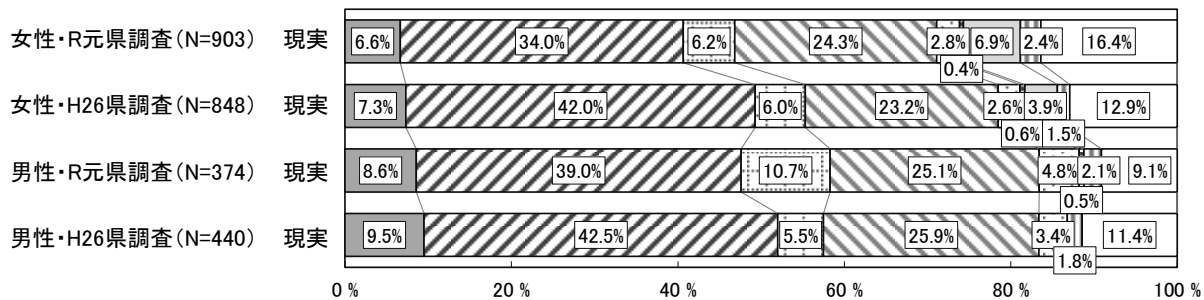
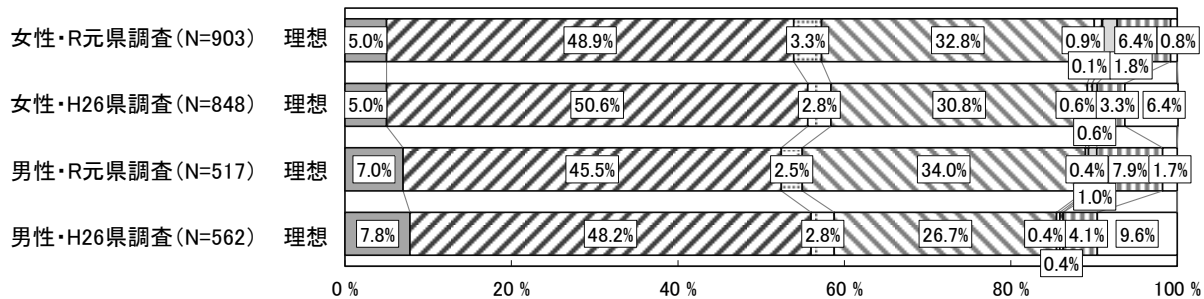
前回調査と比べると、1位が「再就職型」で2位が「両立型」であることに変わりはないが、「再就職型」の割合は 1.9 ポイント減少(前回 49.6%)し、「両立型」の割合は 4.0 ポイント増加(前回 29.1%)した。

また、考え方に男女の大きな差はみられない。

女性の生き方の現実(現在及び今後見込まれると思われるあなた(あなたが男性の場合は配偶者)の生き方)についての考え方においても、1位は「再就職型」で2位は「両立型」となっている。

図表 女性の生き方の理想・現実





専業主婦型 : 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない  
 再就職型 : 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ  
 結婚非就業型 : 結婚し子どもを持つが、仕事を持たない、または、結婚し子どもを持たず、仕事を持たない  
 両立型 : 結婚し子どもを持つが、仕事を続ける  
 DINKS型 : 結婚し子どもを持たず、仕事を続ける  
 非婚非就業型 : 結婚せず、仕事を持たない  
 非婚就業型 : 結婚せず、仕事を続ける  
 その他 : その他

## 6 「仕事」に関する考えについて（有業者）

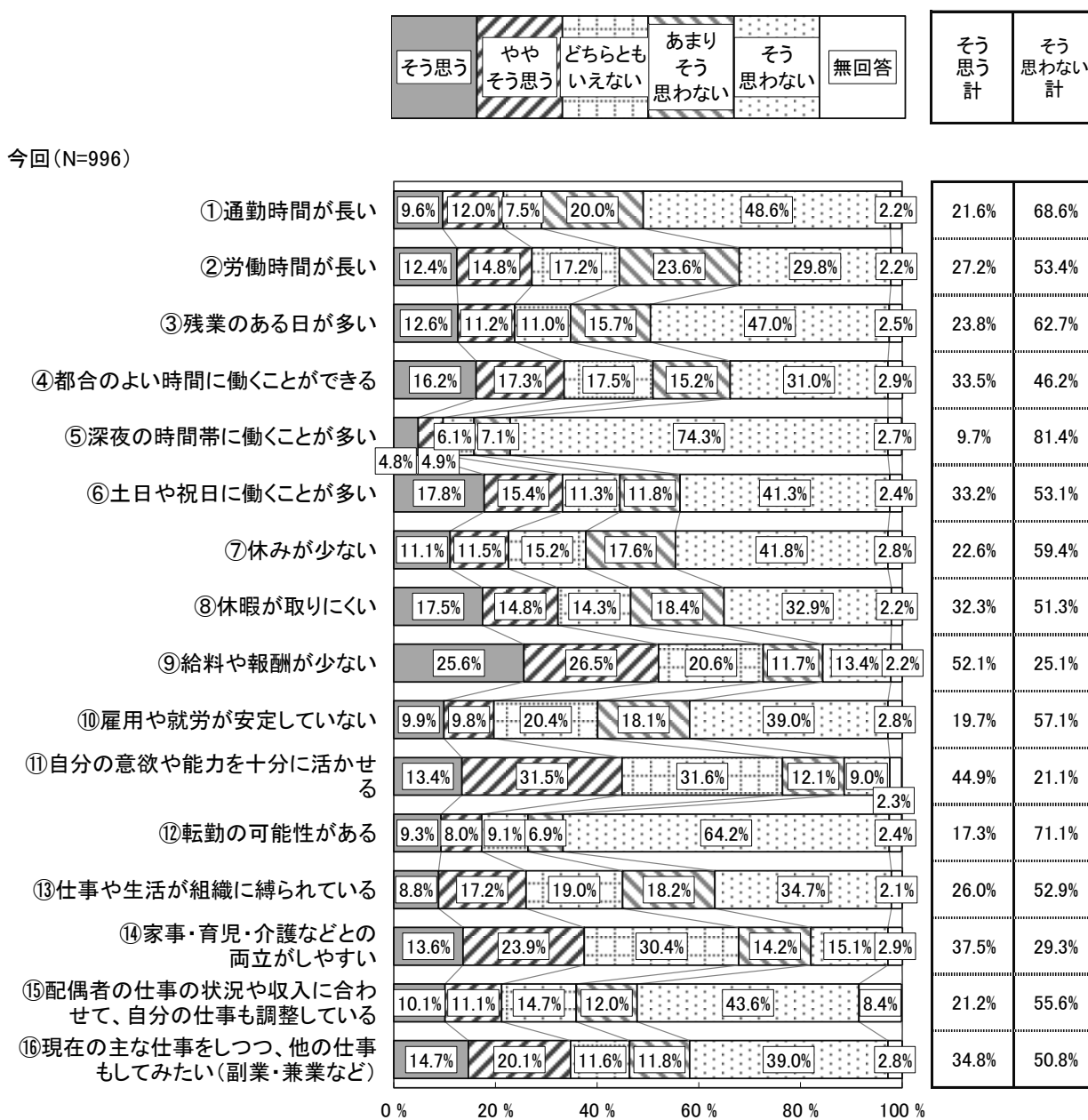
### (1) 自分の働き方

問5は、現在働いている方（問1で「a. 働いている」と回答された方）にうかがいます。現在お仕事をもちでない女性の方は問6へ、現在お仕事をもちでない男性の方は問9-1へお進みください。

問5-1 あなたの働き方についてうかがいます。以下（1）～（16）のそれぞれの項目についてどのように思いますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで下さい。（○はそれぞれ1つずつ）

働いている人の働き方に関する各項目について「そう思う」「ややそう思う」をあわせた「そう思う計」とみると、「⑨給料や報酬が少ない」の割合が最も高く52.1%で、次いで「⑪自分の意欲や能力を十分に活かせる」（44.9%）、「⑭家事・育児・介護などとの両立がしやすい」（37.5%）となっている。

図表 自分の働き方



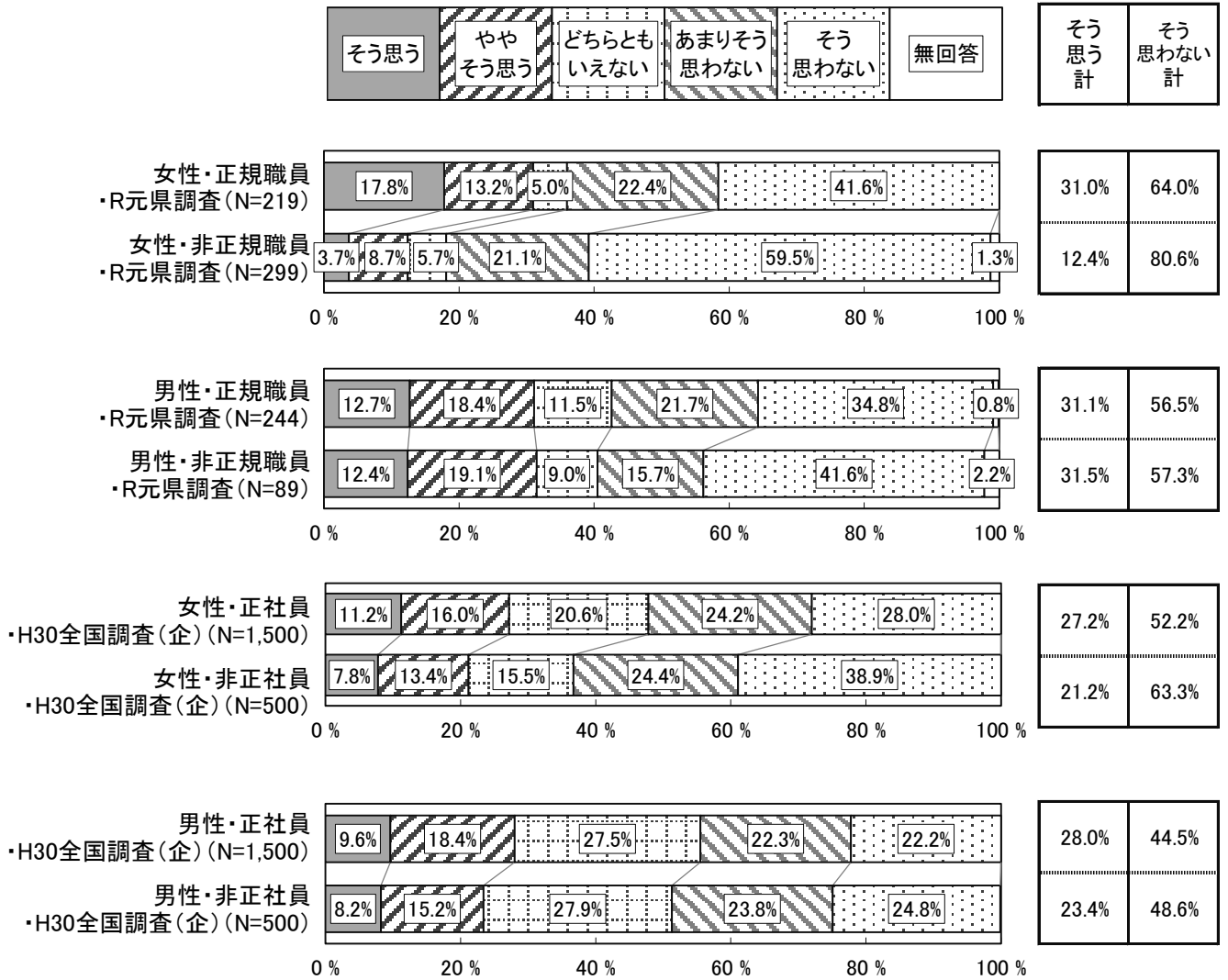
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

### ① 通勤時間が長いと思うか

通勤時間についての考えは、男女・正規/非正規に関わらず、通勤時間が長いと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいてその割合が高く、男性の正規職員（56.5%）においては、12.0ポイント高くなっている。

図表 通勤時間が長いと思うか



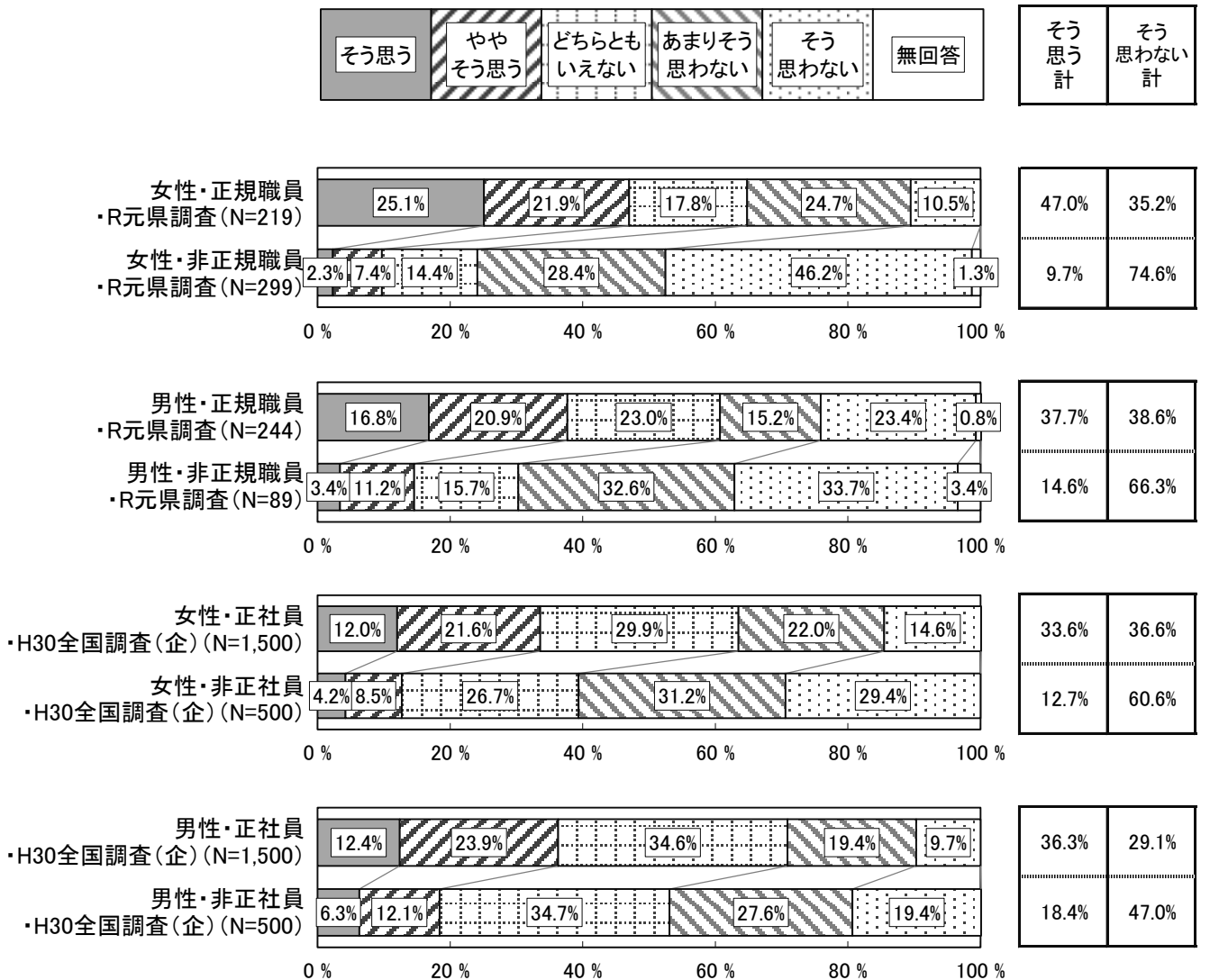
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ② 労働時間が長いと思うか

労働時間についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、労働時間が長いと思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は男性の正規職員（37.7%）に比べ、女性の正規職員（47.0%）が9.3ポイント高くなっている。

また、全国調査と比較すると、女性の正規職員では労働時間が長いと思う人の割合が13.4ポイント高くなっており（全国33.6%）、逆に、男性の正規社員では労働時間が長いと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が9.5ポイント高くなっている。（県38.6%、全国：29.1%）

図表 労働時間が長いと思うか



※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

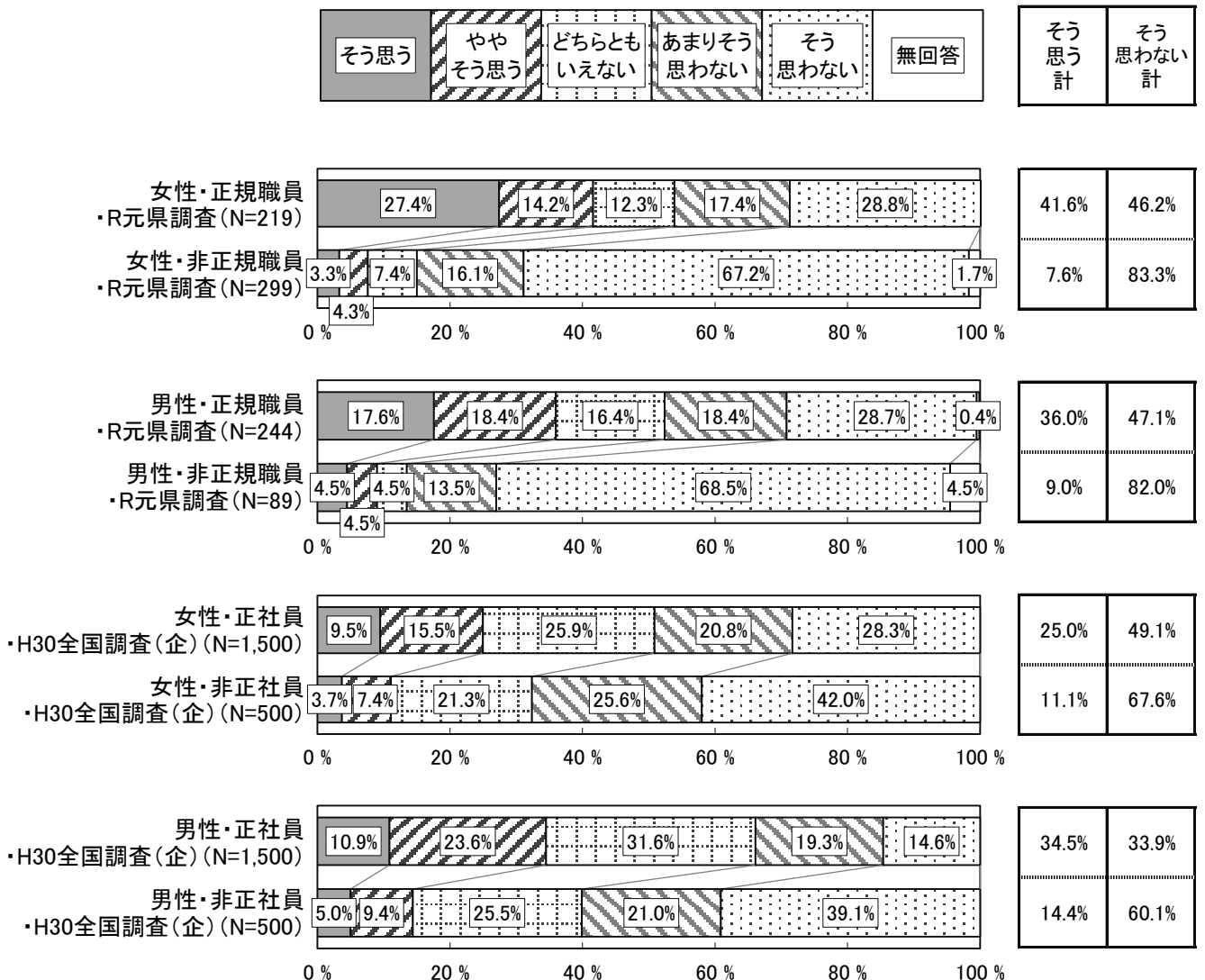


### ③ 残業のある日が多いと思うか

残業についての考えは、男女・正規/非正規に関わらず、残業のある日が多いと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男性の正規職員では残業のある日が多いと思わない人の割合が13.2ポイント高くなっており（全国33.9%）、逆に、女性の正規職員では残業がある日が多いと思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）が16.6ポイント高くなっている（県41.6%、全国25.0%）。

図表 残業のある日が多いと思うか



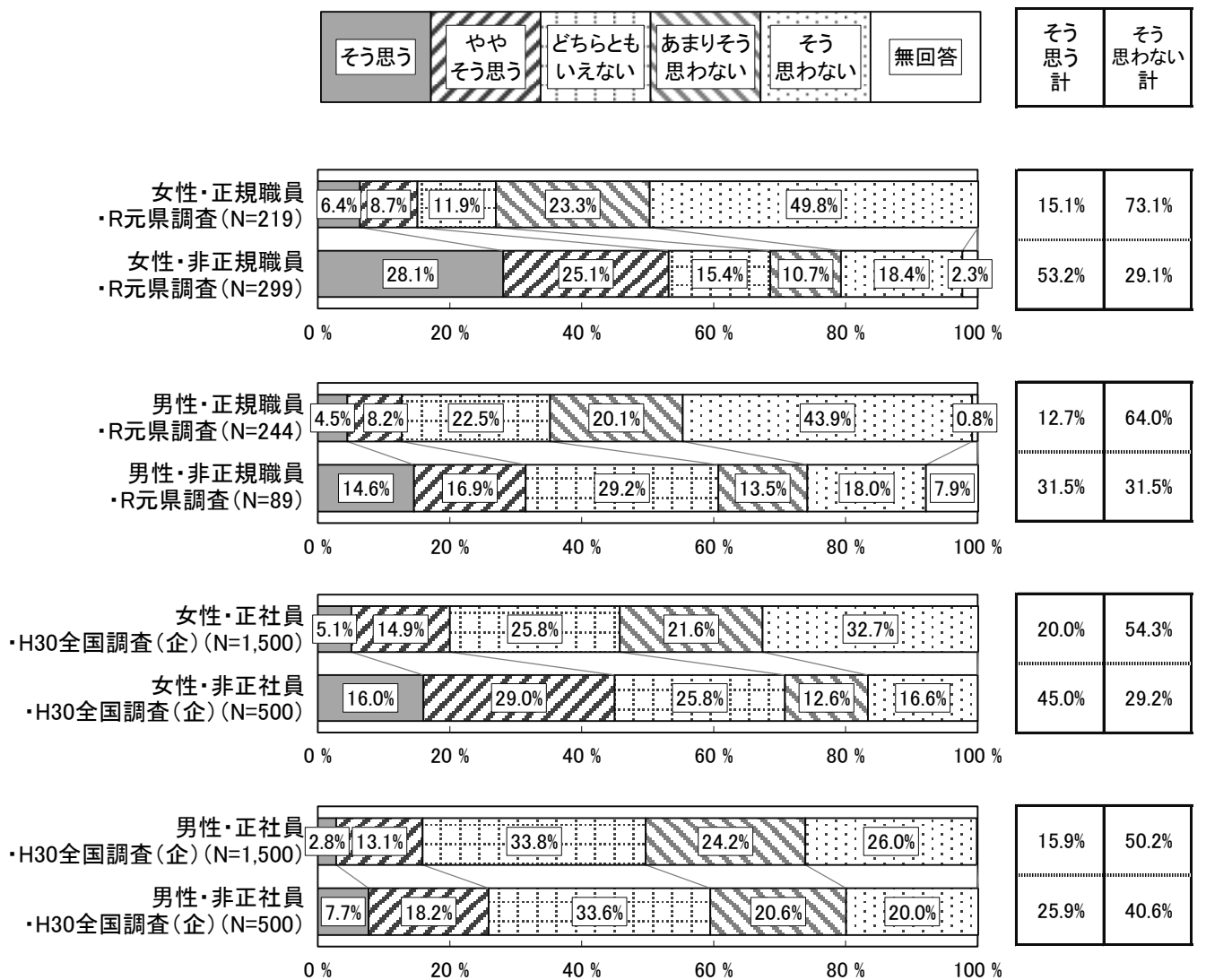
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

#### ④ 都合のよい時間に働くことができると思うか

働く時間帯についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、都合の良い時間に働くことができると思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）は男性の正規職員（64.0%）に比べ、女性の正規職員（73.1%）が9.1ポイント高くなっている。

また、全国調査と比較すると、特に女性の正規職員において、都合の良い時間に働くことができると思わない人の割合が18.8ポイント高くなっている。（全国：54.3%）

図表 都合のよい時間に働くことができると思うか



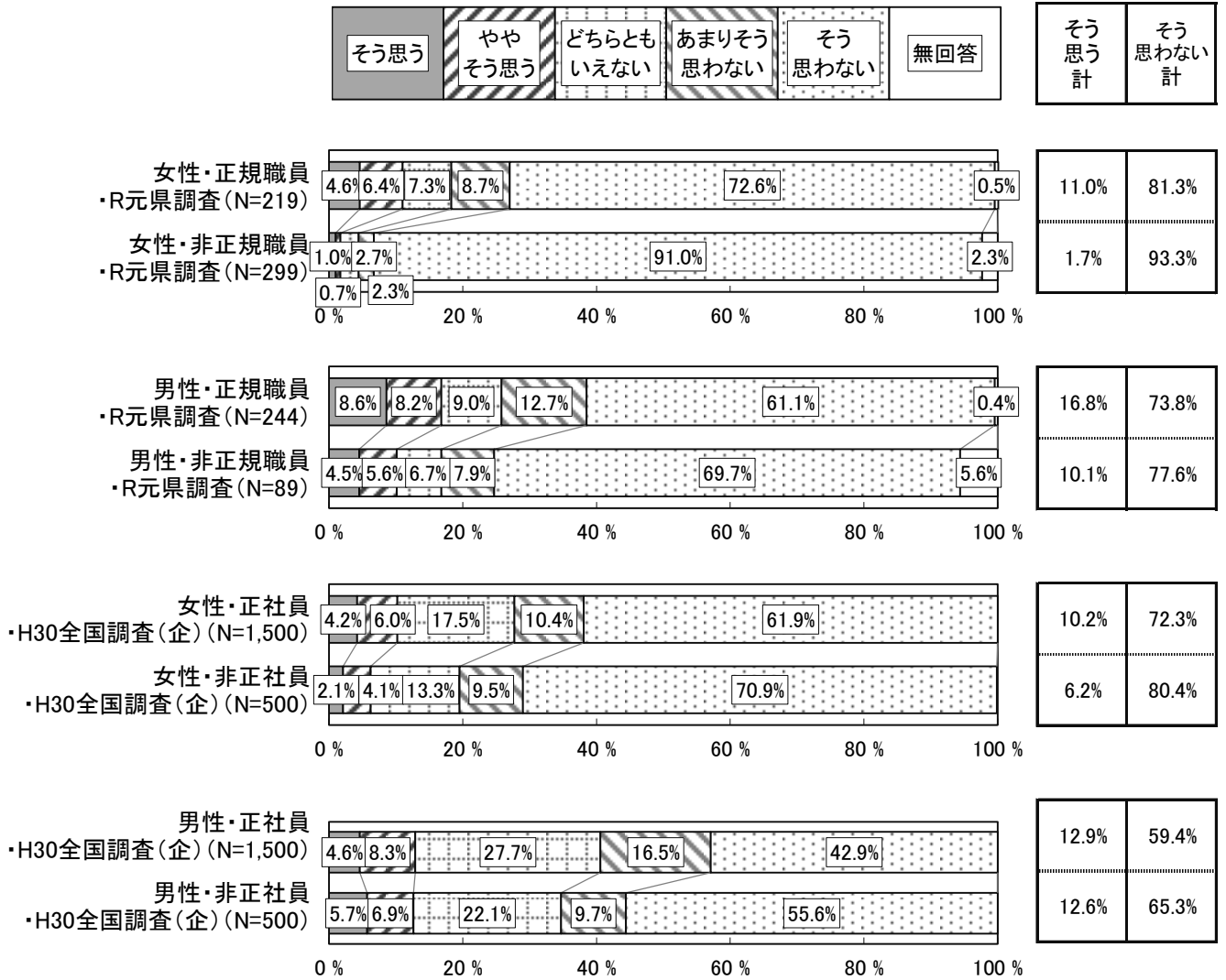
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

### ⑤ 深夜の時間帯に働くことが多いと思うか

深夜労働についての考えは、男女別・正規/非正規別に関わらず、深夜の時間帯に働くことが多いと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて、その割合が高くなっている。

図表 深夜の時間帯に働くことが多いと思うか

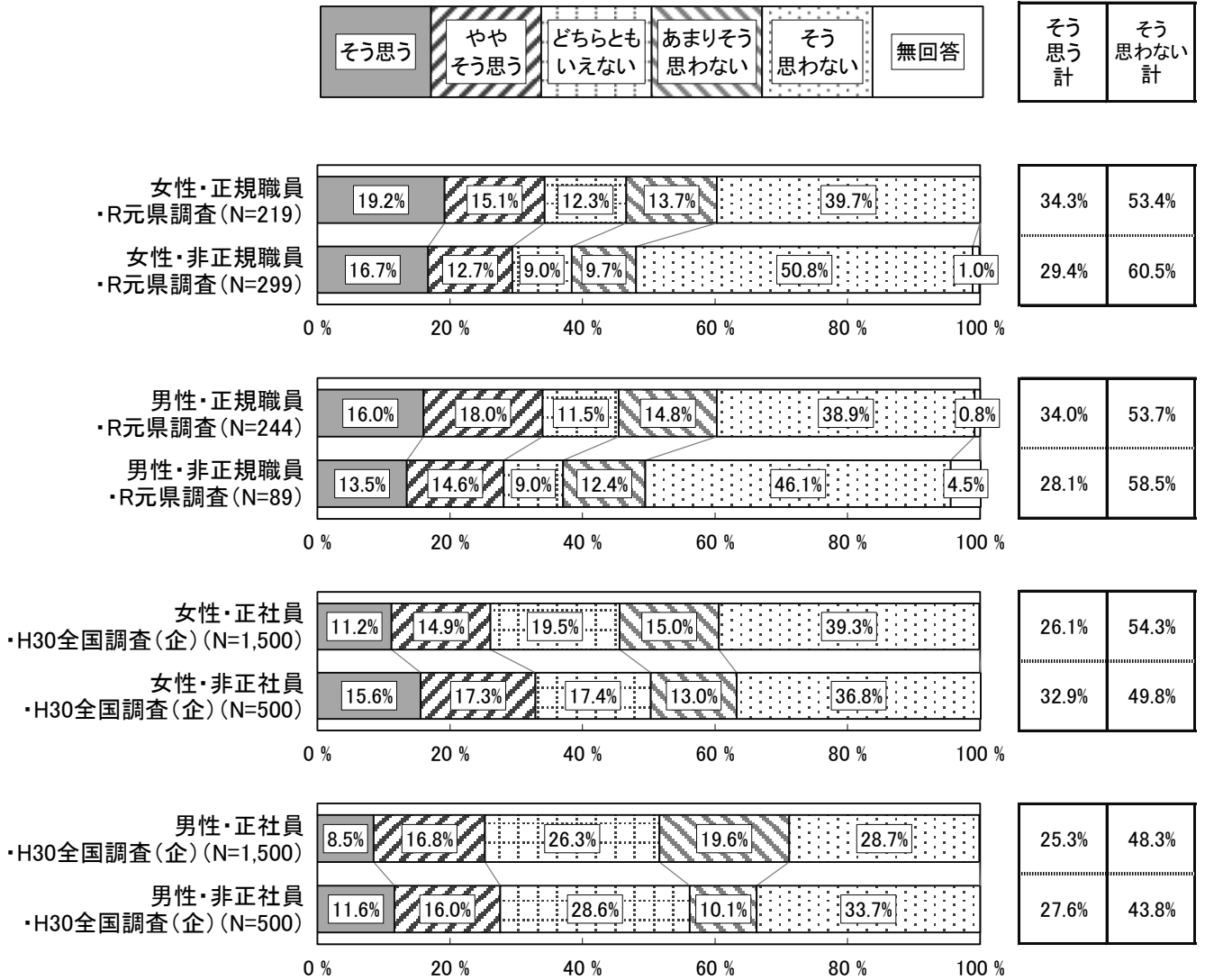


※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ⑥ 土日や祝日に働くことが多いと思うか

土日や祝日に働くことについての考えは、男女別・正規/非正規別に関わらず、土日や祝日に働くことが多いと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。  
また、全国調査と比較すると、男女ともに正規職員において、その割合が高くなっている。

図表 土日や祝日に働くことが多いと思うか



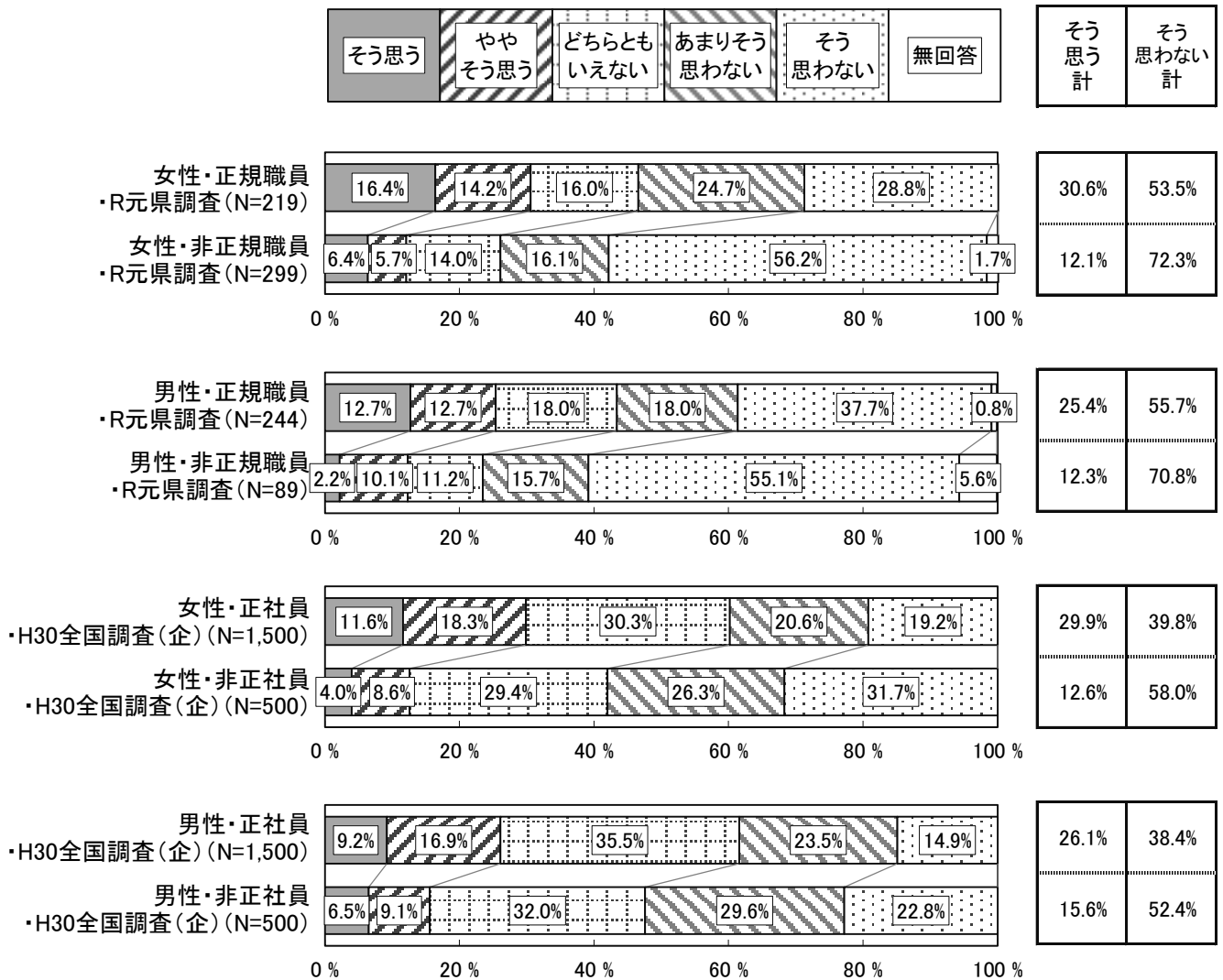
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ⑦ 休みが少ないと思うか

休みの多さについての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、休みが少ないと思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は、女性の正規職員が30.6%で、男性の正規職員（25.4%）に比べ、5.2ポイント、女性の非正規職員（12.1%）に比べ、18.5ポイント高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて、休みが少ないと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

図表 休みが少ないと思うか



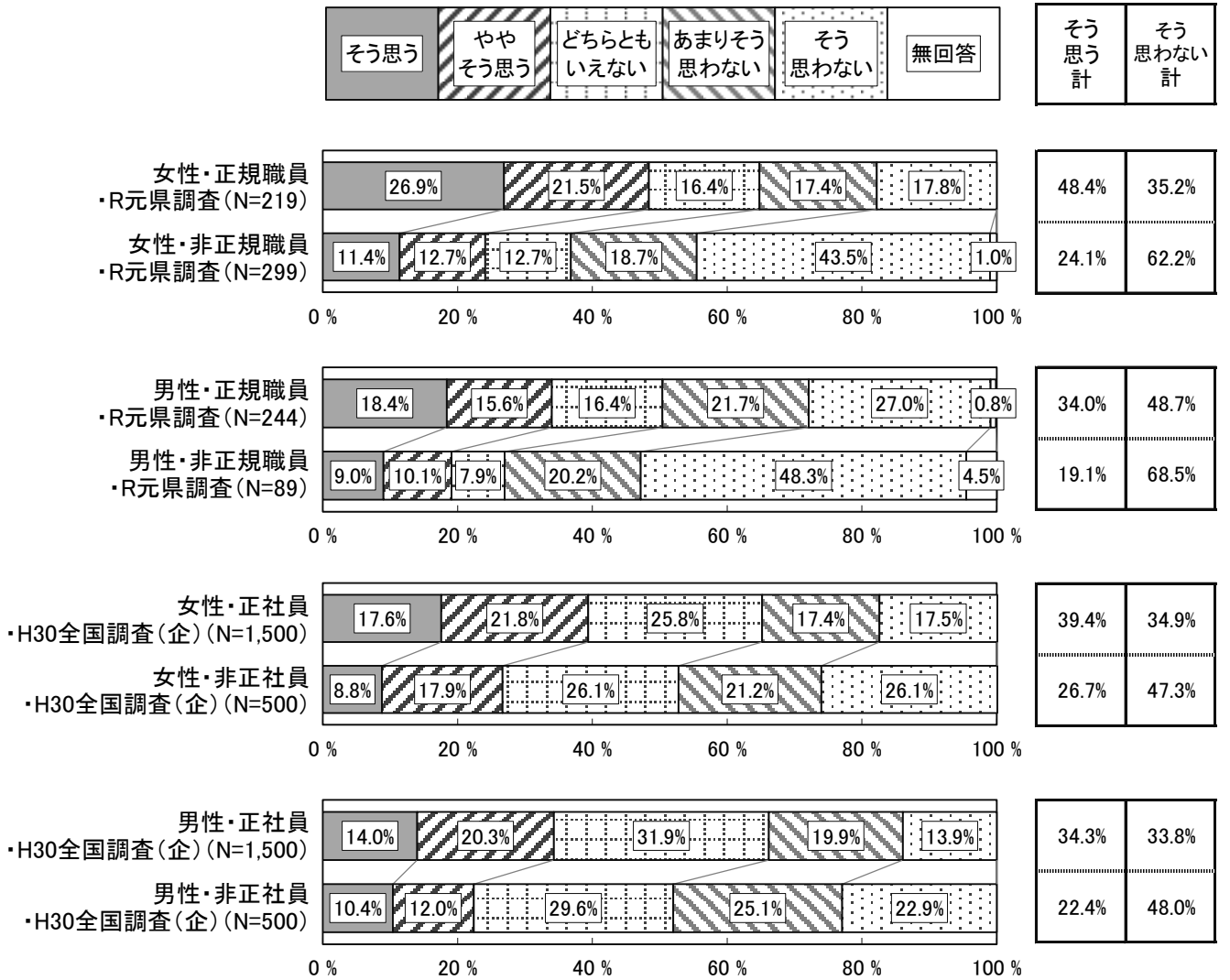
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

### ⑧ 休暇が取りにくいと思うか

休暇についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、休暇が取りにくいと思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は、女性の正規職員が48.4%で、男性の正規職員（34.0%）に比べ、14.4ポイント、女性の非正規職員（24.1%）に比べ、24.3ポイント高くなっている。

また、全国調査と比較すると、女性の正規職員では休暇が取りにくいと思う人の割合が9.0ポイント高くなっており（全国39.4%）、逆に、男性の正規職員では休暇が取りにくいと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が14.9ポイント高くなっている（県48.7%、全国33.8%）。

図表 休暇が取りにくいと思うか



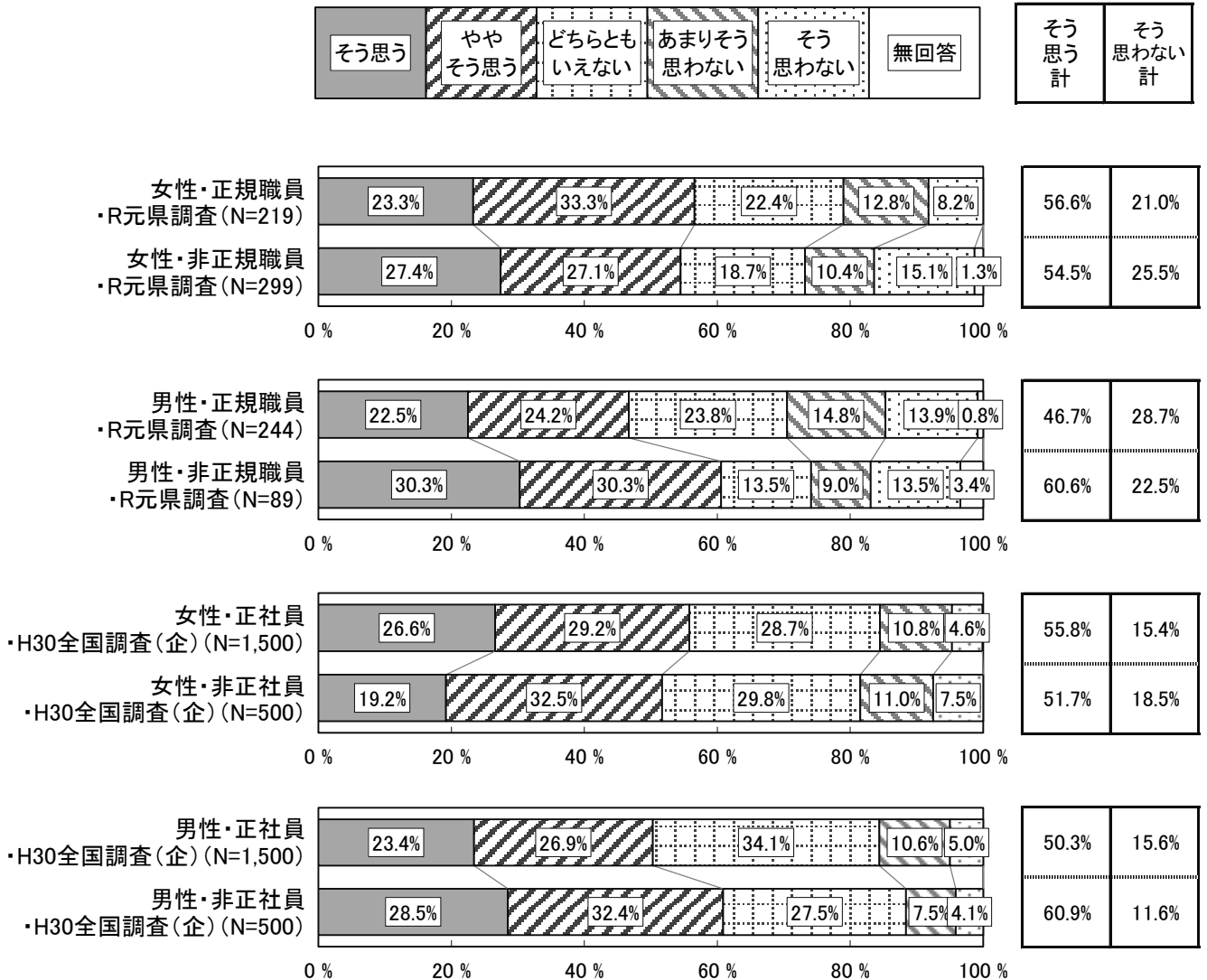
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

### ⑨ 給料や報酬が少ないと思うか

給料・報酬についての考えは、男女・正規/非正規に関わらず、給料や報酬が少ないと思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）が高くなっている。また、男女別・正規/非正規別にみると、女性において、その割合に、正規職員（56.6%）と非正規職員（54.5%）にほとんど差がない。

さらに、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて、給料や報酬が少ないと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

図表 給料や報酬が少ないと思うか



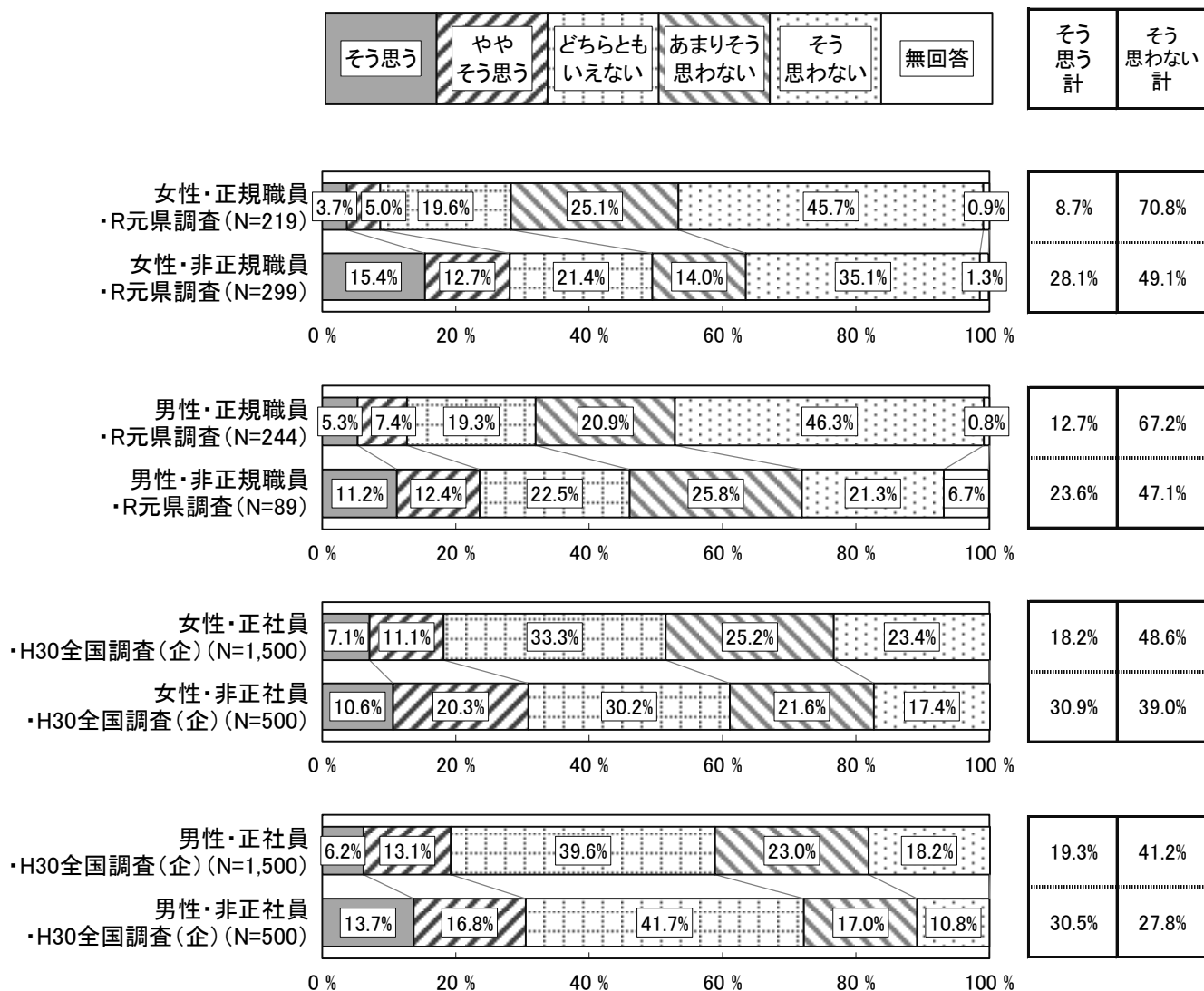
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ⑩ 雇用や就労が安定していないと思うか

雇用・就労の安定感についての考えは、男女・正規/非正規に関わらず、雇用や就労が安定していないと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて、その割合が高くなっている。

図表 雇用や就労が安定していないと思うか



※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

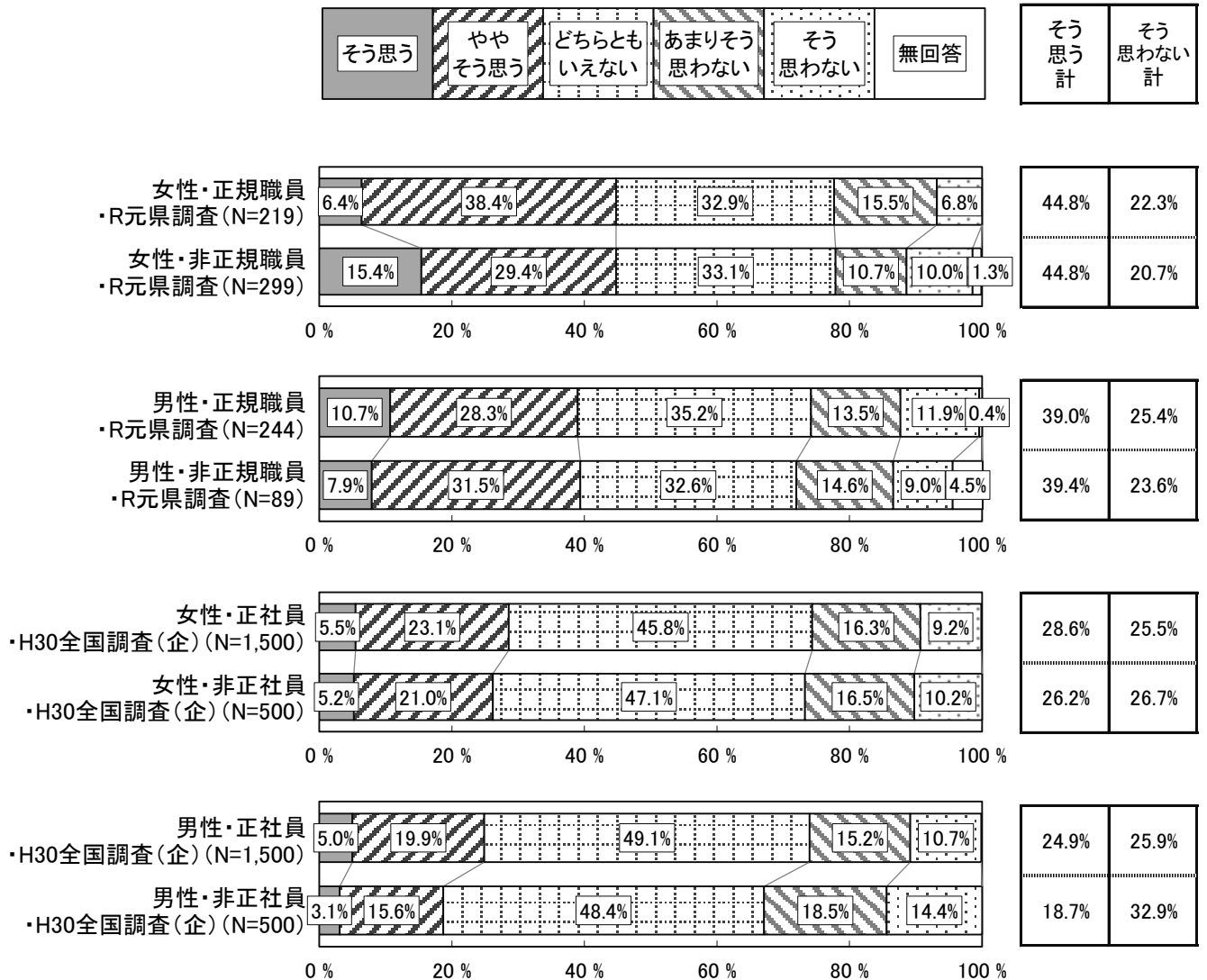


## ⑪ 自分の意欲や能力を十分に活かせると思うか

意欲・能力発揮についての考えは、男女・正規/非正規に関わらず、自分の意欲や能力を十分に活かせると思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）が高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて、その割合が高くなっている。

図表 自分の意欲や能力を十分に活かせると思うか



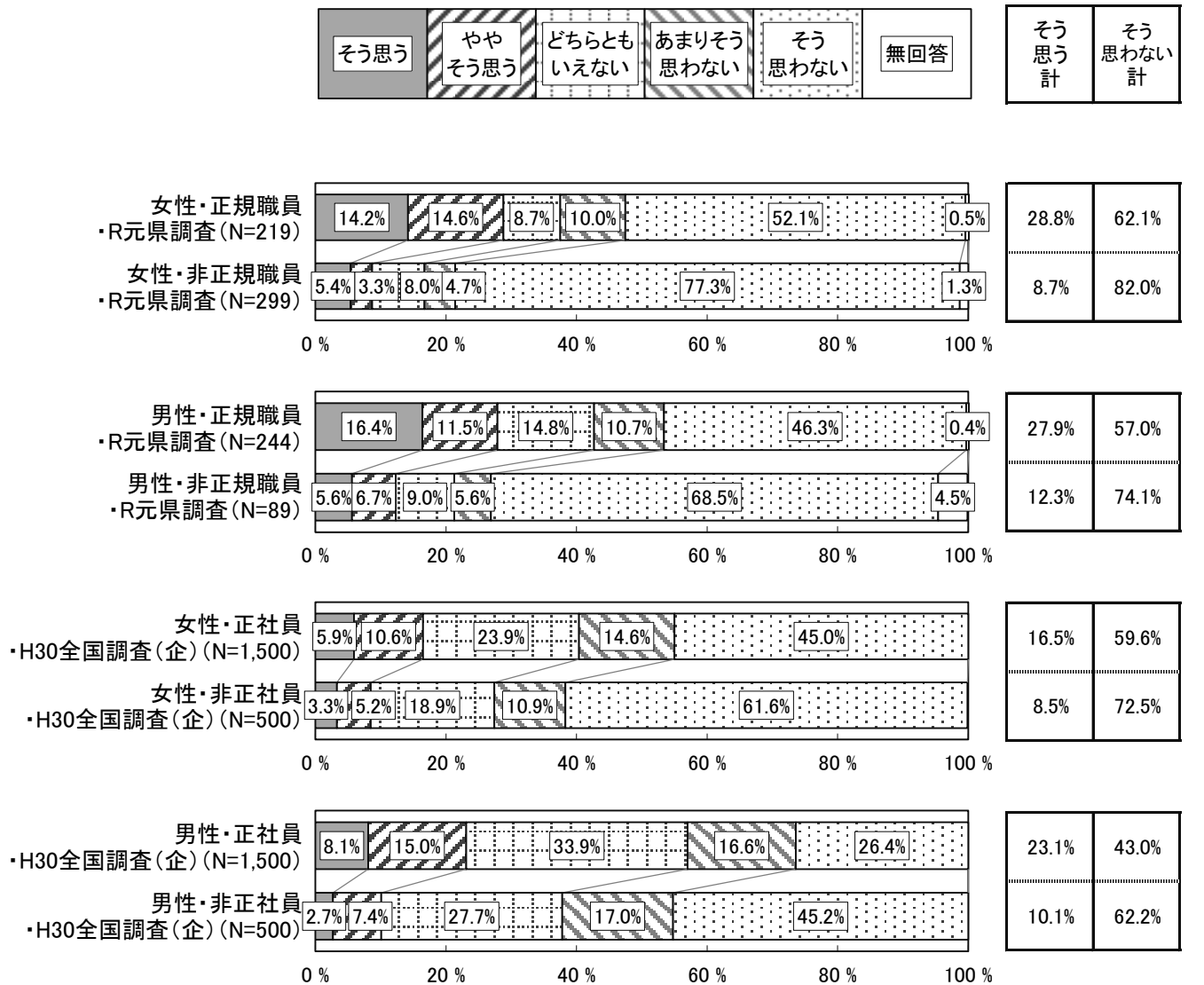
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ⑫ 転職の可能性が あると思うか

転職の可能性についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、転職の可能性が あると思う人の割合(「**そう思う**」と「**やや**そう思う****」の計)は、男女ともに正規職員が非正規職員よりも高くなっている。

また、全国調査と比較すると、女性の正規職員ではその割合が 12.3 ポイント高くなっている(全国 16.5%)。

図表 転職の可能性が あると思うか



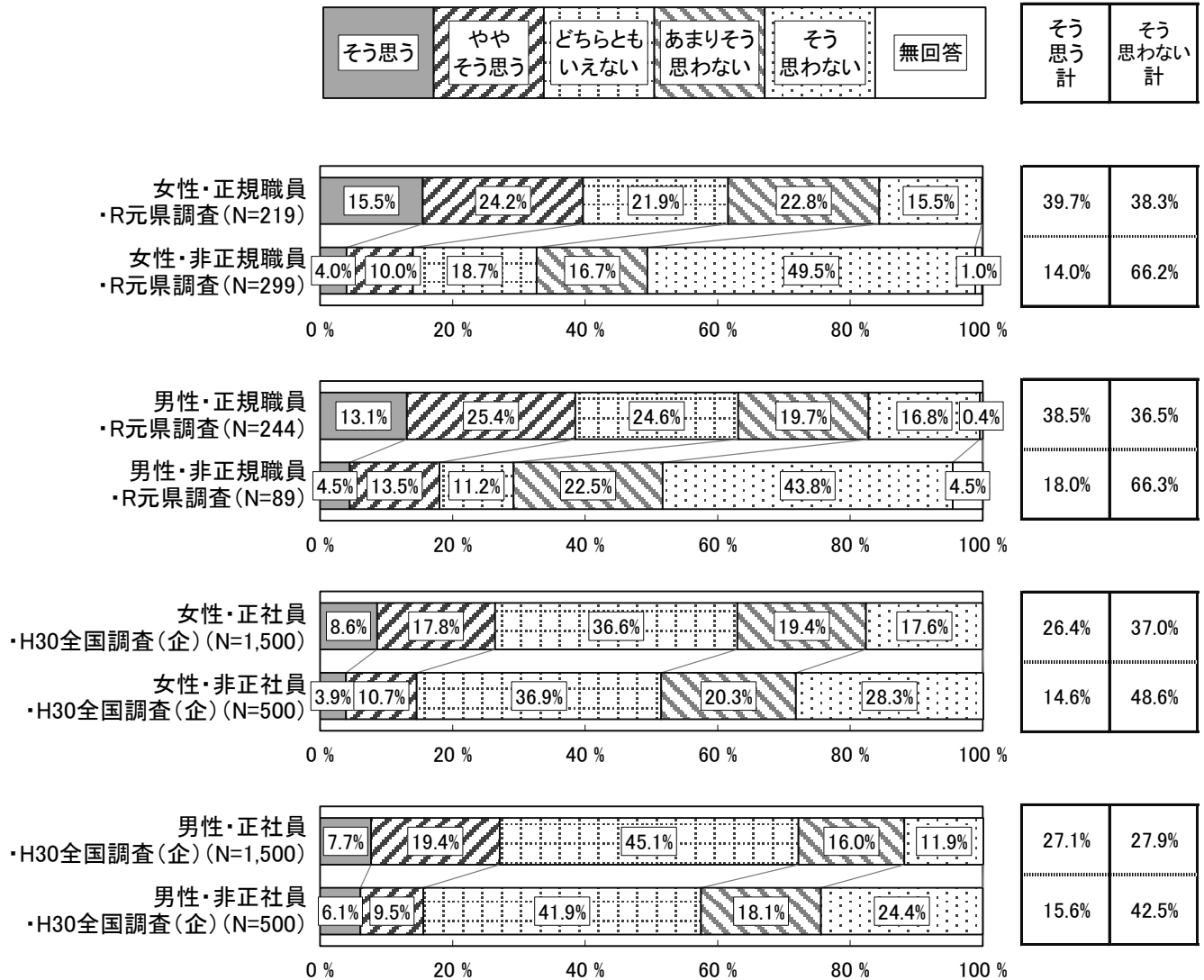
※ そう思う計：「そう思う」と「やや**そう思う**」の合計、そう思わない計：「**そう思わない**」と「**あまり**そう思わない****」の合計

### ⑬ 仕事や生活が組織に縛られていると思うか

組織による束縛感についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、仕事や生活が組織に縛られていると思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は、女性の非正規職員（14.0%）に比べ、女性の正規職員（39.7%）が25.7ポイント高くなっている。

また、全国調査と比較すると、特に女性の正規職員において、その割合が13.3ポイント高くなっている。（全国：26.4%）

図表 仕事や生活が組織に縛られていると思うか



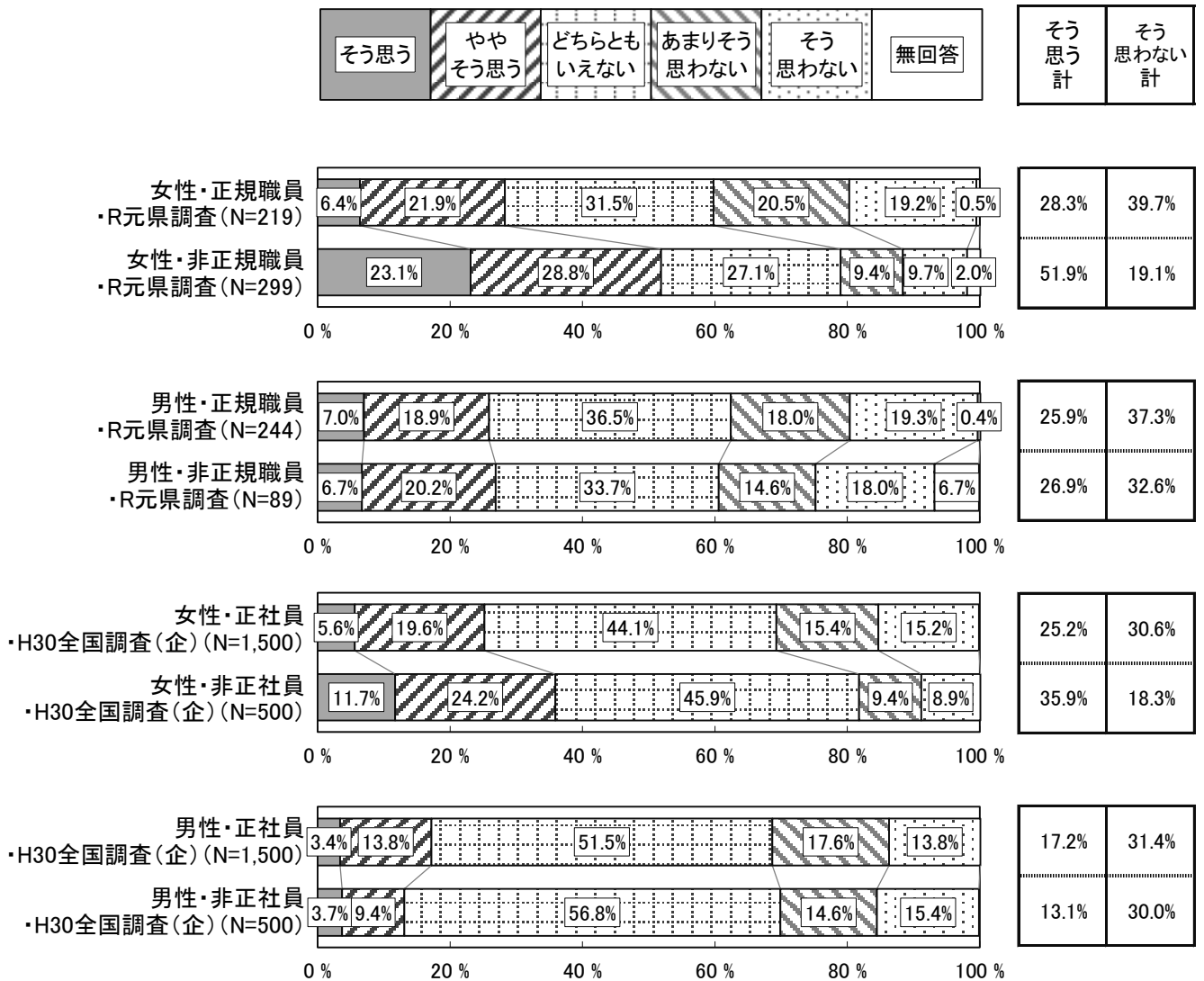
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

### ⑭ 家事・育児・介護などとの両立がしやすいと思うか

家庭との両立についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、家事・育児・介護などとの両立がしやすいと思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は女性の非正規職員（51.9%）に比べ、女性の正規職員（28.3%）が23.6ポイント低くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて家事・育児・介護などとの両立がしやすいと思う人の割合が高く、特に女性の非正規職員においては、16.0ポイント高くなっている。（全国：35.9%）

図表 家事・育児・介護などとの両立がしやすいと思うか



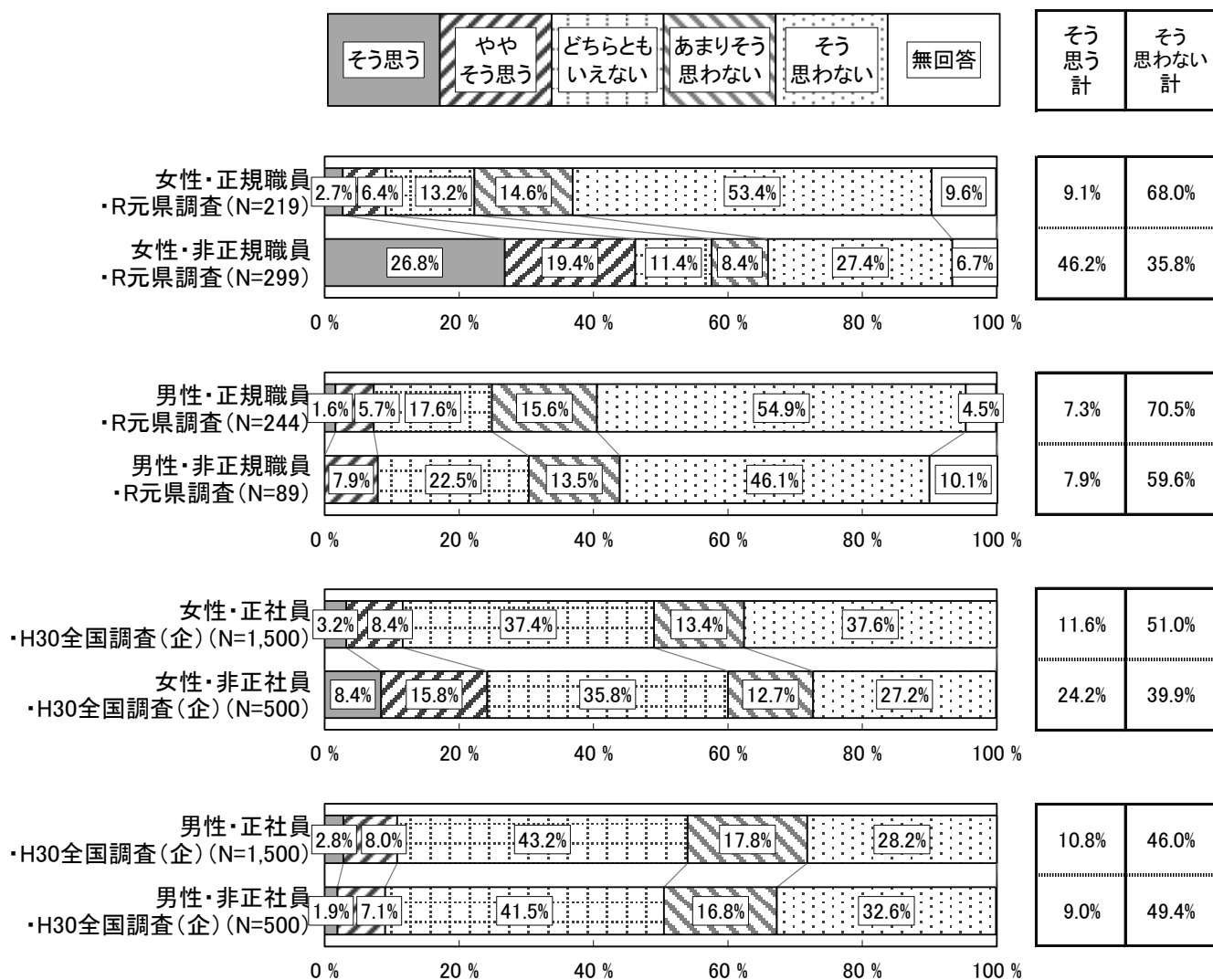
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

### ⑮ 配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整しているか

夫婦間での仕事の調整についての考えを、男女別・正規/非正規別にみると、配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整していると思う人の割合（「そう思う」と「ややそう思う」の計）は女性の正規職員（9.1%）に比べ、女性の非正規職員（46.2%）が37.1ポイント高くなっている。

また、全国調査と比較すると、特に女性の非正規職員において、配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整していると思う人の割合が22.0ポイント高くなっている。（全国：24.2%）

図表 配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整しているか



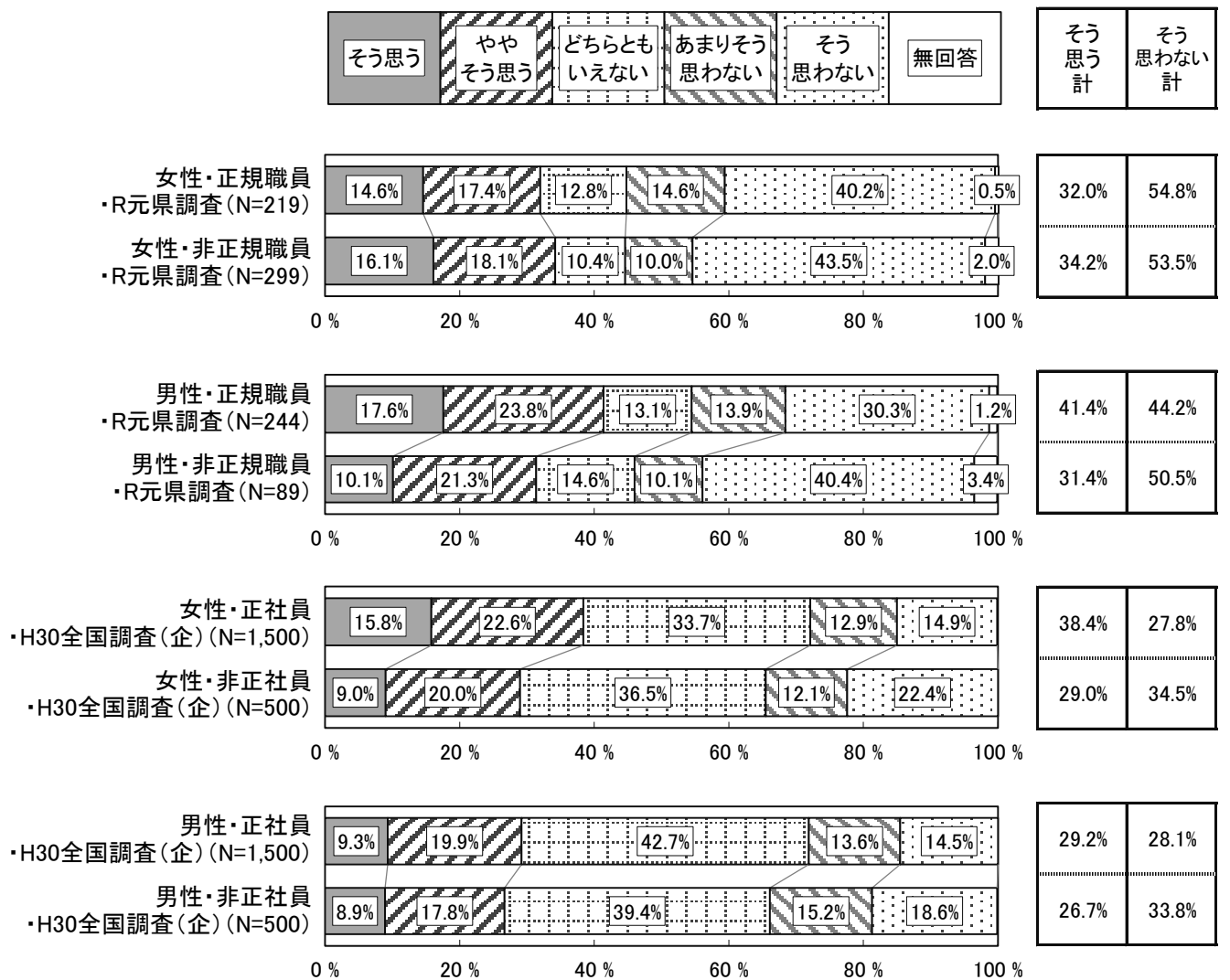
※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ⑩ 現在の主な仕事をしつつ、他の仕事もしてみたいと思うか（副業・兼業など）

副業・兼業についての考えは、男女・正規/非正規に関わらず、現在の主な仕事をしつつ、他の仕事もしてみたいと思わない人の割合（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計）が高くなっている。

また、全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規別のすべてにおいて、その割合が高くなっている。

図表 現在の主な仕事をしつつ、他の仕事もしてみたいと思うか（副業・兼業など）



※ そう思う計：「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計：「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## (2) 自分の職場の様子

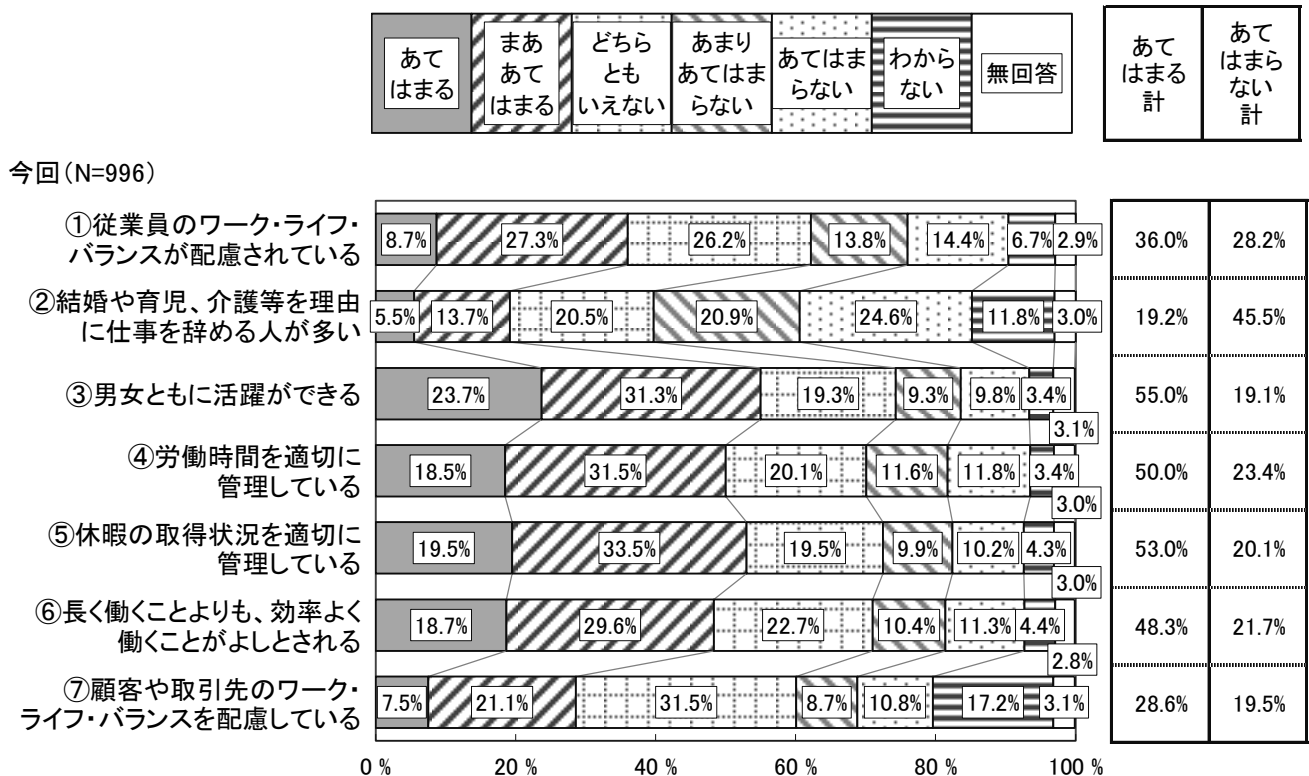
問 5-2 あなたの職場の様子についてうかがいます。次の(1)～(7)の項目があてはまるかどうか、それぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

※雇用者のない個人事業主やフリーランスで働いている方は、ご自身や仕事仲間、取引先の状況を想定してお答え下さい。

職場の様子に関する各項目について、あてはまると思う人の割合(「あてはまる」と「まああてはまる」の計)をみると、「③男女ともに活躍ができる」が最も高く55.0%で、次いで「⑤休暇の取得状況を適切に管理している」(53.0%)、「④労働時間を適切に管理している」(50.0%)となっている。

一方、あてはまらないと思う人の割合(「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の計)をみると、「②結婚や育児、介護等を理由に仕事を辞める人が多い」の割合が最も高く45.5%で、次いで「①従業員のワーク・ライフ・バランスが配慮されている」(28.2%)、「④労働時間を適切に管理している」(23.4%)となっている。

図表 自分の職場の様子について



※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

# ① あなたの職場は従業員のワーク・ライフ・バランスが配慮されていると思うか

「従業員のワーク・ライフ・バランスに配慮されている」と感じている人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）について、男女別・正規/非正規別にみると、女性の非正規職員（41.1%）は男性の非正規職員（25.8%）に比べて15.3ポイント高くなっている。

全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規を問わず、その割合は高くなっており、特に女性の非正規職員（41.1%）では13.0ポイント高くなっている（全国28.1%）。

図表 あなたの職場は従業員のワーク・ライフ・バランスが配慮されていると思うか



※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

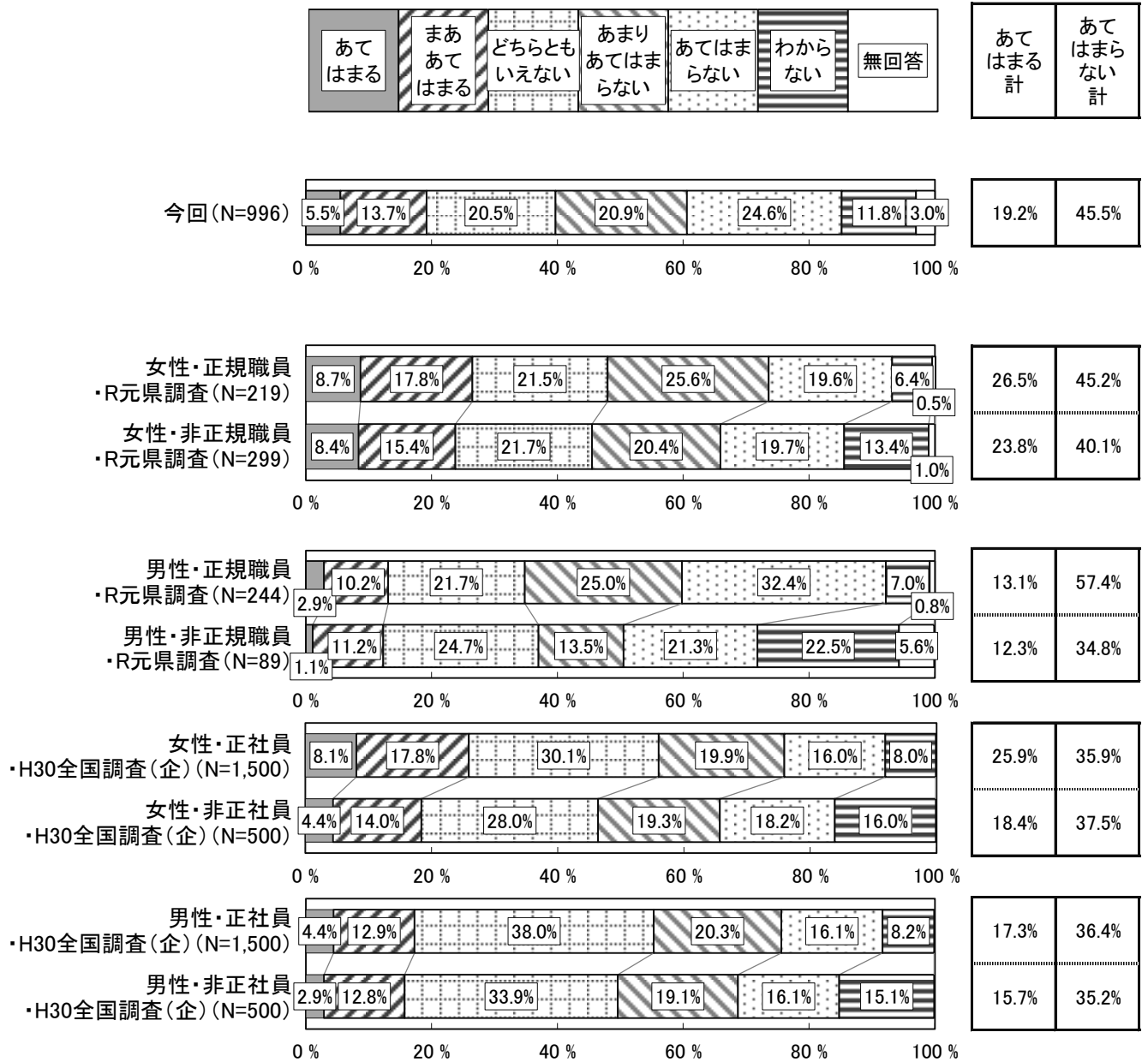


## ② あなたの職場は結婚や育児、介護等を理由に仕事を辞める人が多いと思うか

「結婚や育児、介護等を理由に退職する人が多い」と感じている人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）について、女性では正規/非正規を問わず、その計が男性に比べて高くなっている。

全国調査と比較すると、女性の非正規職員（23.8%）ではその割合が5.4ポイント高くなっている。

図表 あなたの職場は結婚や育児、介護等を理由に仕事を辞める人が多いと思うか



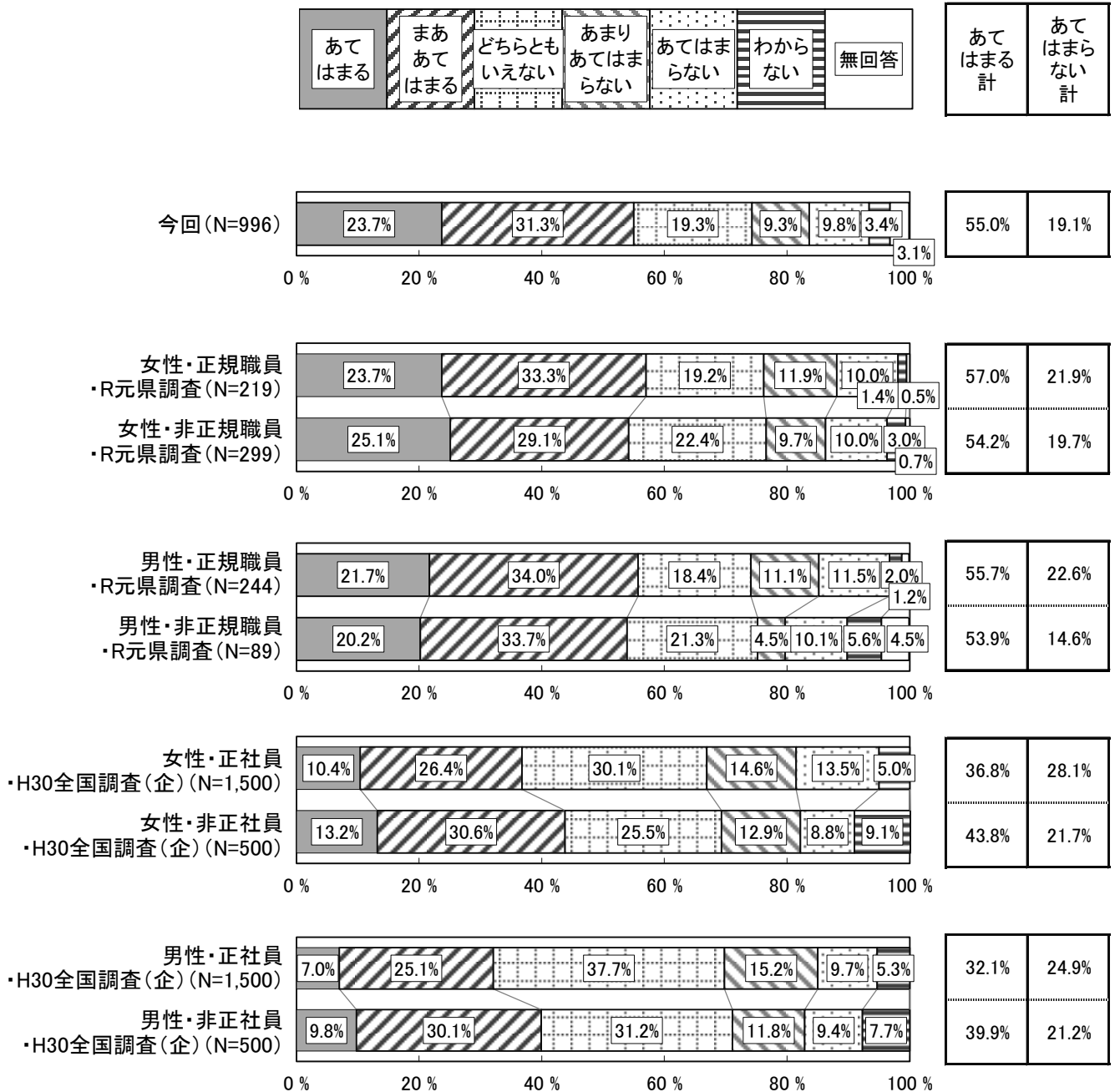
※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

### ③ あなたの職場は男女ともに活躍ができると思うか

「男女ともに活躍ができる」と感じている人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）は、男女別・正規/非正規別に大きな差はみられない。

全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規を問わず、その割合は10ポイント以上高く、女性の正規職員（57.0%）では20.2ポイント高くなっている（全国36.8%）。

図表 あなたの職場は男女ともに活躍ができると思うか



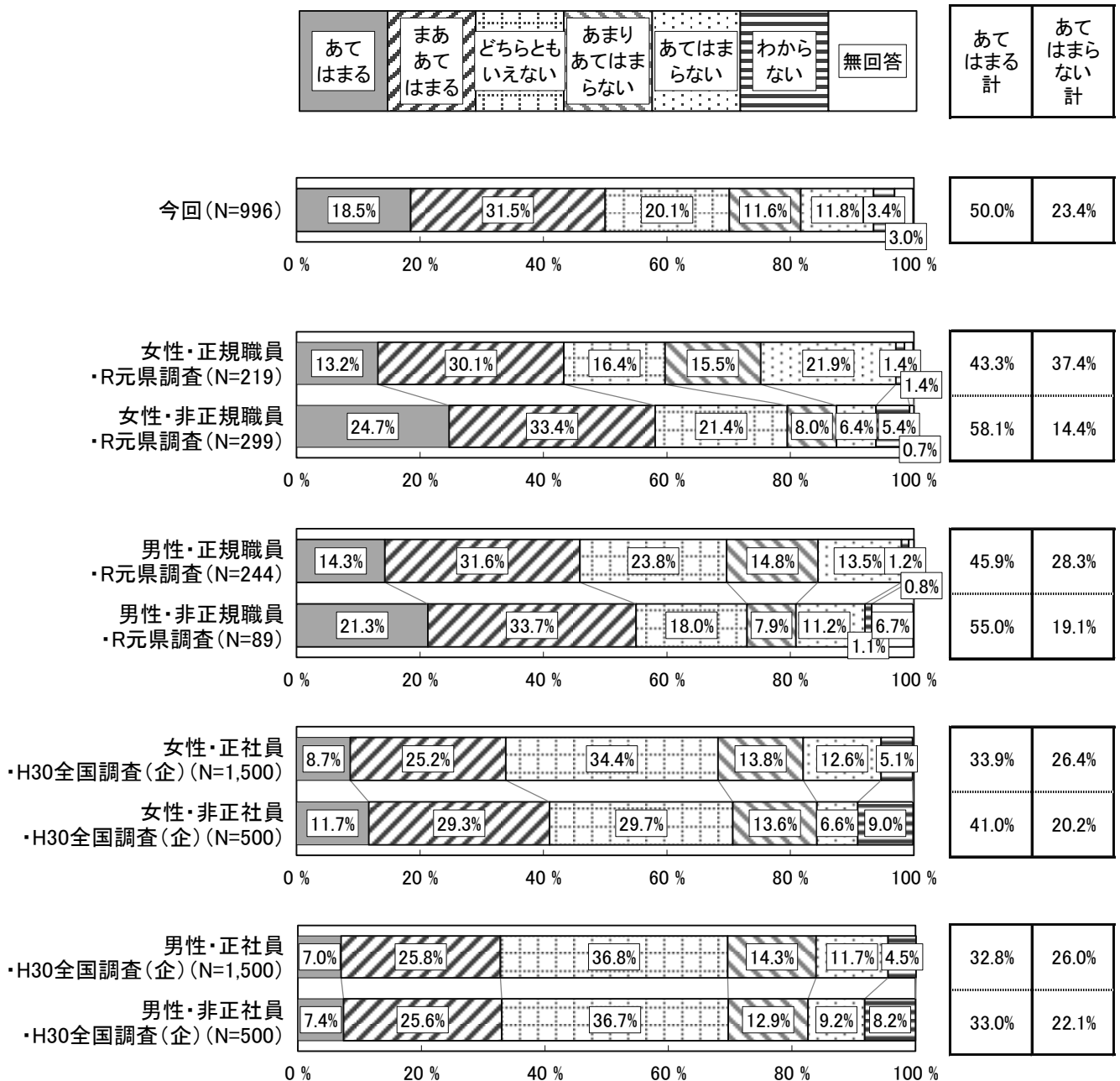
※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

#### ④ あなたの職場は労働時間を適切に管理していると思うか

「労働時間を適切に管理している」と感じている人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）は、男女別に関わらず、非正規職員でその割合が高くなっている。

全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規を問わず、その割合は約10ポイント以上高く、男性の非正規職員（55.0%）では22.0ポイント高くなっている（全国33.0%）。

図表 あなたの職場は労働時間を適切に管理していると思うか



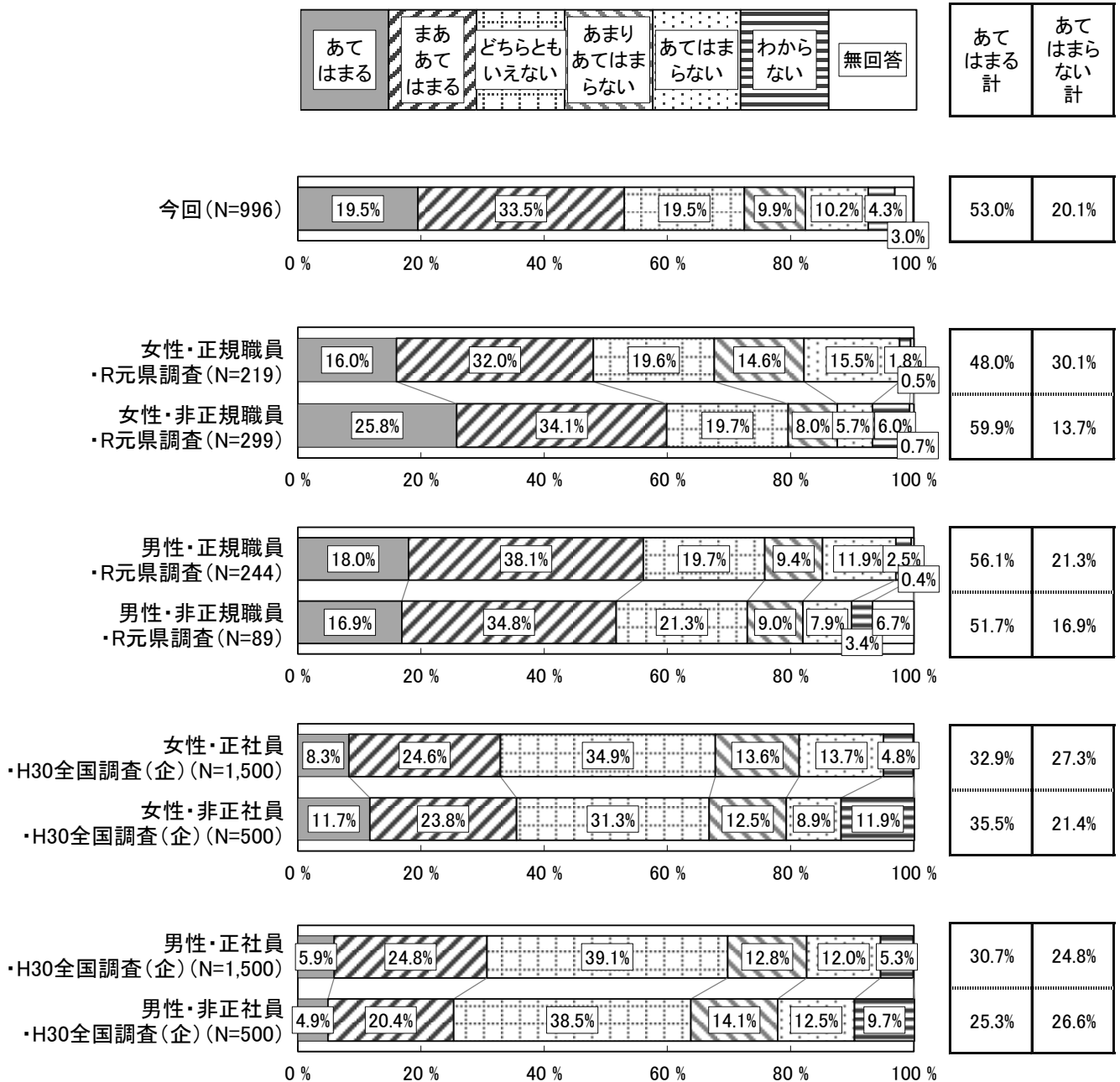
※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

⑤ あなたの職場は休暇の取得状況を適切に管理していると思うか

「休暇の取得状況を適切に管理している」と感じていない人の割合（「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の計）は、女性の正規職員でその割合が最も高く 30.1%で、女性の非正規職員に比べ 16.4 ポイント、男性の正規職員に比べ 8.8 ポイント高くなっている。

全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規を問わず、「休暇の取得状況を適切に管理している」と感じていない人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）が高くなっている。

図表 あなたの職場は休暇の取得状況を適切に管理していると思うか



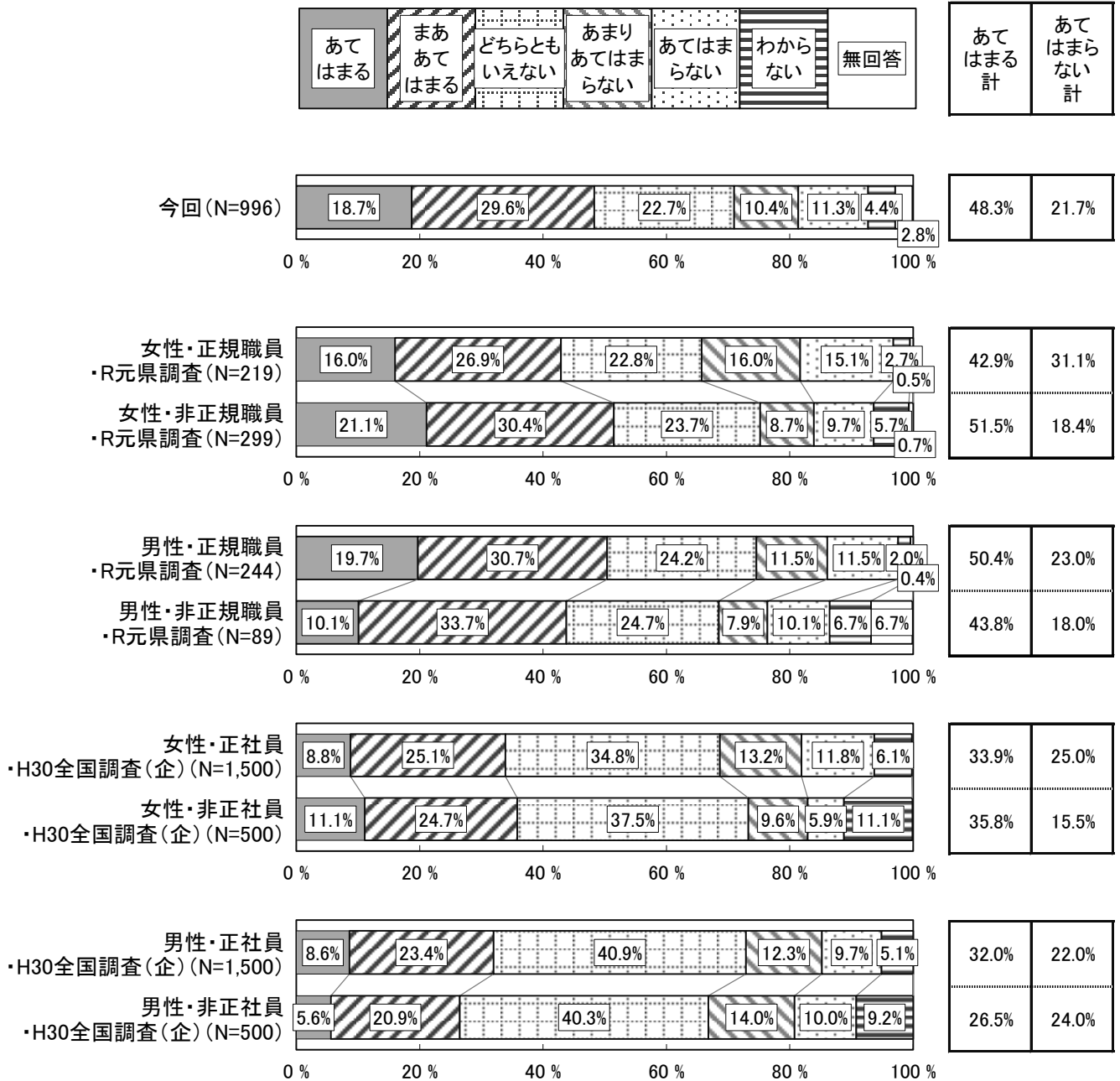
※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

## ⑥ あなたの職場は長く働くことよりも、効率よく働くことがよしとされると思うか

「長く働くことよりも、効率よく働くことがよしとされる」と感じている人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）は、女性の非正規職員でその割合が最も高く 51.5%で、女性の正規職員に比べ 8.6 ポイント、男性の非正規職員に比べ 7.7 ポイント高くなっている。

全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規を問わず、その割合は高くなっており、特に男性の正規職員では 18.4 ポイント高くなっている。

図表 あなたの職場は長く働くことよりも、効率よく働くことがよしとされると思うか



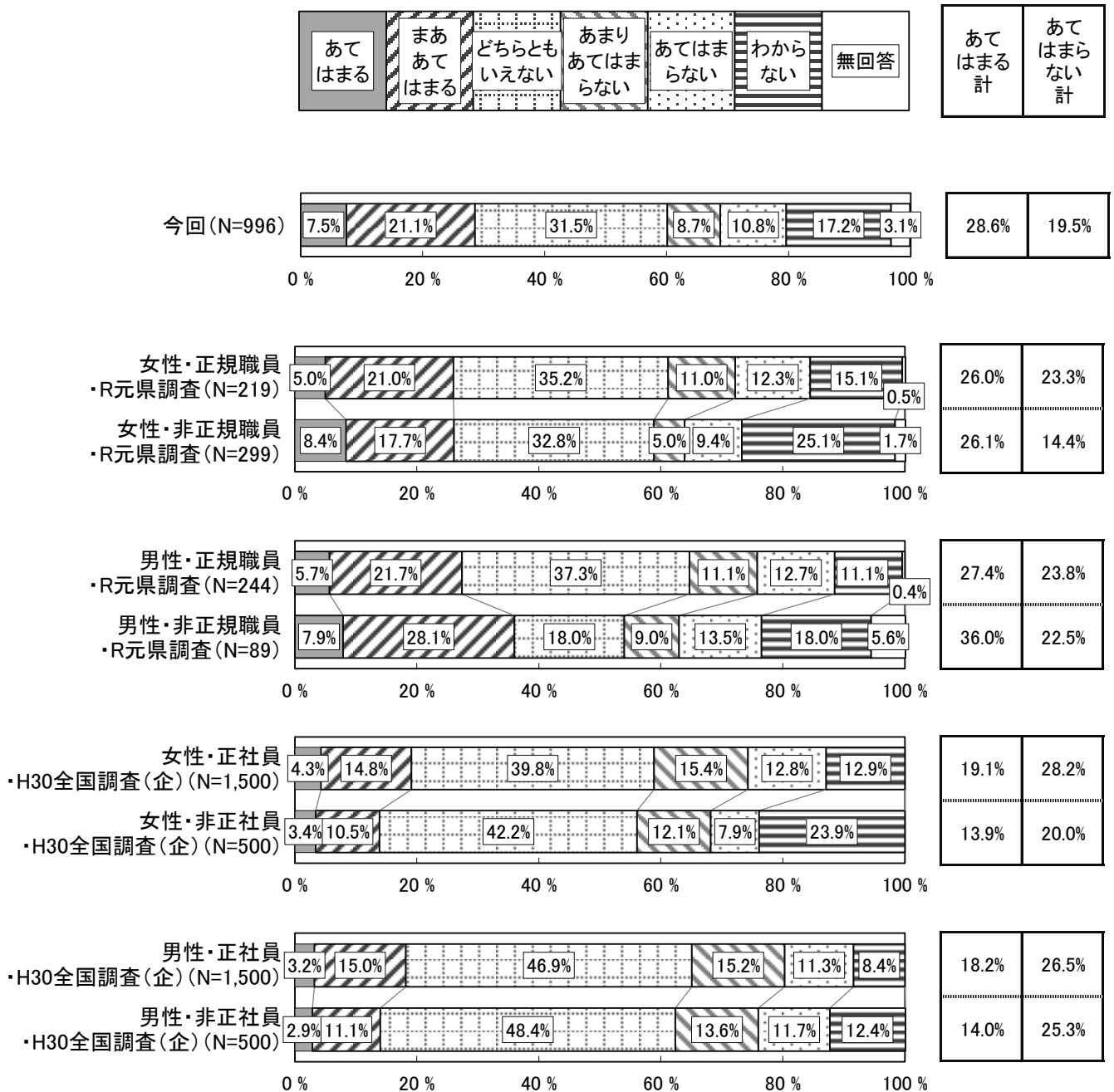
※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

⑦ あなたの職場は顧客や取引先のワーク・ライフ・バランスを配慮していると思うか

「顧客や取引先のワーク・ライフ・バランスを配慮している」と感じている人の割合（「あてはまる」と「まああてはまる」の計）は、男性の非正規職員でその割合が最も高く 36.0%で、男性の正規職員に比べ 8.6 ポイント、女性の非正規職員に比べ 9.9 ポイント高くなっている。

全国調査と比較すると、男女別・正規/非正規を問わず、その割合は高くなっており、特に男性の非正規職員では 22.0 ポイント高くなっている。

図表 あなたの職場は顧客や取引先のワーク・ライフ・バランスを配慮していると思うか



※ あてはまる計：「あてはまる」と「まああてはまる」の計、あてはまらない計：「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計

### (3) 就労形態・働き方を変えたいか

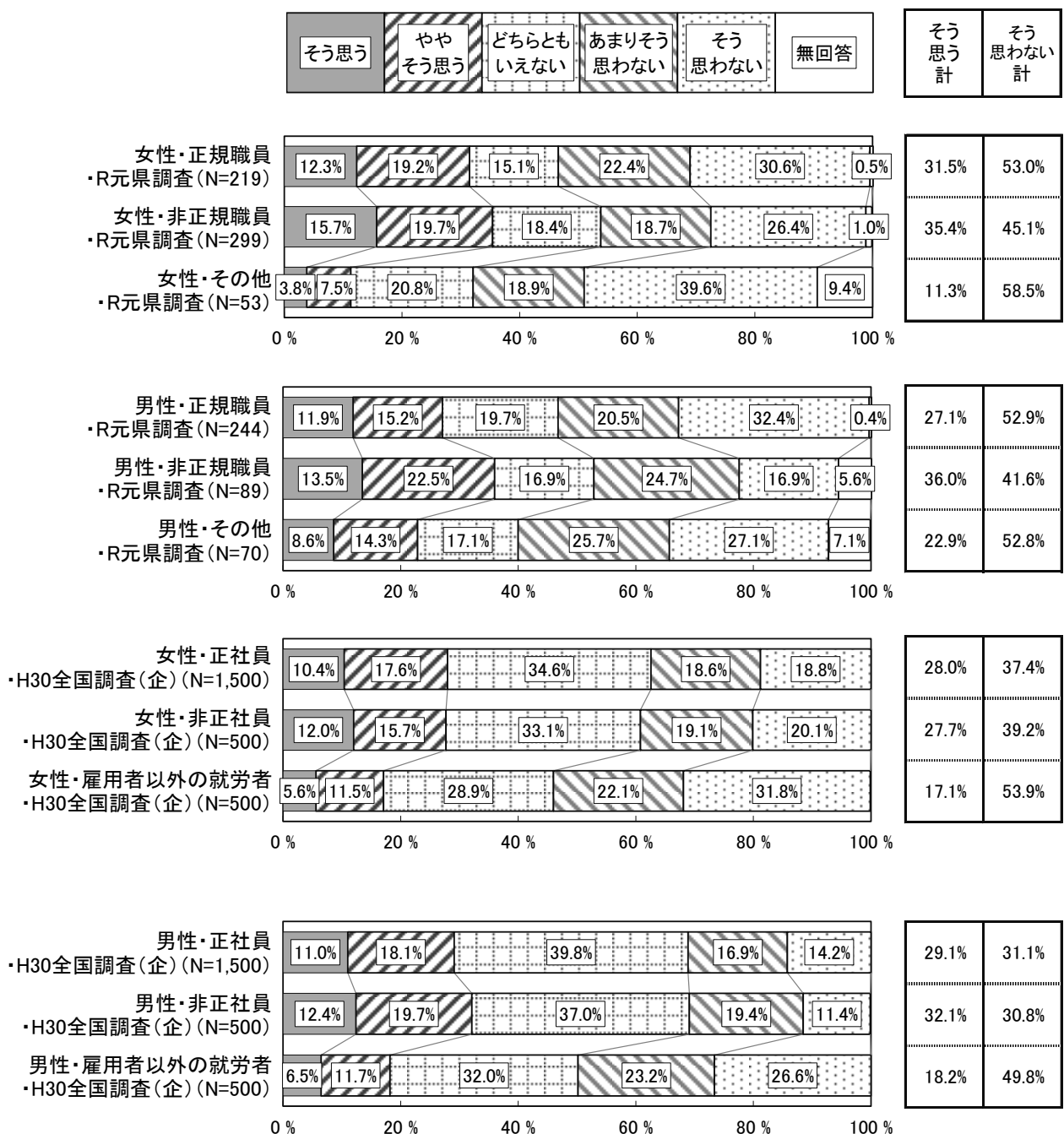
#### ①就労形態を変えたいと思うか

問 5-3 あなたは現在の就労形態や働き方を変えたいと思いますか。  
 あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 (1) 就労形態を変えたい

※「就労形態」は、正社員や契約社員、パート、アルバイトなどの雇用形態のほか、会社経営や個人事業主、フリーランス等、就労のあり方のことをいいます。

「就労形態を変えたい」と思っている人の割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)を男女別・正規/非正規別にみると、男女・正規/非正規間で大きな差はみられない。全国調査と比較すると、女性の非正規職員(35.4%)において、7.7ポイント高くなっている(全国27.7%)。

図表 就労形態を変えたいと思うか(男女別・就労形態別)



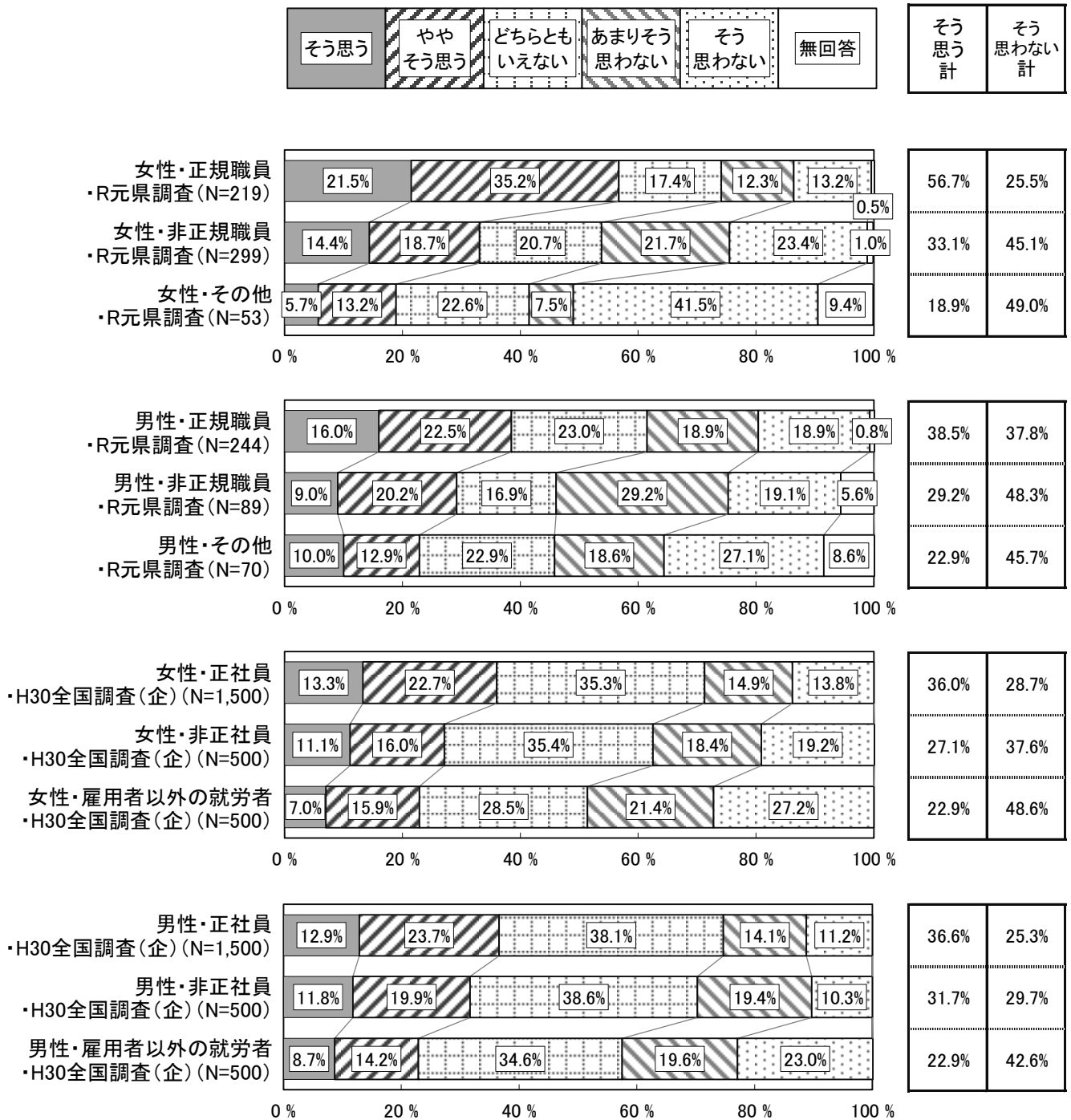
※ そう思う計:「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計:「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

## ②働き方を変えたいと思うか

問 5-3 あなたは現在の就労形態や働き方を変えたいと思いますか。  
 あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)  
 (2) 働き方を変えたい

「働き方を変えたい」と思っている人の割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)を男女別・正規/非正規別にみると、女性の正規職員の割合が最も高く56.7%で、男性の正規職員(38.5%)に比べて18.2ポイント、女性の非正規職員(33.1%)に比べて23.6ポイント高くなっている。全国調査と比較すると、女性の正規職員は、20.7ポイント高くなっている(全国36.0%)。

図表 働き方を変えたいと思うか(男女別・就労形態別)



※ そう思う計:「そう思う」と「ややそう思う」の合計、そう思わない計:「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計



## 7 「仕事」に関する考えについて（女性の無業者）

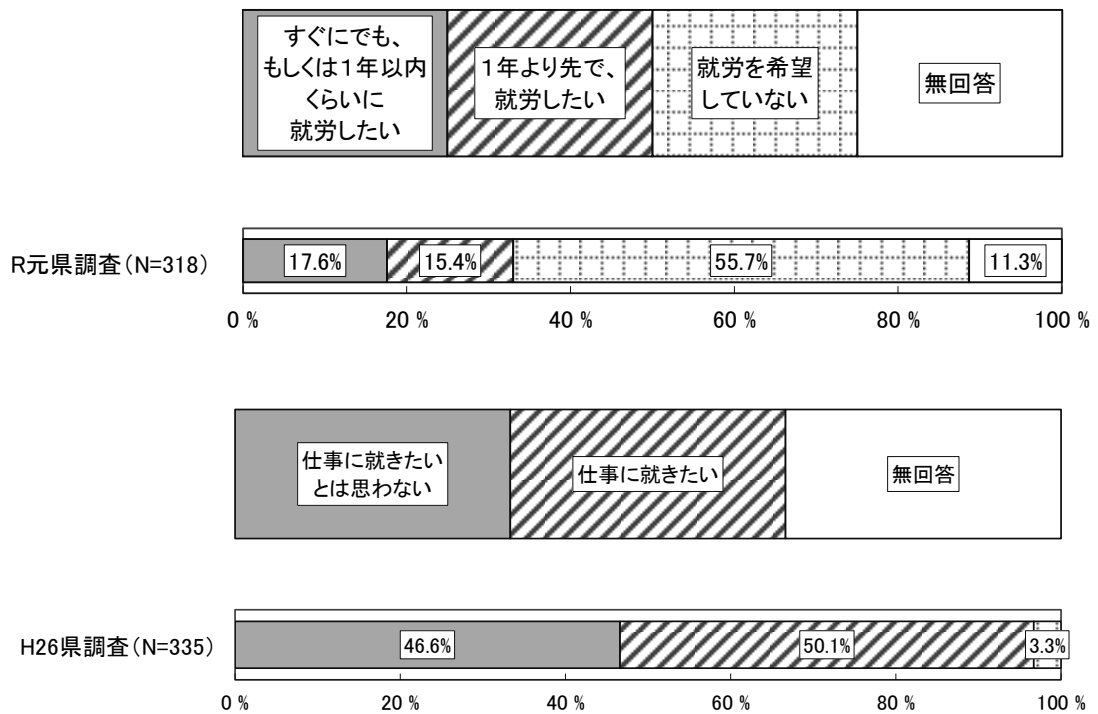
### （1）今後の就労希望

問6は現在お仕事をもちでない女性の方にかがいます。それ以外の方は問9-1へお進みください。

問6 あなたは、今後就労を希望されていますか。（○は1つ）

現在働いていない女性のうち、今後就労を希望する女性の割合（「すぐにでも、もしくは1年以内くらいに就労したい」と「1年より先で、就労したい」の計）は33.0%となっている。

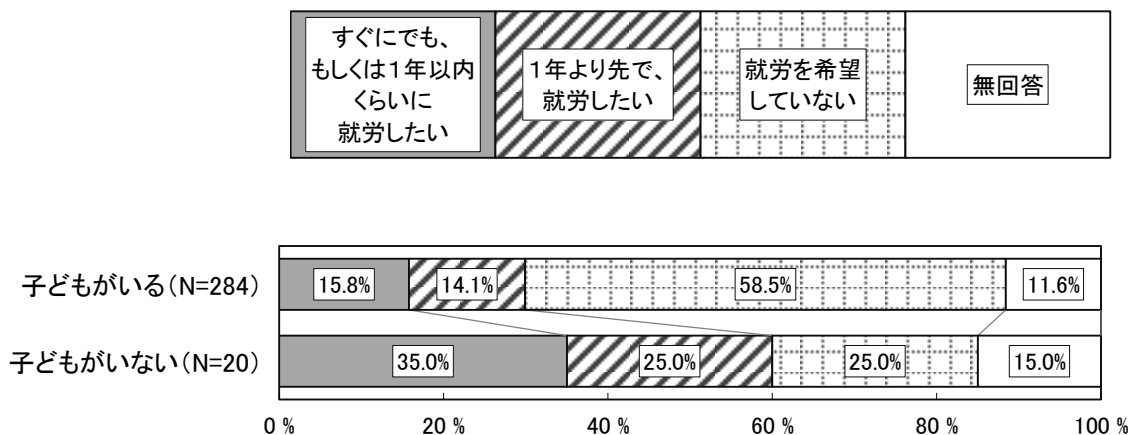
図表 今後の就労意向



### 【子どもの有無別】

子どもの有無別に今後就労を希望する女性の割合をみると、子どもがいる人は、子どもがいない人に比べて30.1ポイント低くなっている。

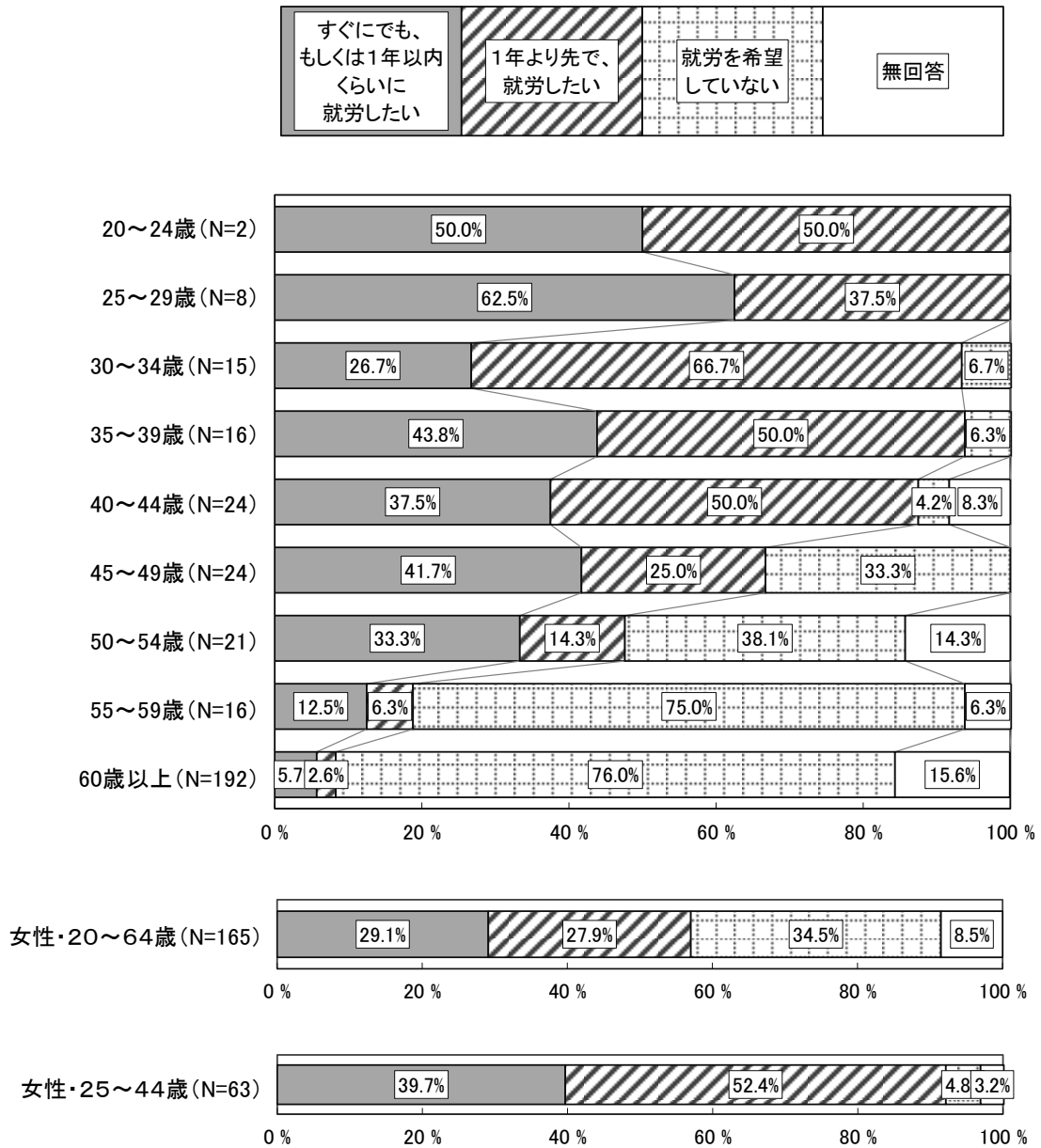
図表 今後の就労意向（子どもの有無別）



【年代別】

年代別に今後就労を希望する女性の割合をみると、年代が低いほど就労を希望する割合が高くなる傾向である。また、20～64歳においては57.0%で、25～44歳においては92.1%となっている。

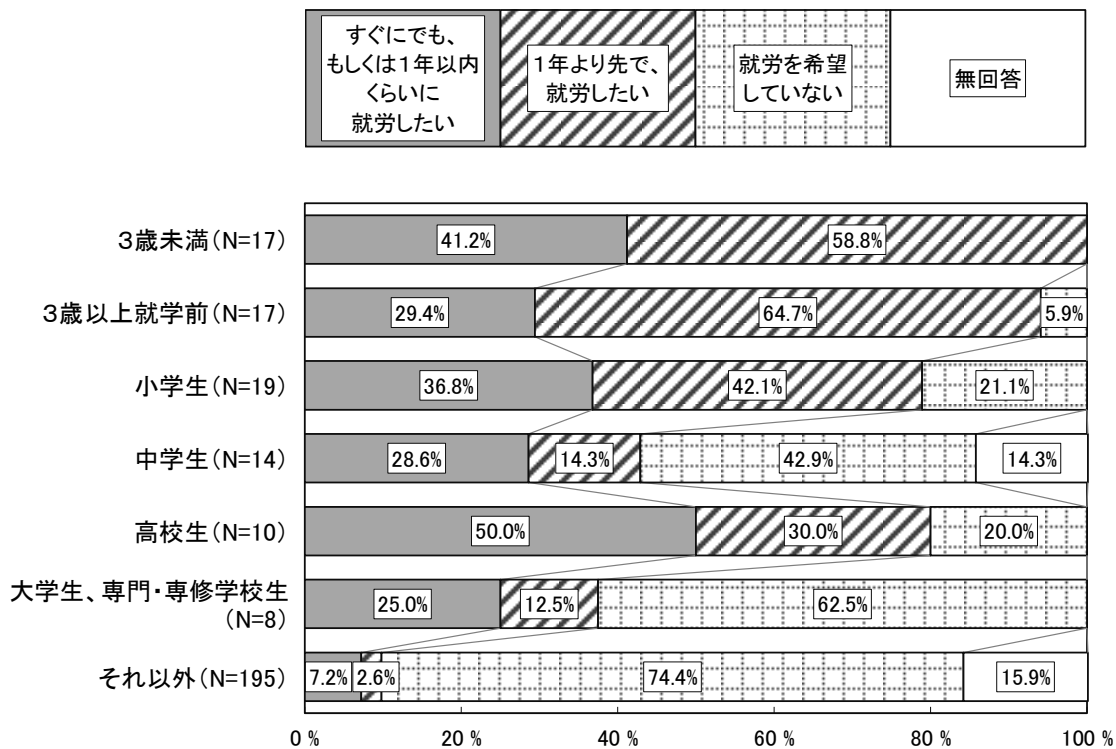
図表 今後の就労意向（年代別）



【末子年齢別】

末子年齢別に今後就労を希望する女性の割合をみると、「3歳未満」で100.0%、「3歳以上就学前」で94.1%と、末子の年齢が低いうちから就労の希望を持っている。

図表 今後の就労意向(女性・末子年齢別)



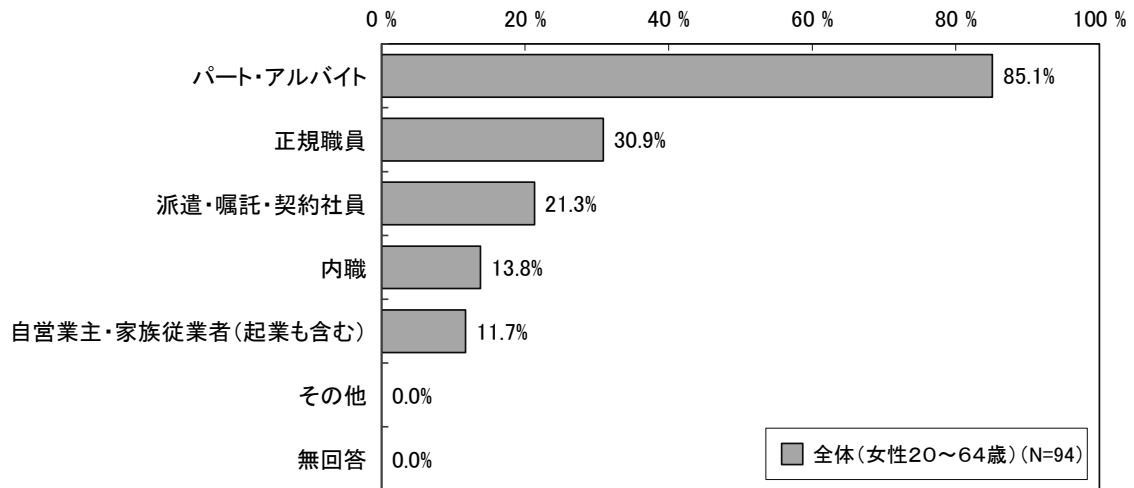
## (2) 希望する雇用形態

問7は就労を希望しておられる女性の方(問6で「1」または「2」と回答された方)にうかがいます。問6で「3」と回答された方は問8へお進みください。

問7-1 どのような雇用形態なら就労したいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

今後就労を希望する女性(20~64歳)が希望する雇用形態は、「パート・アルバイト」の割合が最も高く85.1%で、次いで「正規職員」(30.9%)、「派遣・嘱託・契約社員」(21.3%)となっている。

図表 希望する雇用形態(複数回答)

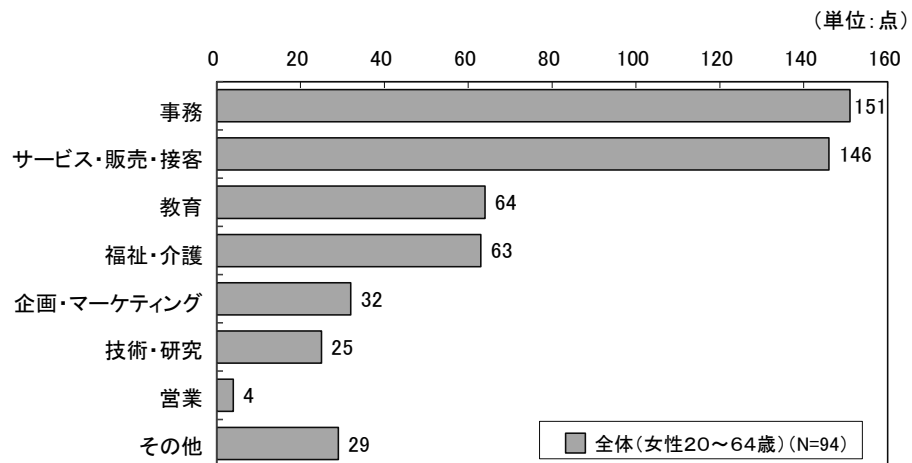


## (3) 希望する職種

問7-2 どのような職種なら就労したいと思いますか。次の中から第1希望の職種、第2希望の職種、第3希望の職種をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

今後就労を希望する女性(20~64歳)が希望する職種は、「事務」が最も多く、次いで「サービス・販売・接客」「教育」となっている。

図表 希望する職種(あてはまるものを3つ選択)



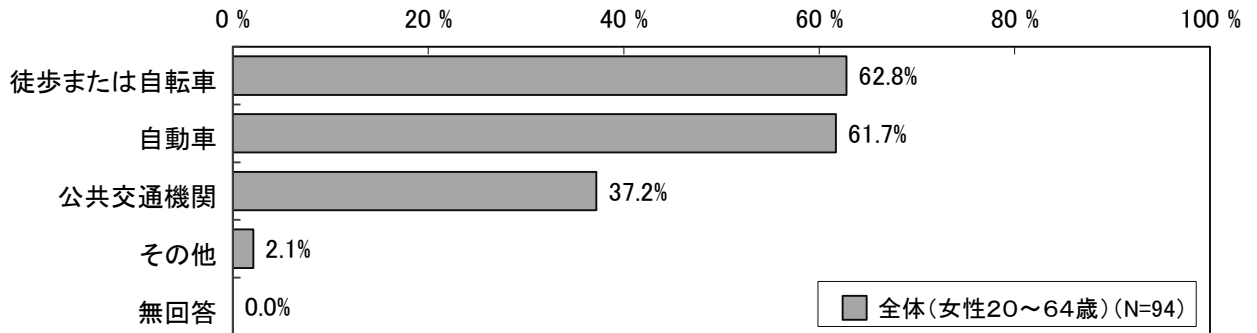
※就労意向女性(20~64歳)ベース  
 ※第一希望=3点、第二希望=2点、第三希望=1点として点数換算

#### (4) 希望する通勤手段

問 7-3 勤務地までの通勤手段・通勤時間の希望についてうかがいます。  
 (1) 通勤手段 (○はあてはまるものすべて)

今後就労を希望する女性 (20~64 歳) が希望する通勤手段は、「徒歩または自転車」の割合が最も高く 62.8% で、次いで「自動車」(61.7%)、「公共交通機関」(37.2%) となっている。

図表 希望する通勤手段 (複数回答)

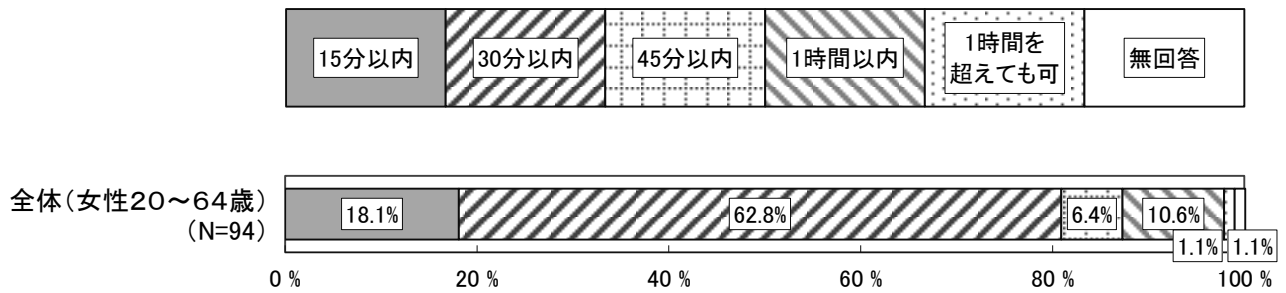


#### (5) 希望する通勤時間

問 7-3 勤務地までの通勤手段・通勤時間の希望についてうかがいます。  
 (2) 通勤時間 (片道) (○は1つ)

今後就労を希望する女性 (20~64 歳) が希望する通勤時間は、「15 分以内」の割合が 18.1%、「30 分以内」の割合が 62.8% で、30 分以内計が 80.9% となっている。

図表 希望する通勤時間



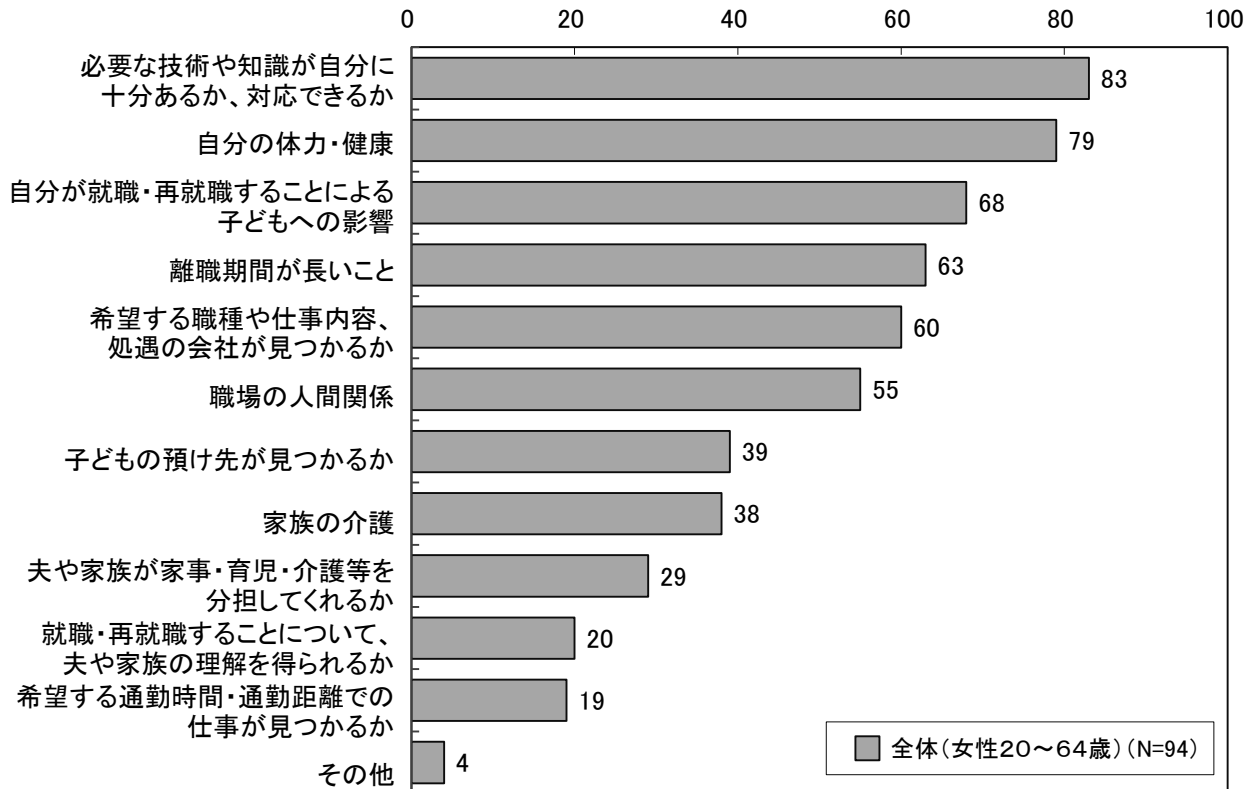
(6) 就労する上での不安

問 7-4 あなたが今後、仕事をしようとする上で、不安に思うことや問題になることは何ですか。次の中からあてはまるもの上位3つを選び、右の回答欄に番号を記入してください。

今後就労を希望する女性（20～64歳）の就労にあたっての不安点は、「必要な技術や知識が自分に十分あるか、対応できるか」が最も多く、次いで「自分の体力・健康」、「自分が就職・再就職することによる子どもへの影響」となっている。

図表 就労する上での不安（あてはまるものを3つ選択）

（単位：点）



※就労意向女性(女性20～64歳)ベース

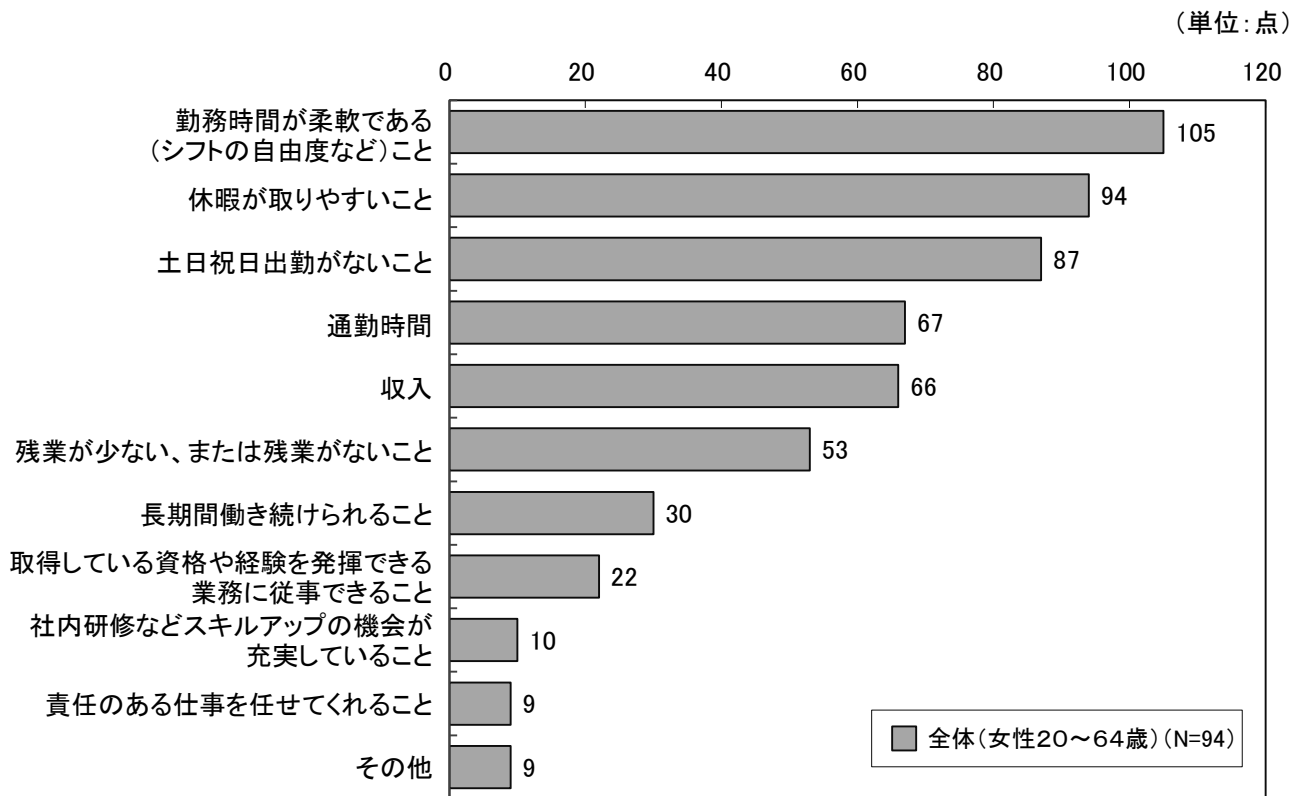
※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

(7) 就労にあたって重視すること

問 7-5 あなたが働くにあたって、重視することは何ですか。次の中からあてはまるもの上位3つを選び、右の回答欄に番号を記入してください。

今後就労を希望する女性（20～64歳）が就労にあたって重視することは、「勤務時間が柔軟である（シフトの自由度など）こと」が最も多く、次いで「休暇が取りやすいこと」、「土日祝日出勤がないこと」となっている。

図表 働くにあたって重視すること（あてはまるものを3つ選択）



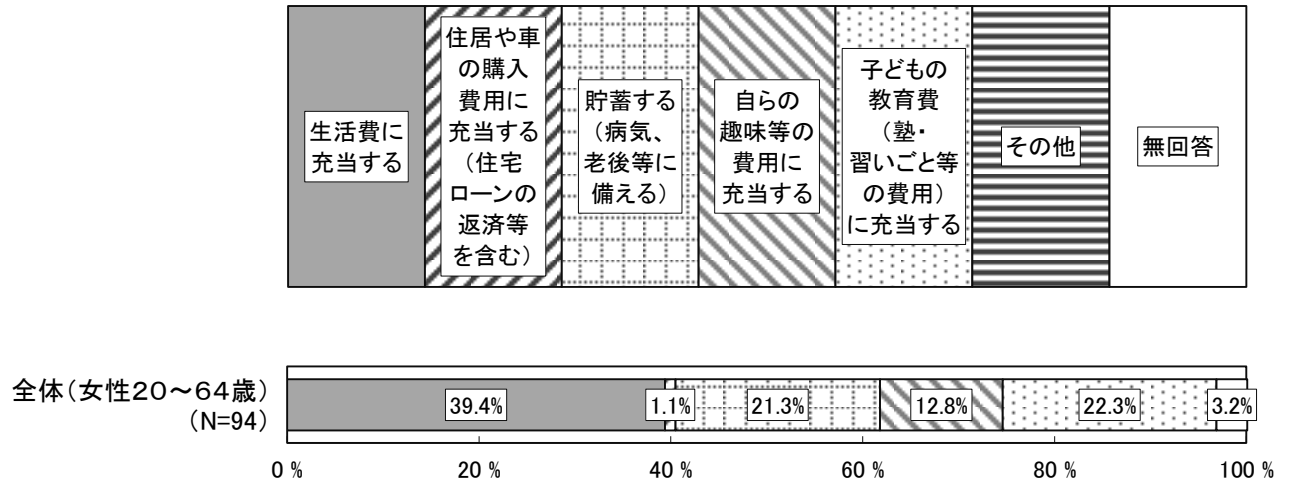
※就労意向女性(女性20～64歳)ベース  
※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

(8) 収入を得た場合の使い道

問 7-6 あなたは、あなたが働いて得られる収入を主に何に利用する予定ですか。(〇は1つ)

今後就労を希望する女性(20~64歳)が想定する収入の使い道は、「生活費に充当する」の割合が最も高く39.4%で、次いで「子どもの教育費(塾・習いごと等の費用)に充当する」(22.3%)、「貯蓄する(病気、老後等に備える)」(21.3%)となっている。

図表 収入を得た場合の使い道





### (9) 就労を希望しない理由

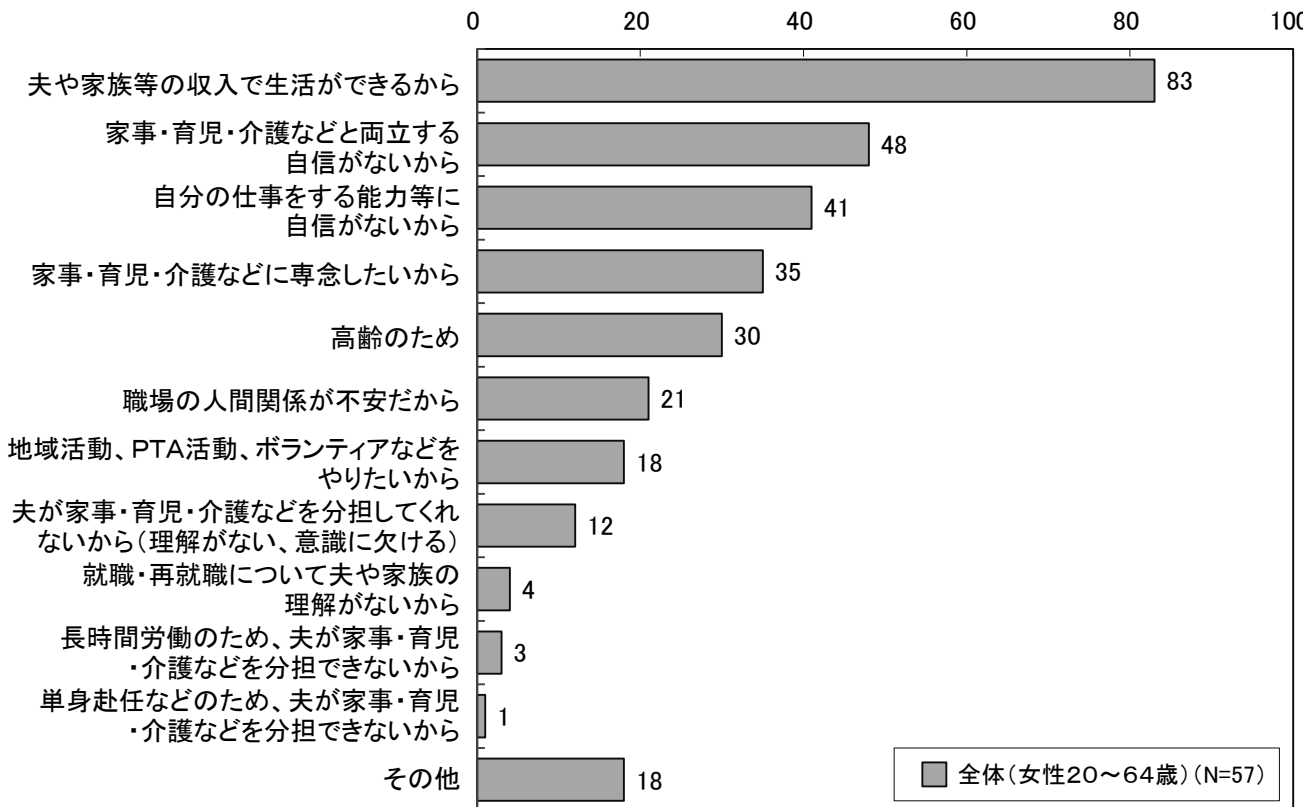
問6で「3. 就労を希望していない」と回答した女性の方にかがいます。  
それ以外の方は問9-1へお進みください。

問8 あなたが今後、就労を希望されていないのは、どのような理由からですか。次の中から最大の理由、第二の理由、第三の理由をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

今後就労を希望しない女性（20～64歳）の就労を希望しない理由は、「夫や家族等の収入で生活ができるから」が最も多く、次いで「家事・育児・介護などと両立する自信がないから」、「自分の仕事をする能力等に自信がないから」となっている。

図表 就労を希望しない理由（あてはまる理由を3つ選択）

（単位：点）



※非就労意向女性ベース

※最大の理由=3点、二番目の理由=2点、三番目の理由=1点として点数換算

## 8 固定的性別役割分担意識について

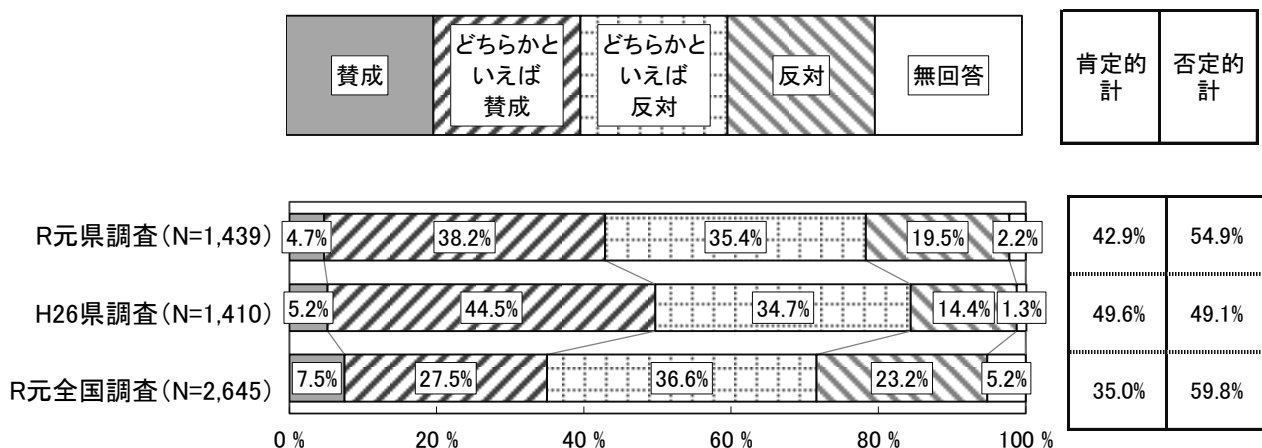
問 9-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、肯定的な人の割合（「賛成」、「どちらかといえば賛成」の計）は42.9%、否定的な人の割合（「反対」、「どちらかといえば反対」の計）は54.9%である。また、肯定的な人（42.9%）の割合は、前回調査（49.6%）と比較すると6.7ポイント減少したものの、全国調査（35.0%）と比較すると7.9ポイント高くなっている。

否定的な人の割合は、男女別・年代別すべての中で女性の20歳代が最も高く（71.2%）、次いで男性の20歳代（69.7%）となっており、前回調査と比べると、女性の20歳代では15.3ポイント、男性の20歳代では16.5ポイント増加した。

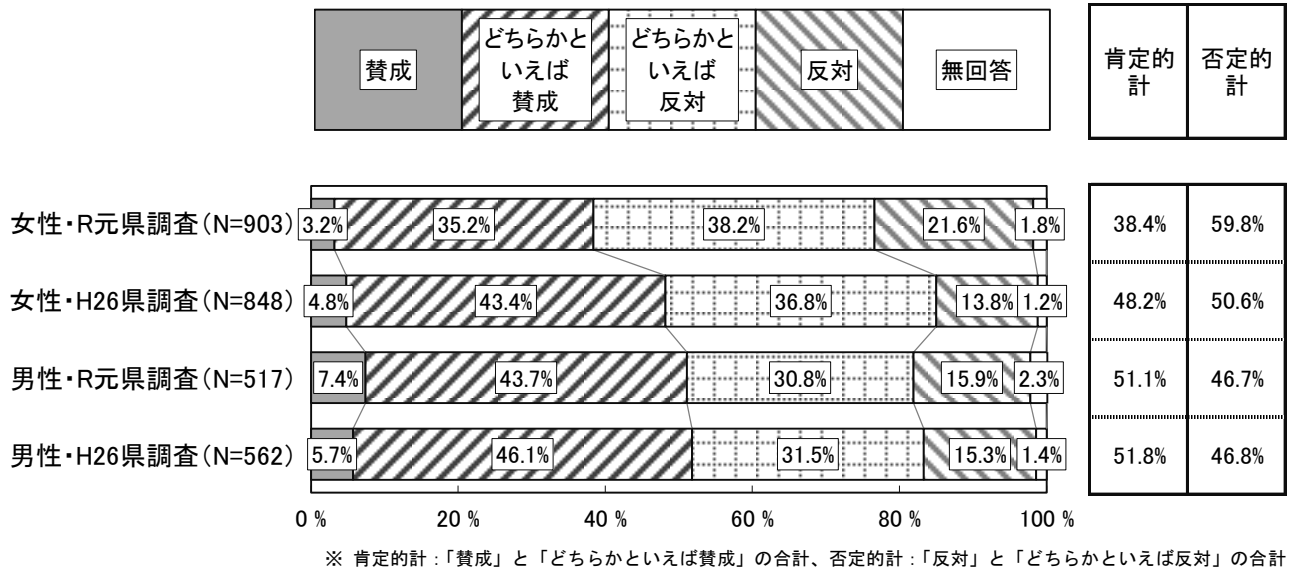
男女別に肯定的な人の割合をみると、男性は女性より12.7ポイント高い（男性51.1%、女性38.4%）。女性は前回調査（48.2%）から9.8ポイント減少したのに対し、男性は前回調査（51.8%）との差がほとんどなかった。さらに、男女別・年代別に見ると、女性は20歳代から50歳代のすべての年代で、肯定的な人の割合が前回と比べて10ポイント以上減少し、男性は20歳代と40歳代で肯定的な人の割合が前回と比べて10ポイント以上減少した。

図表 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（前回・全国比較）

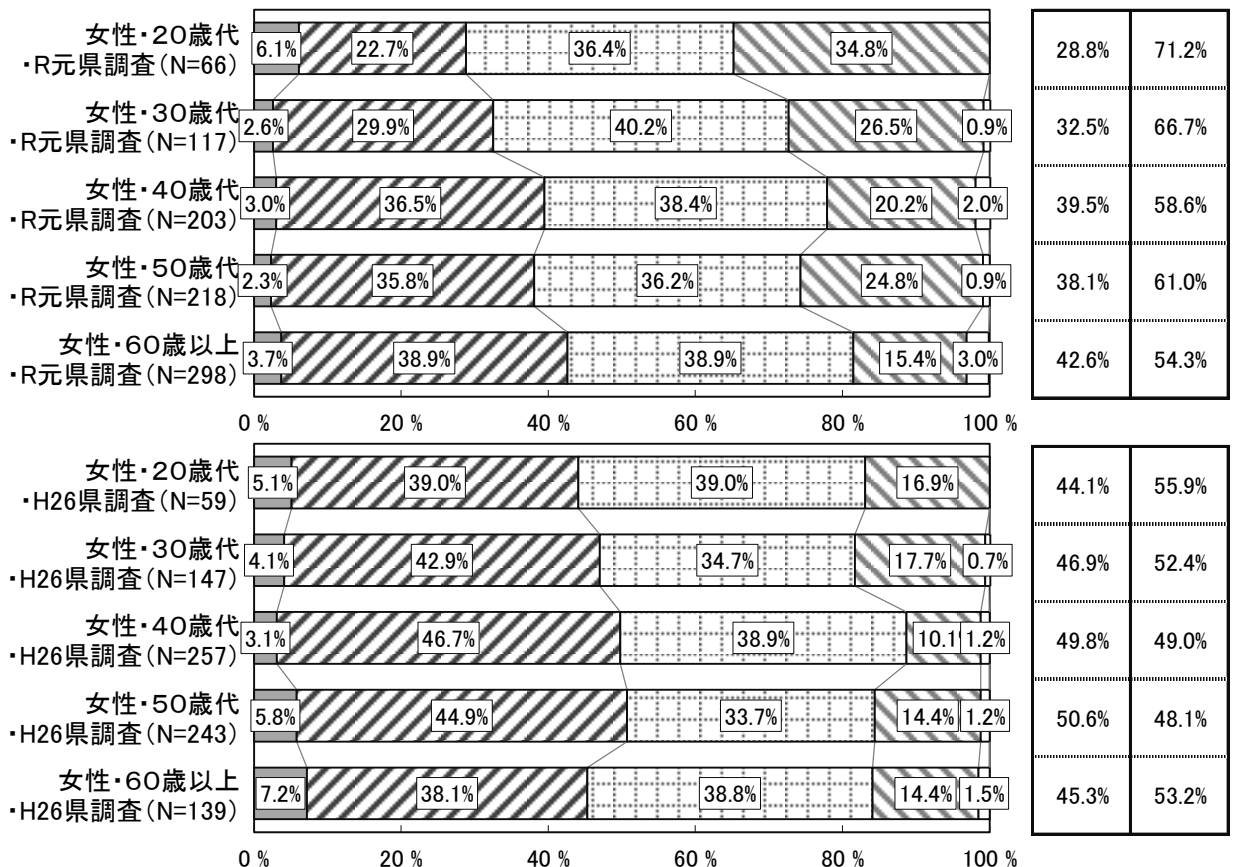


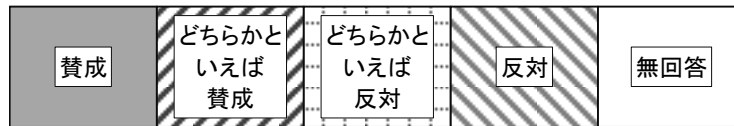
※ 肯定的計：「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、否定的計：「反対」と「どちらかといえば反対」の合計

図表 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（男女別）

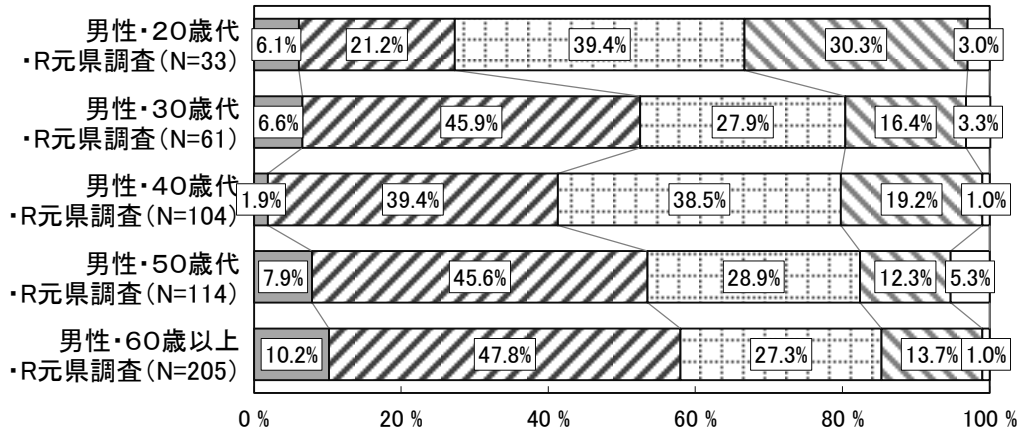


図表 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（男女別・年代別）

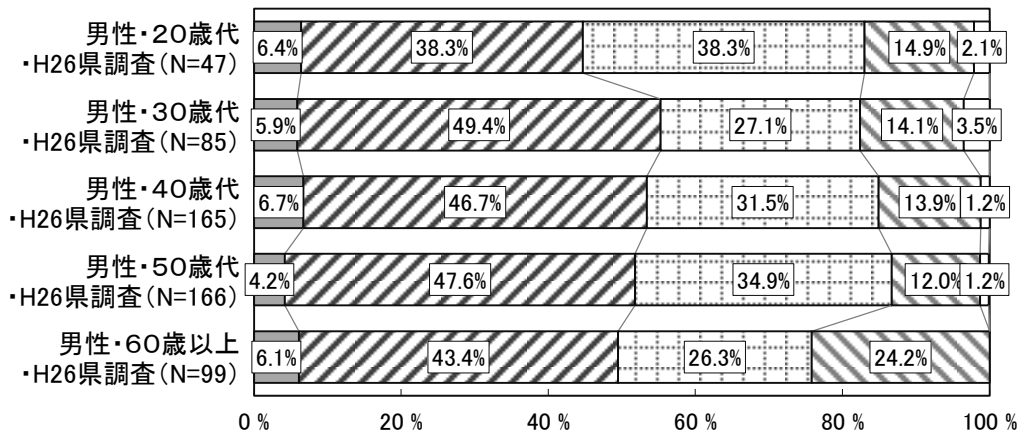




肯定的計	否定的計
------	------



27.3%	69.7%
52.5%	44.3%
41.3%	57.7%
53.5%	41.2%
58.0%	41.0%



44.7%	53.2%
55.3%	41.2%
53.3%	45.5%
51.8%	47.0%
49.5%	50.5%

※ 肯定的計：「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、否定的計：「反対」と「どちらかといえば反対」の合計

## 9 男女の地域や家庭における役割等について

問 9-2 次の（１）～（６）のことがらについて、どのように思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

問 9-3 次の（１）～（６）のことがらについて、あなたのご家庭における現状に最も近いものはどれですか（項目は問 9-2 と同内容）。（○はそれぞれ１つずつ）

### ① 日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）

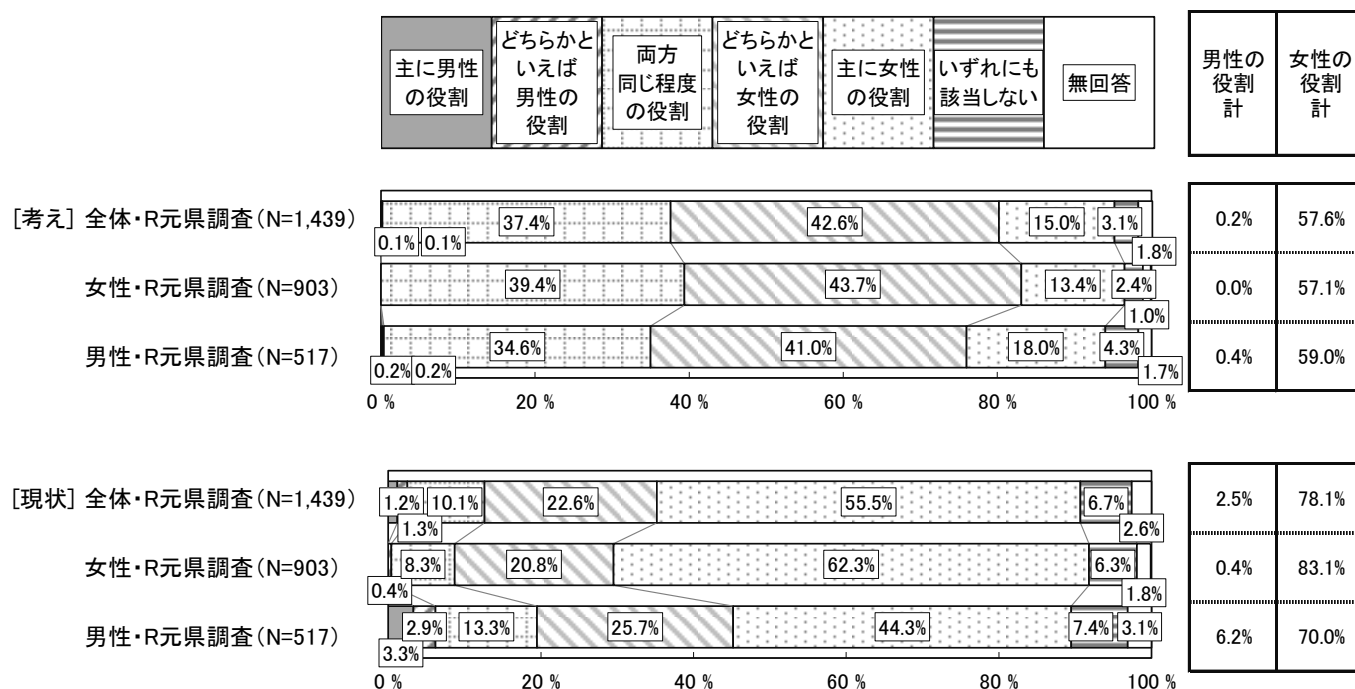
「日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）」を、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は 57.6% である。考えと現状の乖離（スコア差）をみると、考えに対して現状は女性の役割となっている人の割合が 20.5 ポイント高くなっている。

#### 【男女別】

女性では、女性の役割と考える人の割合が 57.1%、現状は女性の役割となっている人の割合が 83.1% で、考えと現状の乖離（スコア差）は 26.0 ポイントとなっている。

男性では、女性の役割と考える人の割合が 59.0%、現状は女性の役割となっている人の割合が 70.0% で、考えと現状の乖離（スコア差）は 11.0 ポイントとなっている。

図表 日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）

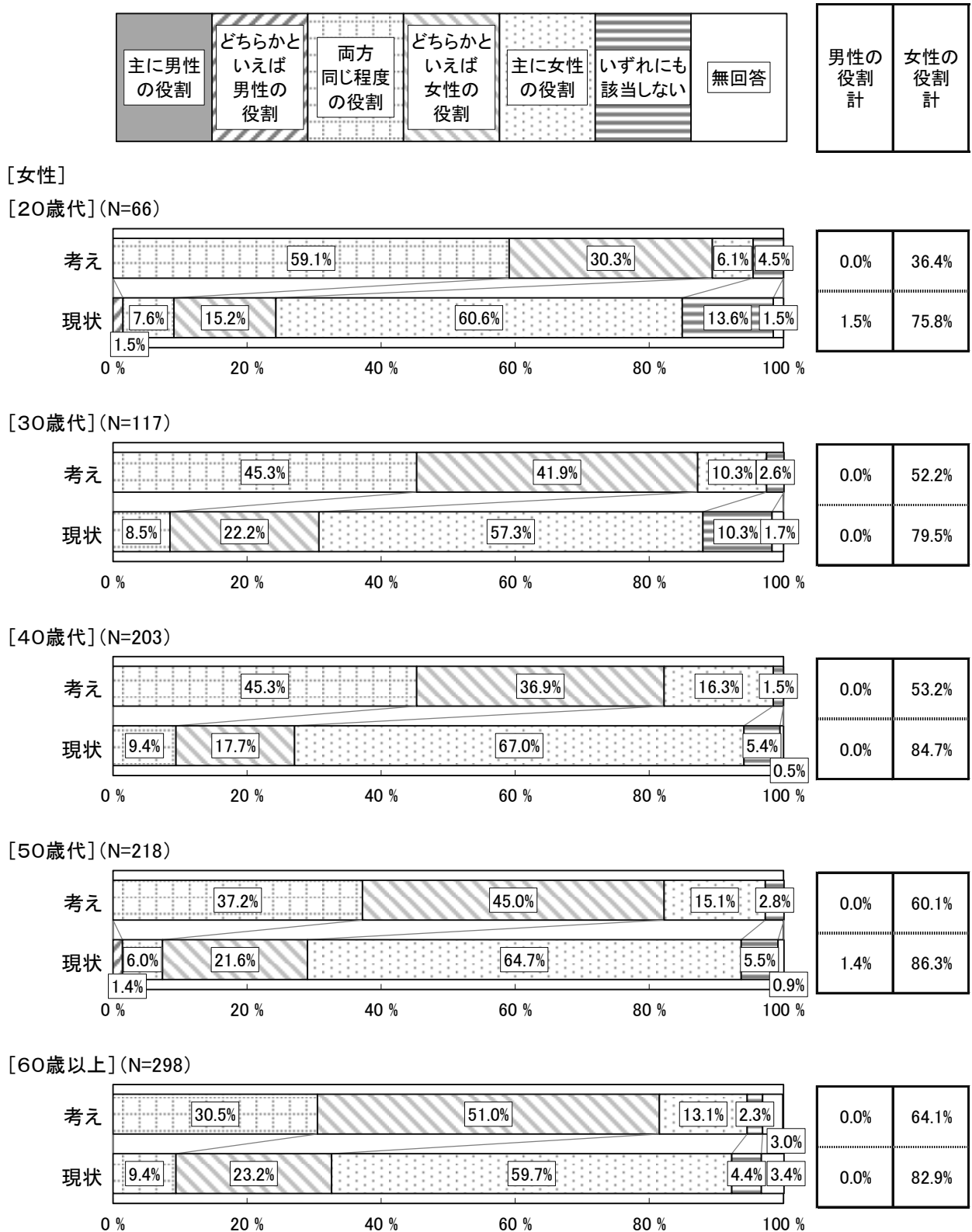


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

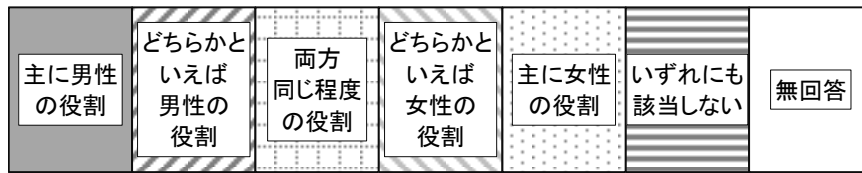
【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、男女ともに30歳代以上は半数以上が考え・現状ともに女性の役割としている。

図表 日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）（男女別・年代別）



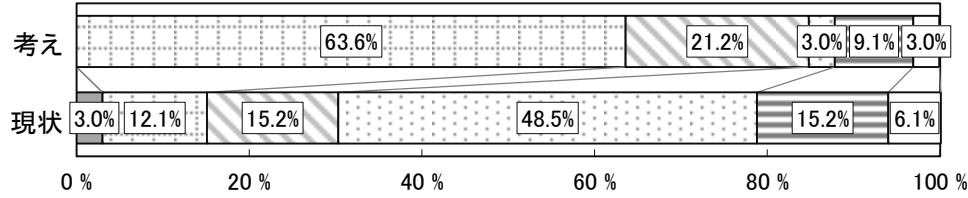
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計



男性の役割計	女性の役割計
--------	--------

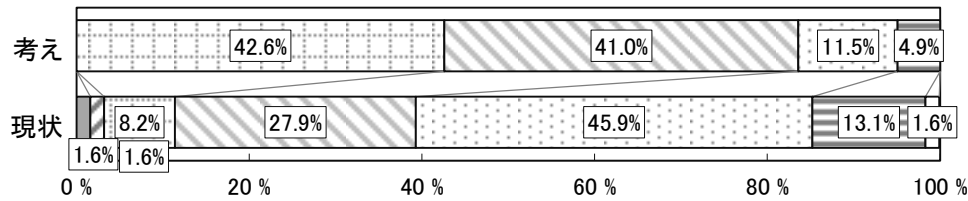
[男性]

[20歳代] (N=33)



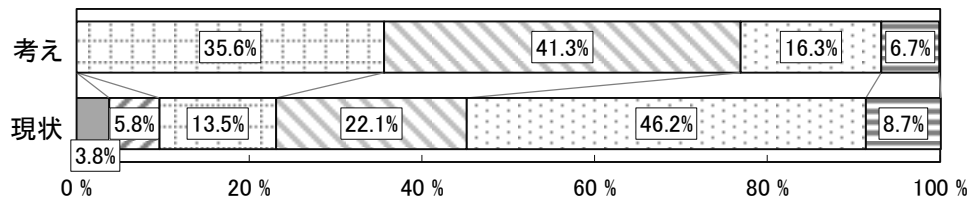
0.0%	24.2%
3.0%	63.7%

[30歳代] (N=61)



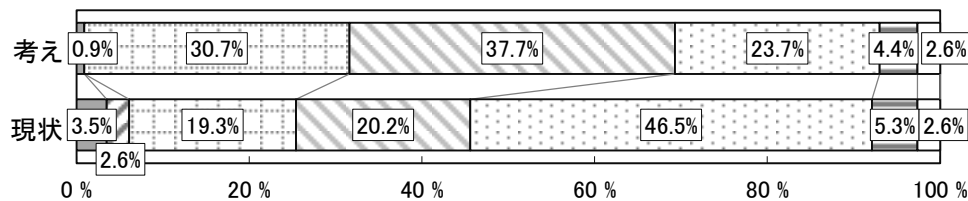
0.0%	52.5%
3.2%	73.8%

[40歳代] (N=104)



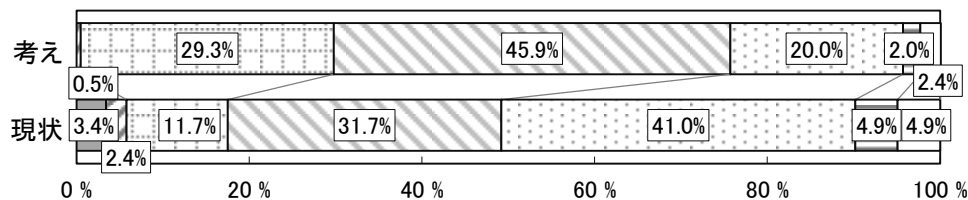
0.0%	57.6%
9.6%	68.3%

[50歳代] (N=114)



0.9%	61.4%
6.1%	66.7%

[60歳以上] (N=205)



0.5%	65.9%
5.8%	72.7%

※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

## ② 乳幼児の世話

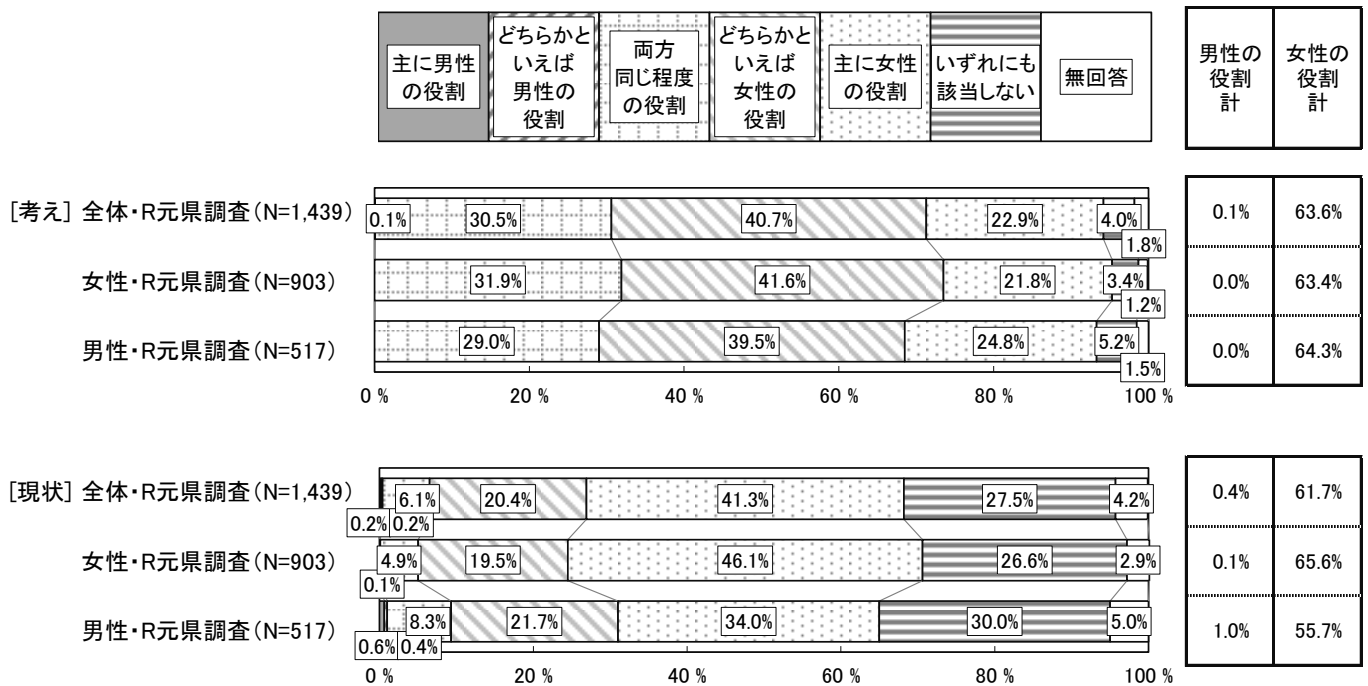
「乳幼児の世話」を、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は63.6%となっている。考えと現状の乖離（スコア差）に大きな差はみられない。

### 【男女別】

女性では、女性の役割と考える人の割合が63.4%、現状は女性の役割となっている人の割合が65.6%で、考えと現状の乖離（スコア差）に大きな差はみられない。

男性では、女性の役割と考える人の割合が64.3%、現状は女性の役割となっている人の割合が55.7%で、考えと現状の乖離（スコア差）は8.6ポイントとなっている。

図表 乳幼児の世話



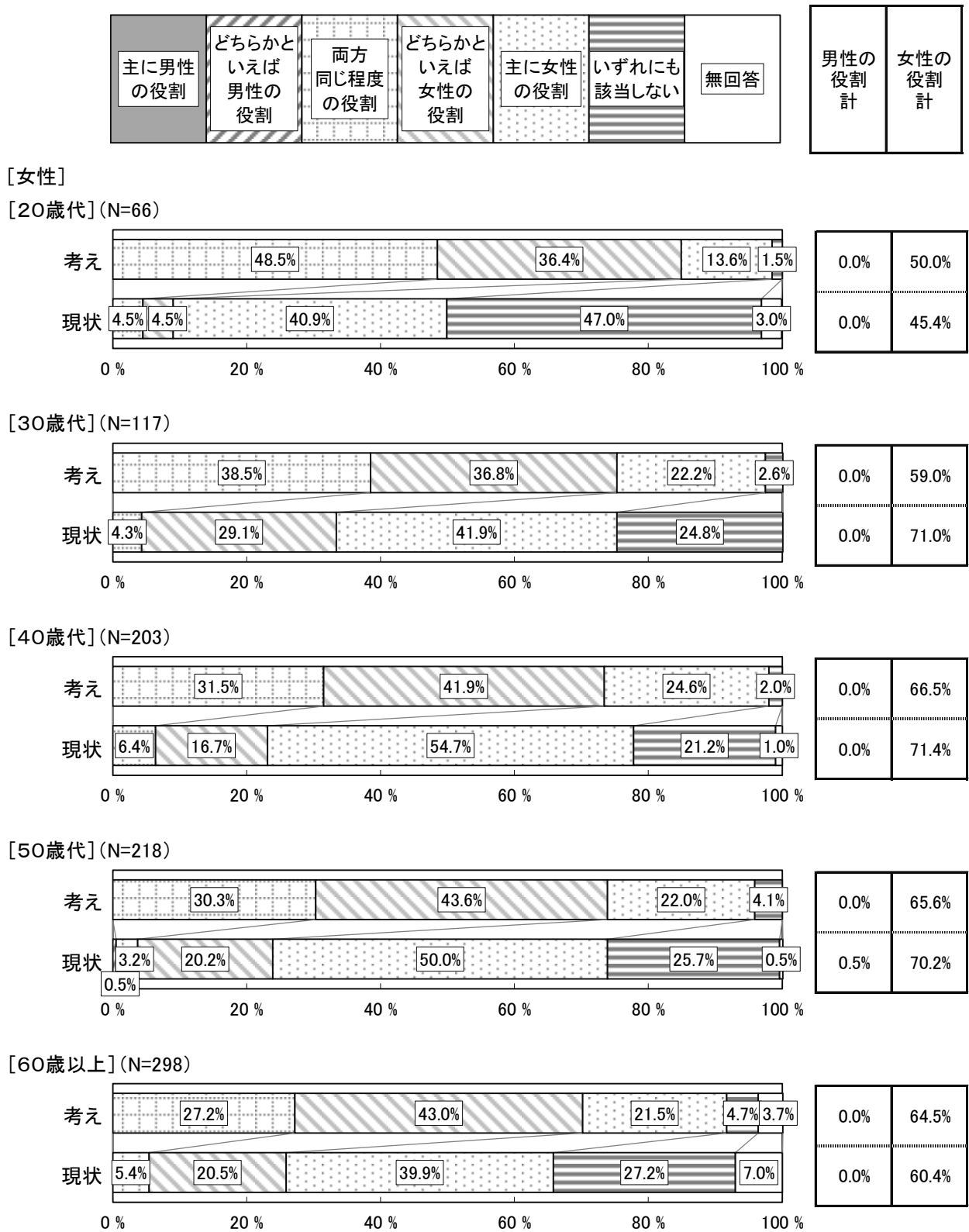
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計



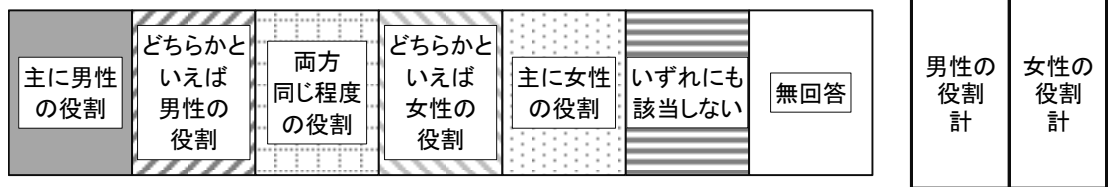
【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、女性は年代を問わず半数以上が考え・現状ともに女性の役割としている。

図表 乳幼児の世話（男女別・年代別）

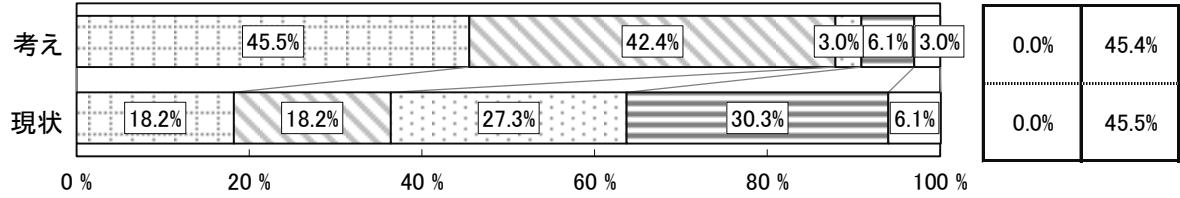


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

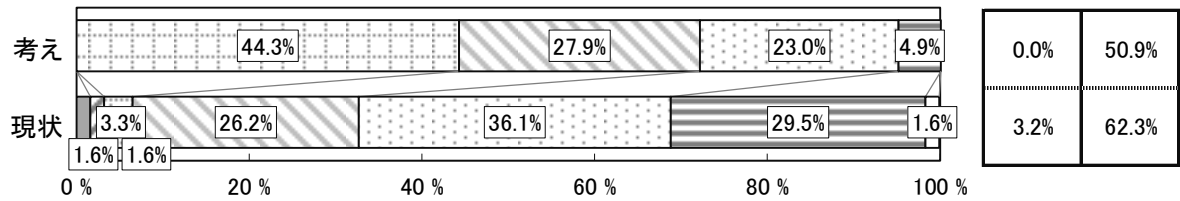


[男性]

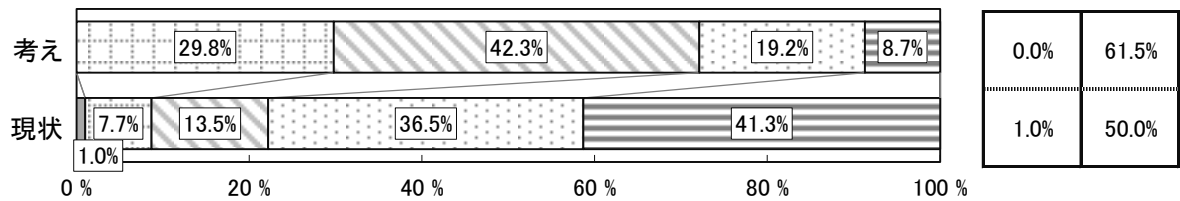
[20歳代] (N=33)



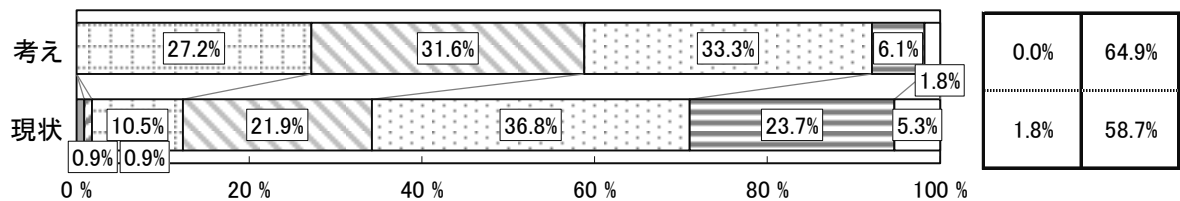
[30歳代] (N=61)



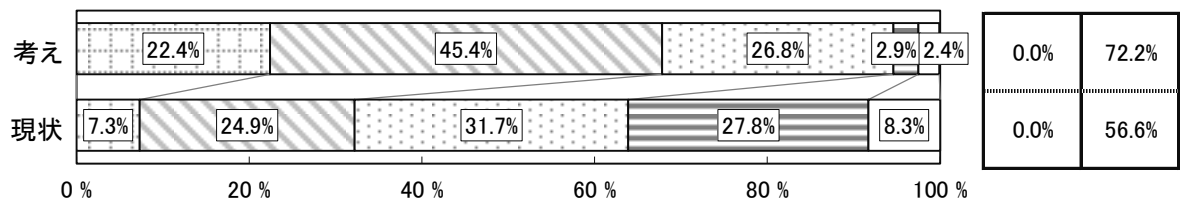
[40歳代] (N=104)



[50歳代] (N=114)



[60歳以上] (N=205)



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

### ③ 子どもの教育としつけ、学校行事

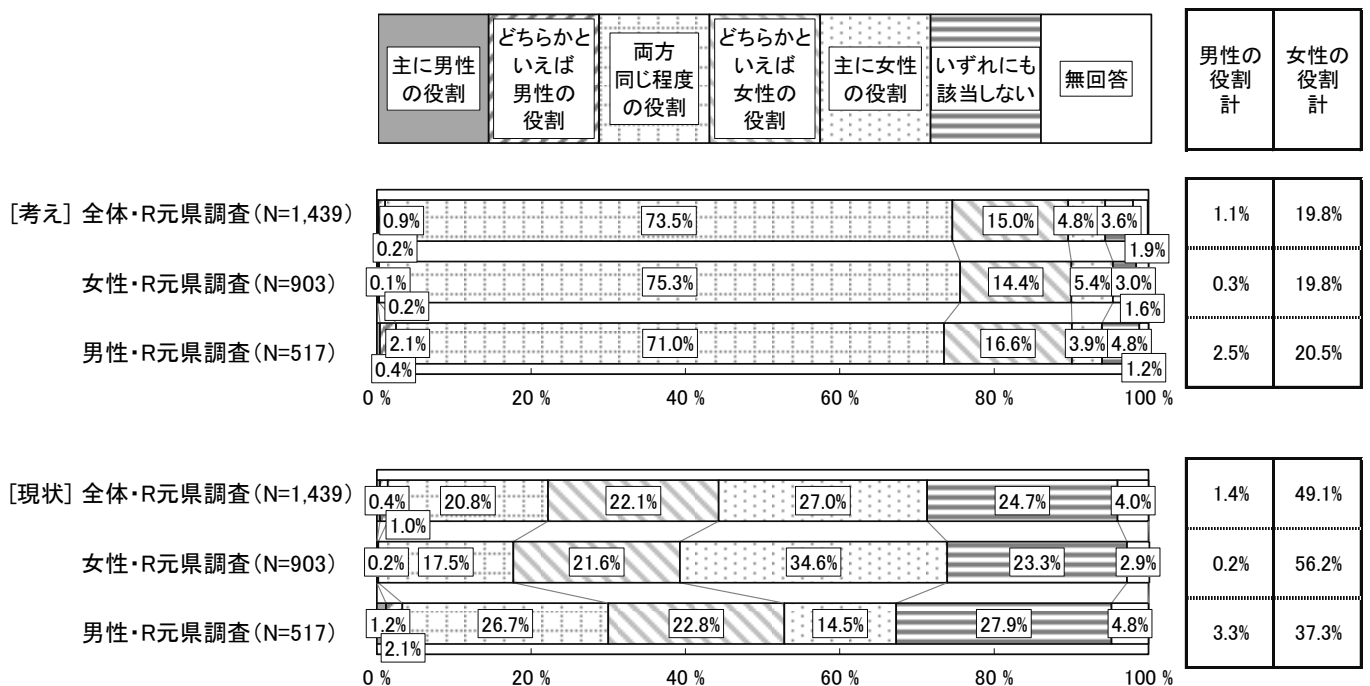
「子どもの教育としつけ、学校行事」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は73.5%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は19.8%となっている。考えと現状の乖離（スコア差）をみると、考えに対して現状は女性の役割となっている人の割合が29.3ポイント高くなっている。

#### 【男女別】

女性では、女性の役割と考える人の割合が19.8%、現状は女性の役割となっている人の割合が56.2%で、考えと現状の乖離（スコア差）は36.4ポイントとなっている。

男性では、女性の役割と考える人の割合が20.5%、現状は女性の役割となっている人の割合が37.3%で、考えと現状の乖離（スコア差）は16.8ポイントとなっている。

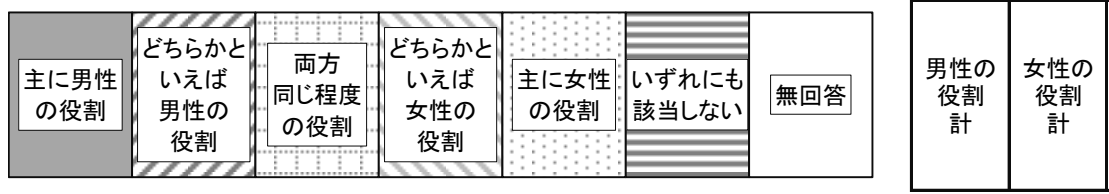
図表 子どもの教育としつけ、学校行事



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

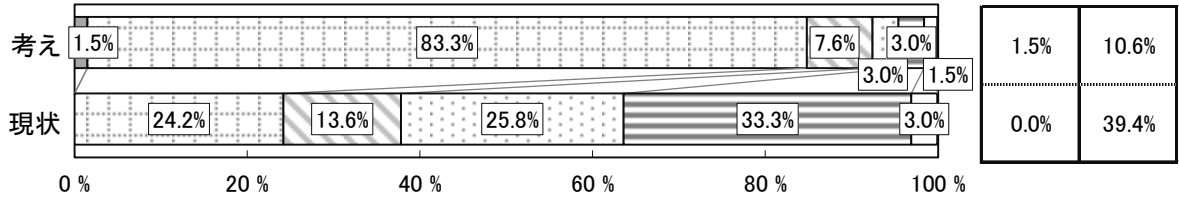
【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、考えは男女を問わず女性の役割計は 20%前後であるのに対して、現状は女性の役割計が高くなっており、特に女性 30 歳代から 50 歳代にかけて考えと現状の女性の役割計のスコア差が大きくなっている。

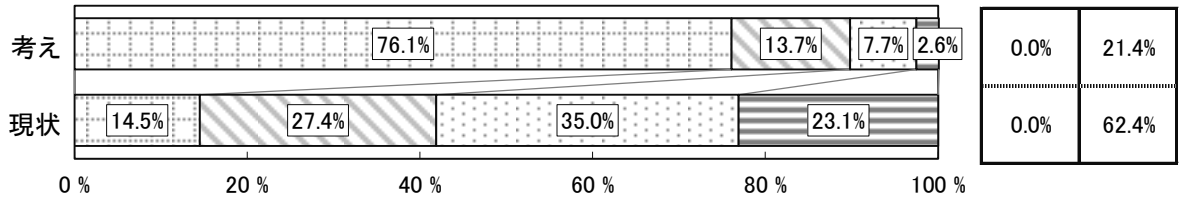


[女性]

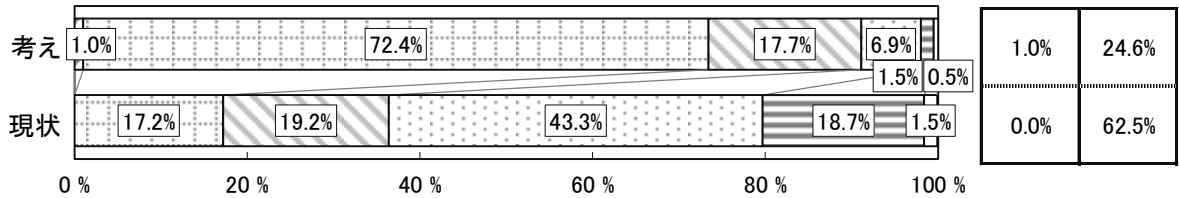
[20歳代] (N=66)



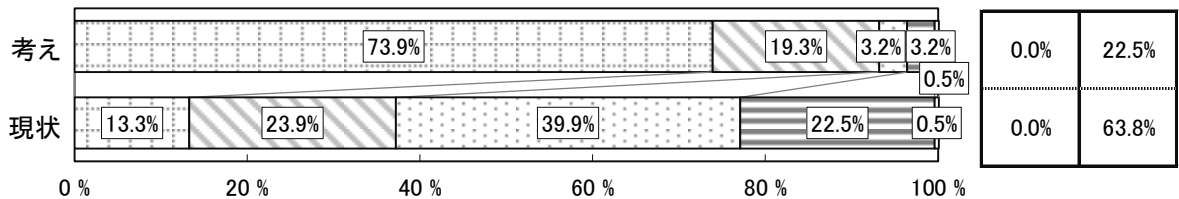
[30歳代] (N=117)



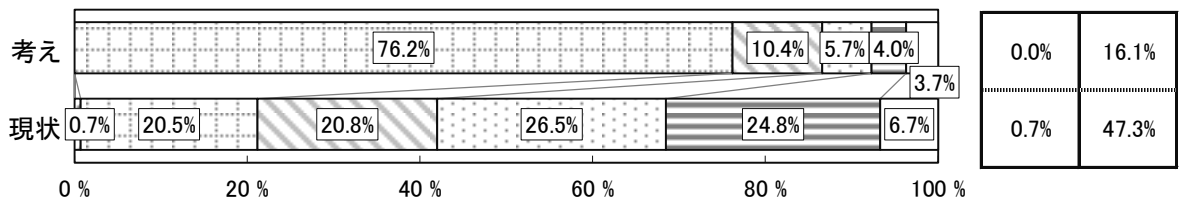
[40歳代] (N=203)



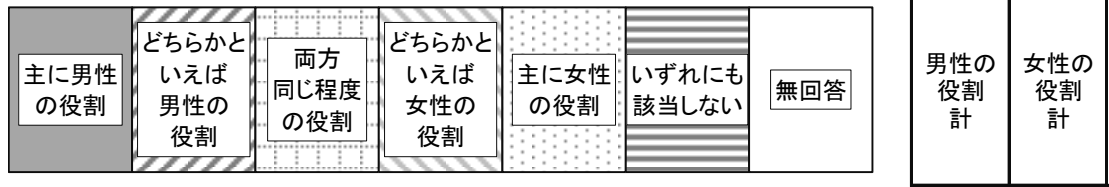
[50歳代] (N=218)



[60歳以上] (N=298)

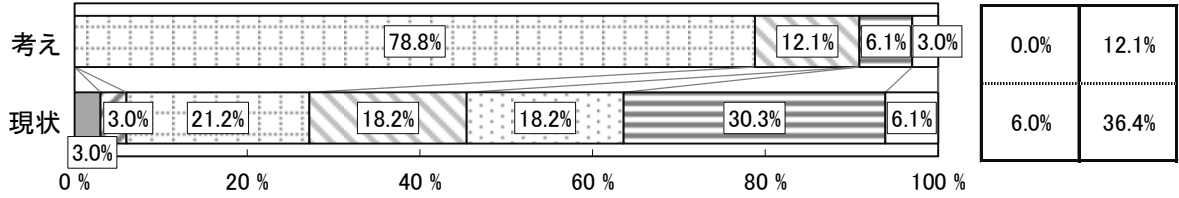


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

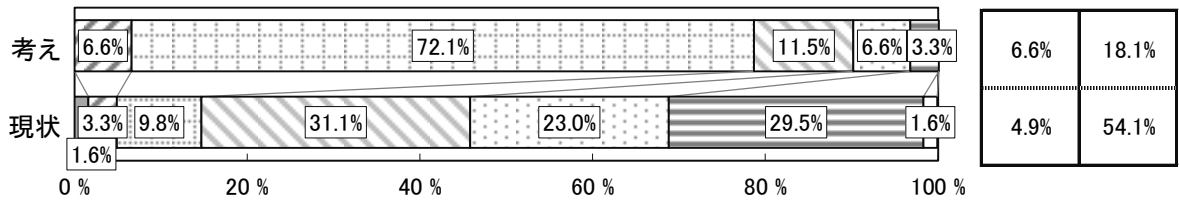


[男性]

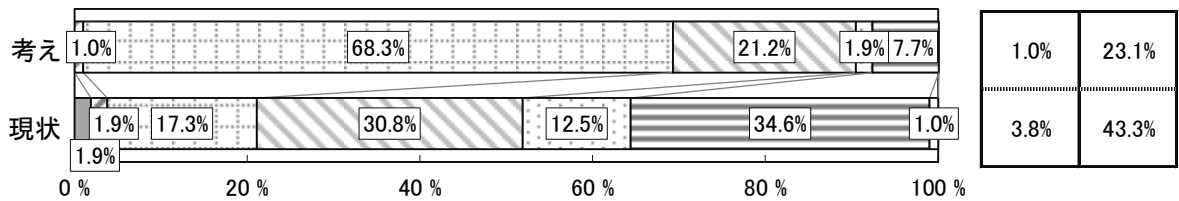
[20歳代] (N=33)



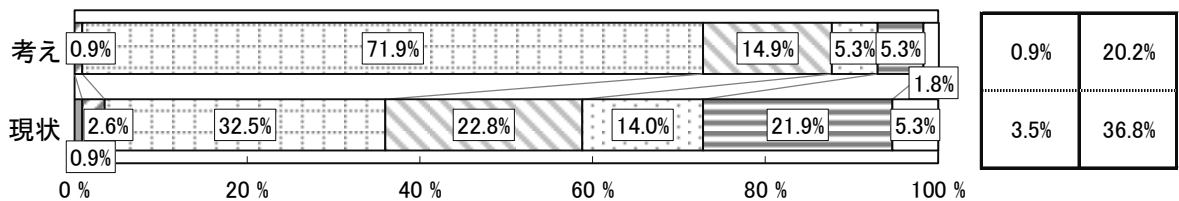
[30歳代] (N=61)



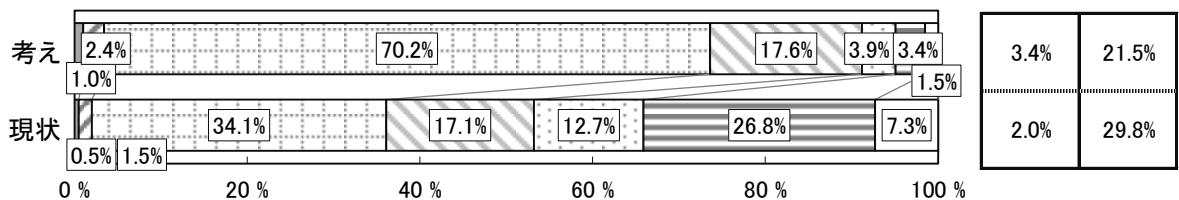
[40歳代] (N=104)



[50歳代] (N=114)



[60歳以上] (N=205)



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

#### ④ 老親や病身者の介護や看護

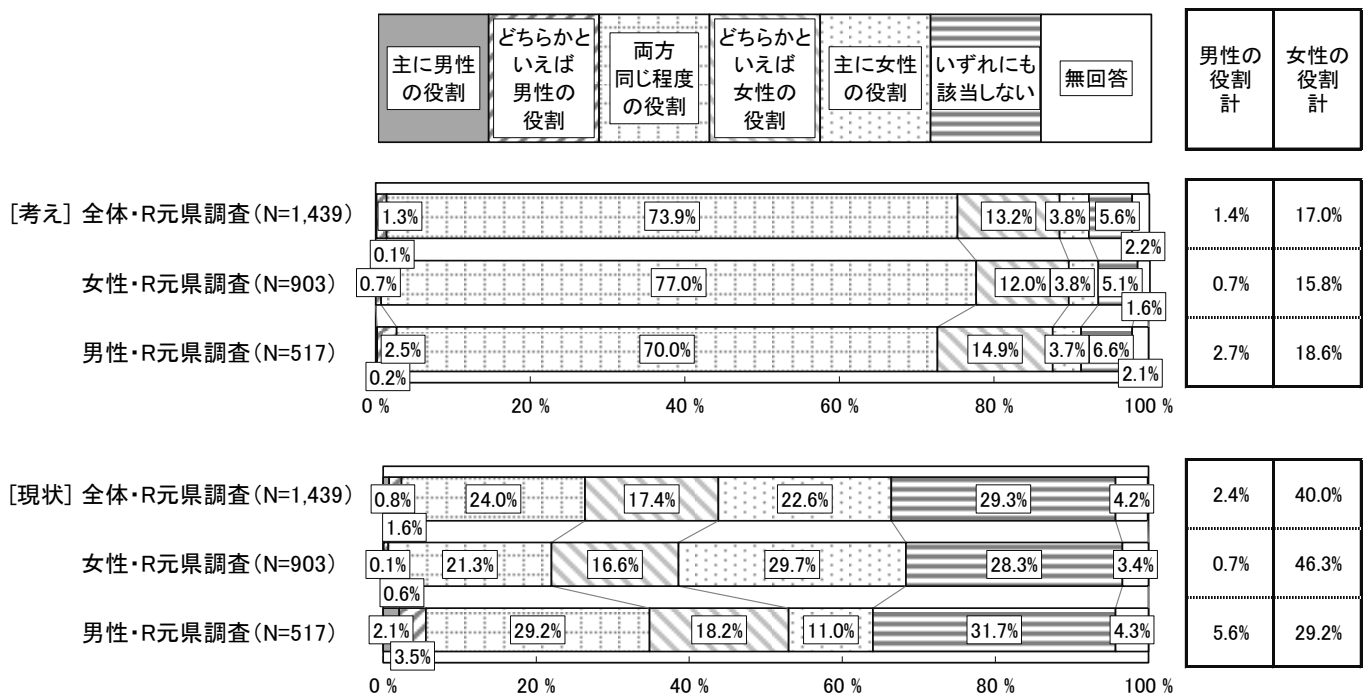
「老親や病身者の介護や看護」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は 73.9%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は 17.0%となっている。考えと現状の乖離（スコア差）をみると、考えに対して現状は女性の役割となっている人の割合が 23.0 ポイント高くなっている。

##### 【男女別】

女性では、女性の役割と考える人の割合が 15.8%、現状は女性の役割となっている人の割合が 46.3%で、考えと現状の乖離（スコア差）は 30.5 ポイントとなっている。

男性では、女性の役割と考える人の割合が 18.6%、現状は女性の役割となっている人の割合が 29.2%で、考えと現状の乖離（スコア差）は 10.6 ポイントとなっている。

図表 老親や病身者の介護や看護

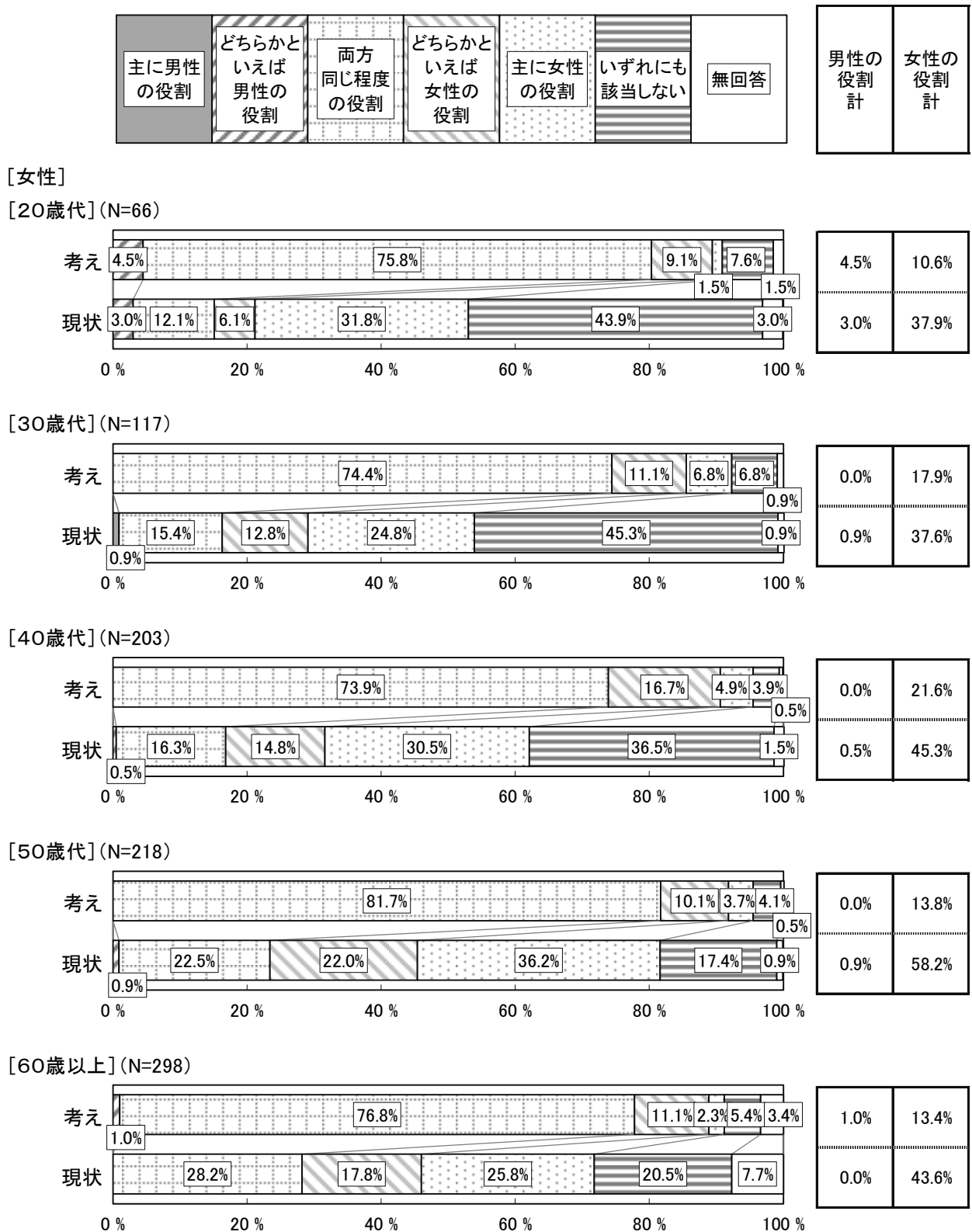


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

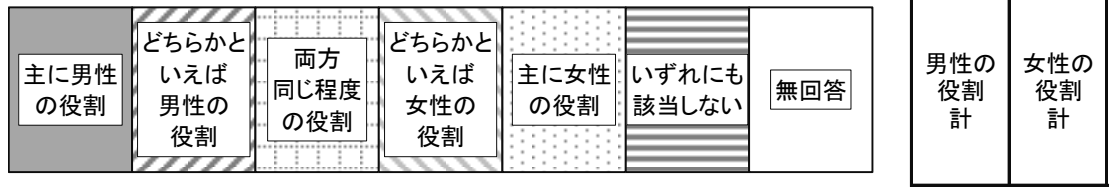
【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、考えは男女を問わず女性の役割計は 20%前後であるのに対して、現状は女性の役割計が高くなっており、特に 40 歳代以上の女性は 40%を超えている。

図表 老親や病身者の介護や看護（男女別・年代別）

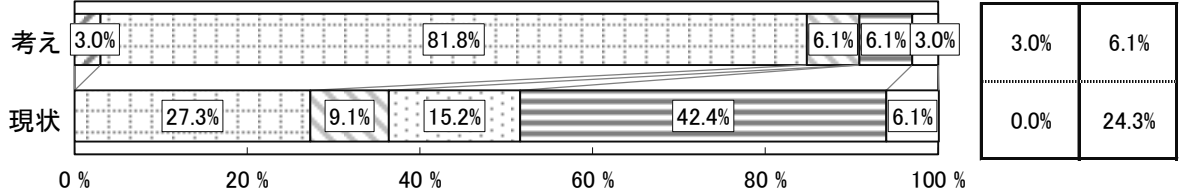


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

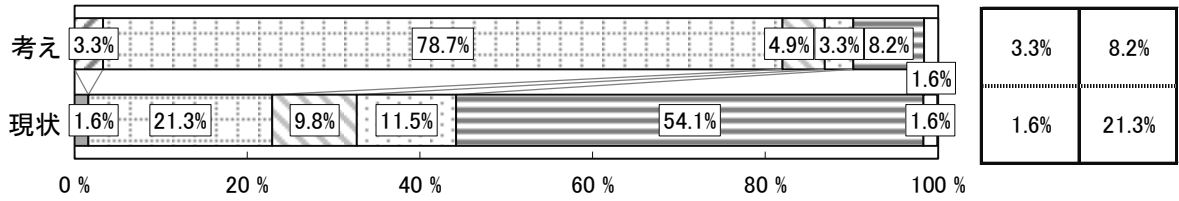


[男性]

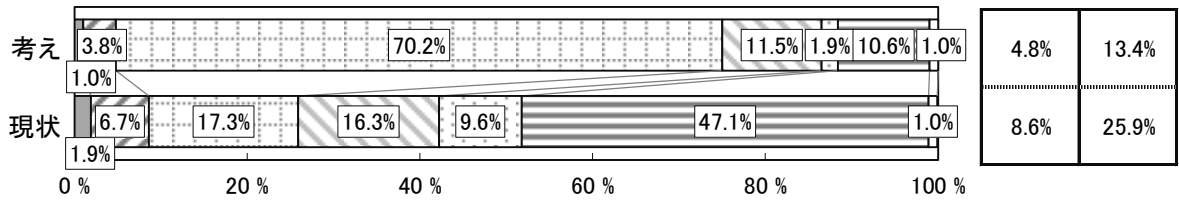
[20歳代] (N=33)



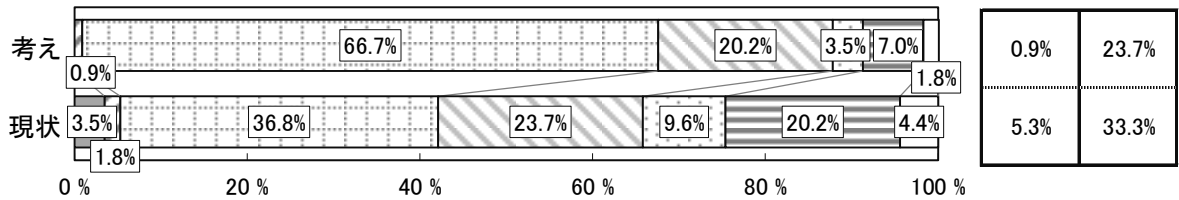
[30歳代] (N=61)



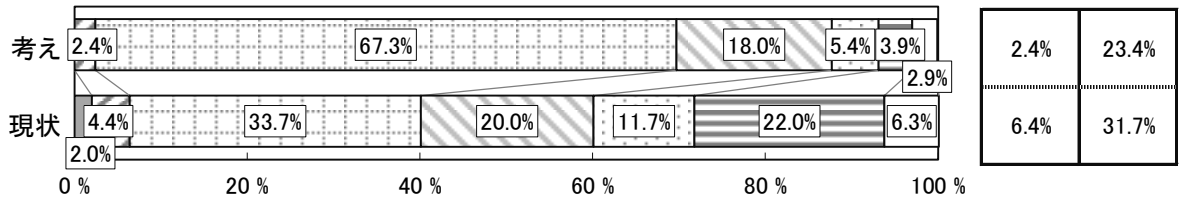
[40歳代] (N=104)



[50歳代] (N=114)



[60歳以上] (N=205)



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

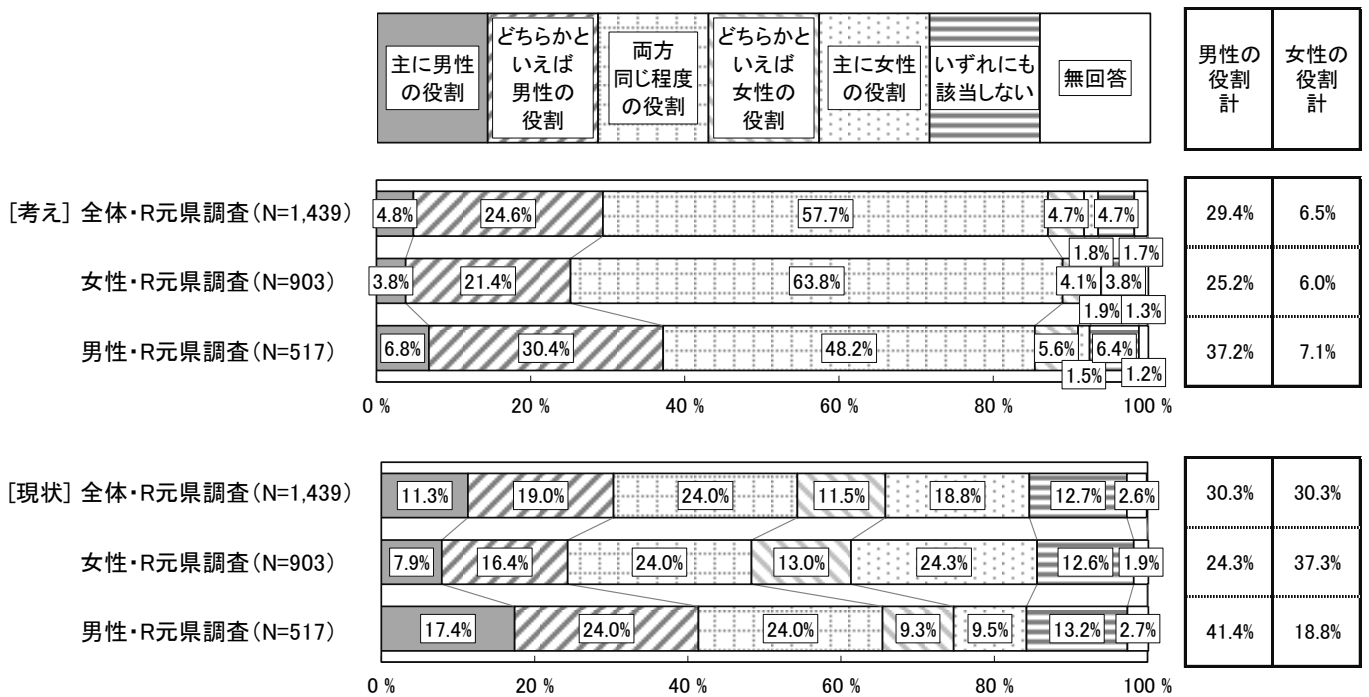


### ⑤ 自治会、町内会など地域活動への参加

「自治会、町内会など地域活動への参加」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は57.7%、男性の役割と考える人の割合（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の計）は29.4%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は6.5%となっている。

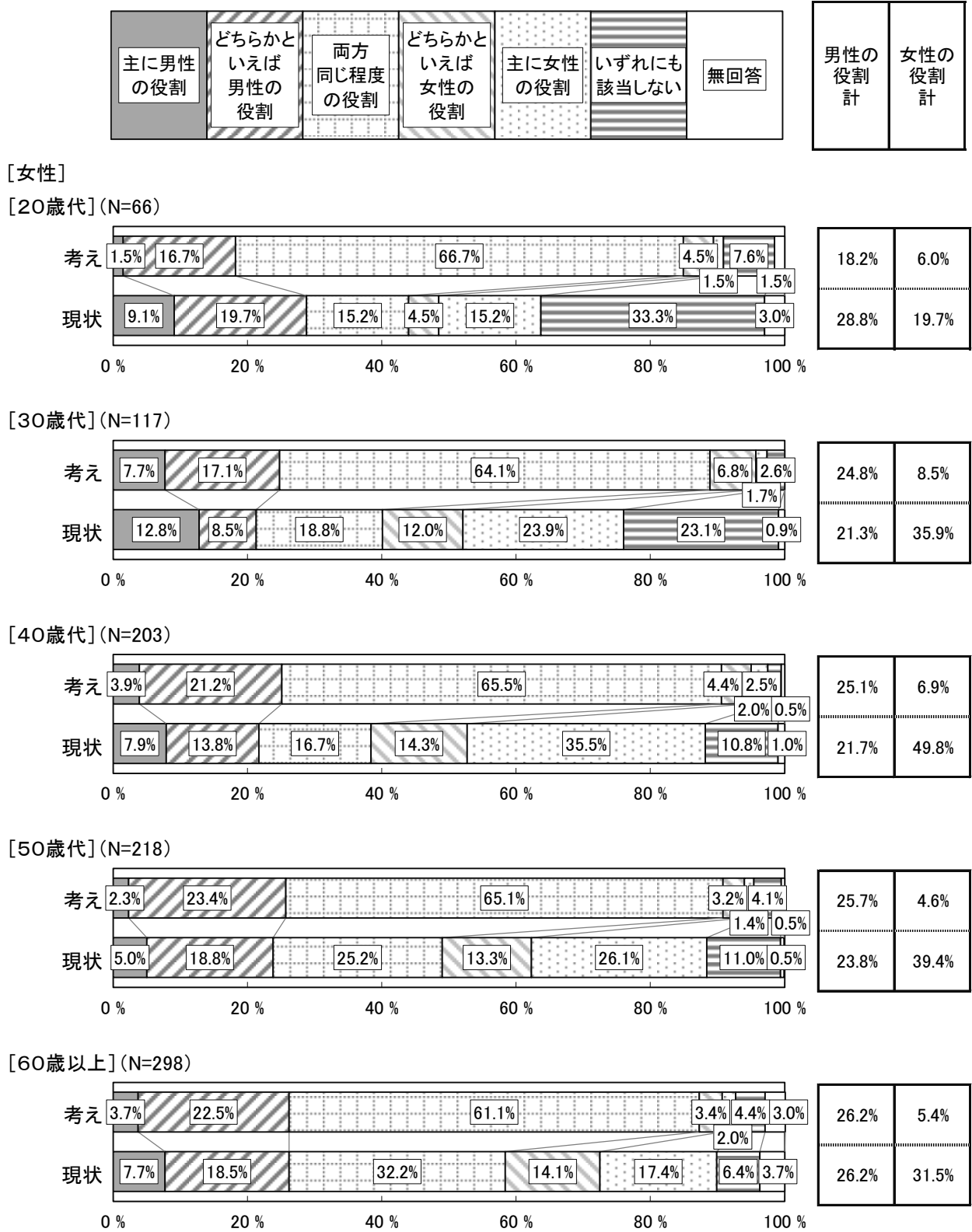
現状においては、男女とも同じ程度の役割となっている人の割合は24.0%、男性の役割となっている人の割合は30.3%、女性の役割となっている人の割合は30.3%となっている。

図表 自治会、町内会など地域活動への参加

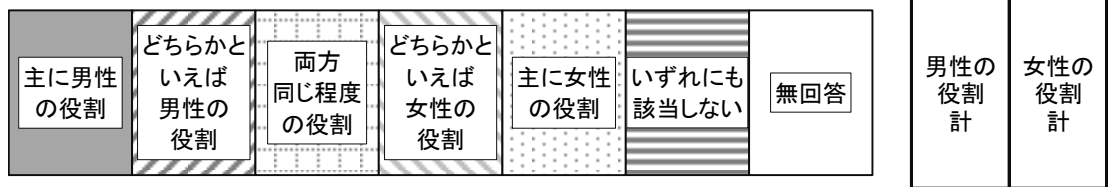


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

図表 自治会、町内会など地域活動への参加（男女別・年代別）

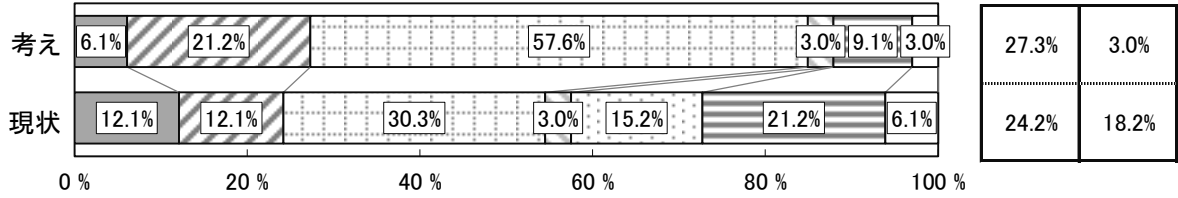


※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

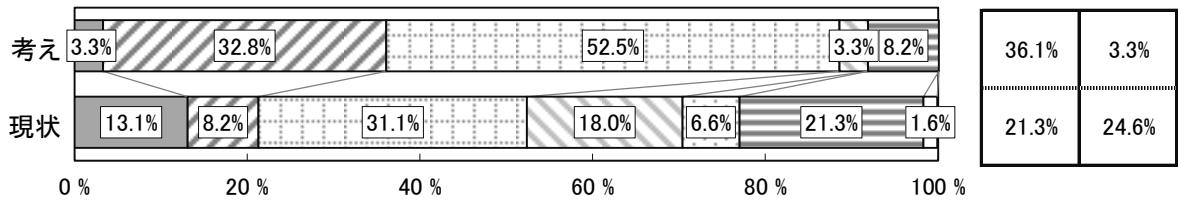


[男性]

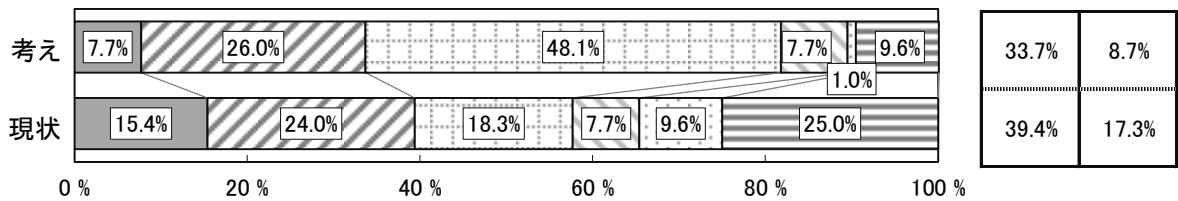
[20歳代] (N=33)



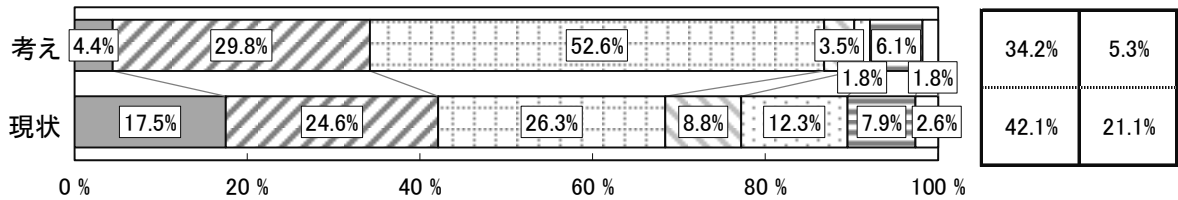
[30歳代] (N=61)



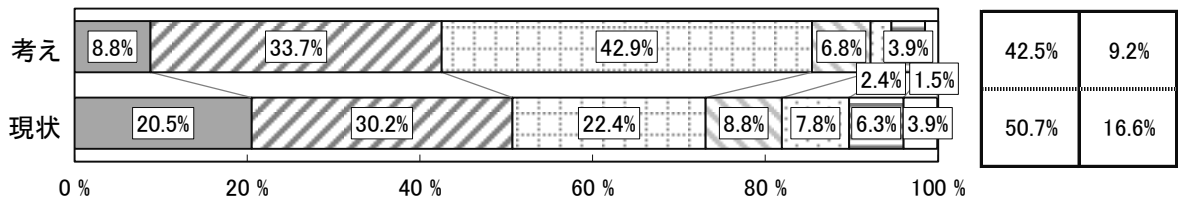
[40歳代] (N=104)



[50歳代] (N=114)



[60歳以上] (N=205)



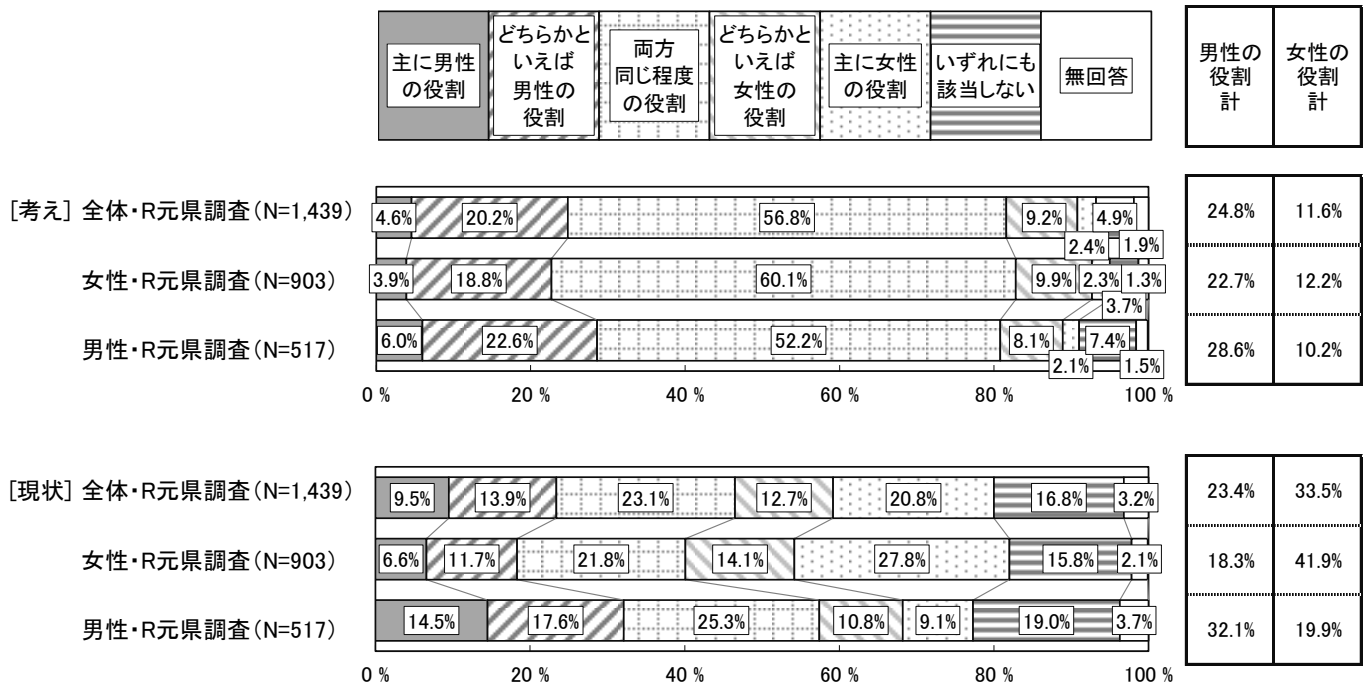
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

## ⑥ 自治会、町内会、学校関係の役員

「自治会、町内会、学校関係の役員」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は56.8%、男性の役割と考える人の割合（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の計）は24.8%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は11.6%となっている。

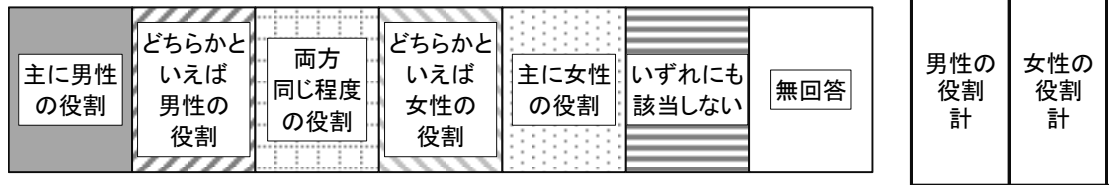
現状においては、男女とも同じ程度の役割となっている人の割合は23.1%、男性の役割となっている人の割合は23.4%、女性の役割となっている人の割合は33.5%となっている。

図表 自治会、町内会、学校関係の役員



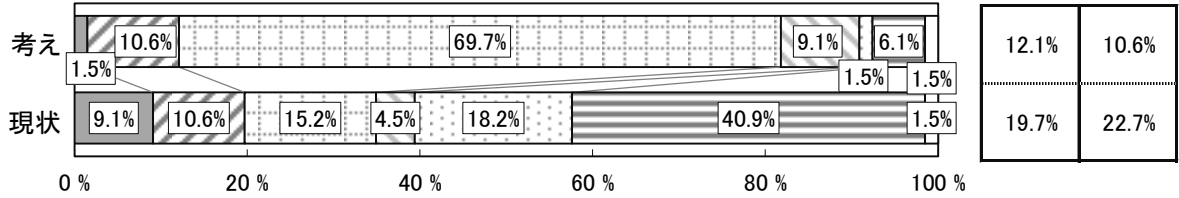
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

図表 自治会、町内会、学校関係の役員（男女別・年代別）

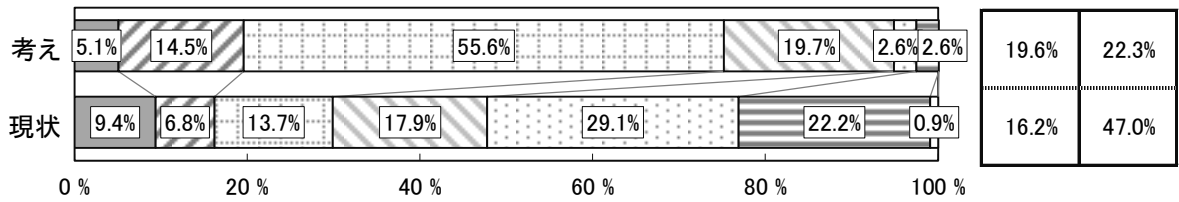


[女性]

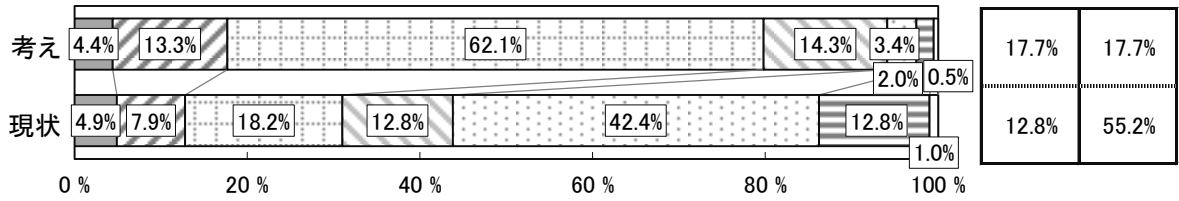
[20歳代] (N=66)



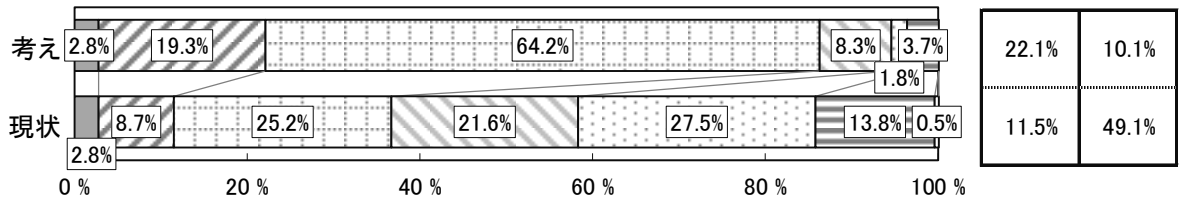
[30歳代] (N=117)



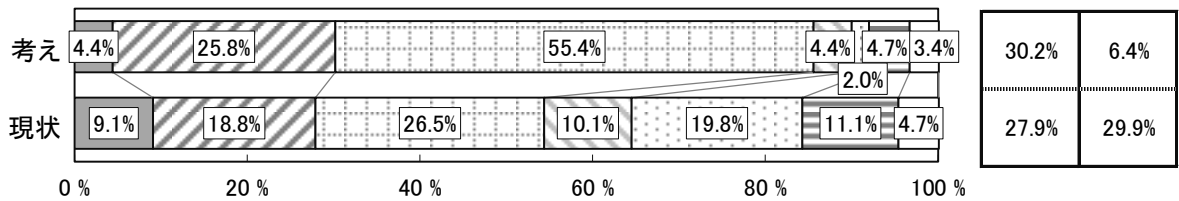
[40歳代] (N=203)



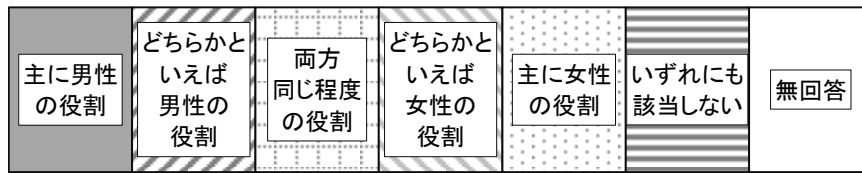
[50歳代] (N=218)



[60歳以上] (N=298)



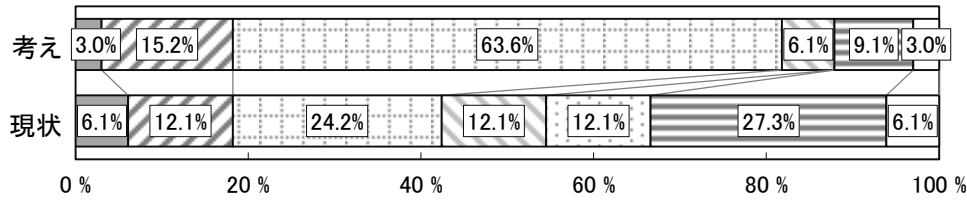
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計



男性の役割計	女性の役割計
--------	--------

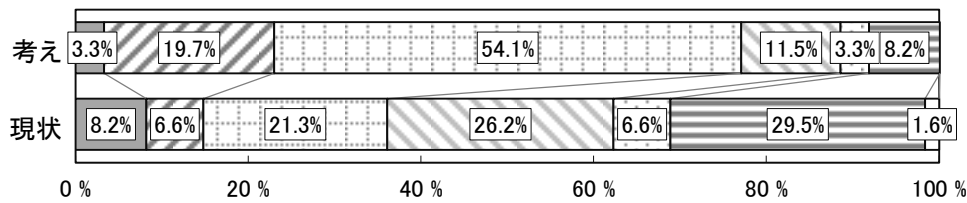
[男性]

[20歳代] (N=33)



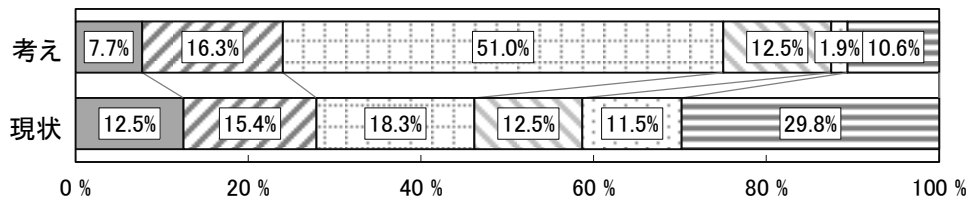
18.2%	6.1%
18.2%	24.2%

[30歳代] (N=61)



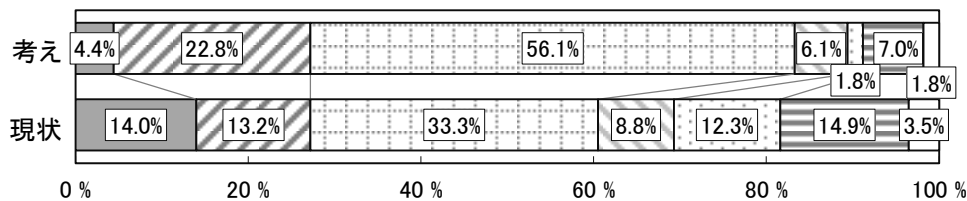
23.0%	14.8%
14.8%	32.8%

[40歳代] (N=104)



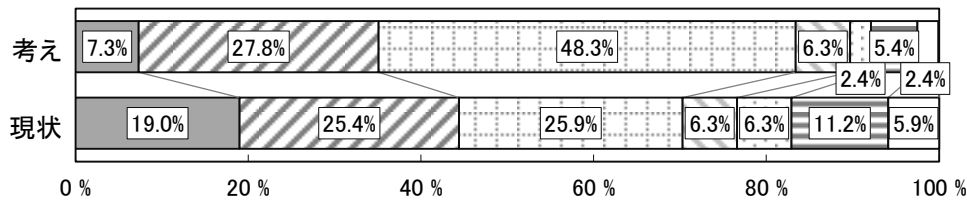
24.0%	14.4%
27.9%	24.0%

[50歳代] (N=114)



27.2%	7.9%
27.2%	21.1%

[60歳以上] (N=205)



35.1%	8.7%
44.4%	12.6%

※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

## 10 男女の地位の平等感について

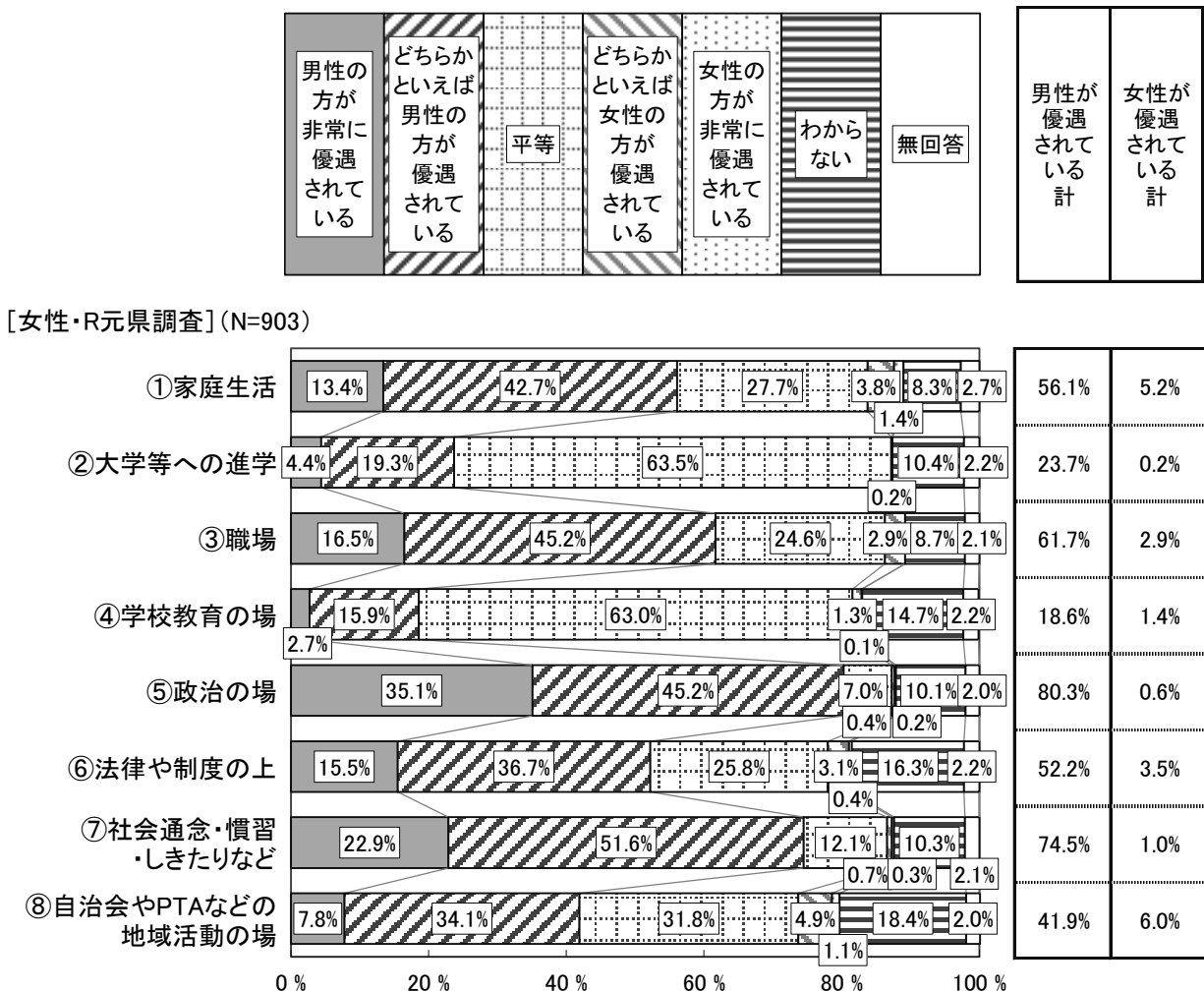
問9-4 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

各分野における男女の地位の平等感をみると、男女とも「②大学等への進学」「④学校教育の場」は、6割以上が男女平等と感じている。

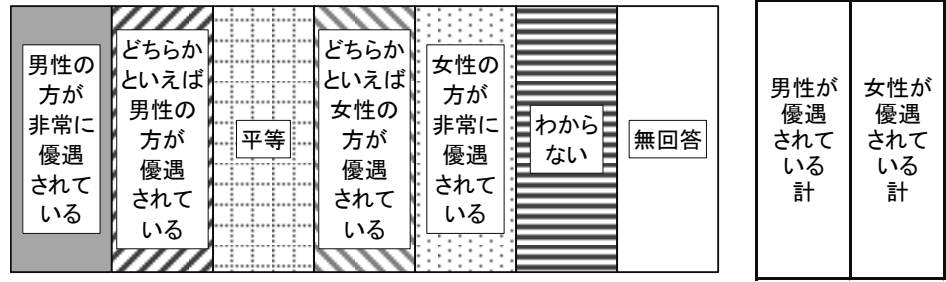
一方、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が高いのは、男女とも「⑤政治の場」、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」、「③職場」で、5割を超えている。

男女間の感じ方の乖離（スコア差）をみると、8項目すべてにおいて女性は男性に比べて男性が優遇されていると感じる人の割合が高くなっており、「①家庭生活」（スコア差 18.8）、「⑥法律や制度の上」（スコア差 16.0）、「⑤政治の場」（スコア差 12.0）、「③職場」（スコア差 10.8）、「⑧自治会やPTAなどの地域活動の場」（スコア差 10.1）、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」（スコア差 10.0）の項目でスコア差は10ポイント以上となっている。

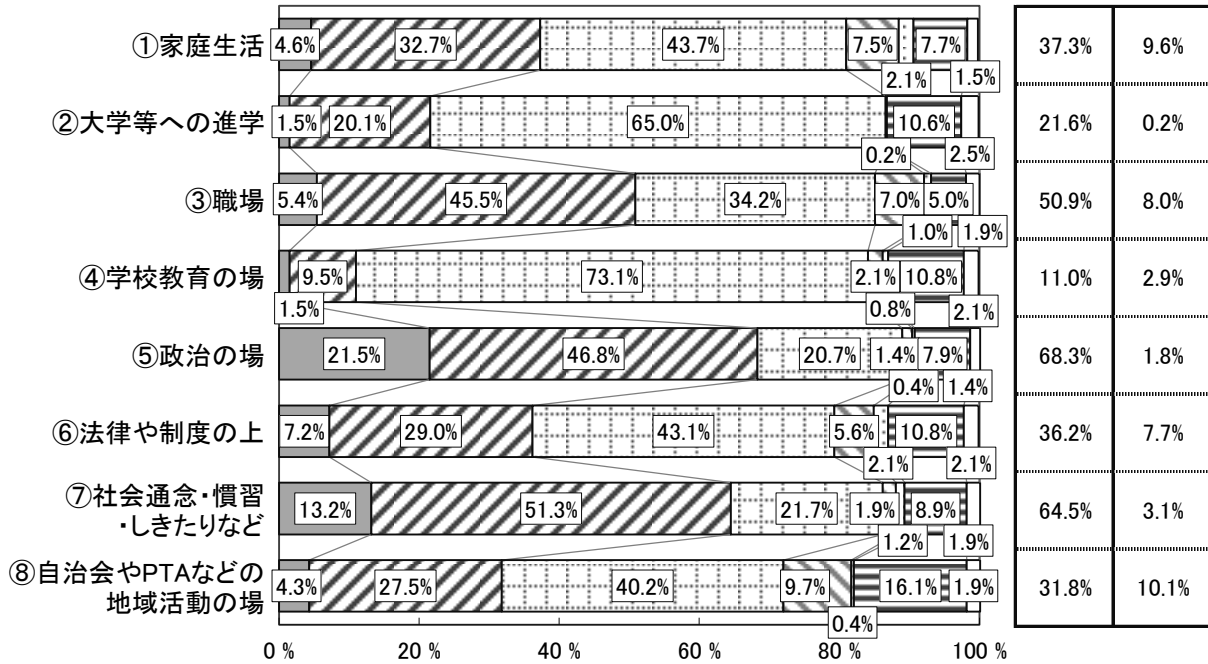
図表 各分野の男女の地位の平等感



※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計



[男性・R元県調査] (N=517)

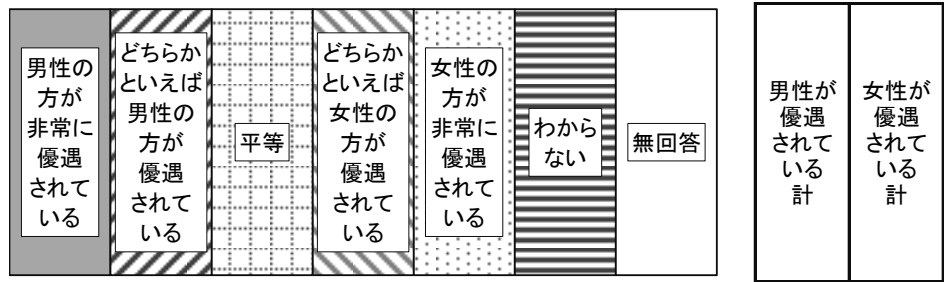


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、  
女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

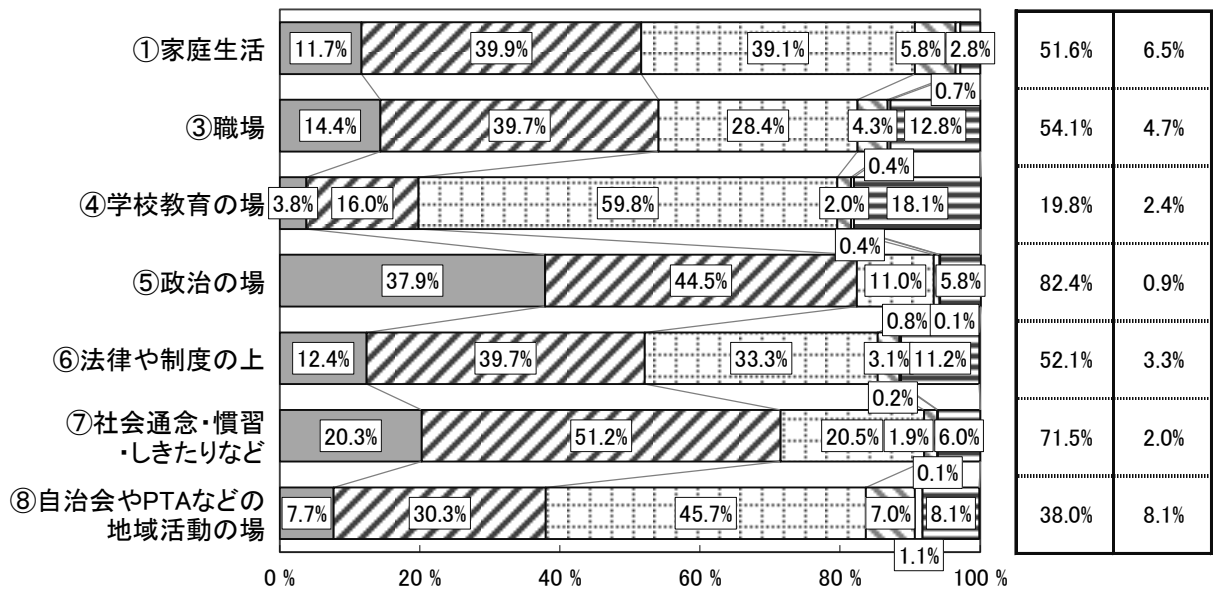


【全国比較】

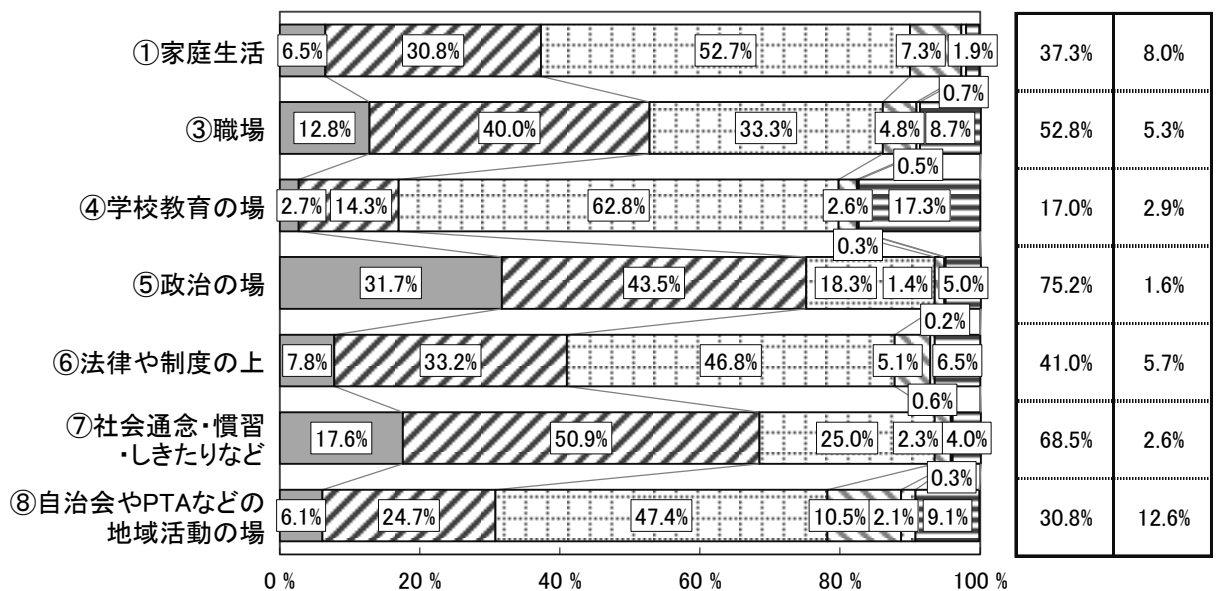
全国調査と比較すると、女性は「③職場」において男性が優遇されていると感じる人の割合が7.6ポイント高くなっている。



[女性・R元全国調査] (N=1,407)



[男性・R元全国調査] (N=1,238)



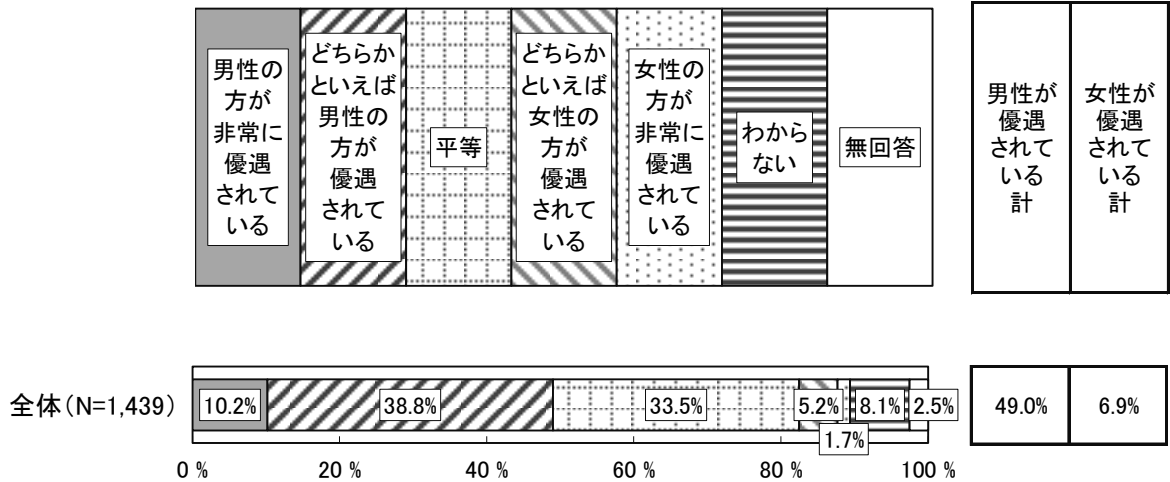
※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

②「大学等への進学」については全国調査の項目となっていない

## ①家庭生活

「家庭生活」における男女の平等感については、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が49.0%、男女平等と感じる人の割合が33.5%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が6.9%となっている。

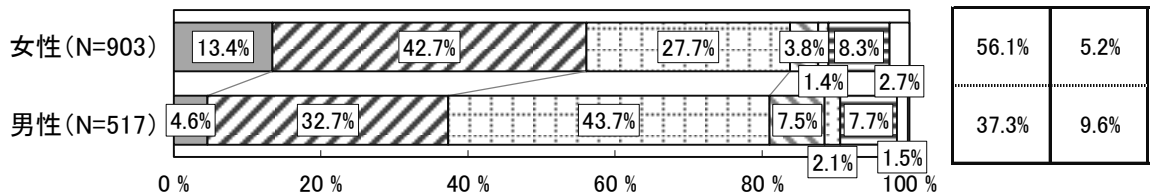
図表 家庭生活



### 【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が18.8ポイント高くなっている。

図表 家庭生活（男女別）

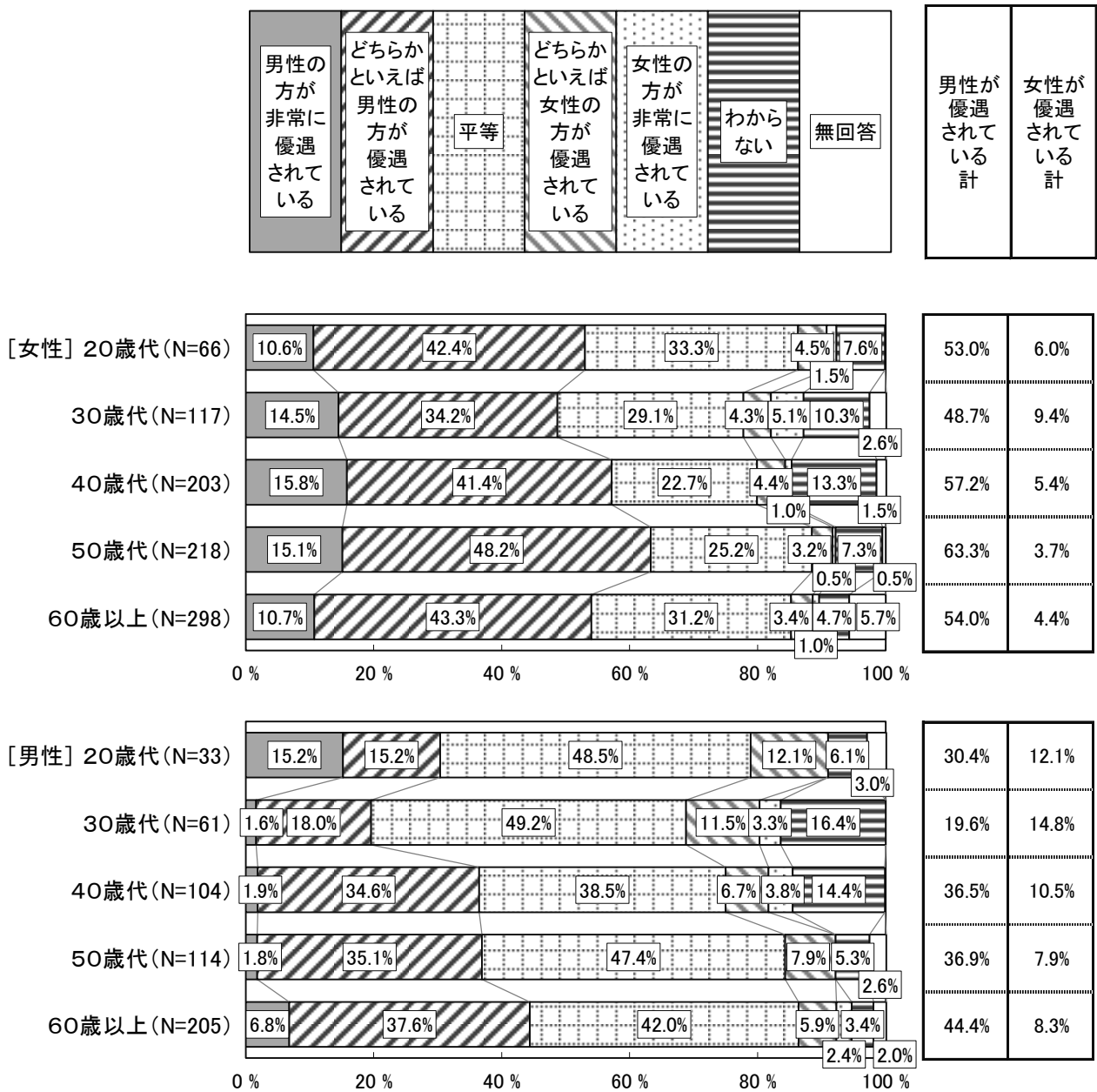


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、年代を問わず女性では男性が優遇されていると感じる人の割合が高くなっている。

図表 家庭生活（男女別・年代別）

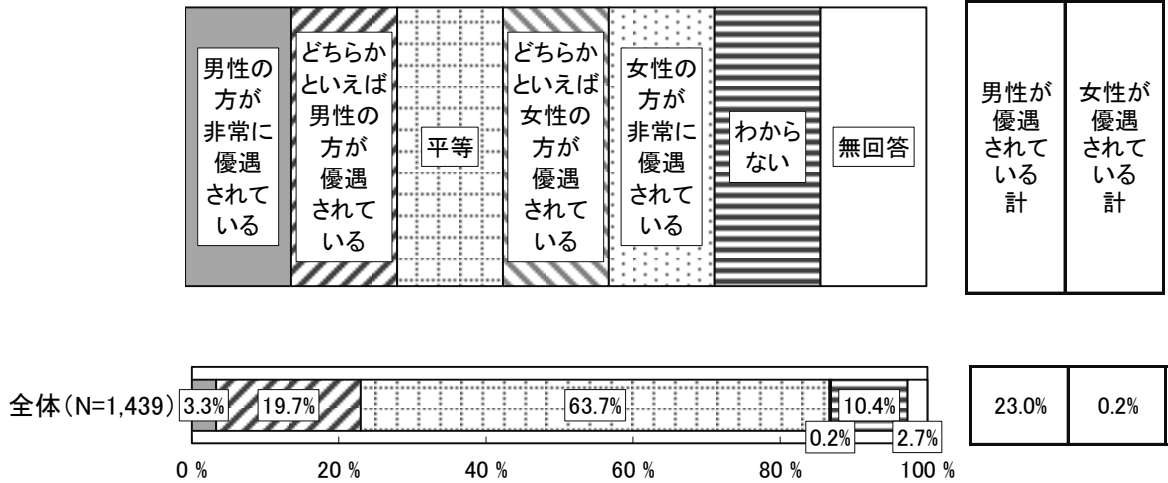


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、  
女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

## ②大学等への進学

「大学等への進学」における男女の平等感については、男女平等と感じる人の割合が63.7%、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が23.0%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が0.2%となっている。

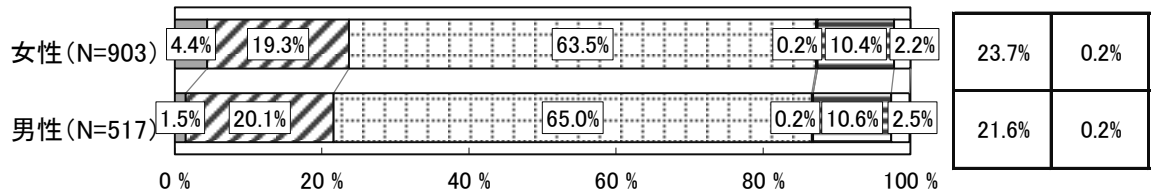
図表 大学等への進学



### 【男女別】

男女別には大きな差はみられない。

図表 大学等への進学（男女別）

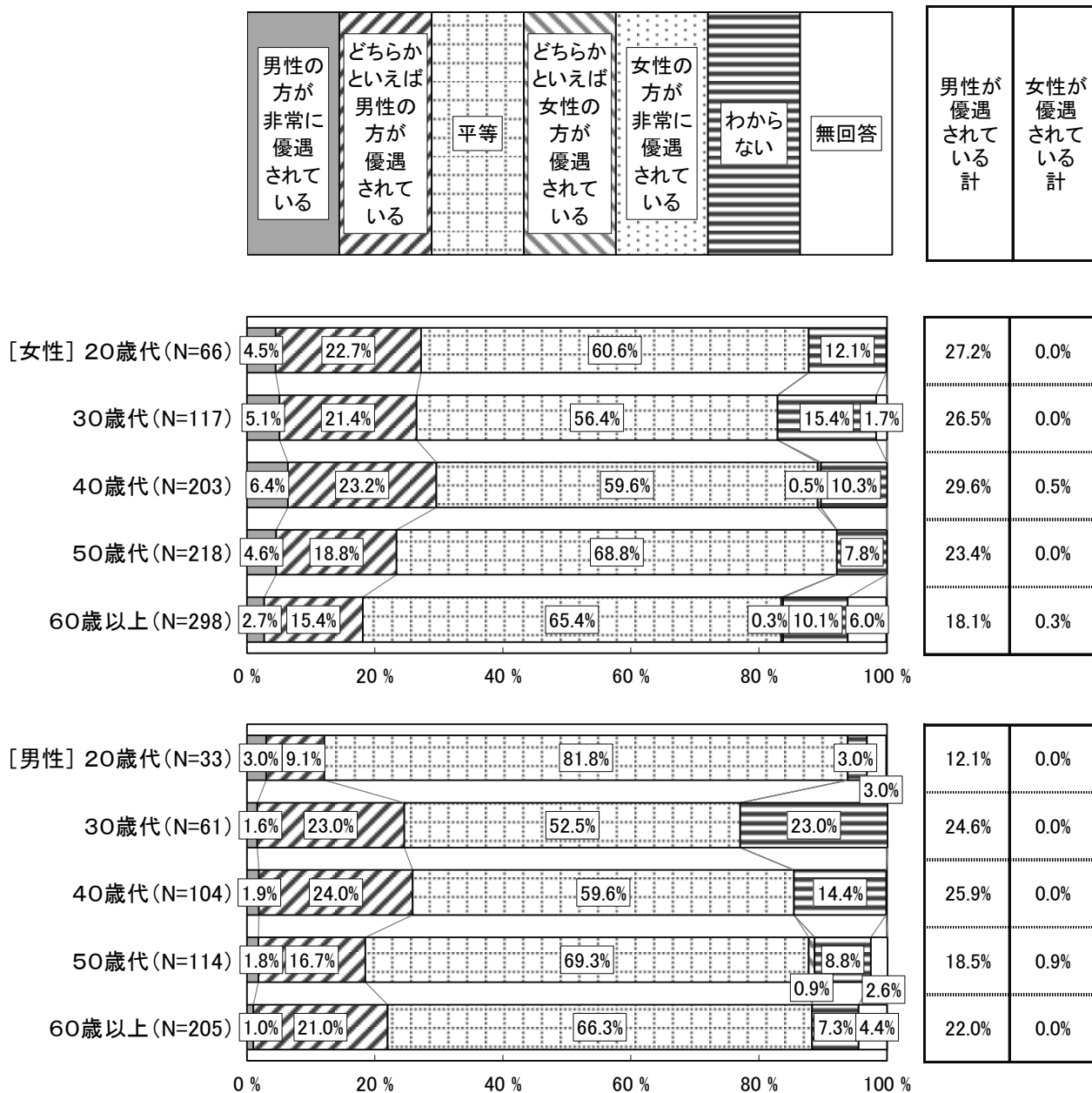


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、男女ともに40歳代で男性が優遇されていると感じる人の割合が他の年代に比べてより高めとなっている。男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は20歳代女性（27.2%）の割合が男性に比べて15.1ポイント高くなっている。

図表 大学等への進学（男女別・年代別）

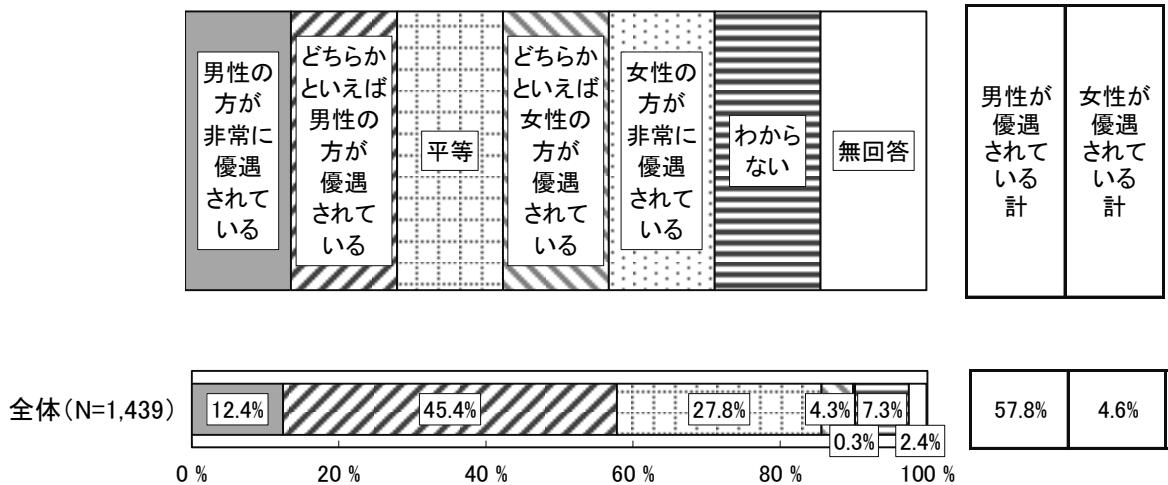


※ 男性が優遇されていると感じる人の割合：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

### ③職場

「職場」における男女の平等感については、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が57.8%、男女平等と感じる人の割合が27.8%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が4.6%となっている。

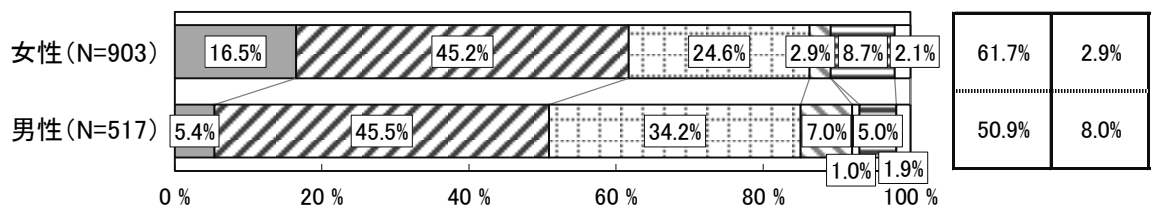
図表 職場



#### 【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が10.8ポイント高くなっている。

図表 職場（男女別）

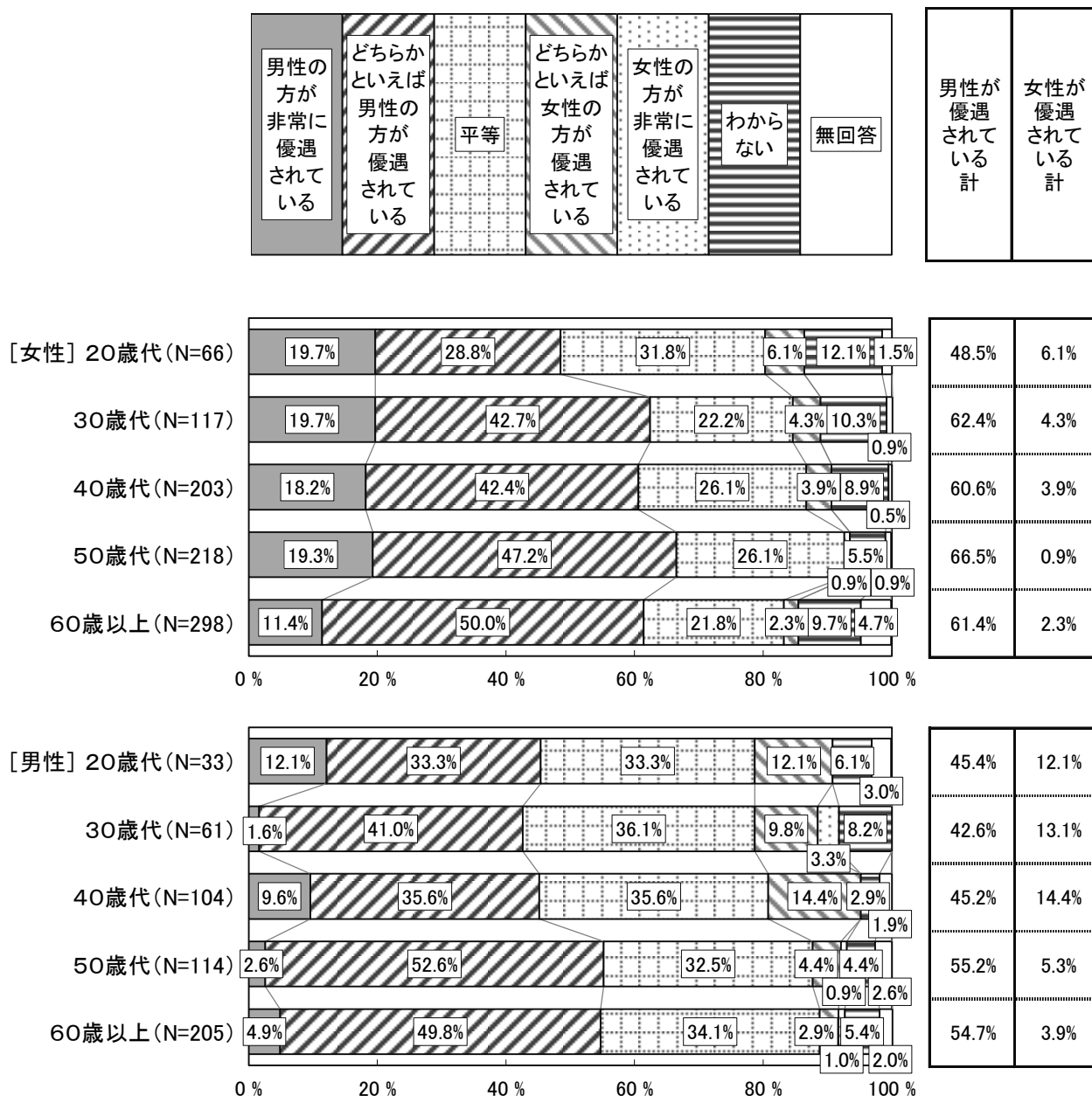


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、女性では年代を問わず男性が優遇されていると感じる人の割合が高くなっている。女性は30歳代以上で男性が優遇されていると感じる人の割合が60%を超えている。男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は30歳代から50歳代女性の割合が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

図表 職場（男女別・年代別）

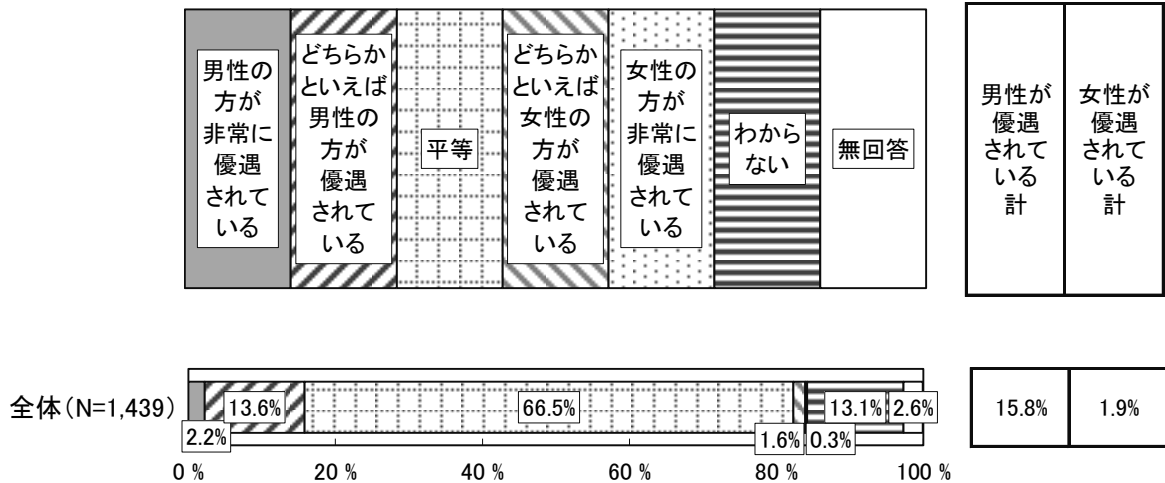


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

#### ④学校教育の場

「学校教育の場」における男女の平等感については、男女平等と感じる人の割合が66.5%、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が15.8%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が1.9%となっている。

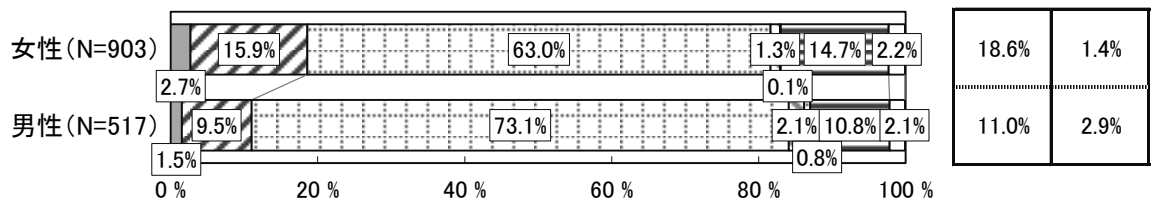
図表 学校教育の場



#### 【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が7.6ポイント高くなっている。

図表 学校教育の場（男女別）



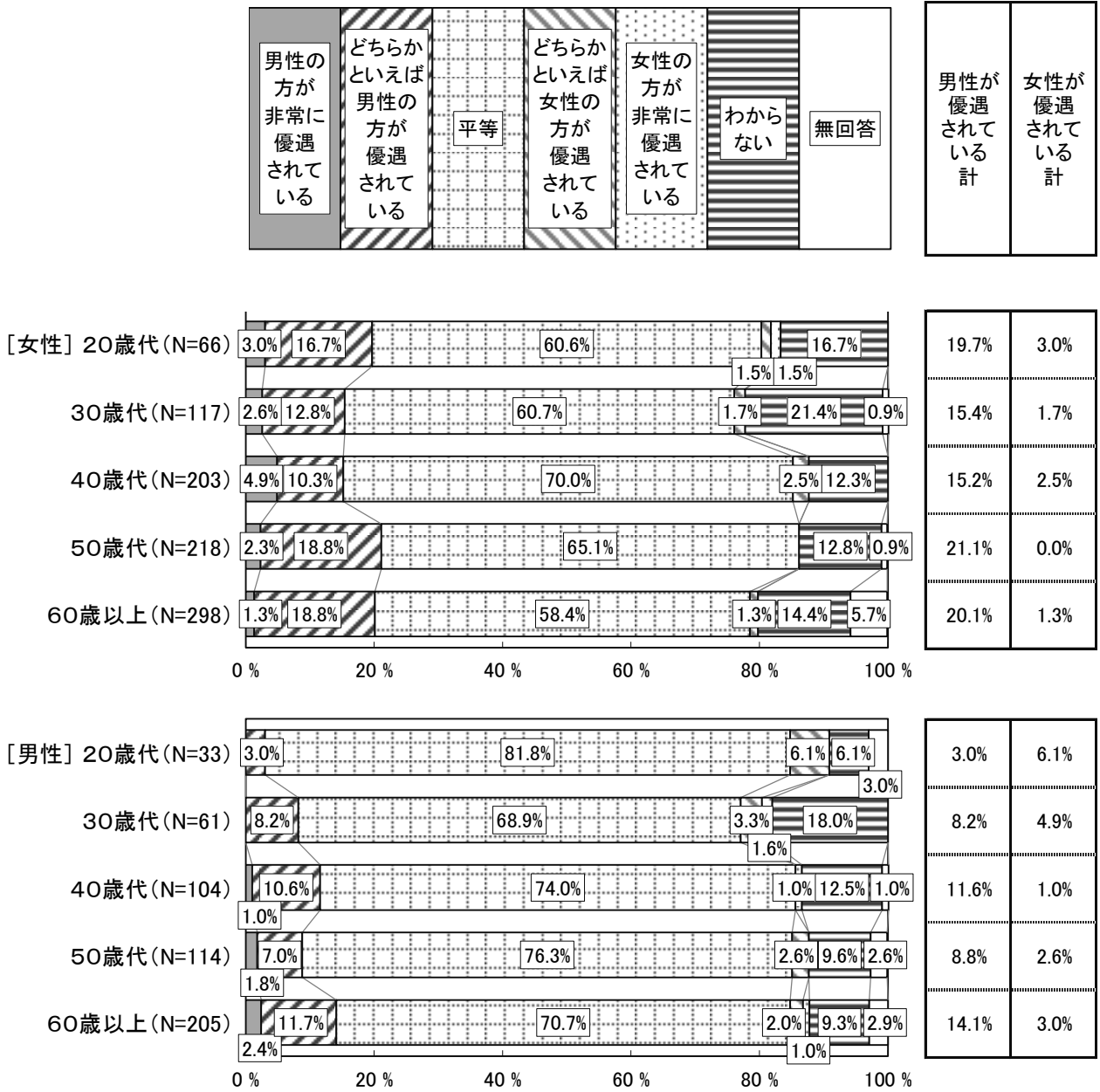
※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計



【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、年代を問わず女性では男性が優遇されていると感じる人の割合が高くなっている。男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は20歳代女性と50歳代女性の割合が男性に比べて10ポイント高くなっている。

図表 学校教育の場（男女別・年代別）

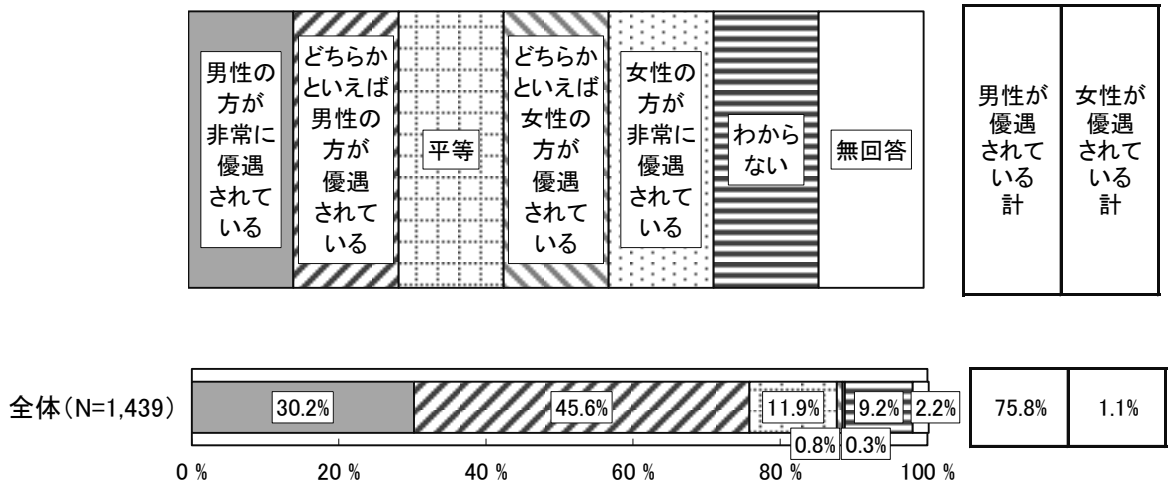


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

## ⑤政治の場

「政治の場」における男女の平等感については、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が75.8%、男女平等と感じる人の割合が11.9%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が1.1%となっている。

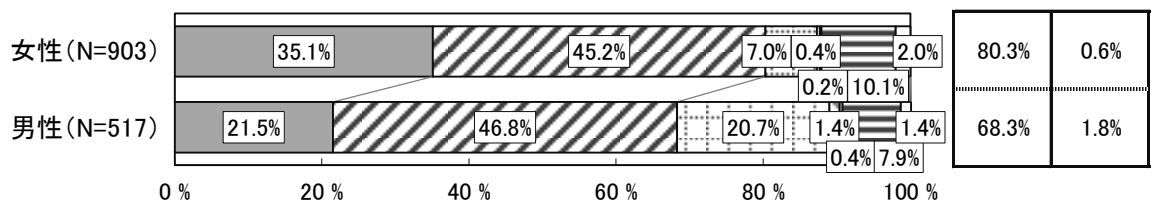
図表 政治の場



### 【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が12.0ポイント高くなっている。

図表 政治の場（男女別）

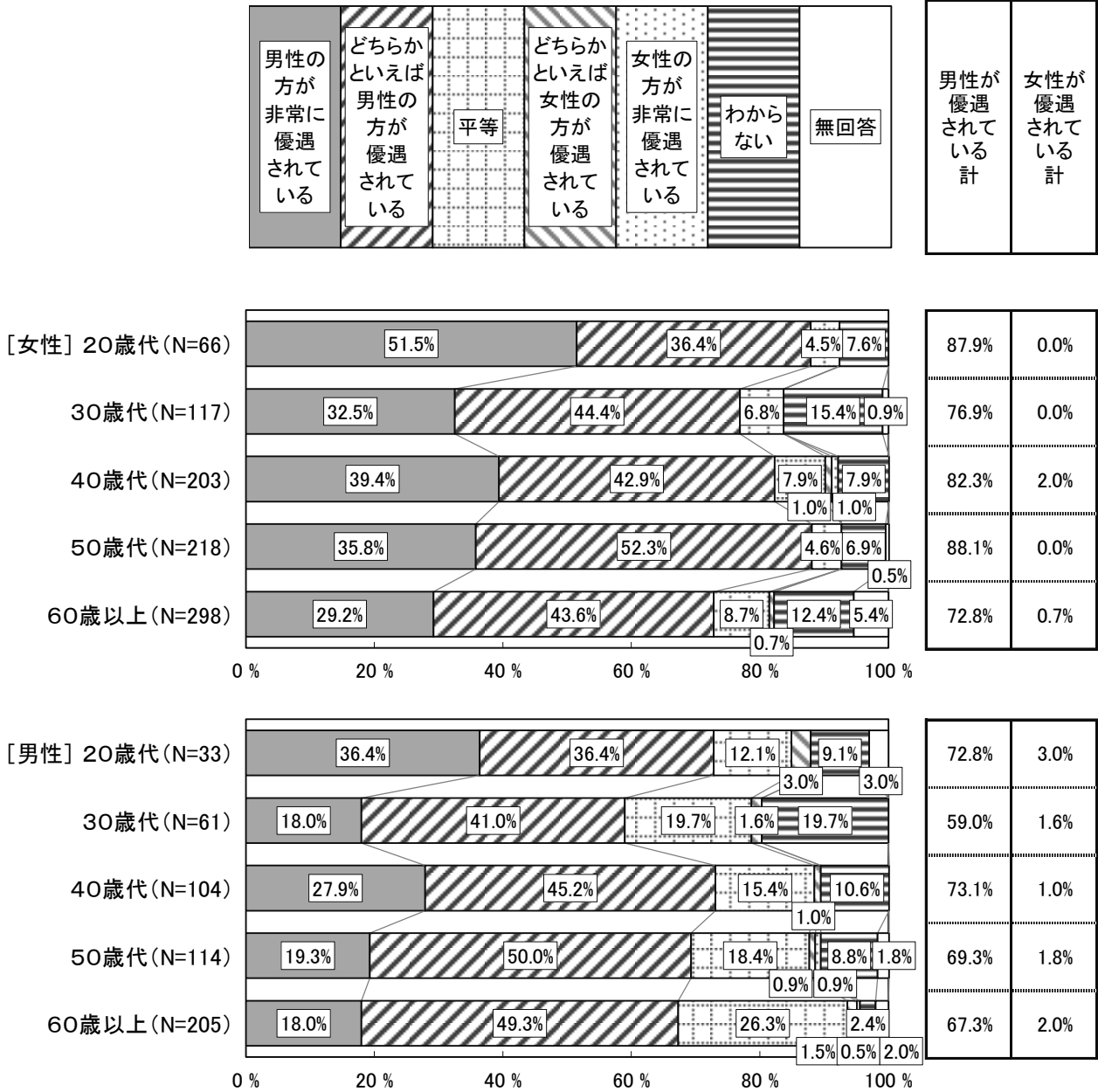


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、年代を問わず女性では男性が優遇されていると感じる人の割合が高くなっており、その割合は20歳代女性、40歳代女性、50歳代女性で80%以上となっている。男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は20歳代女性、30歳代女性、50歳代の割合が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

図表 政治の場（男女別・年代別）

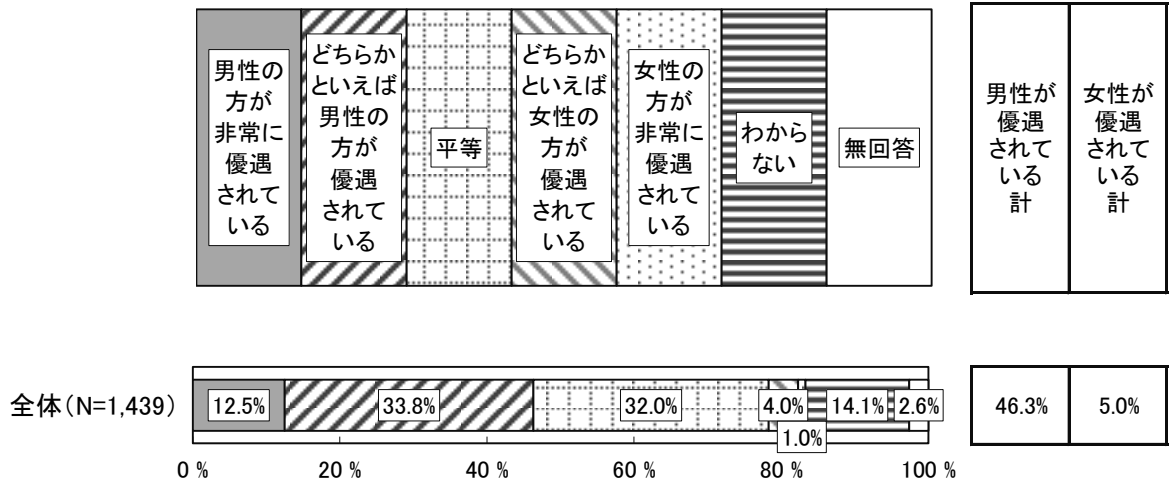


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

## ⑥法律や制度の上

「法律や制度の上」における男女の平等感については、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が46.3%、男女平等と感じる人の割合が32.0%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が5.0%となっている。

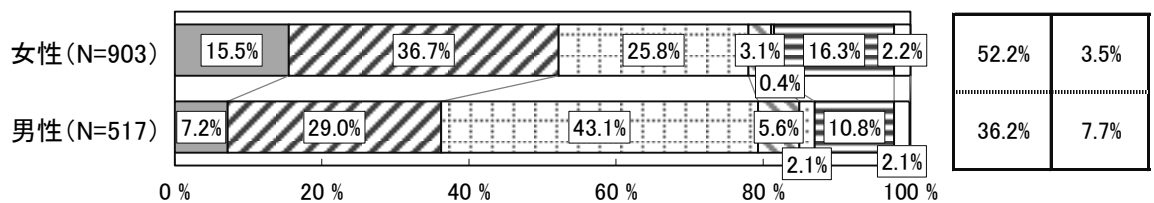
図表 法律や制度の上



### 【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が16.0ポイント高くなっている。

図表 法律や制度の上（男女別）

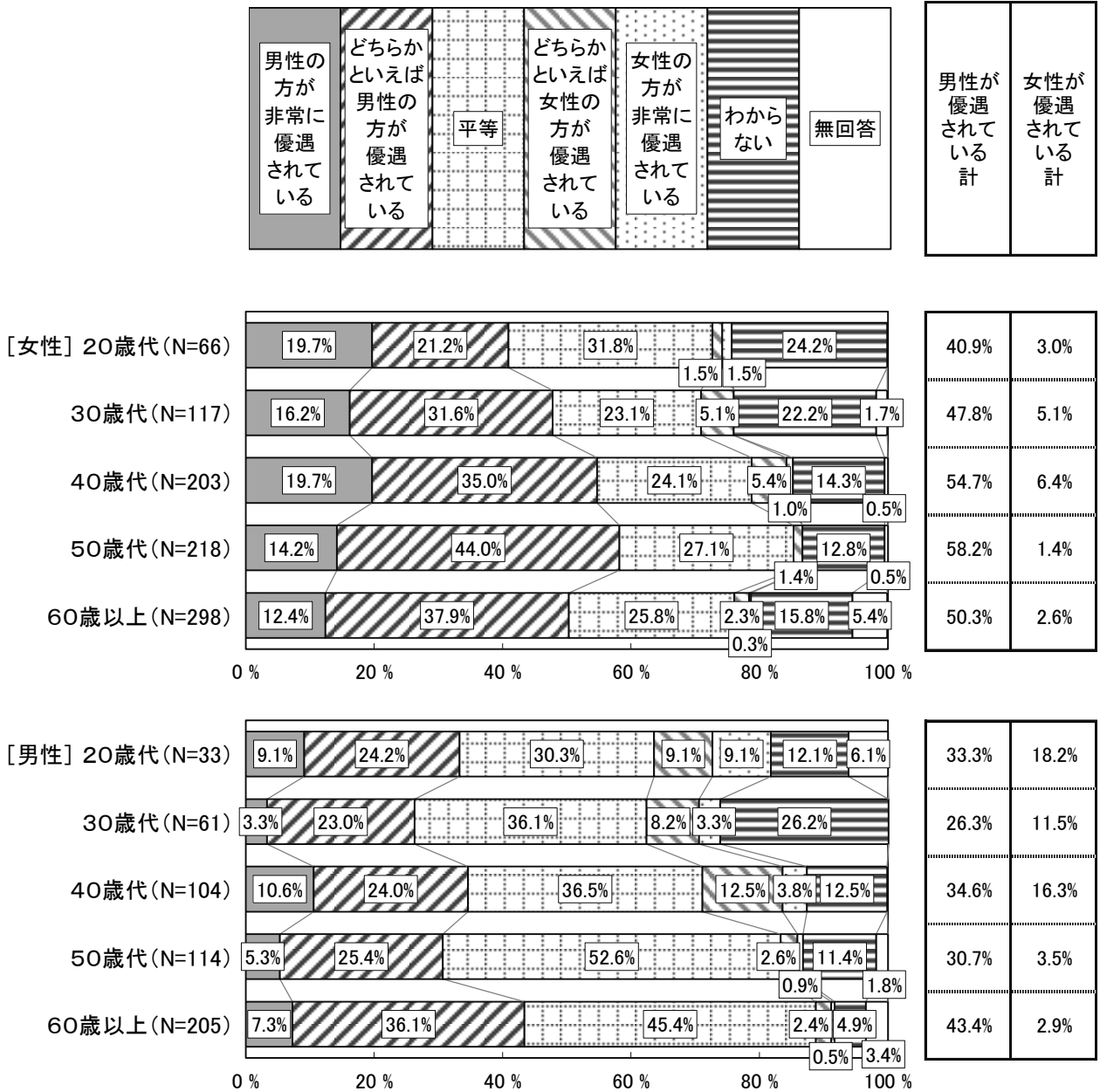


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、女性では40歳代以上で男性が優遇されていると感じる人の割合が過半数である。男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は30歳代から50歳代女性の割合が男性に比べて20ポイント以上高くなっている。

図表 法律や制度の上（男女別・年代別）

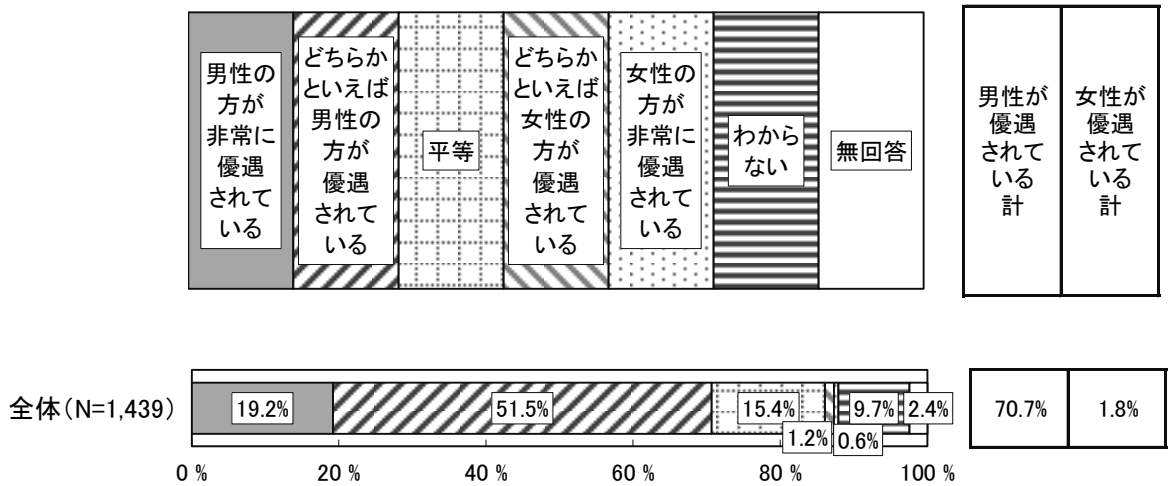


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

⑦社会通念・慣習・しきたりなど

「社会通念・慣習・しきたりなど」における男女の平等感については、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が70.7%、男女平等と感じる人の割合が15.4%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が1.8%となっている。

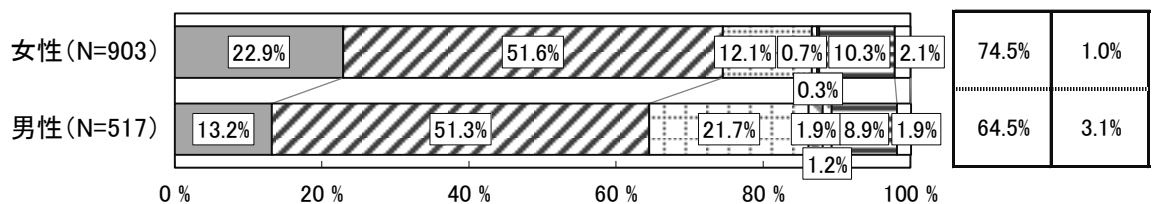
図表 社会通念・慣習・しきたりなど



【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が10.0ポイント高くなっている。

図表 社会通念・慣習・しきたりなど（男女別）

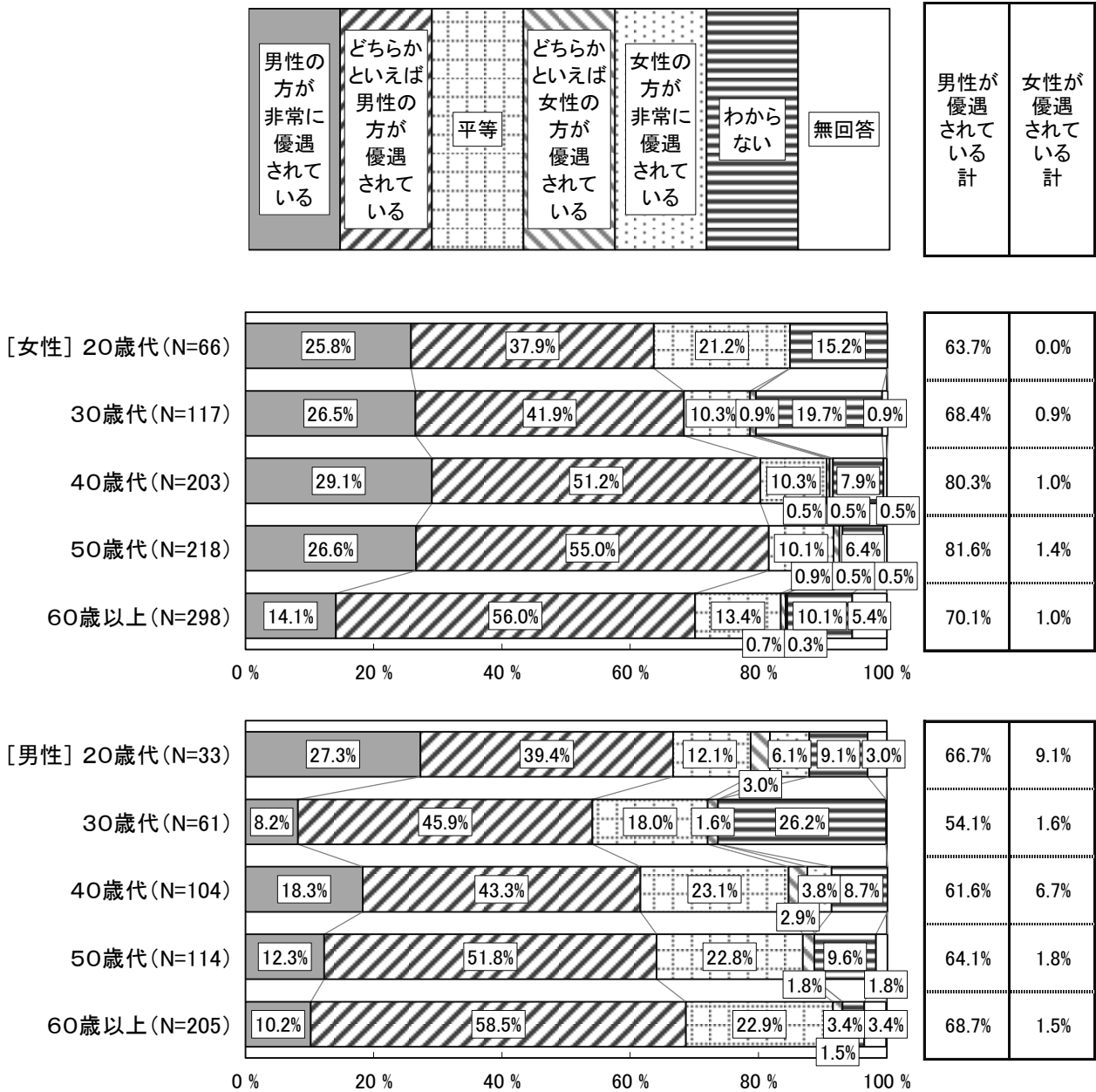


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、女性では40歳代・50歳代で男性が優遇されていると感じる人の割合が80%を超えている。男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は30歳代から50歳代女性の割合が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

図表 社会通念・慣習・しきたりなど（男女別・年代別）

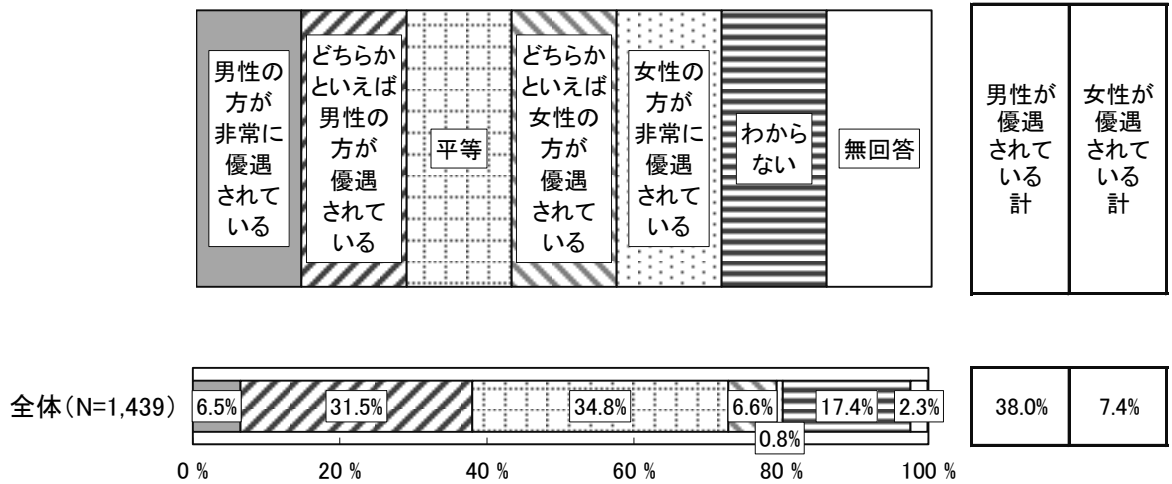


※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

### ⑧自治会やPTAなどの地域活動の場

「自治会やPTAなどの地域活動の場」における男女の平等感については、男性が優遇されていると感じる人の割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）が38.0%、男女平等と感じる人の割合が34.8%、女性が優遇されていると感じる人の割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）が7.4%となっている。

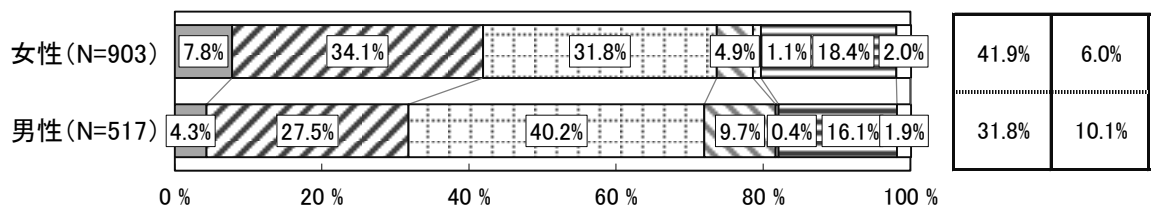
図表 自治会やPTAなどの地域活動の場



#### 【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて、男性が優遇されていると感じる人の割合が10.1ポイント高くなっている。

図表 自治会やPTAなどの地域活動の場（男女別）



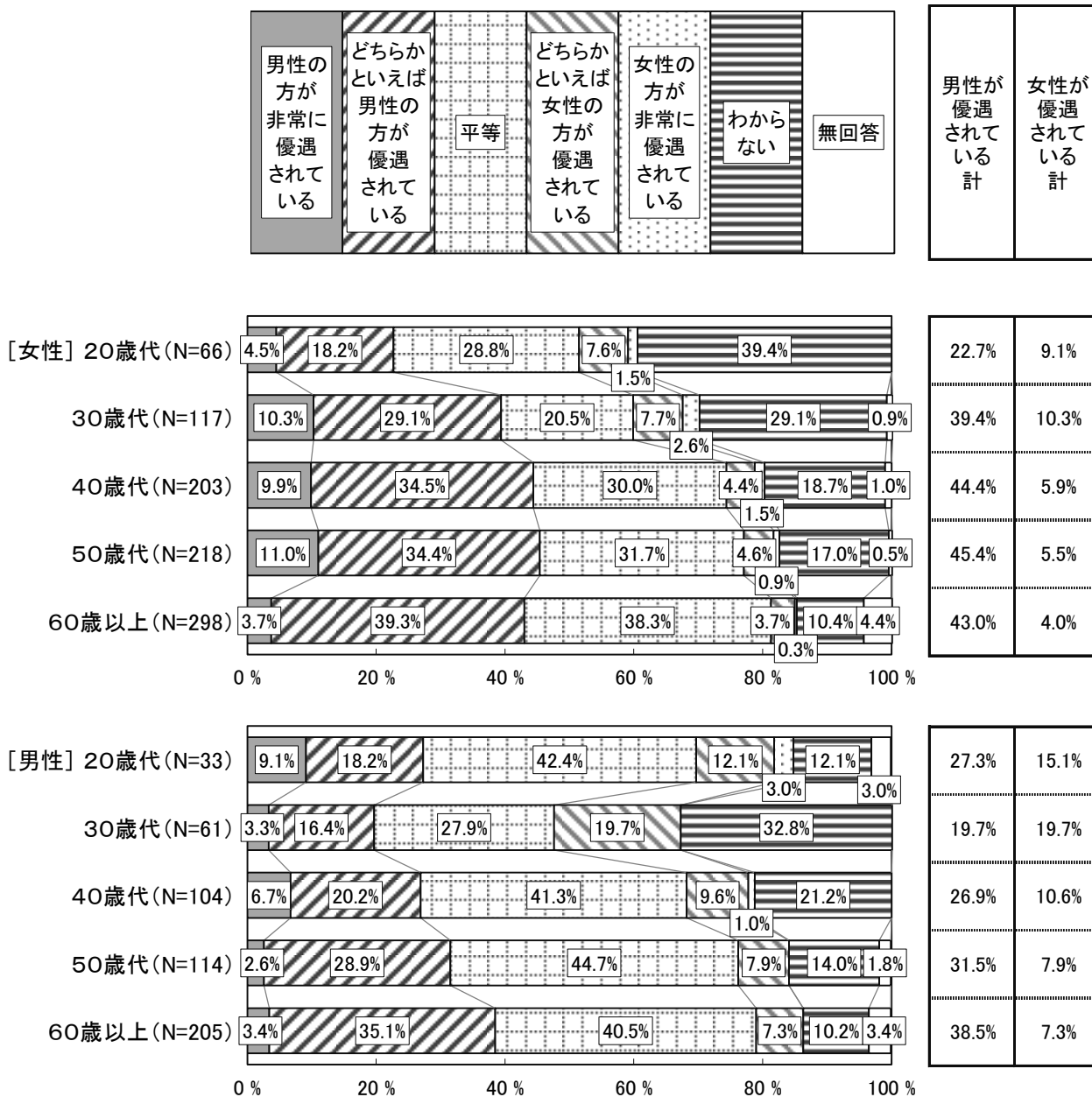
※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計



【男女別・年代別】

男女間における平等感の乖離をみると、男性が優遇されていると感じる人の割合は30歳代から50歳代女性の割合が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

図表 自治会やPTAなどの地域活動の場（男女別・年代別）



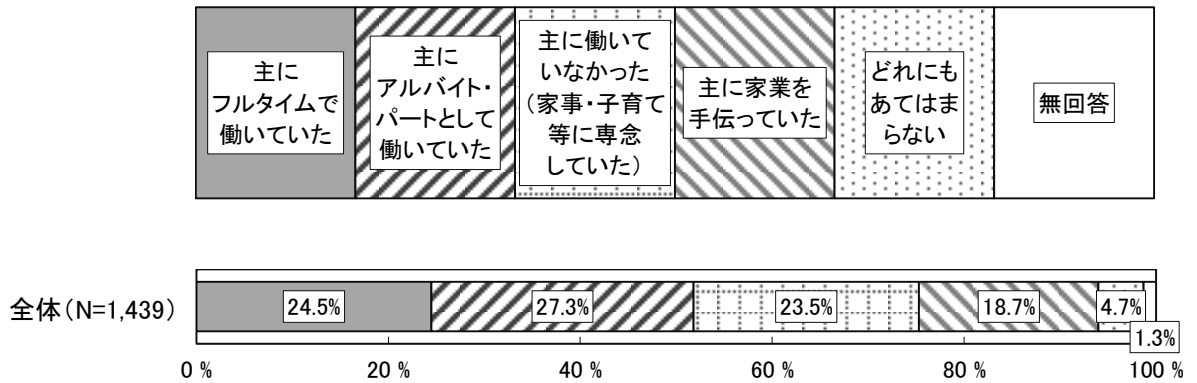
※ 男性が優遇されている計：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、女性が優遇されている計：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

## 11 自分が18歳になるまでの母親の就労状況について

問9-5 あなたが生まれてから18歳になるまでの、あなたの母の就労状況で最も近いものはどれですか。  
(○は1つ)

自分が18歳になるまでの母親の就労状況は、「主にアルバイト・パートとして働いていた」の割合が最も多く27.3%で、次いで「主にフルタイムで働いていた」(24.5%)、「主に働いていなかった(家事・子育て等に専念していた)」(23.5%)となっている。

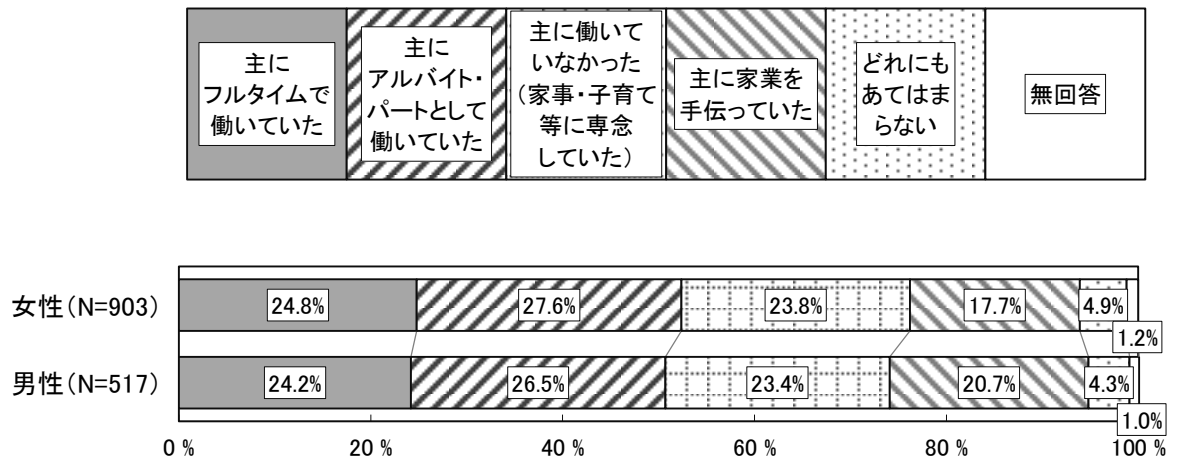
図表 自分が18歳になるまでの母親の就労状況



### 【男女別】

男女別には大きな差はみられない。

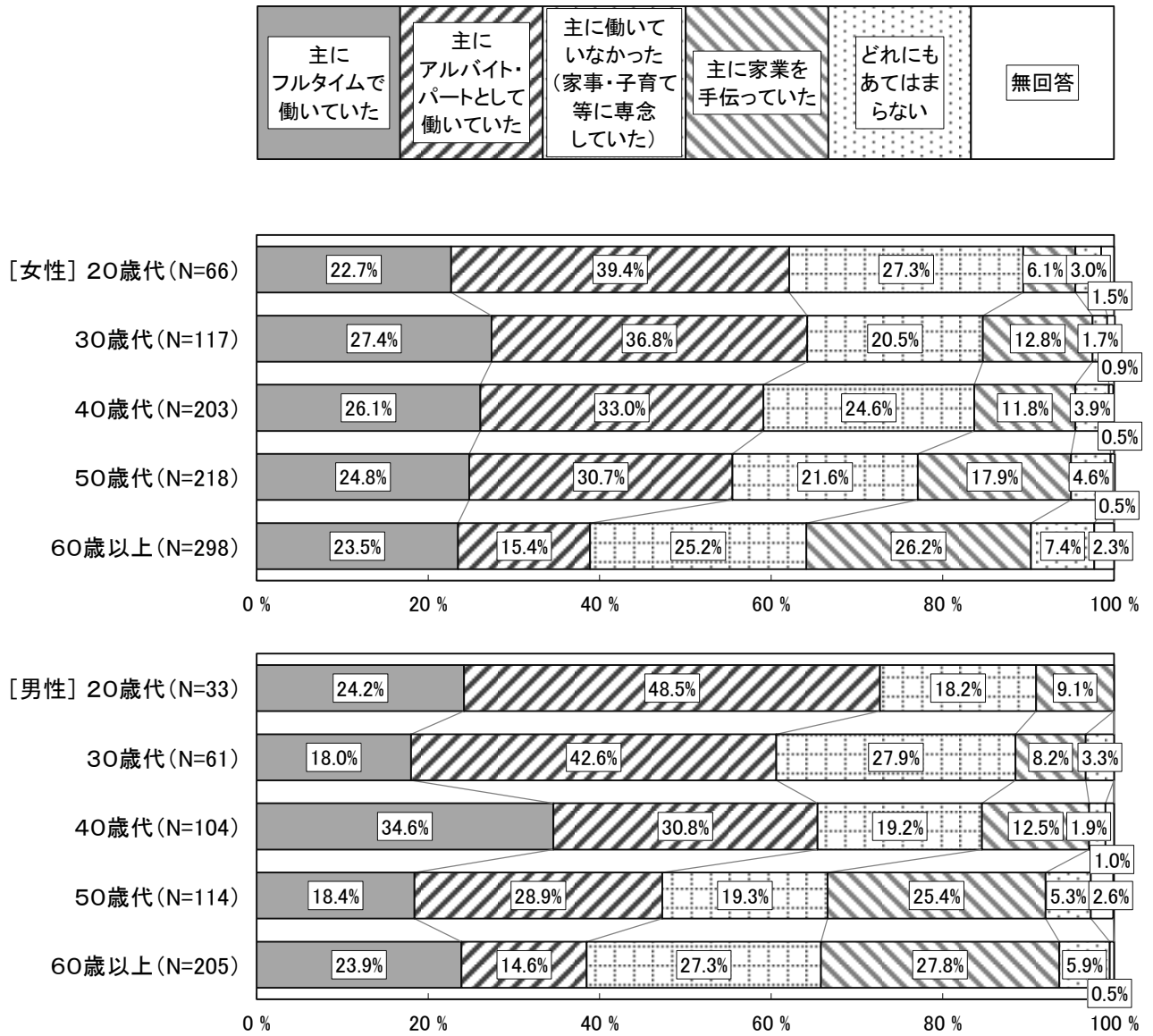
図表 自分が18歳になるまでの母親の就労状況(男女別)



【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、男女ともに「主にアルバイト・パートとして働いていた」の割合が、年代が若くなるほど高くなり、「主に家業を手伝っていた」割合は年代が若くなるほど低くなっている。

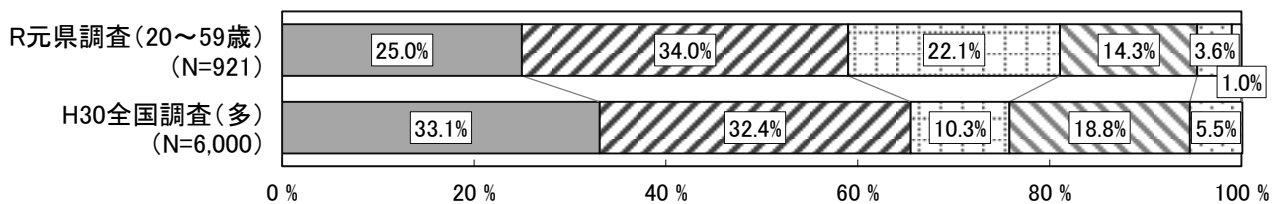
図表 自分が18歳になるまでの母親の就労状況（男女別・年代別）



【全国比較】

全国調査と比較すると、「主に働いていなかった (家事・子育て等に専念していた)」(22.1%) の割合が11.8ポイント高くなっている。

図表 自分が18歳になるまでの母親の就労状況（全国比較）



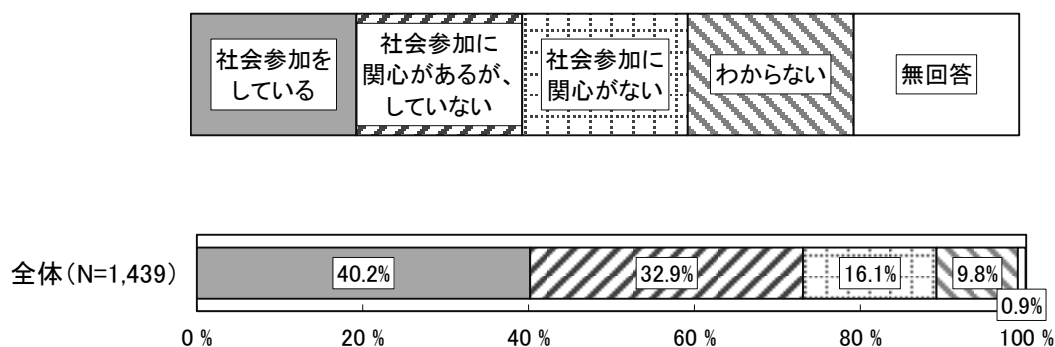
## 12 社会活動について

### (1) 社会活動への参加・関心

問 10-1 あなたは、あなたが住んだり、働いたりしている地域社会に対して、ボランティア等を通じた社会参加をしていますか。「社会参加」には、地域での近所づきあいやスポーツ・趣味の活動、社会貢献活動等を含めてお答えください。(○は1つ)

地域活動状況は、「社会参加をしている」が40.2%、「社会参加に関心があるが、していない」が32.9%で、その合計は73.1%となっている。

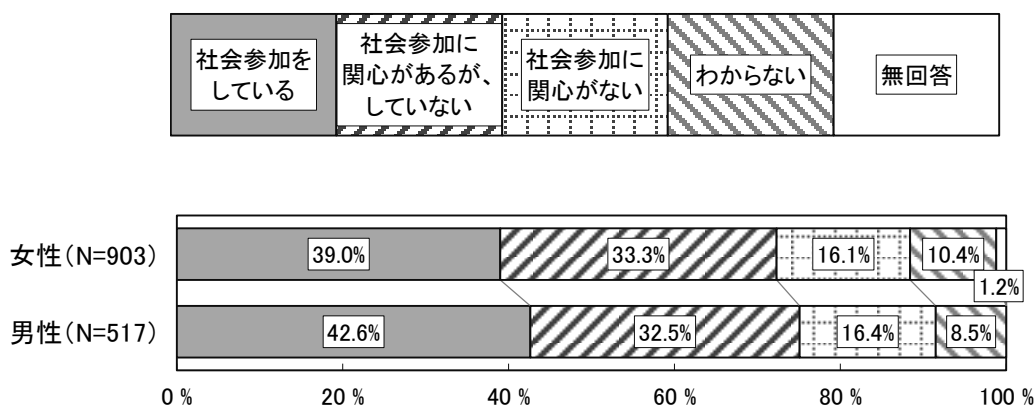
図表 地域活動参加状況



#### 【男女別】

男女別に大きな差はみられない。

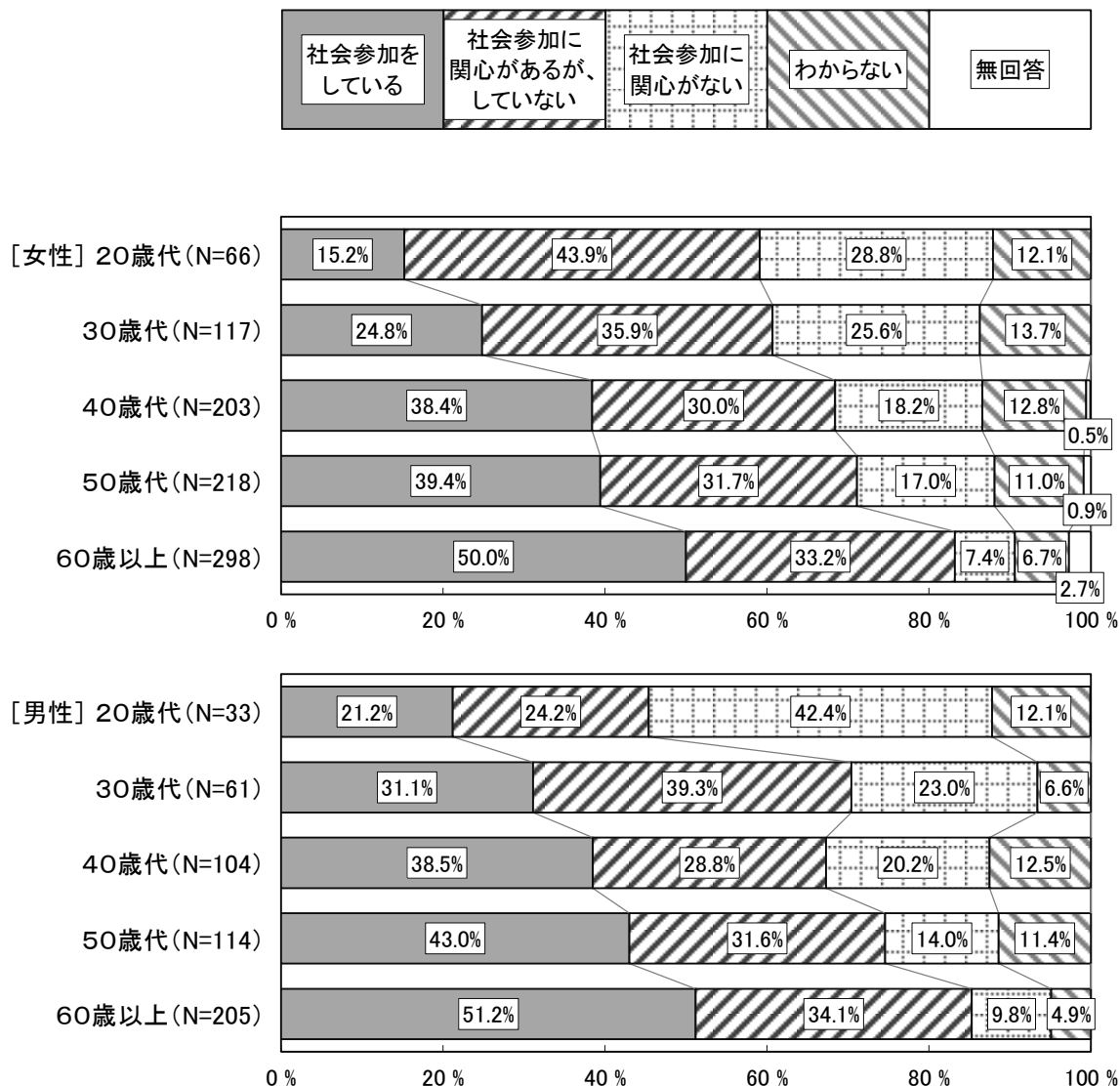
図表 地域活動参加状況（男女別）



【男女別・年代別】

男女別・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「社会参加をしている」の割合が高くなっており、男女ともに60歳代以上で50%に及ぶ。女性では20歳代、30歳代ともに「社会参加をしている」割合は30%を下回るものの、「社会参加に関心があるが、していない」割合が他の年代に比べて高くなっている。

図表 地域活動参加状況（男女別・年代別）



## (2) これまでに行ったことのある社会活動

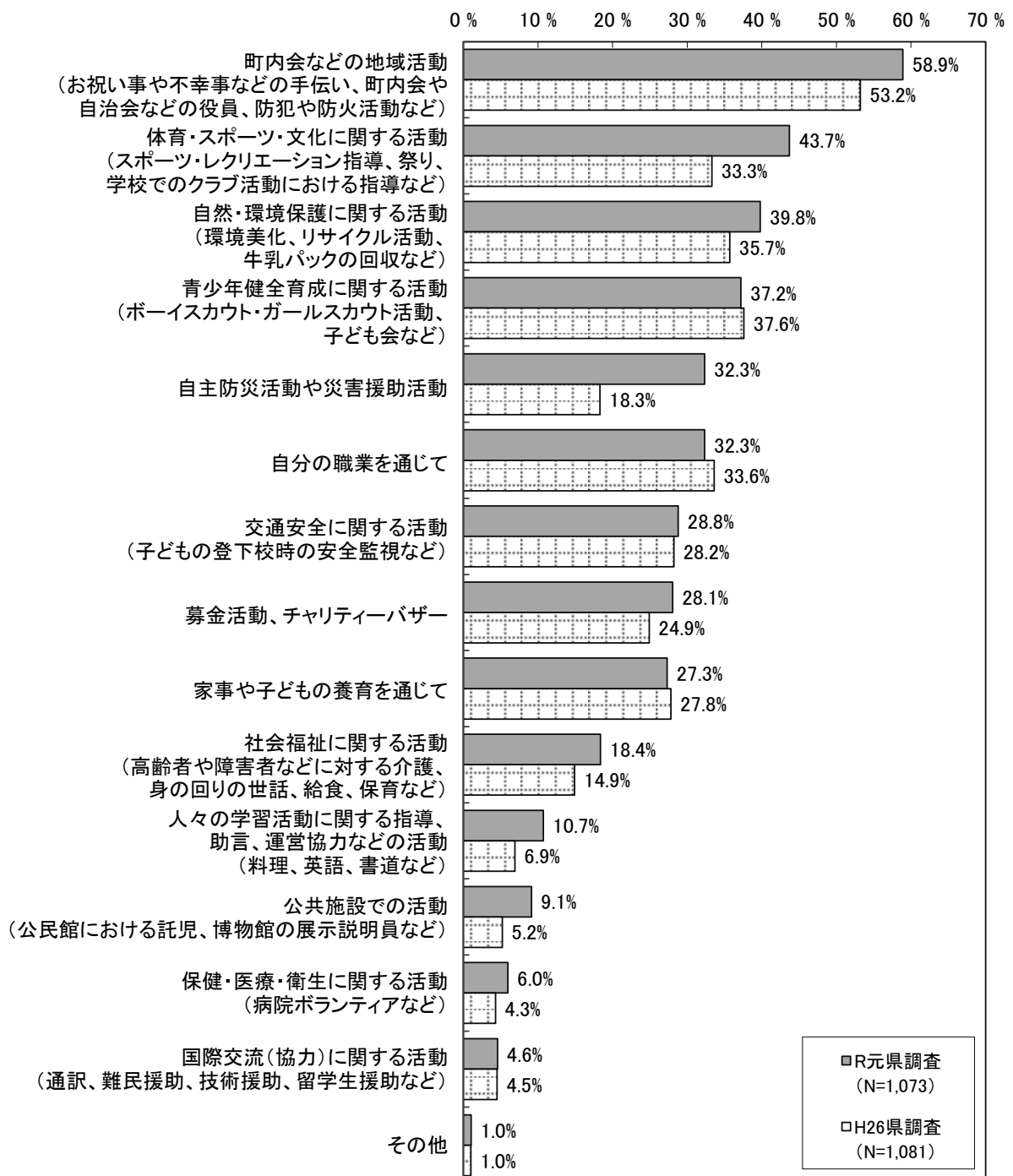
問 10-2 あなたは、どのような活動を通じて社会に役立ちたいと思いますか。次の(1)～(15)の中から、それぞれお答えください。(○はそれぞれいくつでも)

### ①これまでに行ったことのある活動

これまでに行ったことのある社会活動は、「町内会などの地域活動」の割合が最も高く 58.9%、次いで「体育・スポーツ・文化に関する活動」(43.7%)、「自然・環境保護に関する活動」(39.8%)、「青少年健全育成に関する活動」(37.2%)、「自主防災活動や災害援助活動」(32.3%)、「自分の職業を通じて」(32.3%) で30%を超えている。

前回調査と比較すると、「町内会などの地域活動」(+5.7ポイント)、「体育・スポーツ・文化に関する活動」(+10.4ポイント)、「自主防災活動や災害援助活動」(+14.0ポイント)などの割合が高くなっている。

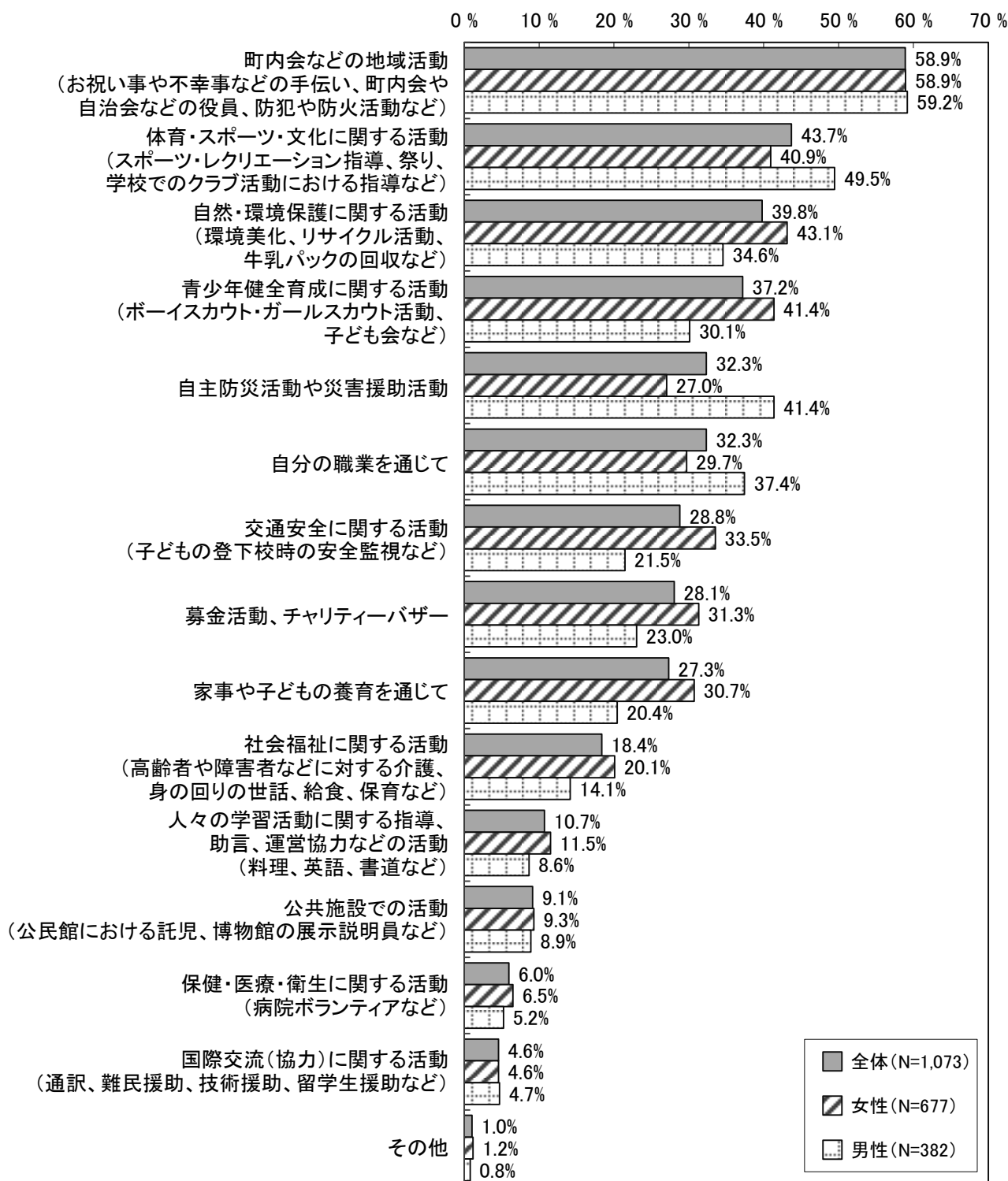
図表 これまでに行ったことのある社会活動（前回比較）



【男女別】

男女別にみると、女性の男性に比べて高いのは「青少年健全育成に関する活動」(41.4%)、「交通安全に関する活動」(33.5%)、「家事や子どもの養育を通じて」(30.7%)で、それぞれ10ポイント以上高く、男性の女性に比べて高いのは「自主防災活動や災害援助活動」(41.4%)で、10ポイント以上高くなっている。

図表 これまでに行ったことのある社会活動（男女別）



### (3) 今後行いたい社会活動

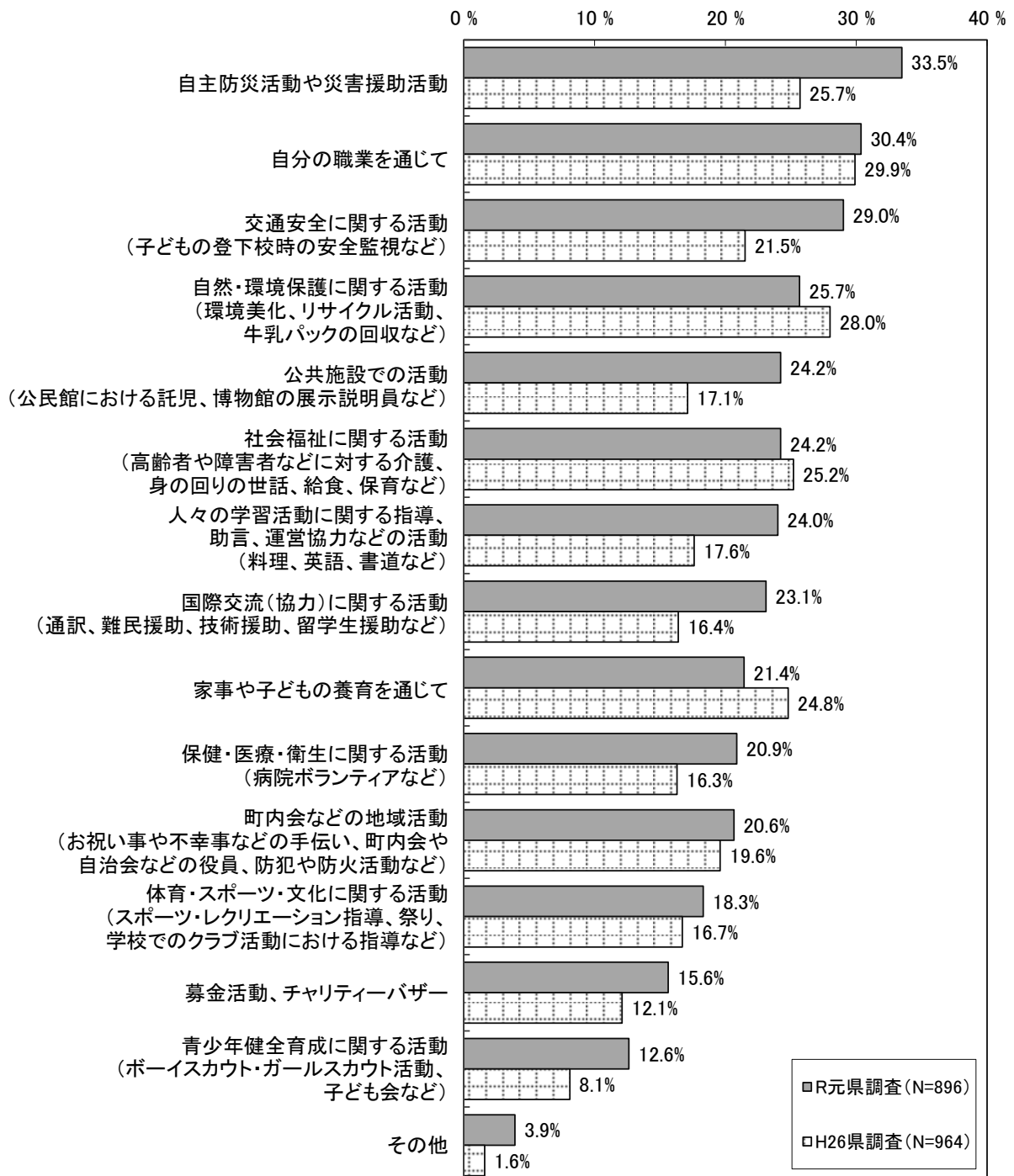
問 10-2 あなたは、どのような活動を通じて社会に役立ちたいと思いますか。次の(1)～(15)の中から、それぞれお答えください。(○はそれぞれいくつでも)

#### ② 今後行いたい活動

今後行いたい社会活動は、「自主防災活動や災害援助活動」の割合が最も高く 33.5%、次いで「自分の職業を通じて」(30.4%)、「交通安全に関する活動」(29.0%)となっている。

前回調査と比較すると、「自主防災活動や災害援助活動」(+7.8ポイント)、「交通安全に関する活動」(+7.5ポイント)、「公共施設での活動」(+7.1ポイント)、「人々の学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動」(+6.4ポイント)、「国際交流(協力)に関する活動」(+6.7ポイント)などの割合が高くなっている。

図表 今後行いたい社会活動(前回比較)

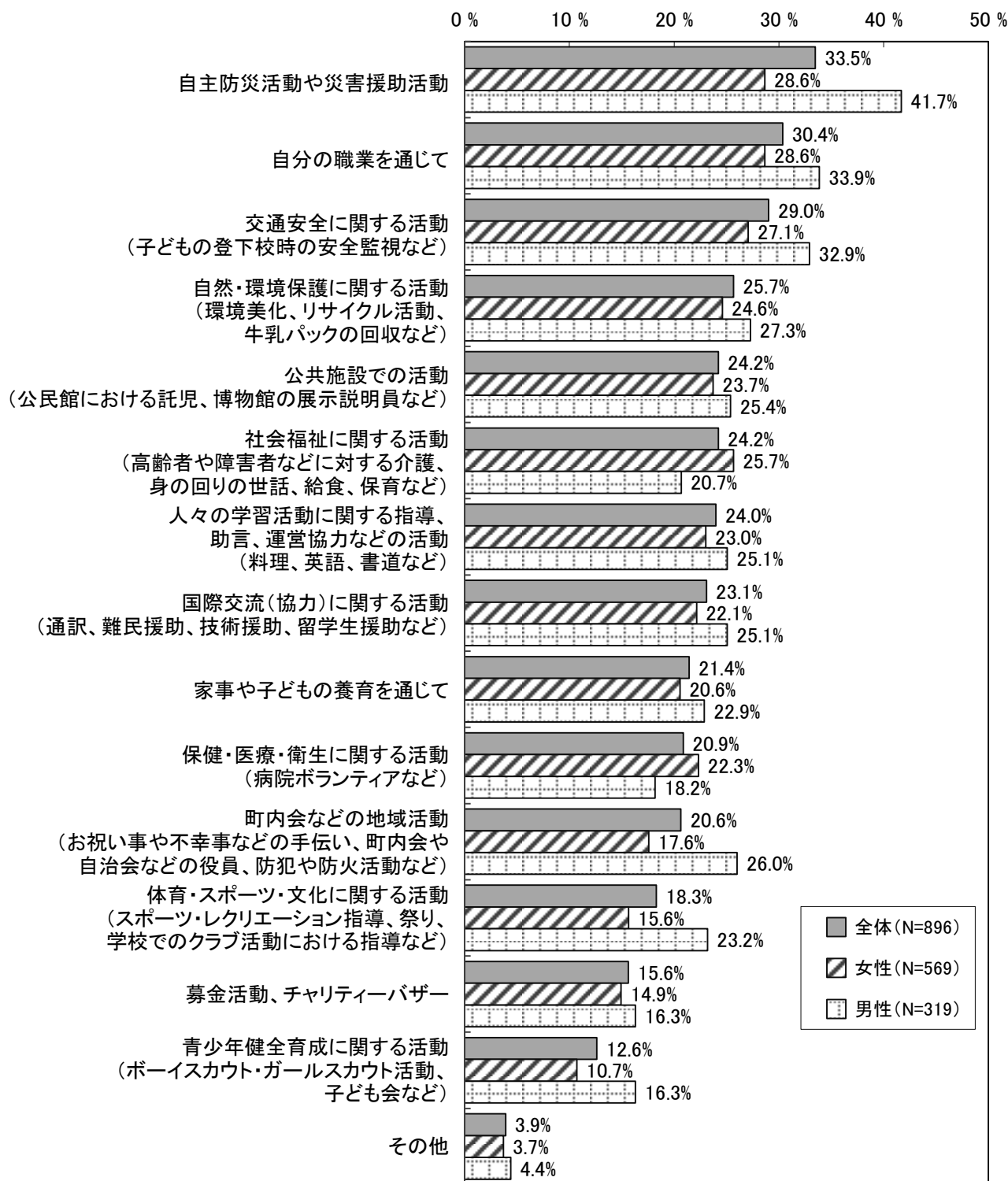




【男女別】

男女別にみると、女性の男性に比べて高いのは「社会福祉に関する活動」(25.7%)で5.0ポイント高く、男性の女性に比べて高いのは「自主防災活動や災害援助活動」(41.7%)、「自分の職業を通じて」(33.9%)、「交通安全に関する活動」(32.9%)、「町内会などの地域活動」(26.0%)、「体育・スポーツ・文化に関する活動」(23.2%)、「青少年健全育成に関する活動」(16.3%)で、それぞれ5.0ポイント以上高くなっている。

図表 今後行いたい社会活動（男女別）



### 13 今後必要な施策等について

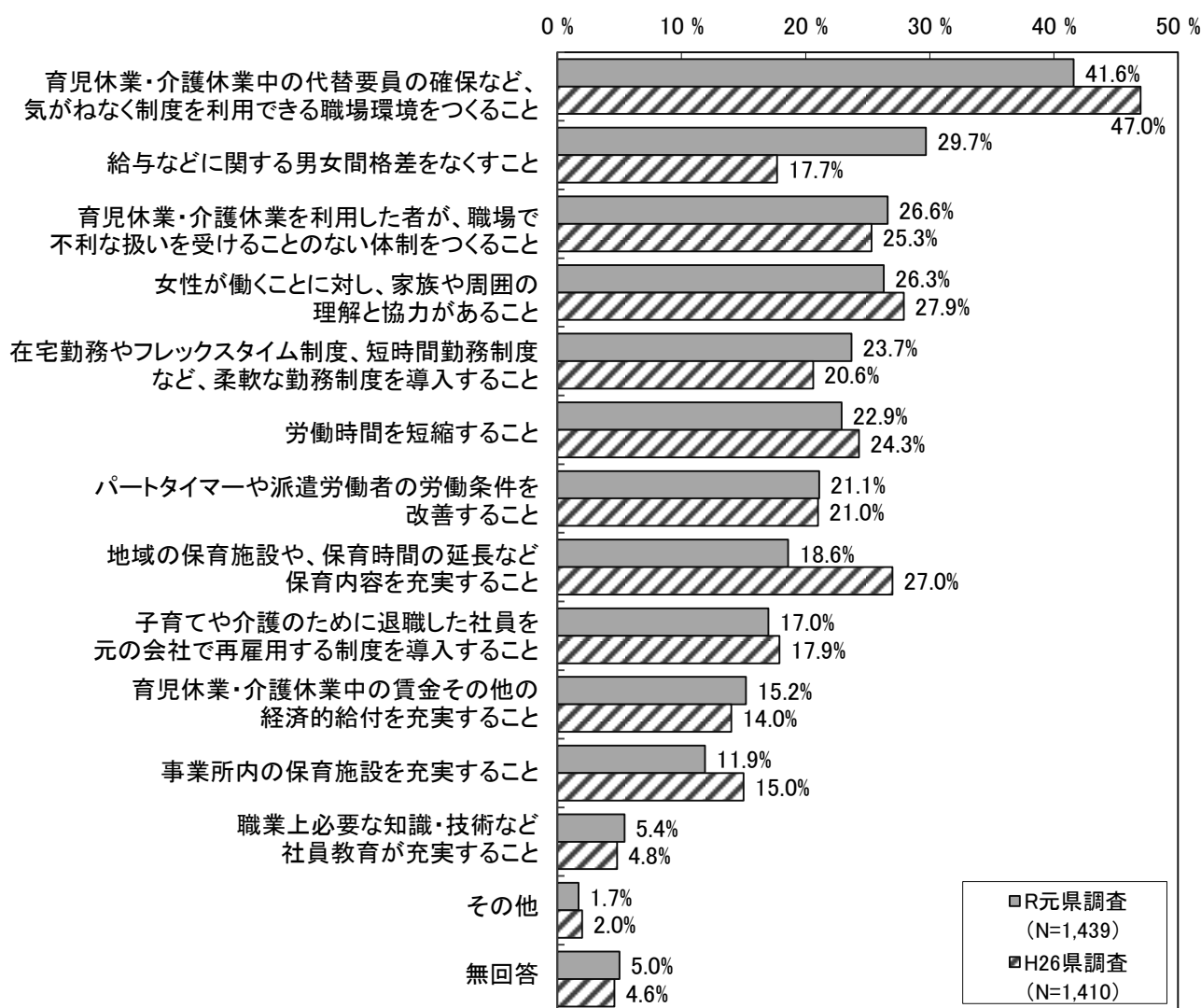
#### (1) 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと

問 11-1 男女がともに、仕事と家庭の両立を実現するために必要なことは何だと思えますか。  
(〇は3つまで)

男女がともに、仕事と家庭の両立を実現するために必要なことは、「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が最も高く 41.6%で、次いで「給与などに関する男女間格差をなくすこと」(29.7%)、「育児休業・介護休業を利用した者が、職場で不利な扱いを受けることのない体制をつくること」(26.6%) となっている。

前回調査と比較すると、「給与などに関する男女間格差をなくすこと」の割合 (29.7%) が 12.0 ポイント高くなっている。

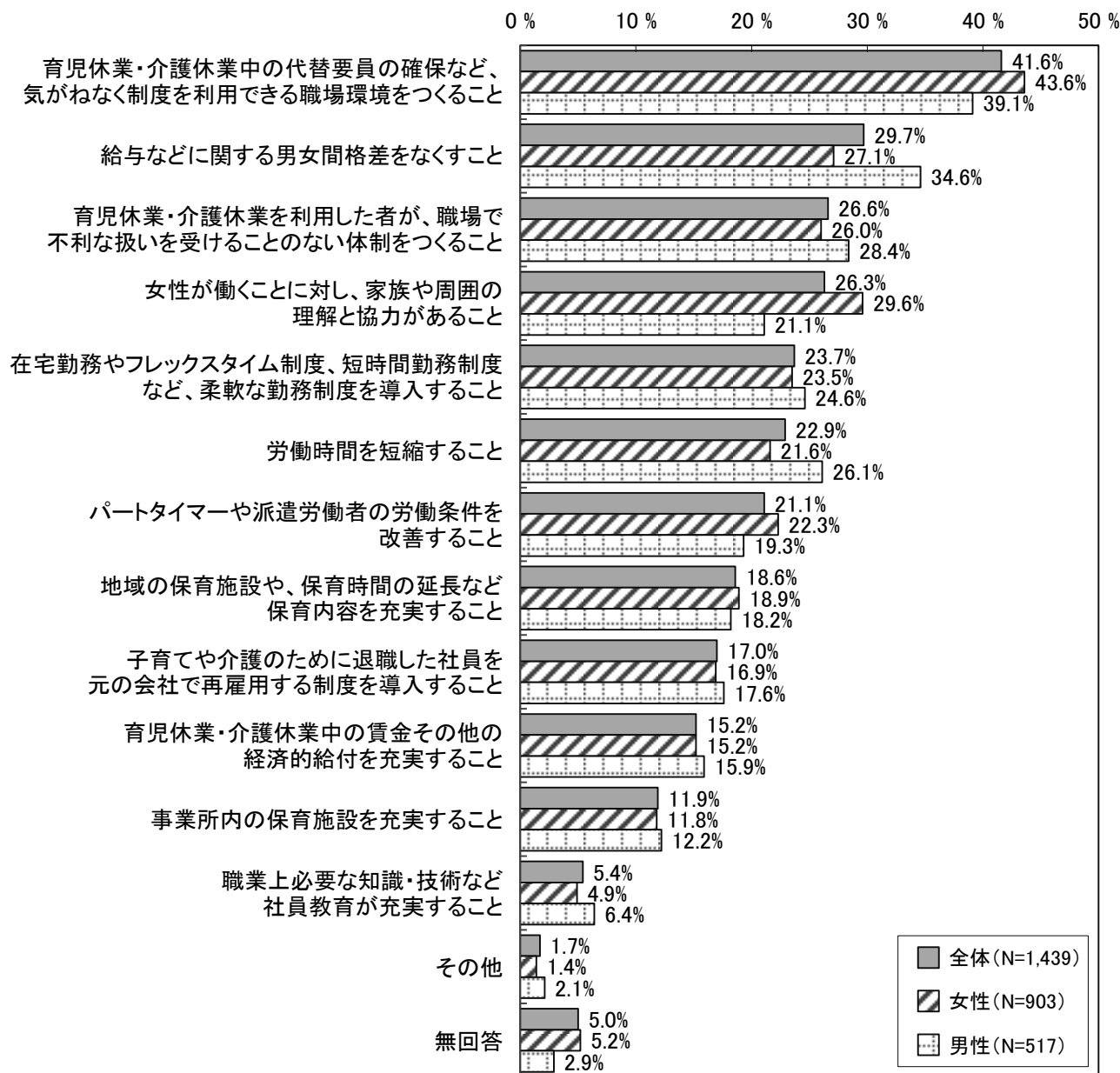
図表 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと (前回比較)



【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合（29.6%）が8.5ポイント高く、「給与などに関する男女間格差をなくすこと」の割合（34.6%）が7.5ポイント低くなっている。

図表 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと（男女別）



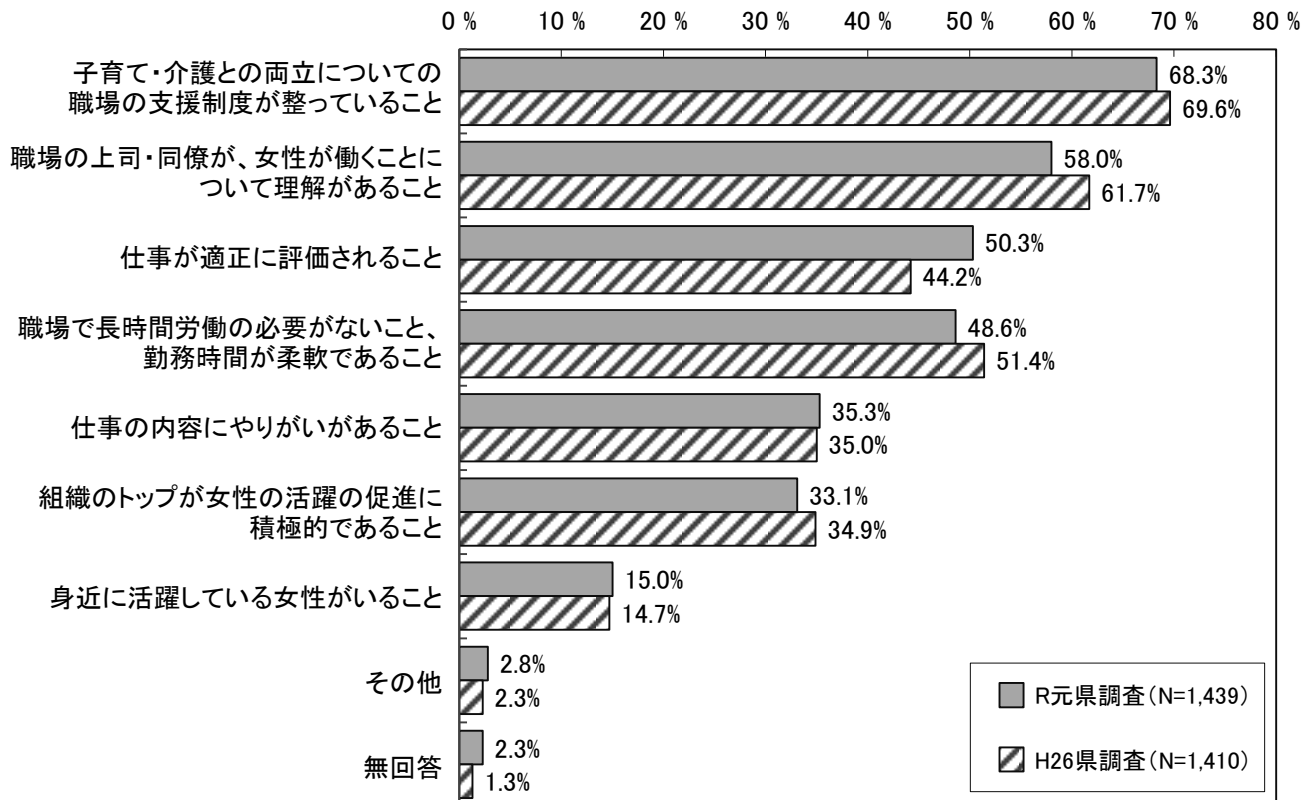
## (2) 女性が職場で活躍するために必要なこと

問 11-2 女性が職場で活躍するために必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

女性が職場で活躍するために必要なことは、「子育て・介護との両立についての職場の支援制度が整っていること」の割合が 68.3%で最も高く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(58.0%)、「仕事が適正に評価されること」(50.3%)となっている。

前回調査と比較すると、「仕事が適正に評価されること」の割合(50.3%)が前回から 6.1 ポイント高くなっている。

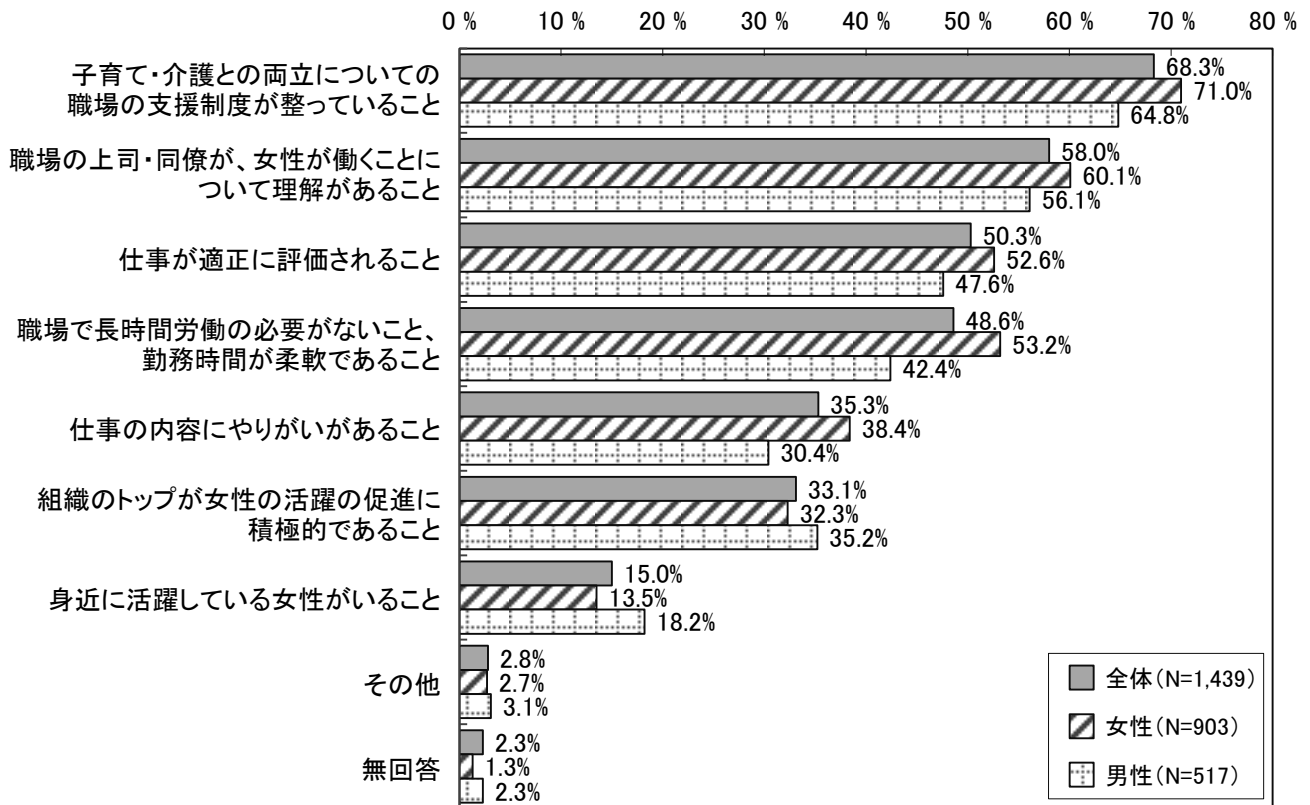
図表 女性が職場で活躍するために必要なこと(複数回答)



【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて「職場で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」の割合（53.2%）が10.8ポイント高く、そのほか「子育て・介護との両立についての職場の支援制度が整っていること」（71.0%）、「仕事が適正に評価されること」（52.6%）、「仕事の内容にやりがいがあること」（38.4%）なども割合が高くなっている。

図表 女性の職場での活躍に必要なこと（男女別）

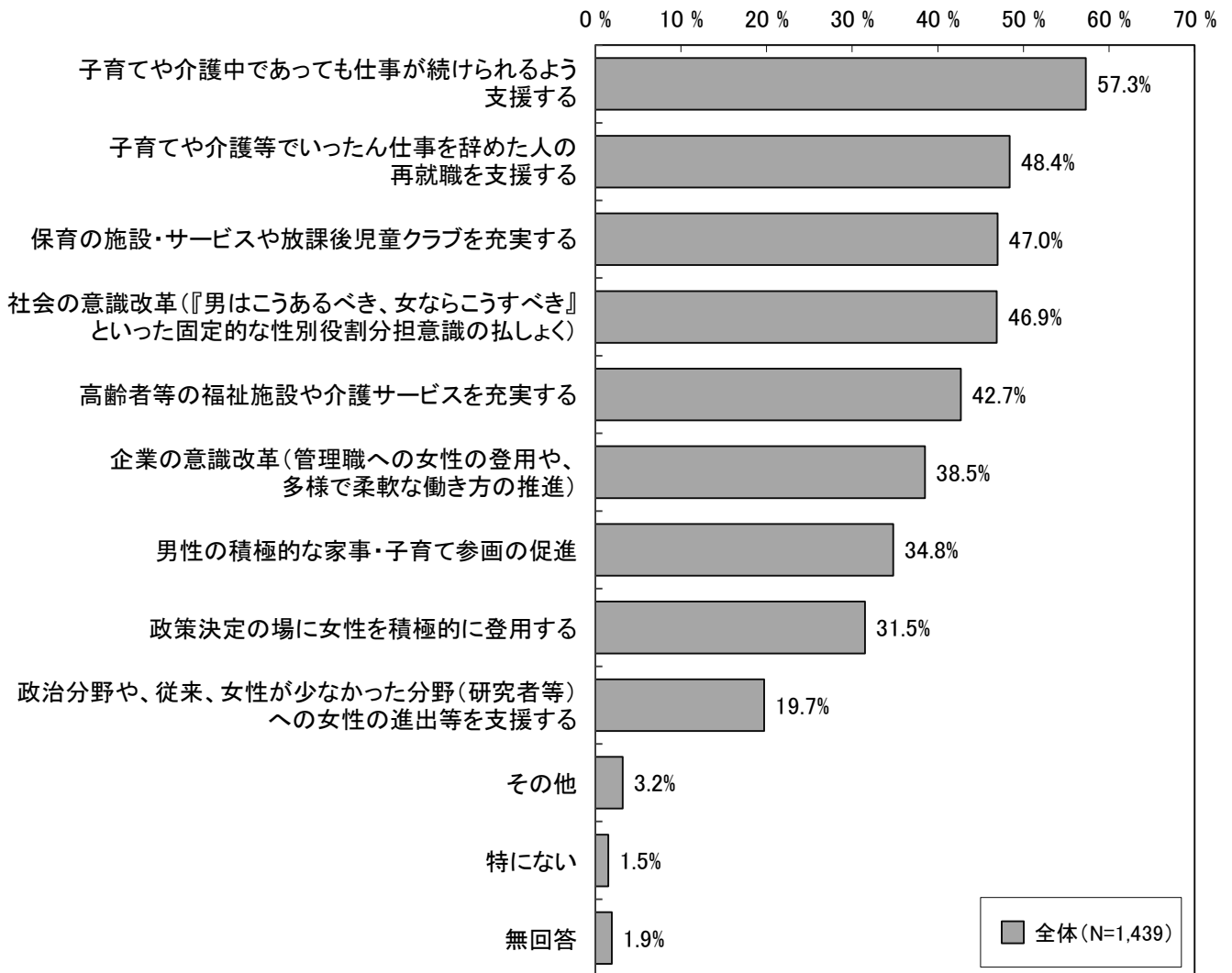


(3) 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れるべきこと

問 11-3 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

今後行政が力を入れるべきことは、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が57.3%で最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(48.4%)、「保育の施設・サービスや放課後児童クラブを充実する」(47.0%)となっている。

図表 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れるべきこと (複数回答)



## 14 自由記述意見

項目	件数	主なご意見	男女別			件数	
			男性	女性	不明		
就労	就業環境の整備	奈良県は賃金が低い	0	4	0	4	
		保育従事者の雇用条件を改善するべきだと思う	0	3	0	3	
		男女の賃金格差の是正と地位の向上が必要	2	0	0	2	
		非正規と正規の賃金格差を是正して欲しい	0	2	0	2	
		育児休暇取得中の社員や高齢者の手当の増額を望む	0	2	0	2	
	就労支援	6	子育てが落ち着いた女性が同じ環境で再び働けるよう支援してほしい	1	5	0	6
	保育・介護充実	21	保育施設やサービスの拡充を求める	3	9	0	12
			家事育児介護などの支援サービスの整備を求める	0	2	0	2
雇用創出	5	女性・高齢者・障がい者の雇用を増やして欲しい	1	2	0	3	
		奈良県内の雇用を増やしてほしい	0	2	0	2	
		その他、就労についてのご意見	1	2	0	3	
ワーク・ライフ・バランス	育児と仕事の両立支援	男女ともに育児・介護に参加できるような柔軟な労働環境づくりをしてほしい	1	6	0	7	
		育児・介護休暇をとりやすい職場の雰囲気づくりを求める	1	3	0	4	
		育児・子育てに理解のある職場環境づくりをして欲しい	0	3	0	3	
		育児・介護に理解のある職場環境づくりをして欲しい	0	1	0	1	
		その他、両立支援についてのご意見	0	6	0	6	
	地域活動	3	P T A活動が負担になっており、学校行事やP T A活動自体を見直してほしい	0	2	0	2
	子育て支援	11	個性に基づく社会貢献や社会参加が大切だと思う	1	0	0	1
子育てについて	7	待機児童の問題を解決してほしい	0	3	0	3	
		家事・育児・介護など支援の充実を求める	0	3	0	3	
		その他、子育て支援についてのご意見	1	4	0	5	
その他、ワークライフバランスについてのご意見			1	6	0	7	
男女共同参画社会	女性登用について	女性登用が行き過ぎている	3	0	0	3	
		企業は女性を採用する意欲が低いと感じる	0	2	0	2	
		管理職や国会議員などで女性比率を定めるなど、女性管理職登用を推進するべきである	2	0	0	2	
		その他、女性登用についてのご意見	7	4	0	11	
	性別役割意識	23	性別役割分担意識は是正するべきである	0	5	0	5
			男性の固定観念が女性の社会進出を阻害している	1	2	0	3
			女性は働くよりも子育てに専念するべきだと思う	0	3	0	3
	人権尊重	14	性別役割意識が根強く、長い目で取り組むことが大切	2	0	0	2
			その他、性別役割意識についてのご意見	2	8	0	10
	その他	27	女性が活躍できるよう、職場での女性差別の解消を望む	1	2	0	3
男女平等についての教育が必要だと思う			2	1	0	3	
その他、人権についてのご意見			2	6	0	8	
その他	アンケート	奈良県は考え方が古い	1	1	0	2	
		男性の意識改革が必要だと思う	0	2	0	2	
		その他、男女共同参画についてのご意見	7	15	1	23	
		アンケートに答えられない・答えにくい	0	5	1	6	
	行政への要望	19	アンケート結果を女性活躍推進に役立てて欲しい	1	1	0	2
			アンケートの公開方法についてのご意見	1	1	0	2
その他のご意見			3	3	0	6	
意見総数			4	14	1	19	





# 調 査 票



# 奈良県

## 女性活躍推進に関する意識調査

### ご協力をお願い

秋涼の候、県民の皆さまにおかれましてはご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

県では、家庭、地域、社会生活における女性の活躍推進に関する意識等を把握し、男女が共にいきいきと活躍するための施策を検討する基礎資料を得ることを目的に本調査を実施いたします。

この調査は、県内にお住まいの満20歳以上の方の中から無作為抽出により実施しておりますが、このたび、あなた様を調査対象者として選ばせていただきました。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本県の今後の施策を考えるうえで大変重要な調査となりますので、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた内容につきましては、上記目的以外に使用することは一切なく、内容が他にもれることは絶対にありません。

どうぞ、安心してありのままをお答えいただきますよう、重ねてお願いいたします。

令和元年9月

奈良県知事 荒井 正吾

お問合せ先

奈良県福祉医療部こども・女性局 女性活躍推進課 TEL:0742-27-8679

### [記入上のお願い]

- 1 この調査票は、**20歳以上の方**に女性活躍推進や男女共同参画について答えていただくためのものです。この調査は、郵送させていただいた**封筒のあて名の方ご自身で記入してください。封筒のあて名の方がいらっしゃらない場合は回答いただく必要はございません。**
- 2 令和元年（2019年）**9月1日時点の現況**を、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書き込むものがあります。
- 4 回答後の調査票は**同封の返信用封筒に入れ、9月27日（金）までにご投かんください。（調査票や封筒には氏名を書かず無記名でお願いします）**
- 5 なお、この設問は、全国との調査比較や本県での経年比較を可能とするため、それらの調査と設問の文言を合わせています。そのため、一部なじみにくい表現もありますが、ご理解ください。

☆調査に記載している「夫」「妻」の表現は、婚姻届の提出の有無にかかわらず、便宜上結婚している男性を「夫」、結婚している女性を「妻」と記載しています。

すべての方にうかがいます。

《すべて令和元年9月1日現在でお答えください》

問1 あなたの就業状況についてうかがいます。

配偶者がいらっしゃる場合、分かる範囲であなたの配偶者についてもお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

※収入は、自営業の場合には売上金額、会社員や公的年金収入の方の場合には源泉徴収額(所得税等)や社会保険料等を差し引く前の額で、源泉徴収票の支払金額欄に記載されている額です。

①あなたは

- a. 働いている
- b. 働いていない

<以前はいかがでしたか>

- 1. 以前は働いていた
- 2. 働いた経験はない

②配偶者は

- c. 働いている
- d. 働いていない

<以前はいかがでしたか>

- 1. 以前は働いていた
- 2. 働いた経験はない

あなたと配偶者の就業形態は次のうちどれにあてはまりますか (○はそれぞれ1つずつ)

①で「a. 働いている」と回答された方のみお答えください

②で「c. 働いている」と回答された方のみお答えください

③-1 あなたの就業形態は

- 1. 正規職員
- 2. パート・アルバイト
- 3. 派遣・嘱託・契約社員
- 4. 自営業主・家族従事者(起業も含む)
- 5. 内職
- 6. その他( )

④-1 配偶者の就業形態は

- 1. 正規職員
- 2. パート・アルバイト
- 3. 派遣・嘱託・契約社員
- 4. 自営業主・家族従事者(起業も含む)
- 5. 内職
- 6. その他( )

③-2 あなたの年間の収入※は

- 1. 100万円未満
- 2. 100～200万円未満
- 3. 200～300万円未満
- 4. 300～400万円未満
- 5. 400～600万円未満
- 6. 600万円以上

④-2 配偶者の年間の収入※は

- 1. 100万円未満
- 2. 100～200万円未満
- 3. 200～300万円未満
- 4. 300～400万円未満
- 5. 400～600万円未満
- 6. 600万円以上

③-3 あなたの通勤時間(片道)

\_\_\_\_\_時間 \_\_\_\_\_分程度

④-3 配偶者の通勤時間(片道)

\_\_\_\_\_時間 \_\_\_\_\_分程度

③-4 あなたの勤務地はどちらですか

- 1. 自宅
- 2. 居住市町村(自宅外)
- 3. 奈良県内(居住していない市町村)
- 4. 奈良県外

④-4 配偶者の勤務地はどちらですか

- 1. 自宅
- 2. 居住市町村(自宅外)
- 3. 奈良県内(居住していない市町村)
- 4. 奈良県外

## 進路選択について

すべての方にうかがいます。

問 2-1 あなたは、職業・進路について何から影響を受けましたか。それぞれの時期において影響を受けた人や物を3つまで教えてください。（各時期につき○は3つまで）

	1 父親	2 母親	3 兄弟姉妹	4 その他の家族・親族	5 友人や先輩	6 学校の先生	7 塾や習い事など、学校以外での先生	8 学校での職場体験	9 学校外での体験	10 本、テレビ、インターネットで知った情報	11 その他、自分で調べた情報	12 その他（ ）	13 大学・短大・専門学校へ進学していない/ 就職したことはない
(1) 大学・短大・専門学校への進学時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
(2) 就職時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

問 2-2 あなたは、自分の最終学歴となる学校の選択について満足していますか。（○は3つまで）

1. 満足している
2. より就職に有利な学校に通いたかった
3. 自分の好きな学校・学科に通いたかった
4. 地元から離れた学校に通いたかった
5. より上位の学校に進学したかった  
(例:最終学歴が高等学校なら大学、大学なら大学院などに進みたかったなど)
6. もっと早く就職したかった
7. その他の理由で不満がある(理由: \_\_\_\_\_ )

問 2-2 で2～5を選んだ方にうかがいます。

問 2-3 あなたが満足できる進路選択ができなかった理由は何ですか。主な理由を3つまで選択してください。（○は3つまで）

1. 自分の学力が足りなかったから
2. 経済力が十分でなかったから
3. 家族が進学先(学校・学科)について反対したから
4. 自分の性別を理由にあきらめたから
5. 希望する進路が実家から遠かったから
6. 家族の事情(介護等)であきらめざるをえなかったから
7. 学校の進路指導で反対されたから
8. その他( \_\_\_\_\_ )

## 仕事と生活のバランスについて

すべての方にうかがいます。

問 3-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（○は1つ）

※「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物等）、子育て、介護・看護など

「地域・個人の生活」…地域活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど）・学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

問 3-2 あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は1つ）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

問 3-3 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のそれぞれの満足度を教えてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

※「仕事」については、現在仕事をしていない場合は、その状況についての満足度をお答え下さい。

※「家庭生活」については、一人で生活しておられる方は、その状況も含めてお考え下さい。

※「地域」には、地域での近所づきあいやスポーツ・趣味の活動、社会貢献活動等を含めてお考え下さい。

	1 満足している	2 まあ満足している	3 どちらともいえない	4 やや不満である	5 不満である
(1) 仕事	1	2	3	4	5
(2) 家庭生活	1	2	3	4	5
(3) 地域・個人の生活	1	2	3	4	5

## 女性の生き方について

すべての方にうかがいます。

問 4-1 あなたの考える、最も望ましいと思われる女性の生き方は、どれに近いですか。(○は1つ)

1. 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
2. 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ
3. 結婚し子どもを持つが、仕事を持たない
4. 結婚し子どもを持つが、仕事を続ける
5. 結婚し子どもを持たず、仕事を持たない
6. 結婚し子どもを持たず、仕事を続ける
7. 結婚せず、仕事を持たない
8. 結婚せず、仕事を続ける
9. その他(具体的に )

上記問 4-1 の項目について、女性の方、または配偶者のおられる男性の方に改めてうかがいます。

問 4-2 現在及び今後見込まれると思われるあなた(あなたが男性の場合は配偶者)の生き方は、どれに近いですか。上記問4-1の1~9の番号から1つ選び、括弧内に選んだ番号を記入してください。( )



## 「仕事」に関する考えについて

問5は、現在働いている方（問1（1ページ）で「a. 働いている」と回答された方）にうかがいます。現在お仕事をもちでない女性の方は問6（6ページ）へ、現在お仕事をもちでない男性の方は問9-1（9ページ）へお進みください。

問5-1 あなたの働き方についてうかがいます。以下(1)～(16)のそれぞれの項目についてどのように思いますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで下さい。（○はそれぞれ1つずつ）

	1 そう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない
(1) 通勤時間が長い	1	2	3	4	5
(2) 労働時間が長い	1	2	3	4	5
(3) 残業のある日が多い	1	2	3	4	5
(4) 都合のよい時間に働くことができる	1	2	3	4	5
(5) 深夜の時間帯に働くことが多い	1	2	3	4	5
(6) 土日や祝日に働くことが多い	1	2	3	4	5
(7) 休みが少ない	1	2	3	4	5
(8) 休暇が取りにくい	1	2	3	4	5
(9) 給料や報酬が少ない	1	2	3	4	5
(10) 雇用や就労が安定していない	1	2	3	4	5
(11) 自分の意欲や能力を十分に活かせる	1	2	3	4	5
(12) 転勤の可能性がある	1	2	3	4	5
(13) 仕事や生活が組織に縛られている	1	2	3	4	5
(14) 家事・育児・介護などとの両立がしやすい	1	2	3	4	5
(15) 配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整している	1	2	3	4	5
(16) 現在の主な仕事をしつつ、他の仕事もしてみたい (副業・兼業など)	1	2	3	4	5

問 5-2 あなたの職場の様子についてうかがいます。次の(1)～(7)の項目があてはまるかどうか、それぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

※雇用者のない個人事業主やフリーランスで働いている方は、ご自身や仕事仲間、取引先の状況を想定してお答え下さい。

	1 あてはまる	2 まああてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 あてはまらない	6 わからない
(1) 従業員のワーク・ライフ・バランスが配慮されている	1	2	3	4	5	6
(2) 結婚や育児、介護等を理由に仕事を辞める人が多い	1	2	3	4	5	6
(3) 男女ともに活躍ができる	1	2	3	4	5	6
(4) 労働時間を適切に管理している	1	2	3	4	5	6
(5) 休暇の取得状況を適切に管理している	1	2	3	4	5	6
(6) 長く働くことよりも、効率よく働くことがよしとされる	1	2	3	4	5	6
(7) 顧客や取引先のワーク・ライフ・バランスを配慮している	1	2	3	4	5	6

問 5-3 あなたは現在の就労形態や働き方を変えたいと思いますか。

あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

※「就労形態」は、正社員や契約社員、パート、アルバイトなどの雇用形態のほか、会社経営や個人事業主、フリーランス等、就労のあり方のことをいいます。

	1 そう思う	2 思う ややそう	3 どちらとも いえない	4 あまりそう 思わない	5 そう思わ ない
(1) 就労形態を変えたい	1	2	3	4	5
(2) 働き方を変えたい	1	2	3	4	5

問 6 は現在お仕事をもちでない女性の方にうかがいます。

それ以外の方は問 9-1 (9ページ) へお進みください。

問 6 あなたは、今後就労を希望されていますか。(○は1つ)

1. すぐにも、もしくは1年以内くらいに就労したい
2. 1年より先で、就労したい
3. 就労を希望していない

→ 問 8 (8ページ) へ





## 男女の地域や家庭における役割等について

すべての方にうかがいます。

問 9-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対

問 9-2 次の(1)～(6)のことがらについて、どのように思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ) ※該当するものがなければ6を選択してください。

	1	2	3	4	5	6
	主に 男性の 役割	どちらか といえば 男性の 役割	両方 同じ 程度の 役割	どちらか といえば 女性の 役割	主に 女性の 役割	いずれ にも 該当 しない
(1) 日常の家事(食事の支度・洗濯、掃除)	1	2	3	4	5	6
(2) 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
(3) 子どもの教育としつけ、学校行事	1	2	3	4	5	6
(4) 老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5	6
(5) 自治会、町内会など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
(6) 自治会、町内会、学校関係の役員	1	2	3	4	5	6

問 9-3 次の(1)～(6)のことがらについて、あなたのご家庭における現状に最も近いものはどれですか(項目は問 9-2 と同内容)。(○はそれぞれ1つずつ) ※該当するものがなければ6を選択してください。

	1	2	3	4	5	6
	主に 男性の 役割	どちらか といえば 男性の 役割	両方 同じ 程度の 役割	どちらか といえば 女性の 役割	主に 女性の 役割	いずれ にも 該当 しない
(1) 日常の家事(食事の支度・洗濯、掃除)	1	2	3	4	5	6
(2) 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
(3) 子どもの教育としつけ、学校行事	1	2	3	4	5	6
(4) 老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5	6
(5) 自治会、町内会など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
(6) 自治会、町内会、学校関係の役員	1	2	3	4	5	6

問 9-4 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	1	2	3	4	5	6
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1)家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2)大学等への進学	1	2	3	4	5	6
(3)職場	1	2	3	4	5	6
(4)学校教育の場	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場	1	2	3	4	5	6
(6)法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
(7)社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
(8)自治会やPTAなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6

問 9-5 あなたが生まれてから18歳になるまでの、あなたの母の就労状況で最も近いものはどれですか。(○は1つ)

※あなたの記憶するかぎりでお答えください。

1. 主にフルタイムで働いていた
2. 主にアルバイト・パートとして働いていた
3. 主に働いていなかった(家事・子育て等に専念していた)
4. 主に家業を手伝っていた
5. どれにもあてはまらない

## 社会活動について

問 10-1 あなたは、あなたが住んだり、働いたりしている地域社会に対して、ボランティア等を通じた社会参加をしていますか。「社会参加」には、地域での近所づきあいやスポーツ・趣味の活動、社会貢献活動等を含めてお答えください。(○は1つ)

1. 社会参加をしている
2. 社会参加に関心があるが、していない
3. 社会参加に関心がない
4. わからない

問 10-2 あなたは、どのような活動を通じて社会に役立ちたいと思いますか。次の(1)～(15)の中から  
 ①これまでにを行ったことのある活動、また、②今後行いたい活動について、それぞれお答えください。(○はそれぞれいくつでも)

	① これまで 行った ことのある活動	② 今後 行いたい 活動
(1) 青少年健全育成に関する活動(ボーイスカウト・ガールスカウト活動、子ども会など)	1	1
(2) 体育・スポーツ・文化に関する活動(スポーツ・レクリエーション指導、祭り、学校でのクラブ活動における指導など)	2	2
(3) 自主防災活動や災害援助活動	3	3
(4) 公共施設での活動(公民館における託児、博物館の展示説明員など)	4	4
(5) 人々の学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動(料理、英語、書道など)	5	5
(6) 国際交流(協力)に関する活動(通訳、難民援助、技術援助、留学生援助など)	6	6
(7) 社会福祉に関する活動(高齢者や障害者などに対する介護、身の回りの世話、給食、保育など)	7	7
(8) 保健・医療・衛生に関する活動(病院ボランティアなど)	8	8
(9) 自然・環境保護に関する活動(環境美化、リサイクル活動、牛乳パックの回収など)	9	9
(10) 交通安全に関する活動(子どもの登下校時の安全監視など)	10	10
(11) 募金活動、チャリティーバザー	11	11
(12) 町内会などの地域活動(お祝い事や不幸事などの手伝い、町内会や自治会などの役員、防犯や防火活動など)	12	12
(13) 家事や子どもの養育を通じて	13	13
(14) 自分の職業を通じて	14	14
(15) その他(具体的に )	15	15



## 今後必要な施策等について

問 11-1 男女がともに、仕事と家庭の両立を実現するために必要なことは何だと思いませんか。  
(○は3つまで)

1. 給与などに関する男女間格差をなくすこと
2. 労働時間を短縮すること
3. 育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること
4. 育児休業・介護休業を利用した者が、職場で不利な扱いを受けることのない体制をつくること
5. 子育てや介護のために退職した社員を元の会社で再雇用する制度を導入すること
6. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給付を充実すること
7. 事業所内の保育施設を充実すること
8. 地域の保育施設や、保育時間の延長など保育内容を充実すること
9. 職業上必要な知識・技術など社員教育が充実すること
10. パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること
11. 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
12. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
13. その他(具体的に )

問 11-2 女性が職場で活躍するために必要なことは何だと思いませんか。(○はいくつでも)

1. 組織のトップが女性の活躍の促進に積極的であること
2. 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
3. 子育て・介護との両立についての職場の支援制度が整っていること
4. 職場で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
5. 身近に活躍している女性がいること
6. 仕事が適正に評価されること
7. 仕事の内容にやりがいがあること
8. その他(具体的に )

問 11-3 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いませんか。(○はいくつでも)

1. 政策決定の場に女性を積極的に登用する
2. 企業の意識改革(管理職への女性の登用や、多様で柔軟な働き方の推進)
3. 社会の意識改革(『男はこうあるべき、女ならこうすべき』といった固定的な性別役割分担意識の払しょく)
4. 政治分野や、従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出等を支援する
5. 保育の施設・サービスや放課後児童クラブを充実する
6. 高齢者等の福祉施設や介護サービスを充実する
7. 男性の積極的な家事・子育て参画の促進
8. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
9. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
10. その他(具体的に )
11. 特にない



## 最後に、あなたご自身のことについて

すべての方にうかがいます。

問 12-1 あなたの性別は ※あなたが認識しているご自分の性別を選んでください

1. 男性
2. 女性

問 12-2 あなたの年齢はおいくつですか

- |            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| 1. 20～24 歳 | 5. 40～44 歳 | 9. 60～64 歳  |
| 2. 25～29 歳 | 6. 45～49 歳 | 10. 65～69 歳 |
| 3. 30～34 歳 | 7. 50～54 歳 | 11. 70 歳以上  |
| 4. 35～39 歳 | 8. 55～59 歳 |             |

問 12-3 あなたのご家庭の世帯構成は次のうちどれですか

1. 一人暮らし
2. 一世代世帯(夫婦だけ)
3. 二世代世帯(親と子)
4. 三世代世帯(親と子と孫)
5. その他の世帯(具体的に )

問 12-4 あなたは、結婚(婚姻の届出のない事実婚を含む)されていますか

1. 未婚
2. 結婚している
3. 結婚していた(配偶者と離婚・死別等)

問 12-5 ① あなたは、お子さんが何人おられますか(別居を含む)

人
---

② お子さんがおられる場合、一番下のお子さんは、次のうちどれにあてはまりますか

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1. 3歳未満    | 5. 高校生          |
| 2. 3歳以上就学前 | 6. 大学生、専門・専修学校生 |
| 3. 小学生     | 7. それ以外         |
| 4. 中学生     |                 |

問 12-6 あなたのお住まいは、どちらですか

- |          |         |          |          |          |          |
|----------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 奈良市   | 8. 御所市  | 15. 三郷町  | 22. 御杖村  | 29. 吉野町  | 36. 下北山村 |
| 2. 大和高田市 | 9. 生駒市  | 16. 斑鳩町  | 23. 高取町  | 30. 大淀町  | 37. 上北山村 |
| 3. 大和郡山市 | 10. 香芝市 | 17. 安堵町  | 24. 明日香村 | 31. 下市町  | 38. 川上村  |
| 4. 天理市   | 11. 葛城市 | 18. 川西町  | 25. 上牧町  | 32. 黒滝村  | 39. 東吉野村 |
| 5. 橿原市   | 12. 宇陀市 | 19. 三宅町  | 26. 王寺町  | 33. 天川村  |          |
| 6. 桜井市   | 13. 山添村 | 20. 田原本町 | 27. 広陵町  | 34. 野迫川村 |          |
| 7. 五條市   | 14. 平群町 | 21. 曾爾村  | 28. 河合町  | 35. 十津川村 |          |

【自由記述】 女性活躍および男女共同参画について、ご意見等がありましたらお書き下さい。



ご協力ありがとうございました。

回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、令和元年9月27日(金)までにご投かんください。(調査票や封筒には氏名を書かず無記名でお願いします)



**奈良県女性活躍推進に関する意識調査報告書**

令和2年3月

編集・発行 奈良県福祉医療部こども・女性局  
女性活躍推進課  
〒630-8501 奈良市登大路町30  
電話 0742-27-8679